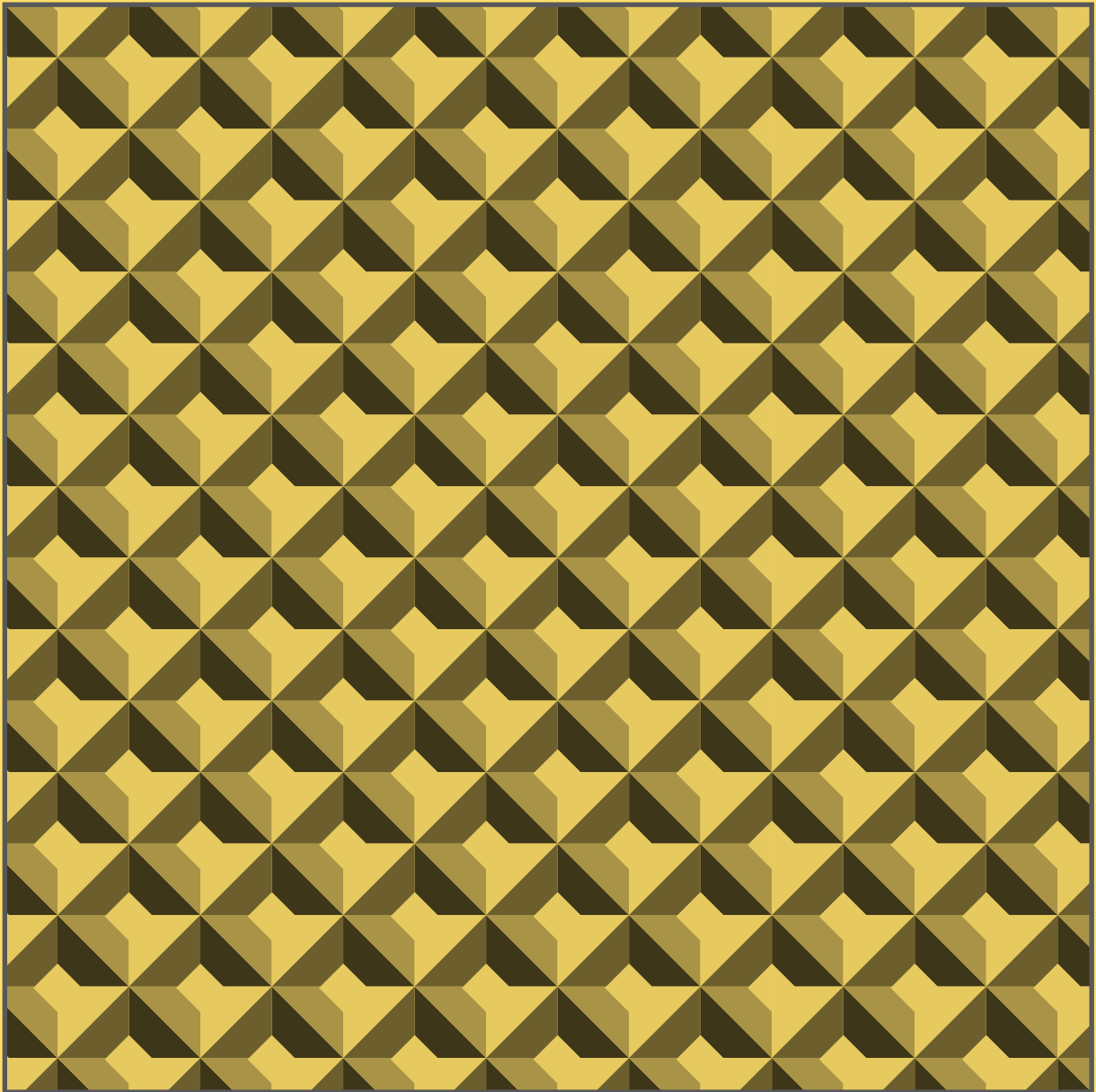

2014年度

シラバス

言語文化学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にある**インデックス**で自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していません場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

法：法学部

独：ドイツ語学科

済：経済学科

律：法律学科

英：英語学科

営：経営学科

国：国際関係法学科

仏：フランス語学科

環：国際環境経済学科

総：総合政策学科

交：交流文化学科

言：言語文化学科

2. シラバスページの見方(右図参照)

①適用学生

13年度以降：2013年度以降入学者対象科目

12年度以前：2007年度～2012年度入学者対象科目

※2006年度以前の入学者は全て履修できません。

②科目名

入学年度に対応した科目名が記載されています。

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献が記載されています。

⑥評価方法について記載されています。

⑦原則としてページ上段は春学期科目、下段は秋学期科目です。

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』で確認した上で、履修登録をしてください。

②定員

経済学部の科目は、学習環境および防災上などの観点から、「全学共通授業科目」と同様に定員を設けています。

各科目の定員は、『授業時間割表』を参照してください。

国際教養学部言語文化学科授業科目(2013年度以降入学者用)

目次

学科基盤科目

「学科基盤科目」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	基礎演習	各担当教員	木4	2	1	全	1
	秋	言語文化論	安井 一郎	月4	2	1	全	1
	春	哲学Ⅰ	松丸 壽雄	金4	2	1	全	2
		哲学Ⅱ	2016年度以降開講予定		2	4	全	

「外国語科目基盤科目」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	英語Ⅰ(IE)	各担当教員		1	1	全	4
	春	英語Ⅰ(S)	各担当教員		1	1	全	5
	春	英語Ⅰ(W)	各担当教員		1	1	全	6
	秋	英語Ⅱ(IE)	各担当教員		1	1	全	4
	秋	英語Ⅱ(S)	各担当教員		1	1	全	5
	秋	英語Ⅱ(W)	各担当教員		1	1	全	6
	春	英語Ⅲ(IE)	各担当教員		1	2	全	7
	春	英語Ⅲ(W)	各担当教員		1	2	全	8
	秋	英語Ⅳ(IE)	各担当教員		1	2	全	7
	秋	英語Ⅳ(W)	各担当教員		1	2	全	8
	春	スペイン語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	18
	春	スペイン語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	19
	春	スペイン語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	20
	春	スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	21
	秋	スペイン語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	18
	秋	スペイン語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	19
	秋	スペイン語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	20
	秋	スペイン語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	21
	春	スペイン語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	22
	春	スペイン語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	23
	春	スペイン語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	24
	春	スペイン語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	25
	秋	スペイン語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	22
	秋	スペイン語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	23
	秋	スペイン語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	24
	秋	スペイン語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	25
	春	中国語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	29
	春	中国語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	30
	春	中国語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	31
	春	中国語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	32
	秋	中国語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	29
	秋	中国語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	30
	秋	中国語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	31
	秋	中国語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	32
	春	中国語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	33
	春	中国語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	34
	春	中国語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	35
	春	中国語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	36
	秋	中国語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	33
	秋	中国語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	34
	秋	中国語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	35
	秋	中国語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	36

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	40
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	41
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	42
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	43
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	40
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	41
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	42
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	43
	春	韓国語Ⅲ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	44
	春	韓国語Ⅲ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	45
	春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	46
	春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	47
	秋	韓国語Ⅳ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	44
	秋	韓国語Ⅳ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	45
	秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	46
	秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	47

「外国語科目進展科目」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
		英語上級	2015年度以降開講予定				全	
23678	春	英語演習Ⅰ	K. ヤブノ	木1	2	2	全	52
23680	春	英語演習Ⅰ	M. デル ベツキオ	木4	2	2	全	53
23684	春	英語演習Ⅰ	小瀬 百合子	水4	2	2	全	54
23682	春	英語演習Ⅰ	八木 啓太	木4	2	2	全	55
23679	秋	英語演習Ⅰ	K. ヤブノ	木1	2	2	全	52
23681	秋	英語演習Ⅰ	M. デル ベツキオ	木4	2	2	全	53
23685	秋	英語演習Ⅰ	小瀬 百合子	水4	2	2	全	54
23683	秋	英語演習Ⅰ	八木 啓太	木4	2	2	全	55
		英語演習Ⅱ	2015年度以降開講予定		2	3	全	
		翻訳通訳論・英語	2015年度以降開講予定		2	3		
		翻訳通訳実習・英語	2015年度以降開講予定		2	3		
		スペイン語上級	2015年度以降開講予定		2	3	全	
		スペイン語演習	2015年度以降開講予定		2	3	全	
		翻訳通訳論・スペイン語	2015年度以降開講予定		2	3		
		翻訳通訳実習・スペイン語	2015年度以降開講予定		2	3		
		中国語上級	2015年度以降開講予定		2	3	全	
		中国語演習	2015年度以降開講予定		2	3	全	
		翻訳通訳論・中国語	2015年度以降開講予定		2	3		
		翻訳通訳実習・中国語	2015年度以降開講予定		2	3		
		韓国語上級	2015年度以降開講予定		2	3	全	
		韓国語演習	2015年度以降開講予定		2	3	全	
		翻訳通訳論・韓国語	2015年度以降開講予定		2	3		
		翻訳通訳実習・韓国語	2015年度以降開講予定		2	3		

「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22353	春	スペイン研究概論	二宮 哲	月5	2	1	全	67
22354	秋	ラテンアメリカ研究概論	佐藤 勤治	月5	2	1	全	67
22355	春	スペインの言語と歴史・文化	二宮 哲	月2	2	2		68
22356	秋	スペイン語研究	二宮 哲	月2	2	2		68
22357	秋	スペイン語圏の文学	中井 博康	月3	2	2		69
22358	春	ラテンアメリカの歴史と文化	佐藤 勤治	木4	2	2		70
22359	春	ラテンアメリカの政治と社会	浦部 浩之	月2	2	2		71
22360	春	ラテンアメリカの経済と社会	今井 圭子	月3	2	2		72
22361	秋	ラテンアメリカ近現代史	佐藤 勤治	木4	2	2		70
22362	秋	ラテンアメリカの国際関係	浦部 浩之	月2	2	2		71

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22363	春	ブラジル研究	E. ウラノ	火2	2	2	全	73
22364	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(ラテンアメリカ経済発展論)	今井 圭子	月3	2	2		72
22365	春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究a)	P. ラゴ	金1	2	2		74
22366	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究b)	P. ラゴ	金1	2	2		74
22367	春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	倉田 量介	火3	2	2	全	75
22368	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	兒島 峰	火5	2	2	全	75
22370	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(カリブ海域研究)	2014年度不開講		2	2	全	
		スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(専門講読)	二宮 哲	水3	2	2		76
		スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(英西語学演習)	2014年度不開講		2	2		

「中国研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22372	春	中国研究概論	松岡 格	火4	2	1		78
		中国言語文化論	2014年度不開講		2	2		
22665	秋	中国社会学論	松岡 格	火4	2	2		78
22374	秋	中国地域論	松岡 格	木4	2	2		79
22375	春	現代中国論 I	松岡 格	金4	2	2	法	80
22376	秋	現代中国論 II	松岡 格	金4	2	2	法	80
22377	春	中国史 I	張 士陽	木4	2	2	全	81
22378	秋	中国史 II	張 士陽	木4	2	2	全	81
22379	春	中国特殊研究(日中比較文化研究a)	大澤 昇	水3	2	2		82
22380	秋	中国特殊研究(日中比較文化研究b)	大澤 昇	水3	2	2		82
22381	春	中国特殊研究(中国文学研究a)	永田 小絵	水2	2	2		83
22382	秋	中国特殊研究(中国文学研究b)	永田 小絵	水2	2	2		83
22383	春	中国特殊研究(日中交流史)	大澤 昇	水5	2	2		84
		中国特殊研究(専門講読)	2014年度不開講		2	2		

「韓国研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22385	春	韓国研究概論	平田 由紀江	月2	2	1	全	85
22386	春	韓国社会学論 I	平田 由紀江	水2	2	2	全	86
22387	秋	韓国社会学論 II	平田 由紀江	水2	2	2	全	86
22388	秋	韓国経済論	全 載旭	木2	2	2	全	87
23755	春	韓国史	佐藤 厚	金3	2	2	全	88
22390	秋	日韓比較文化論	金 熙淑	火4	2	2	全	89
22391	春	日韓比較教育論	金 熙淑	火4	2	2	全	89
22392	秋	日韓交流史	金 熙淑	月3	2	2	全	90
22393	秋	韓国研究情報収集法	金 熙淑	月4	2	2	全	91
22394	春	韓国特殊研究(韓国政治論)	呉 吉煥	金1	2	2	全	91
22395	春	韓国特殊研究(韓国前近代史)	佐藤 厚	木1	2	2	全	92
22396	秋	韓国特殊研究(韓国の宗教)	佐藤 厚	金3	2	2	全	92
22397	秋	韓国特殊研究(韓国の言語文化)	金 泰植	月3	2	2	全	93
22398	春	韓国特殊研究(韓国文学史)	沈 元燮	水2	2	2	全	93
22399	春	韓国特殊研究(韓国小説の世界)	沈 元燮	火2	2	2	全	94
22400	秋	韓国特殊研究(韓国詩の世界)	沈 元燮	火2	2	2	全	94
	秋	韓国特殊研究(専門講読)	2015年度以降開講予定		2	3		

「日本研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22402	春	日本研究概論 I	宇津木 言行	火3	2	1	全	96
22403	秋	日本研究概論 II	浅山 佳郎	木1	2	1	全	96
22404	春	日本文学論・古代 I	福沢 健	月2	2	1	全	97
22405	秋	日本文学論・古代 II	福沢 健	月2	2	1	全	97
22406	春	日本文学論・中世 I	宇津木 言行	火4	2	1	全	98
22407	秋	日本文学論・中世 II	飯島 一彦	木1	2	1	全	98
22408	春	日本文学論・近現代 I	佐藤 毅	木1	2	1	全	99
22409	秋	日本文学論・近現代 II	佐藤 毅	木1	2	1	全	99
22410	春	民俗学	林 英一	木1	2	1	全	100
22411	春	日本史 I	守田 逸人	火3	2	1	全	101
22412	秋	日本史 II	守田 逸人	火3	2	1	全	101

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜日	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
		日本思想史Ⅰ	2014年度不開講		2	2	全	
		日本思想史Ⅱ	2014年度不開講		2	2	全	
22416	春	日本特殊研究(日本文学作品研究a)	宇津木 言行	木3	2	2	全	102
22424	秋	日本特殊研究(日本文学作品研究b)	飯島 一彦	木2	2	2	全	102
22425	秋	日本特殊研究(日本文学作品研究c)	宇津木 言行	火3	2	2	全	103
22426	春	日本特殊研究(日本文学作品研究d)	宇津木 言行	木4	2	2	全	103
22427	秋	日本特殊研究(日本文学作品研究e)	宇津木 言行	木3	2	2	全	104
22428	春	日本特殊研究(日本文化研究a)	飯島 一彦	木2	2	2	全	105
22429	秋	日本特殊研究(日本文化研究b)	宇津木 言行	木4	2	2	全	105
22430	秋	日本特殊研究(日本文化研究c)	林 英一	木1	2	2	全	106
22431	春	日本特殊研究(日本文化研究d)	飯島 一彦	木1	2	2	全	106
22432	春	日本特殊研究(日本史研究a)	丸浜 昭	水1	2	2	全	107
22435	秋	日本特殊研究(日本史研究b)	丸浜 昭	水1	2	2	全	107

「言語教育研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜日	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
		言語学概論	2014年度不開講		2	1	全	
22447	春	英語学概論	安間 一雄	金1	2	1	全	110
22448	春	日本語教育概論	石塚 京子	月4	2	1	全	111
22449	春	応用言語学Ⅰ	臼井 芳子	水1	2	2	全	112
22450	春	応用言語学Ⅱ	臼井 芳子	木2	2	2	全	113
22453	春	英語圏の文学Ⅰ	大熊 昭信	金2	2	1	全	114
22454	秋	英語圏の文学Ⅱ	大熊 昭信	金2	2	1	全	114
22455	春	英語圏の文学・文化・批評Ⅰ	上野 直子	水2	2	2	全	115
13136	秋	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ	原 成吉	火1	2	2	全	115
13134	秋	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ	児嶋 一男	月3	2	2	全	116
22459	春	国際語としての英語	臼井 芳子	火4	2	2		117
		日本語教授法Ⅰa	2015年度以降開講予定		2	3		
		日本語教授法Ⅰb	2015年度以降開講予定		2	3		
		日本語教授法Ⅱ	2016年度以降開講予定		2	4		
22465	春	日本語音声学	磯村 一弘	水5	2	2		118
22466	春	日本語文法論Ⅰ	武田 明子	火2	2	1	全※	119
22467	秋	日本語文法論Ⅱ	武田 明子	火2	2	1	全※	119
22468	秋	日本語コミュニケーション論	宇津木 言行	火4	2	1	全	111
22470	春	英語教育特殊研究(専門講読a)	関戸 冬彦	木1	2	2		120
22471	秋	英語教育特殊研究(専門講読b)	関戸 冬彦	木1	2	2		120
		英語教育特殊研究(授業分析と実践a)	2015年度以降開講予定		2	3		
		英語教育特殊研究(授業分析と実践b)	2015年度以降開講予定		2	3		
		英語教育特殊研究(早期外国語教育)	2015年度以降開講予定		2	3		
		英語教育特殊研究(英西語学演習)	2014年度不開講		2	2		
		日本語教育特殊研究(教育実習)	2016年度以降開講予定		2	4		
22480	春	日本語教育特殊研究(教育教材論)	小山 慎治	木4	2	2		121
22481	春	日本語教育特殊研究(意味論)	浅山 佳郎	月1	2	2	全	122
22482	秋	日本語教育特殊研究(談話論)	浅山 佳郎	月1	2	2	全	122
22483	春	日本語教育特殊研究(対照言語学・誤用分析)	中西 家栄子	火2	2	2		123
		日本語教育特殊研究(専門講読)	2014年度不開講		2	2		

※14年度入学者は除く

「グローバル社会研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜日	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22485	春	異文化間コミュニケーションⅠ	岡村 圭子	水2	2	1		132
22486	秋	異文化間コミュニケーションⅡ	山本 英政	月2	2	1	全	132
22487	春	多文化共生研究Ⅰ	佐藤 唯行	火3	2	2		133
22488	秋	多文化共生研究Ⅱ	佐藤 唯行	火3	2	2		133

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
		比較文化論	2014年度不開講		2	2		
22490	春	大衆文化論	木本 玲一	月5	2	2	全	134
22491	秋	ローカル・メディア論	岡村 圭子	水2	2	2	全	134
22492	春	英語圏の文化	山本 英政	木2	2	2	全	135
22493	秋	英語圏事情	山本 英政	木2	2	2	全	135
22494	春	国際関係論	中島 晶子	月3	2	1	全	136
22495	春	国際協力論	浦部 浩之	水3	2	1		137
22496	秋	南北問題	浦部 浩之	水3	2	1		137
22497	秋	NGO論	清水 俊弘	水4	2	1	全	138
22498	春	国際政治論Ⅰ	星野 昭吉	月2	2	2	全	139
22499	秋	国際政治論Ⅱ	星野 昭吉	月2	2	2	全	139
22500	春	国際経済論Ⅰ	益山 光央	火2	2	2	全	140
22501	秋	国際経済論Ⅱ	益山 光央	火2	2	2	全	140
22502	春	日本政治外交史Ⅰ	福永 文夫	金3	2	2	全	141
22503	秋	日本政治外交史Ⅱ	福永 文夫	金3	2	2	全	141
		国際機構と法Ⅰ	2015年度以降開講予定		2	3	全	
		国際機構と法Ⅱ	2015年度以降開講予定		2	3	全	
22506	春	地域研究論	浦部 浩之	月4	2	2		142
22507	秋	グローバル社会特殊研究(滞日外国人研究)	田房 由起子	土2	2	2	法	143
23756	春	グローバル社会特殊研究(在外日本人研究)	山本 英政	月2	2	2	全	143
22509	春	グローバル社会特殊研究(アメリカ合衆国のラティーノ社会)	佐藤 勘治	水2	2	2		144
22510	春	グローバル社会特殊研究(東南アジアの経済と地域統合a)	高安 健一	金1	2	2	全	145
22511	秋	グローバル社会特殊研究(東南アジアの経済と地域統合b)	高安 健一	金1	2	2	全	145
22512	春	グローバル社会特殊研究(東南アジアの開発と社会)	江藤 双恵	火1	2	2	全	146
		グローバル社会特殊研究(地球環境と法a)	2015年度以降開講予定		2	3	全	
		グローバル社会特殊研究(地球環境と法b)	2015年度以降開講予定		2	3	全	
22515	秋	グローバル社会特殊研究(ポストコロニアル研究)	平田 由紀江	火2	2	2	全	146

「人間発達科学研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22516	春	教育学概論Ⅰ(教職論)	高瀬 幸恵	火5	2	1	全	149
22518	春	教育学概論Ⅰ(教職論)	桑原 憲一	月3	2	1	全	149
22519	秋	教育学概論Ⅰ(教職論)	桑原 憲一	月4	2	1	全	149
22522	春	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	高瀬 幸恵	火4	2	1	全	150
22523	秋	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	高瀬 幸恵	火4	2	1	全	150
22521	秋	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	高瀬 幸恵	火5	2	1	全	150
22520	秋	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	川村 肇	木3	2	1	全	150
22524	春	心理学概論Ⅰ(こころの世界)	田口 雅徳	木2	2	1	全	151
22525	秋	心理学概論Ⅱ(心理検査法と自己理解)	田口 雅徳	木4	2	2	全	151
22526	春	スポーツ・レクリエーション概論	和田 智	金4	2	1	全	152
22527	秋	スポーツ科学概論	石渡 貴之	木4	2	1	全	152
22528	春	教育の歴史Ⅰ	川村 肇	水3	2	2	全	153
22529	秋	教育の歴史Ⅱ	川村 肇	水3	2	2	全	153
22530	春	比較教育制度論	桑原 憲一	火3	2	2	全	154
22532	春	比較教育制度論	桑原 憲一	月4	2	2	全	154
22531	秋	比較教育制度論	小島 優生	木5	2	2	全	154
22534	春	教育課程論	安井 一郎	水2	2	2	全	155
22535	春	教育課程論	桑原 憲一	火4	2	2	全	155
22533	秋	教育課程論	桑原 憲一	火5	2	2	全	155
22536	春	教育心理学	田口 雅徳	金1	2	1	全	156
22537	秋	教育心理学	田口 雅徳	金1	2	1	全	156
22538	春	教育心理学	白砂 佐和子	火4	2	1	全	156
22539	秋	教育心理学	白砂 佐和子	火4	2	1	全	156
22540	春	カウンセリング論	瀧本 孝雄	木3	2	2	全	157
22541	秋	パーソナリティ理論	瀧本 孝雄	木3	2	2	全	157

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22542	春	学校カウンセリング	瀧本 孝雄	木2	2	2	全	158
22543	秋	学校カウンセリング	瀧本 孝雄	木2	2	2	全	158
22544	秋	学校カウンセリング	鈴木 乙史	木4	2	2	全	158
		人間発達科学特殊研究(子ども論a)	2014年度不開講		2	2	全	
		人間発達科学特殊研究(子ども論b)	2014年度不開講		2	2	全	
22547	秋	人間発達科学特殊研究(教師と語る)	川村 肇	金3	2	1	全	159
22548	春	人間発達科学特殊研究(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	160
22549	秋	人間発達科学特殊研究(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	160
22550	春	人間発達科学特殊研究(社会心理学a)	樋口 匡貴	金2	2	2	外	161
22551	秋	人間発達科学特殊研究(社会心理学b)	樋口 匡貴	金2	2	2	外	161
22552	春	人間発達科学特殊研究(スポーツ科学実習)	石渡 貴之	木4	2	2	全	162
22553	秋	人間発達科学特殊研究(スポーツ指導実習)	松原 裕	木3	2	2	全	162
22554	春	人間発達科学特殊研究(リーダーシップ論)	和田 智	金2	2	2	全	163
22555	春	人間発達科学特殊研究(スポーツマネージメント)	川北 準人	月3	2	2	全	164
22556	秋	人間発達科学特殊研究(ボランティア論)	山岸 倫子	水4	2	2	全	164

「総合科学研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22557	春	社会学Ⅰ	岡村 圭子	土1	2	1	全	165
22558	秋	社会学Ⅱ	岡村 圭子	土1	2	1	全	165
22559	春	文化人類学Ⅰ	執行 一利	金4	2	1	全	166
22560	秋	文化人類学Ⅱ	執行 一利	金4	2	1	全	166
22561	春	倫理学Ⅰ	川口 茂雄	月4	2	1	全	167
22562	秋	倫理学Ⅱ	川口 茂雄	月4	2	1	全	167
		文化史入門	2014年度不開講		2	1	全	
22564	春	東洋思想史Ⅰ	松丸 壽雄	水2	2	1	全	168
22565	秋	東洋思想史Ⅱ	松丸 壽雄	水2	2	1	全	168
22566	春	文明史研究Ⅰ	櫻井 悠美	月2	2	1	全	169
22567	秋	文明史研究Ⅱ	櫻井 悠美	月2	2	1	全	169
22568	春	比較宗教史	松丸 壽雄	木3	2	1	全	170
22569	春	科学史Ⅰ	野澤 聡	金4	2	1	全	171
22570	秋	科学史Ⅱ	野澤 聡	金4	2	1	全	171
22571	春	科学技術基礎論Ⅰ	野澤 聡	月4	2	1	全	172
22572	秋	科学技術基礎論Ⅱ	野澤 聡	月4	2	1	全	172
22573	春	数学Ⅰ	東 孝博	月2	2	1	全	173
22574	秋	数学Ⅱ	東 孝博	月2	2	1	全	173
22575	春	物理学Ⅰ	東 孝博	月4	2	1	全	174
22576	秋	物理学Ⅱ	東 孝博	月4	2	1	全	174
22577	春	天文学Ⅰ	内田 俊郎	木4	2	1	全	175
22578	秋	天文学Ⅱ	内田 俊郎	木4	2	1	全	175
22579	春	生物学Ⅰ	飯泉 恭一	水3	2	1	全	176
22580	秋	生物学Ⅱ	飯泉 恭一	水3	2	1	全	176
22581	春	生理学Ⅰ	石渡 貴之	木5	2	1	全	177
22582	秋	生理学Ⅱ	石渡 貴之	木5	2	1	全	177
22583	春	地球環境論Ⅰ	北崎 幸之助	金4	2	1	全	178
22584	秋	地球環境論Ⅱ	北崎 幸之助	金4	2	1	全	178
22585	春	コンピュータと言語	呉 浩東	月2	2	1	全	179
22586	春	情報科学各論Ⅰ	松山 恵美子	水2	2	1	全	180
22587	秋	情報科学各論Ⅰ	松山 恵美子	水2	2	1	全	180
22588	春	情報科学各論Ⅰ	金子 憲一	木3	2	1	全	180
22589	秋	情報科学各論Ⅰ	田中 雅英	火4	2	1	全	180
22590	春	情報科学各論Ⅱ	金子 憲一	木4	2	1	全	181
22591	秋	情報科学各論Ⅱ	金子 憲一	木4	2	1	全	181
22593	秋	情報科学各論Ⅱ	金子 憲一	月3	2	1	全	181
22592	秋	情報科学各論Ⅱ	田中 雅英	火3	2	1	全	181
22594	春	データ構造とアルゴリズム論	黄 海湘	水3	2	2	全	182
22595	秋	データベース論	黄 海湘	水4	2	2	全	182
22596	春	社会調査法	田端 章明	月5	2	2	全	183
22597	春	統計と調査法	安間 一雄	火2	2	2	全	184
		総合科学特殊研究(世界の宗教と文化—神教と多神教)	2014年度不開講		2	2	全	

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22599	秋	総合科学特殊研究(思想と文化)	松丸 壽雄	金4	2	2		185
22600	春	総合科学特殊研究(地中海世界の宗教と文化a)	櫻井 悠美	水2	2	2		186
22601	秋	総合科学特殊研究(地中海世界の宗教と文化b)	櫻井 悠美	水2	2	2		186
22602	春	総合科学特殊研究(アラブ文化・芸術a)	師岡 カリマ エルサムニー	月2	2	2	全	187
22603	秋	総合科学特殊研究(アラブ文化・芸術b)	師岡 カリマ エルサムニー	月2	2	2	全	187
		総合科学特殊研究(科学技術と社会a)	2014年度不開講		2	1	全	
22605	秋	総合科学特殊研究(科学技術と社会b)	野澤 聡	水1	2	1	全	188
22606	春	総合科学特殊研究(宇宙論a)	東 孝博	火1	2	1	全	189
22607	秋	総合科学特殊研究(宇宙論b)	東 孝博	火1	2	1	全	189
22608	春	総合科学特殊研究(自然観察a)	飯泉 恭一	水2	2	2	全	190
22609	秋	総合科学特殊研究(自然観察b)	飯泉 恭一	水2	2	2	全	190
22610	春	総合科学特殊研究(観察と実験生物学a)	内田 正夫	木2	2	2	全	191
22611	秋	総合科学特殊研究(観察と実験生物学b)	内田 正夫	木2	2	2	全	191
		総合科学特殊研究(生理学実習)	2014年度不開講		2	2	全	
22615	春	総合科学特殊研究(サイエンスライティングa)	東 孝博	火4	2	2	全	192
22616	秋	総合科学特殊研究(サイエンスライティングb)	東 孝博	火4	2	2	全	192
22617	春	総合科学特殊研究(情報検索演習)	黄 海湘	水4	2	2	全	193
22618	春	総合科学特殊研究(自然言語処理a)	呉 浩東	木1	2	2		194
22619	秋	総合科学特殊研究(自然言語処理b)	呉 浩東	木1	2	2		194
22620	春	総合科学特殊研究(プログラミング論a)	呉 浩東	月4	2	2		195
22621	秋	総合科学特殊研究(プログラミング論b)	呉 浩東	月4	2	2		195
22622	春	総合科学特殊研究(マルチメディア論)	田中 雅英	火4	2	2	全	196
22623	秋	総合科学特殊研究(コンピュータ構造論)	呉 浩東	月2	2	2	全	196

「演習・卒業研究等」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春/秋	卒業研究	2016年度以降開講予定		2	4	全	

全学総合科目

「スポーツ・レクリエーション部門」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	各担当教員		1	1	全	199

「日本語科目」(外国人学生・帰国学生専用)

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	秋	日本語1	各担当教員		1	1	全	200
	春/秋	日本語2	各担当教員		1	1	全	201
	春/秋	日本語3	各担当教員		1	1	全	202
	春/秋	専門日本語	各担当教員		1	1	全	203

※関連教養科目は、教職課程登録者のみ履修可能です。シラバスは、「免許課程」の「教科に関する科目」を参照してください。

国際教養学部言語文化学科授業科目(2012年度以前入学者用)

目次

必須教養科目群

「学科基礎」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
		基礎演習a	2014年度不開講		2	1	全	
		基礎演習b	2014年度不開講		2	1	全	
	秋	言語文化論	安井 一郎	月4	2	1	全	1
	春	哲学Ⅰ	松丸 壽雄	金4	2	1	全	2
		現代世界論	2014年度不開講		2	1	全	
	春	哲学Ⅱ	松丸 壽雄	金3	2	4	全	3
20631	秋	哲学Ⅱ	松丸 壽雄	金3	2	4	全	3

「外国語」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	英語Ⅰ(IE)	各担当教員		1	1	全	
	春	英語Ⅰ(S)	各担当教員		1	1	全	
	春	英語Ⅰ(W)	各担当教員		1	1	全	
	秋	英語Ⅱ(IE)	各担当教員		1	1	全	
	秋	英語Ⅱ(S)	各担当教員		1	1	全	
	秋	英語Ⅱ(W)	各担当教員		1	1	全	
	春	英語Ⅲ(IE)	各担当教員		1	2	全	
	春	英語Ⅲ(S)	2014年度不開講		1	2	全	
	春	英語Ⅲ(W)	各担当教員		1	2	全	
	秋	英語Ⅳ(IE)	各担当教員		1	2	全	
	秋	英語Ⅳ(S)	2014年度不開講		1	2	全	
	秋	英語Ⅳ(W)	各担当教員		1	2	全	
	春	英語Ⅴ(AE)	J. ワインバーグ		1	3	全	9
	春	英語Ⅴ(AE)	J. ハント		1	3	全	10
	春	英語Ⅴ(AE)	K. A. クラウン		1	3	全	11
	春	英語Ⅴ(AE)	K. ヤブノ		1	3	全	12
	春	英語Ⅴ(AE)	M. ハルデイン		1	3	全	13
	春	英語Ⅴ(AE)	S. K. エリス		1	3	全	14
	春	英語Ⅴ(AE)	奥平 文子		1	3	全	15
	春	英語Ⅴ(AE)	山本 英政		1	3	全	16
	春	英語Ⅴ(AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	17
	秋	英語Ⅴ(AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	17
	秋	英語Ⅵ(AE)	J. ワインバーグ		1	3	全	9
	秋	英語Ⅵ(AE)	J. ハント		1	3	全	10
	秋	英語Ⅵ(AE)	K. A. クラウン		1	3	全	11
	秋	英語Ⅵ(AE)	K. ヤブノ		1	3	全	12
	秋	英語Ⅵ(AE)	M. ハルデイン		1	3	全	13
	秋	英語Ⅵ(AE)	S. K. エリス		1	3	全	14
	秋	英語Ⅵ(AE)	奥平 文子		1	3	全	15
	秋	英語Ⅵ(AE)	山本 英政		1	3	全	16
	秋	英語Ⅵ(AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	17
	春	英語Ⅵ(AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	17
	春	スペイン語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	18
	春	スペイン語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	19
	春	スペイン語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	20
	春	スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	21
	秋	スペイン語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	18
	秋	スペイン語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	19
	秋	スペイン語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	20
	秋	スペイン語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	21
	春	スペイン語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	22
	春	スペイン語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	23
	春	スペイン語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	24
	春	スペイン語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	25

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	秋	スペイン語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	22
	秋	スペイン語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	23
	秋	スペイン語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	24
	秋	スペイン語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	25
	春	スペイン語Ⅴ(応用1)	各担当教員		1	3	全	26
	春	スペイン語Ⅴ(応用2)	各担当教員		1	3	全	27
	秋	スペイン語Ⅵ(応用1)	各担当教員		1	3	全	26
	秋	スペイン語Ⅵ(応用2)	各担当教員		1	3	全	27
21231	春	スペイン語Ⅴ(応用1)再履修	兒島 峰	月1	1	3	全	28
20019	秋	スペイン語Ⅴ(応用1)再履修	兒島 峰	月1	1	3	全	28
21232	春	スペイン語Ⅴ(応用2)再履修	兒島 峰	月1	1	3	全	28
20020	秋	スペイン語Ⅴ(応用2)再履修	兒島 峰	月1	1	3	全	28
21209	春	スペイン語Ⅵ(応用1)再履修	兒島 峰	月1	1	3	全	28
21336	秋	スペイン語Ⅵ(応用1)再履修	兒島 峰	月1	1	3	全	28
21210	春	スペイン語Ⅵ(応用2)再履修	兒島 峰	月1	1	3	全	28
21337	秋	スペイン語Ⅵ(応用2)再履修	兒島 峰	月1	1	3	全	28
	春	中国語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	29
	春	中国語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	30
	春	中国語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	31
	春	中国語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	32
	秋	中国語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	29
	秋	中国語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	30
	秋	中国語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	31
	秋	中国語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	32
	春	中国語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	33
	春	中国語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	34
	春	中国語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	35
	春	中国語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	36
	秋	中国語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	33
	秋	中国語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	34
	秋	中国語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	35
	秋	中国語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	36
	春	中国語Ⅴ(応用1)	各担当教員		1	3	全	37
	春	中国語Ⅴ(応用2)	各担当教員		1	3	全	38
	秋	中国語Ⅵ(応用1)	各担当教員		1	3	全	37
	秋	中国語Ⅵ(応用2)	各担当教員		1	3	全	38
21235	春	中国語Ⅴ(応用1)再履修	永田 小絵	火2	1	3	全	39
20023	秋	中国語Ⅴ(応用1)再履修	永田 小絵	火2	1	3	全	39
21236	春	中国語Ⅴ(応用2)再履修	永田 小絵	火2	1	3	全	39
20024	秋	中国語Ⅴ(応用2)再履修	永田 小絵	火2	1	3	全	39
21213	春	中国語Ⅵ(応用1)再履修	永田 小絵	火2	1	3	全	39
21338	秋	中国語Ⅵ(応用1)再履修	永田 小絵	火2	1	3	全	39
21214	春	中国語Ⅵ(応用2)再履修	永田 小絵	火2	1	3	全	39
21343	秋	中国語Ⅵ(応用2)再履修	永田 小絵	火2	1	3	全	39
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	40
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	41
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	42
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	43
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	40
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	41
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	42
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	43
	春	韓国語Ⅲ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	44
	春	韓国語Ⅲ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	45
	春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	46
	春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	47
	秋	韓国語Ⅳ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	44
	秋	韓国語Ⅳ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	45
	秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	46
	秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	47

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
14744	春	韓国語Ⅴ(応用1)	白 寅英	火2	1	3	全	48
18538	春	韓国語Ⅴ(応用1)	沈 民珪	水3	1	3	全	49
13378	春	韓国語Ⅴ(応用2)	白 寅英	金2	1	3	全	50
18495	春	韓国語Ⅴ(応用2)	沈 民珪	木1	1	3	全	51
14739	秋	韓国語Ⅵ(応用1)	白 寅英	火2	1	3	全	48
18539	秋	韓国語Ⅵ(応用1)	沈 民珪	水3	1	3	全	49
13408	秋	韓国語Ⅵ(応用2)	白 寅英	金2	1	3	全	50
18497	秋	韓国語Ⅵ(応用2)	沈 民珪	木1	1	3	全	51
21241	春	韓国語演習Ⅰ(韓国語Ⅴ(応用1)再履修)	沈 元燮	水4	1	3	全	66
20027	春	韓国語演習Ⅱ(韓国語Ⅴ(応用1)再履修)	沈 元燮	水4	1	3	全	66
21242	春	韓国語演習Ⅰ(韓国語Ⅴ(応用2)再履修)	沈 元燮	水4	1	3	全	66
20028	秋	韓国語演習Ⅱ(韓国語Ⅴ(応用2)再履修)	沈 元燮	水4	1	3	全	66
21219	春	韓国語演習Ⅰ(韓国語Ⅵ(応用1)再履修)	沈 元燮	水4	1	3	全	66
21331	秋	韓国語演習Ⅱ(韓国語Ⅵ(応用1)再履修)	沈 元燮	水4	1	3	全	66
21220	春	韓国語演習Ⅰ(韓国語Ⅵ(応用2)再履修)	沈 元燮	水4	1	3	全	66
21332	秋	韓国語演習Ⅱ(韓国語Ⅵ(応用2)再履修)	沈 元燮	水4	1	3	全	66

選択教養科目群

「外国語演習科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
18606	春	英語演習Ⅰ	J. ハント	月3	2	3	全	56
19414	春	英語演習Ⅰ	M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	57
18602	春	英語演習Ⅰ	是澤 克哉	金3	2	3	全	58
18620	春	英語演習Ⅰ	関戸 冬彦	木3	2	3	全	59
18622	春	英語演習Ⅰ	中込 知子	水3	2	3	全	60
19816	春	英語演習Ⅰ	中島 直美	火2	2	3	全	61
18607	秋	英語演習Ⅱ	J. ハント	月3	2	3	全	56
19415	秋	英語演習Ⅱ	M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	57
18603	秋	英語演習Ⅱ	是澤 克哉	金4	2	3	全	58
18621	秋	英語演習Ⅱ	関戸 冬彦	木3	2	3	全	59
18623	秋	英語演習Ⅱ	中込 知子	水3	2	3	全	60
19817	秋	英語演習Ⅱ	中島 直美	火2	2	3	全	61
19402	春	スペイン語演習Ⅰ	J. マルティネス	金1	2	3	全※1	62
19404	春	スペイン語演習Ⅰ	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	63
19403	秋	スペイン語演習Ⅱ	J. マルティネス	金1	2	3	全※1	62
19405	秋	スペイン語演習Ⅱ	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	63
19410	春	中国語演習Ⅰ	永田 小絵	月3	2	3	全※1	64
18590	春	中国語演習Ⅰ	吉田 桂子	金3	2	3	全※1	65
19411	秋	中国語演習Ⅱ	永田 小絵	月3	2	3	全※1	64
18591	秋	中国語演習Ⅱ	吉田 桂子	金3	2	3	全※1	65
18626	春	韓国語演習Ⅰ	沈 元燮	水4	2	3	全※1	66
18625	秋	韓国語演習Ⅱ	沈 元燮	水4	2	3	全※1	66

※1: 交流文化学科は除く

「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13167	春	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ(スペイン)	二宮 哲	月5	2	1	全	67
13168	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ(ラテンアメリカ)	佐藤 勘治	月5	2	1	全	67
14676	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅰ(ラテンアメリカの歴史と社会)	佐藤 勘治	木4	2	2		70
14584	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ(ラテンアメリカの政治と社会)	浦部 浩之	月2	2	2		71
14848	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ(ラテンアメリカの経済と社会)	今井 圭子	月3	2	2		72
14596	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ(スペイン語圏の言語文化)	二宮 哲	月2	2	2		68
14677	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅰ(ラテンアメリカ近現代史)	佐藤 勘治	木4	2	2		70
14585	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ(ラテンアメリカ国際関係論)	浦部 浩之	月2	2	2		71
14849	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ(ラテンアメリカ経済発展論)	今井 圭子	月3	2	2		72
14597	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ(スペイン語学)	二宮 哲	月2	2	2		68
15045	春	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ(ブラジル研究)	E. ウラノ	火2	2	2	全	73
14621	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法	二宮 哲	月4	2	2	全	77

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
14590	春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅰ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究a)	P. ラゴ	金1	2	2		74
14591	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅱ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究b)	P. ラゴ	金1	2	2		74
15044	春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	倉田 量介	火3	2	2	全	75
14938	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	兎島 峰	火5	2	2	全	75

「中国研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13470	春	中国研究入門	松岡 格	火4	2	1		78
14605	秋	中国研究Ⅰ(中国社会論)	松岡 格	火4	2	2		78
		中国研究Ⅱ(中国の思想・文学)	2014年度不開講		2	2		
14909	春	中国研究Ⅲ(中国史a)	張 士陽	木4	2	2	全	81
14910	秋	中国研究Ⅳ(中国史b)	張 士陽	木4	2	2	全	81
14594	春	中国研究各論Ⅰ(現代中国論a)	松岡 格	金4	2	2	法	80
14595	秋	中国研究各論Ⅱ(現代中国論b)	松岡 格	金4	2	2	法	80
14678	春	中国研究各論Ⅲ(日中交流史)	大澤 昇	水5	2	2		84
		中国研究各論Ⅳ(中国の芸能・芸術)	2014年度不開講		2	2		
		中国研究各論Ⅴ(言語文化論)	2014年度不開講		2	2		
14691	春	中国特殊研究Ⅰ(日中比較文化論a)	大澤 昇	水3	2	2		82
14692	秋	中国特殊研究Ⅱ(日中比較文化論b)	大澤 昇	水3	2	2		82
14703	春	中国特殊研究Ⅲ(中国文学研究古典)	永田 小絵	水2	2	2		83
14704	秋	中国特殊研究Ⅳ(中国文学研究現代)	永田 小絵	水2	2	2		83

「韓国研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13141	春	韓国研究入門	平田 由紀江	月2	2	1	全	85
14675	春	韓国研究Ⅰ(韓国史)	佐藤 厚	金3	2	2	全	88
14680	秋	韓国研究Ⅱ(韓国社会論)	平田 由紀江	水2	2	2	全	86
14627	秋	韓国研究Ⅲ(韓国の言語文化)	金 泰植	月3	2	2	全	93
14567	春	韓国研究各論Ⅰ(韓国社会各論a)	平田 由紀江	水2	2	2	全	86
14974	秋	韓国研究各論Ⅱ(韓国社会各論b)	全 載旭	木2	2	2	全	87
14889	秋	韓国研究各論Ⅲ(日韓交流史)	金 熙淑	月3	2	2	全	90
14626	春	韓国研究各論Ⅳ(韓国文化各論a)	呉 吉煥	金1	2	2	全	91
14667	秋	韓国研究各論Ⅴ(韓国文化各論b)	佐藤 厚	金3	2	2	全	92
14892	春	韓国研究各論Ⅵ(韓国文化各論c)	佐藤 厚	木1	2	2	全	92
14891	秋	韓国研究情報収集法	金 熙淑	月4	2	2	全	91
14894	秋	韓国特殊研究Ⅰ(日韓比較文化論a)	金 熙淑	火4	2	2	全	89
14890	春	韓国特殊研究Ⅱ(日韓比較文化論b)	金 熙淑	火4	2	2	全	89
14893	秋	韓国特殊研究Ⅲ(文献読解)	沈 元燮	水2	2	2	全	95

「日本研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13471	春	日本研究Ⅰ(日本文学古典)	福沢 健	月2	2	1	全	97
13198	秋	日本研究Ⅱ(日本文学現代)	佐藤 毅	木1	2	1	全	99
13199	春	日本研究Ⅲ(日本史a)	丸浜 昭	水1	2	1	全	107
13200	秋	日本研究Ⅳ(日本史b)	丸浜 昭	水1	2	1	全	107
13201	春	日本研究Ⅴ(日本経済論a)	須藤 時仁	木5	2	1	全	108
13202	秋	日本研究Ⅵ(日本経済論b)	須藤 時仁	木5	2	1	全	108
13203	春	日本研究Ⅶ(日本文化論)	宇津木 言行	火3	2	1	全	96
14674	春	日本研究各論Ⅰ(民俗芸能)	飯島 一彦	木2	2	2	全	105
15072	春	日本研究各論Ⅱ(企業経営)	黒川 文子	火3	2	2	全	109
14851	秋	日本研究各論Ⅲ(地域文化)	林 英一	木1	2	2	全	106
14673	春	日本研究各論Ⅳ(古典芸能)	宇津木 言行	木3	2	2	全	102
14850	春	日本特殊研究Ⅰ(民俗学)	林 英一	木1	2	2	全	100
14689	秋	日本特殊研究Ⅱ(文献読解)	宇津木 言行	火3	2	2	全	103
14645	春	日本特殊研究Ⅲ(写本を読む)	宇津木 言行	木4	2	2	全	103
14647	秋	日本特殊研究Ⅳ(碑文を読む)	飯島 一彦	木2	2	2	全	102

「多言語間交流研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
		多言語間交流研究Ⅰ(言語学a)	2014年度不開講		2	1	全	
13444	秋	多言語間交流研究Ⅱ(言語学b)	安間 一雄	金2	2	1	全	110
13146	春	多言語間交流研究Ⅲ(英語学a)	安間 一雄	金1	2	1	全	110
		多言語間交流研究Ⅳ(英語学b)	2014年度不開講		2	1	全	
13142	春	多言語間交流研究Ⅴ(英語圏の文学)	大熊 昭信	金2	2	1	全	114
22897	秋	多言語間交流研究Ⅴ(英語圏の文学)	大熊 昭信	金2	2	1	全	114
14636	春	多言語間交流研究各論Ⅰ(応用言語学)	臼井 芳子	水1	2	2	全	112
14637	春	多言語間交流研究各論Ⅱ(第二言語習得)	臼井 芳子	木2	2	2	全	113
14852	春	多言語間交流研究各論Ⅲ(英語圏の小説a)	上野 直子	水2	2	2	全	115
		多言語間交流研究各論Ⅳ(英語圏の小説b)	2014年度不開講		2	2	全	
14888	秋	多言語間交流研究各論Ⅴ(英語圏の詩a)	原 成吉	火1	2	2	全	115
		多言語間交流研究各論Ⅵ(英語圏の詩b)	2014年度不開講		2	2	全	
		多言語間交流研究各論Ⅶ(英語圏の演劇a)	2014年度不開講		2	2	全	
14855	秋	多言語間交流研究各論Ⅶ(英語圏の演劇b)	児嶋 一男	月3	2	2	全	116
14617	春	多言語間交流研究各論Ⅸ(国際語としての英語)	臼井 芳子	火4	2	2	全	117
		多言語間交流研究各論Ⅹ(多言語環境と英語)	2014年度不開講		2	2	全	
14592	春	多言語間交流研究各論ⅩⅠ(英語圏の文化)	山本 英政	木2	2	2	全	135
14593	秋	多言語間交流研究各論ⅩⅡ(英語圏事情)	山本 英政	木2	2	2	全	135
15211	春	多言語間交流特殊研究Ⅰ(翻訳通訳論・英語)	中島 直美	火1	2	2		129
14638	春	多言語間交流特殊研究Ⅱ(翻訳通訳論・中国語)	永田 小絵	水1	2	2		130
14615	春	多言語間交流特殊研究Ⅲ(翻訳通訳論・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		131
15212	秋	多言語間交流特殊研究Ⅳ(翻訳通訳実習・英語)	中島 直美	火1	2	2		129
14659	秋	多言語間交流特殊研究Ⅴ(翻訳通訳実習・中国語)	永田 小絵	水1	2	2		130
15034	秋	多言語間交流特殊研究Ⅵ(翻訳通訳実習・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		131

「多文化共生研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13204	春	多文化共生研究Ⅰ(文化人類学a)	執行 一利	金4	2	1	全	166
13205	秋	多文化共生研究Ⅱ(文化人類学b)	執行 一利	金4	2	1	全	166
13206	春	多文化共生研究Ⅲ(社会学a)	岡村 圭子	土1	2	1	全	165
13207	秋	多文化共生研究Ⅳ(社会学b)	岡村 圭子	土1	2	1	全	165
13210	春	多文化共生研究Ⅴ(異文化間コミュニケーションa)	岡村 圭子	水2	2	1	全	132
13211	秋	多文化共生研究Ⅵ(異文化間コミュニケーションb)	山本 英政	月2	2	1	全	132
14856	春	多文化共生研究各論Ⅰ(アメリカの多文化共生a)	佐藤 唯行	火3	2	2		133
14857	秋	多文化共生研究各論Ⅱ(アメリカの多文化共生b)	佐藤 唯行	火3	2	2		133
		多文化共生研究各論Ⅲ(異文化社会の認識と世界観a)	2014年度不開講		2	2	全	
		多文化共生研究各論Ⅳ(異文化社会の認識と世界観b)	2014年度不開講		2	2	全	
		多文化共生研究各論Ⅴ(比較社会論)	2014年度不開講		2	2	全	
		多文化共生研究各論Ⅵ(比較文化論)	2014年度不開講		2	2	全	
15176	春	多文化共生研究各論Ⅶ(大衆文化論)	木本 玲一	月5	2	2	全	134
14664	秋	多文化共生研究各論Ⅷ(地域メディア論)	岡村 圭子	水2	2	2	全	134
15007	秋	多文化共生特殊研究Ⅰ(滞日外国人研究)	田房 由起子	土2	2	2	法	143
14699	春	多文化共生特殊研究Ⅱ(アメリカ合衆国のラティノ社会)	佐藤 勸治	水2	2	2		144
		多文化共生特殊研究Ⅲ(カリブ海域社会の民族関係)	2014年度不開講		2	2		

「国際交流研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13145	春	国際交流研究Ⅰ(国際関係論)	中島 晶子	月3	2	1	全	136
13319	春	国際交流研究Ⅱ(国際協力論)	浦部 浩之	水3	2	1	全	137
13212	春	国際交流研究Ⅲ(国際機構論)	鈴木 淳一	月3	2	1	全	147
13143	秋	国際交流研究Ⅳ(NGO論)	清水 俊弘	水4	2	1	全	138
13320	秋	国際交流研究Ⅴ(南北問題)	浦部 浩之	水3	2	1	全	137
		国際交流研究Ⅵ(情報とメディア)	2014年度不開講		2	1		
14860	春	国際交流研究各論Ⅰ(国際政治論a)	星野 昭吉	月2	2	2	全	139
14861	秋	国際交流研究各論Ⅱ(国際政治論b)	星野 昭吉	月2	2	2	全	139
14977	春	国際交流研究各論Ⅲ(国際経済論a)	益山 光央	火2	2	2	全	140
14979	秋	国際交流研究各論Ⅳ(国際経済論b)	益山 光央	火2	2	2	全	140
14868	春	国際交流特殊研究Ⅰ(日本政治外交史a)	福永 文夫	金3	2	2	全	141
14869	秋	国際交流特殊研究Ⅱ(日本政治外交史b)	福永 文夫	金3	2	2	全	141

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
14870	春	国際交流特殊研究Ⅲ(アジア太平洋地域交流a)	高安 健一	金1	2	2	全	145
14871	秋	国際交流特殊研究Ⅳ(アジア太平洋地域交流b)	高安 健一	金1	2	2	全	145
14872	春	国際交流特殊研究Ⅴ(グローバル・ガバナンスa)	一之瀬 高博	木2	2	2	全	148
14873	秋	国際交流特殊研究Ⅵ(グローバル・ガバナンスb)	一之瀬 高博	木2	2	2	全	148

「宗教・文化・歴史研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
		宗教・文化・歴史研究Ⅰ(文化史入門)	2014年度不開講		2	1	全	
13214	春	宗教・文化・歴史研究Ⅱ(東洋思想史a)	松丸 壽雄	水2	2	1	全	168
13215	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅲ(東洋思想史b)	松丸 壽雄	水2	2	1	全	168
13472	春	宗教・文化・歴史研究Ⅳ(文明史研究a)	櫻井 悠美	月2	2	1	全	169
13473	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅴ(文明史研究b)	櫻井 悠美	月2	2	1	全	169
13148	春	宗教・文化・歴史研究Ⅵ(倫理学a)	川口 茂雄	月4	2	1	全	167
13149	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅶ(倫理学b)	川口 茂雄	月4	2	1	全	167
14695	春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅰ(地中海世界の宗教と文化a)	櫻井 悠美	水2	2	2		186
14696	秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅱ(地中海世界の宗教と文化b)	櫻井 悠美	水2	2	2		186
14874	春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ(比較宗教史)	松丸 壽雄	木3	2	2	全	170
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅳ(日本思想史1)	2014年度不開講		2	2	全	
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅴ(日本思想史2)	2014年度不開講		2	2	全	
14875	春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅵ(アラブ文化・芸術a)	師岡 カリーマ エルサムニー	月2	2	2	全	187
14876	秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅶ(アラブ文化・芸術b)	師岡 カリーマ エルサムニー	月2	2	2	全	187
		宗教・文化・歴史特殊研究Ⅰ(世界の宗教と文化ー神教と多神教)	2014年度不開講		2	2		
14700	秋	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ(思想と文化)	松丸 壽雄	金4	2	2		185

「日本語教育研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13216	春	日本語教育研究Ⅰ(日本語教育概説)	石塚 京子	月4	2	1	全	111
13217	秋	日本語教育研究Ⅱ(日本事情とコミュニケーション教育)	宇津木 言行	火4	2	1	全	111
14687	春	日本語教育研究各論Ⅰ(日本語教授法1a)	中西 家栄子	火5	2	2		124
14688	秋	日本語教育研究各論Ⅱ(日本語教授法1b)	中西 家栄子	火5	2	2		124
14879	春	日本語教育研究各論Ⅲ(日本語音声学)	磯村 一弘	水5	2	2		118
14557	春	日本語教育研究各論Ⅳ(日本語文法形態論)	武田 明子	火2	2	2	全※1	119
14558	秋	日本語教育研究各論Ⅴ(日本語文法統語論)	武田 明子	火2	2	2	全※1	119
14559	春	日本語教育研究各論Ⅵ(日本語談話論)	浅山 佳郎	月1	2	2	全※2	122
14563	秋	日本語教育研究各論Ⅶ(日本語意味論・語用論)	浅山 佳郎	月1	2	2		122
14693	春	日本語教育特殊研究Ⅰ(対照言語学・誤用分析a)	中西 家栄子	火2	2	2		123
14694	秋	日本語教育特殊研究Ⅱ(対照言語学・誤用分析b)	中西 家栄子	火2	2	2		123
		日本語教育特殊研究Ⅲ(文献読解a)	2014年度不開講		2	2		
		日本語教育特殊研究Ⅳ(文献読解b)	2014年度不開講		2	2		
20835	春	日本語教育特殊研究Ⅴ(日本語教授法2)	中西 家栄子	水2	2	4		125
20836	春	日本語教育特殊研究Ⅴ(日本語教授法2)	岩沢 正子	金3	2	4		126
20834	春	日本語教育特殊研究Ⅴ(日本語教授法2)	浅山 佳郎	木1	2	4		127
14668	春	日本語教育特殊研究Ⅵ(日本語教育教材論)	小山 慎治	木4	2	2	全※2	121
	春/秋	日本語教育特殊研究Ⅶ(教育実習)	各担当教員	その他	2	4		128

※1:07年度入学者は除く、※2:08年度以降入学者は除く

「教育科学研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13221	秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	高瀬 幸恵	火4	2	1	全	150
13218	秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	川村 肇	木3	2	1	全	150
13219	秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	高瀬 幸恵	火5	2	1	全	150
13220	春	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	高瀬 幸恵	火4	2	1	全	150
13222	春	教育科学研究Ⅱ(教育の歴史1)	川村 肇	水3	2	1	全	153
14670	秋	教育科学研究Ⅲ(教育の歴史2)	川村 肇	水3	2	1	全	153
13224	春	教育科学研究Ⅳ(教職論)	高瀬 幸恵	火5	2	1	全	149
13225	春	教育科学研究Ⅳ(教職論)	桑原 憲一	月3	2	1	全	149
13226	秋	教育科学研究Ⅳ(教職論)	桑原 憲一	月4	2	1	全	149

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13475	秋	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	白砂 佐和子	火4	2	1	全	156
13227	春	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	田口 雅徳	金1	2	1	全	156
13474	春	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	白砂 佐和子	火4	2	1	全	156
13228	秋	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	田口 雅徳	金1	2	1	全	156
13476	春	教育科学研究Ⅵ(こころの世界)	田口 雅徳	木2	2	1	全	151
14749	春	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	桑原 憲一	月4	2	2	全	154
14750	秋	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	小島 優生	木5	2	2	全	154
14751	春	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	桑原 憲一	火3	2	2	全	154
14756	秋	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	桑原 憲一	火5	2	2	全	155
14758	春	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	桑原 憲一	火4	2	2	全	155
14757	春	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	安井 一郎	水2	2	2	全	155
14672	春	教育科学研究各論Ⅲ(カウンセリング論)	瀧本 孝雄	木3	2	2	全	157
19177	秋	教育科学研究各論Ⅳ(パーソナリティ理論)	瀧本 孝雄	木3	2	2	全	157
14761	秋	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	瀧本 孝雄	木2	2	2	全	158
14759	春	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	瀧本 孝雄	木2	2	2	全	158
14760	秋	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	鈴木 乙史	木4	2	2	全	158
		教育科学研究各論Ⅵ(こども論)	2014年度不開講		2	2	全	
14862	春	教育科学研究各論Ⅶ(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	160
14863	秋	教育科学研究各論Ⅶ(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	160
		教育科学特殊研究Ⅰ(異文化理解教育)	2014年度不開講		2	2	全	
14865	秋	教育科学特殊研究Ⅱ(教師と語る)	川村 肇	金3	2	2	全	159
14864	秋	教育科学特殊研究Ⅲ(心理検査法と自己理解)	田口 雅徳	木4	2	2	全	151
14649	春	教育科学特殊研究Ⅳ(スポーツコーチ学a)	石渡 貴之	木4	2	2	全	162
14629	秋	教育科学特殊研究Ⅴ(スポーツコーチ学b)	松原 裕	木3	2	2	全	162
14877	春	教育科学特殊研究Ⅵ(リーダーシップ論)	和田 智	金2	2	2	全	163
14604	春	教育科学特殊研究Ⅶ(体育経営スポーツマネジメント)	川北 準人	月3	2	2	全	164
14878	秋	教育科学特殊研究Ⅷ(ボランティア論)	山岸 倫子	水4	2	2	全	164

「自然・環境研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13229	春	自然・環境研究Ⅰ(科学史a)	野澤 聡	金4	2	1	全	171
13230	秋	自然・環境研究Ⅱ(科学史b)	野澤 聡	金4	2	1	全	171
13477	春	自然・環境研究Ⅲ(数学a)	東 孝博	月2	2	1	全	173
13478	秋	自然・環境研究Ⅳ(数学b)	東 孝博	月2	2	1	全	173
13231	春	自然・環境研究Ⅴ(宇宙論a)	東 孝博	火1	2	1	全	189
13232	秋	自然・環境研究Ⅵ(宇宙論b)	東 孝博	火1	2	1	全	189
13233	春	自然・環境研究Ⅶ(天文学a)	内田 俊郎	木4	2	1	全	175
13234	秋	自然・環境研究Ⅷ(天文学b)	内田 俊郎	木4	2	1	全	175
15182	春	自然・環境研究各論Ⅰ(地球環境論a)	北崎 幸之助	金4	2	2	全	178
15183	秋	自然・環境研究各論Ⅱ(地球環境論b)	北崎 幸之助	金4	2	2	全	178
		自然・環境研究各論Ⅲ(科学技術交流史研究a)	2014年度不開講		2	2	全	
		自然・環境研究各論Ⅳ(科学技術交流史研究b)	2014年度不開講		2	2	全	
14608	春	自然・環境特殊研究Ⅰ(自然観察a)	飯泉 恭一	水2	2	2	全	190
14609	秋	自然・環境特殊研究Ⅱ(自然観察b)	飯泉 恭一	水2	2	2	全	190
14611	春	自然・環境特殊研究Ⅲ(観察と実験生物学a)	内田 正夫	木2	2	2	全	191
14614	秋	自然・環境特殊研究Ⅳ(観察と実験生物学b)	内田 正夫	木2	2	2	全	191

「多言語情報処理研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13235	春	多言語情報処理研究Ⅰ(コンピュータと言語)	呉 浩東	月2	2	1	全	179
15100	春	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	松山 恵美子	水2	2	2	全	180
15078	春	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	金子 憲一	木3	2	2	全	180
15101	秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	松山 恵美子	水2	2	2	全	180
15084	秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	田中 雅英	火4	2	2	全	180
14642	春	多言語情報処理研究各論Ⅱ(情報検索と加工)	黄 海湘	水4	2	2	全	193

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
15079	春	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	金子 憲一	木4	2	2	全	181
15080	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	金子 憲一	木4	2	2	全	181
15121	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	金子 憲一	月3	2	2	全	181
15082	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	田中 雅英	火3	2	2	全	181
15088	秋	多言語情報処理研究各論Ⅳ(データベース)	黄 海湘	水4	2	2		182
14690	春	多言語情報処理研究各論Ⅴ(統計と調査法)	安間 一雄	火2	2	2	全	184
14560	秋	多言語情報処理研究各論Ⅵ(コーパス言語学)	呉 浩東	木4	2	2		197
14697	春	多言語情報処理特殊研究Ⅰ(自然言語処理a)	呉 浩東	木1	2	2		194
14698	秋	多言語情報処理特殊研究Ⅱ(自然言語処理b)	呉 浩東	木1	2	2		194
14880	春	多言語情報処理特殊研究Ⅲ(プログラミング論a)	呉 浩東	月4	2	2		195
14881	秋	多言語情報処理特殊研究Ⅳ(プログラミング論b)	呉 浩東	月4	2	2		195
14610	秋	多言語情報処理特殊研究Ⅴ(コンピュータ構造論)	呉 浩東	月2	2	2	全	196
15083	春	多言語情報処理特殊研究Ⅵ(マルチメディア論)	田中 雅英	火4	2	2	全	196

「卒業研究」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春/秋	卒業研究	各担当教員		2	4	全	198

「日本語科目」(外国人学生・帰国学生専用)

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	秋	初級日本語	各担当教員		1	1	全	200
	春/秋	中級日本語	各担当教員		1	1	全	201
	春/秋	上級日本語Ⅰ	各担当教員		1	1	全	202
	春/秋	上級日本語Ⅱ	各担当教員		1	1	全	203

13年度以降	基礎演習	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この「基礎演習」の目的は、1年次に今後4年間の大学生活を有意義に過ごすためのアドバイスやケアを行ない、さらに2年次以降の専門研究に対応できるよう準備することにある。</p> <p>そのために、図書館・PCの利活用を含む『読む・書く・聞く・話す』の基礎力を高めていくことを課題とする。</p> <p>なお、第1回目の全体授業でPC授業のクラス分けをするので、欠席しないように。</p>		<p>1. 全体授業－「基礎演習」の目的と課題</p> <p>2. クラス別オリエンテーション</p> <p>3. ～13.</p> <p>図書館実習（1回）</p> <p>図書館の利用、図書検索の仕方</p> <p>PCの利用（3回）</p> <p>システムの利用、メールの利用、情報検索、文章作成、表計算・プレゼンテーションソフトの利用</p> <p>『読む・書く・聞く・話す』基礎力養成（7回）</p> <p>文章を読む、要約をする、ノートをとる、講義を受ける、観察実習、ディスカッション、プレゼンテーション</p> <p>（順序は各クラスによって異なる）</p> <p>14. 2年生以降の「演習」に向けて</p> <p>15. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員によって提示される。		授業への参加度およびレポートなどにより、総合的に評価する。	

13年度以降 12年度以前	言語文化論 言語文化論	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 言語文化学科が学科の目的とする国際的な教養としての「言語」と「文化」が、全体としてどのようなものであるかを認識するための授業である。学科が設置している各研究科目群がおおまかにどういう分野であり、それぞれの担当教員がどのような演習を開講しているかを把握し、学生諸君自身による今後の履修のための「設計図」をえがくことを目的とする。</p> <p>講義概要 講義内容としては、各研究科目群についての概説、2年次以降の演習担当教員による内容紹介、「言語」と「文化」をキーワードとして複数の教員によって展開される議論の3種類で構成される。第1の概説はこの科目の担当者による、第2、第3の内容は、毎回学科の専任教員をゲストにむかえておこなう。授業中の学生からの質問を、つよく要求する。</p>		<p>第1回 インTRODクシヨン－「言語」と「文化」を学ぶ意味</p> <p>第2回 国際教養学部のカリキュラムについて</p> <p>第3回 スペイン・ラテンアメリカ研究科目群</p> <p>第4回 中国研究科目群</p> <p>第5回 韓国研究科目群</p> <p>第6回 日本研究科目群</p> <p>第7回 言語教育研究科目群</p> <p>第8回 グローバル社会研究科目群</p> <p>第9回 人間発達科学研究科目群</p> <p>第10回 総合科学研究科目群</p> <p>第11回 演習選択について</p> <p>第12回 特別トピックに関する研究討論(1)</p> <p>第13回 特別トピックに関する研究討論(2)</p> <p>第14回 特別トピックに関する研究討論(3)</p> <p>第15回 2年生になるに当たって－「学ぶ」ということの意味</p> <p>なお、この予定は、各研究科目群担当教員の状況により、前後する場合がある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
言語文化学科『演習の手引き』		平常点（50%）、レポート（50%）による総合評価	

13年度以降 12年度以前	哲学Ⅰ 哲学Ⅰ	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>下記の課題について、概要説明と問題への取り組み方、およびその例が示される。この課題ごとに、グループ分けし、それぞれが興味ある課題と取り組む。さらに後半に時間配分される課題研究発表に向けて、前半部各グループは研究調査および討議により適切な解答を考える。後半には各グループが発表を行い、最後に教師をも含めて、他の学生と共に全体討議を行うことを目指す。</p> <p>その課題とは、震災に関する考察、人間と世界との関係、愛とは、諸文化の交流の意義、意識とは、感情の意味、教養は世界の平和に貢献できるか、他者の意味、幸福と倫理、言語の意味と役割などである。詳しくは、授業始めに、課題の一覧表を配る予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題説明とグループ分け 2. 各グループごとの調査研究 3. 各グループごとの調査研究 4. 各グループごとの調査研究 5. 第一、第二グループの発表と討論 6. 第三、第四グループの発表と討論 7. 第五、第六グループの発表と討論 8. 第七、第八グループの発表と討論 9. 第九、第十グループの発表と討論 10. 第十一、第十二グループの発表と討論 11. 第十三、第十四グループの発表と討論 12. 第十五、第十六グループの発表と討論 13. 第十七、第十八グループの発表と討論 14. 第十九、第二十グループの発表と討論 15. 授業の総まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示。		ディスカッションへの出席、授業への取り組み方を調査研究発表態度から判定（40%）、およびレポートから最終判定（60%）。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12年度以前	哲学Ⅱ	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代世界において直面せざるを得ない諸問題の基礎となる課題について、簡単な概要説明といくつかの問題への取り組み方がまず示される。この課題ごとに、グループ分けした各班がそれぞれに興味を抱いた課題を、春学期の間取り組むことになる。各グループは研究調査およびディスカッションにより、自分たちならばどのような見解と解決を与えるのが最適と考えるかを探り、発表を行い、今度は教師をも含めて、他の学生との全体討議を行う。学生による発表は英語でなされる。しかし、討論は受講生の状況を見て言語を決定する。なお、このグループ内で、研究調査計画、および担当分担、研究発表の手順担当者、および質疑応答の準備等を自主的に決めたいうえで、発表に臨むこと。<u>レポートも英語で書くこと。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代世界の我々を取り巻く思想的状況の哲学的説明。 2. 各グループの研究調査、発表準備。 3. 各グループの研究調査、発表準備。 4. 各グループの研究調査、発表準備。 5. 第2グループの発表とディスカッション 6. 第3、第4グループの発表とディスカッション 7. 第5、第6グループの発表とディスカッション 8. 第7、第8グループの発表とディスカッション 9. 第9、第10グループの発表とディスカッション 10. 第11、第12グループの発表とディスカッション 11. 第13、第14グループの発表とディスカッション 12. 第15、第16グループの発表とディスカッション 13. 第17、第18グループの発表とディスカッション 14. 第19、第20グループの発表とディスカッション 15. 授業の総まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		発表とディスカッションの貢献度（40%）と、それに基づく個人のレポート（英語）（60%）	

12年度以前	哲学Ⅱ	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代世界において直面せざるを得ない諸問題の基礎となる課題について、簡単な概要説明といくつかの問題への取り組み方がまず示される。この課題ごとに、グループ分けした各班がそれぞれに興味を抱いた課題を、秋学期の間取り組むことになる。各グループは研究調査およびディスカッションにより、自分たちならばどのような見解と解決を与えるのが最適と考えるかを探り、発表を行い、今度は教師をも含めて、他の学生との全体討議を行う。学生による発表と全体ディスカッションは英語でなされるが、参加者の状況を見極めて、ディスカッション使用言語を最終的に決定する。なお、このグループ内で、研究調査計画、および担当分担、研究発表の手順担当者、および質疑応答の準備等を自主的に決めたいうえで、発表に臨むこと。<u>レポートも英語で書くこと。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代世界の我々を取り巻く思想的状況の哲学的説明。 2. 各グループの研究調査、発表準備。 3. 各グループの研究調査、発表準備。 4. 各グループの研究調査、発表準備。 5. 第1、第2グループの発表とディスカッション 6. 第3、第4グループの発表とディスカッション 7. 第5、第6グループの発表とディスカッション 8. 第7、第8グループの発表とディスカッション 9. 第9、第10グループの発表とディスカッション 10. 第11、第12グループの発表とディスカッション 11. 第13、第14グループの発表とディスカッション 12. 第15、第16グループの発表とディスカッション 13. 第17、第18グループの発表とディスカッション 14. 第19、第20グループの発表とディスカッション 15. 授業の総まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		発表とディスカッションの貢献度（40%）と、それに基づく個人のレポート（英語）（60%）	

13年度以降 12年度以前	英語Ⅰ (IE) 英語Ⅰ (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーを学習する。内容理解の表現方法としては、口頭・筆記双方でパラフレイズや要約（英語）ができるようになることを目的とする。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはクラスによって異なります。 (Class A): To be announced on the first class. (Classes B, C, D, E, F, G, H): <i>Pathways 1</i> (Heinle Cengage Learning)</p>		<p>課題 (20%), 多読関連 (20%), 語彙テスト (20%), 期末テスト (40%) 出席: 出席を大前提とする。9回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

13年度以降 12年度以前	英語Ⅱ (IE) 英語Ⅱ (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーも学習する。内容理解の表現方法としては、口頭・筆記双方でパラフレイズや要約（英語）ができるようになることを目的とする。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期(英語Ⅰ)と同じ		春学期(英語Ⅰ)と同じ	

13年度以降 12年度以前	英語Ⅰ (S) 英語Ⅰ (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基礎的な言語表現形式を口頭で使いこなす能力を養う。ここでは、音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習や発音練習をする。また、プレゼンテーションスキルを学び、身近なテーマに関するプレゼンテーションの練習をする。受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる。</p> <p>授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> • <i>Dynamic Presentations</i> (桐原書店) • その他 		参加態度・予習・努力等 (10%)、口頭発表 (30%)、期末ペアインタビュー (30%)、課題到達度 (30%)	

13年度以降 12年度以前	英語Ⅱ (S) 英語Ⅱ (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語Ⅰ(S)」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。定型言語形式の使用練習においては、自発的な発話場面においても、適切に使用できることを目標とする。また、プレゼンテーションスキルを学び、アカデミックなテーマに関するプレゼンテーションの練習をする。受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる。</p> <p>授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

13年度以降 12年度以前	英語Ⅱ (W) 英語Ⅱ (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>エッセイライティングの基礎を学ぶ。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレンストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはクラスにより異なる。 ・ Chin, Koizumi, Reid, Wray, Yamazaki, <i>Academic Writing Skills 1</i> (Cambridge UP; ISBN 9781107636224) ・ その他</p>		<p>テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%)，期末作文課題 (20%)，授業参加態度 (20%)，ポートフォリオ (10%)</p>	

13年度以降 12年度以前	英語Ⅱ (W) 英語Ⅱ (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>エッセイライティングの基礎を学ぶ。「英語Ⅰ(W)」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレンストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

13年度 12年度以前	英語Ⅲ (IE) 英語Ⅲ (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語Ⅱ (IE)」に引き続き、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディングおよびディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはクラスによって異なります。 (Class A): <i>THINK Sociology</i> (Pearson Longman) (Class B, C, D, E, F, G, H): <i>Pathways 2</i> (Heinle Cengage Learning)</p>		<p>課題 (20%), 多読関連 (20%), 語彙テスト (20%), 期末テスト (40%) 出席: 出席を大前提とする。9回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

13年度 12年度以降	英語Ⅳ (IE) 英語Ⅳ (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語Ⅲ (IE)」に引き続き、同じ授業形態の許で、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期(英語Ⅲ)と同じ		春学期(英語Ⅲ)と同じ	

13年度 12年度以前	英語Ⅲ (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>実質的なエッセイライティングを学ぶ。1 パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因・結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレインストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはクラスにより異なる。 ・ <i>Sourcework</i> (Cengage) (Class A) ・ <i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> (Cengage) (Class B-H)</p>		<p>テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%)、期末作文課題 (20%)、授業参加態度 (20%)、ポートフォリオ (10%)</p>	

13年度 12年度以前	英語Ⅳ (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語Ⅲ (W)」に引き続き、実質的なエッセイライティングを学ぶ。1 パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因・結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための練習を行うが、いずれもより高度な内容を含み、より安定したスキルの証明が求められる。教科書に基づいたフォーマルな課題の練習の他、受講者各自の知識・関心・経験に関連する課題作文の練習を行う。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

12年度以前	英語V (AE) (The Environment: Looking Back, Moving Forward)	担当者	J. ワインバーグ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <p>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</p> <p>② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</p> <p>③ can narrow down a topic effectively</p> <p>④ can write a good thesis statement</p> <p>⑤ can organize ideas in an outline format</p> <p>⑥ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation</p> <p>⑦ can write an abstract for the completed research paper</p> <p>⑧ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course and themes 2. Shopping and Us: consumption patterns 3. Shopping and Us: Fair Trade and animal testing 4. Food and Us: Food safety 5. Health and Us: chemicals in Food and cosmetics 6. Energy and Us: energy sources 7. Transport and Us: cars vs. mass transit 8. Nature and Us: environmental destruction 9. Nature and Us: endangered wildlife 10. Travel: effects of tourism on local areas 11. Recreation: skiing and the environment 12. Looking Back 13. Moving Forward 14. Class Review 15. Oral Presentations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		<p>評価基準：準備・参加（10%）、課題（15%）、research paper（55%: outline, drafts, final product）、口頭発表（20%） 出席：出席を大前提とし、9回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

12年度以前	英語VI (AE) (The Environment: Confronting the Issues)	担当者	J. ワインバーグ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course and themes 2. Information and misinformation 3. Saving tropical rainforests 4. Concerning happiness 5. Gizmo addiction 6. Coping with noise 7. The whaling debate 8. Food: not just a commodity 9. Sweatshop labor 10. World Poverty 11. Japan's declining population 12. Global Warming: Beyond Kyoto 13. Energy: is Nuclear power part of the solution? 14. Course Review 15. Oral Presentations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		春学期（英語 V）と同じ	

12年度以前	英語V (AE) (A Global Issue)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <ol style="list-style-type: none"> ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ③ can narrow down a topic effectively ④ can write a good thesis statement ⑤ can organize ideas in an outline format ⑥ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation ⑦ can write an abstract for the completed research paper ⑧ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written 		<p>Week 1: Introduction and Objectives Week 2: Defining the Issue Week 3: Citations Week 4: Researching the Issue 1 Week 5: Researching the Issue 2 Week 6: Research Proposals Week 7: 1st draft Week 8: Editing Workshop 1 Week 9: Conferencing 1 Week 10: 2nd draft Week 11: Editing Workshop 2 Week 12: Conferencing 2 Week 13: Final draft. Presentation Skills Week 14: Presentation Workshop Week 15: Final Presentations</p> <p>Class schedule may change due to academic calendar</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		<p>評価基準: 準備・参加 (10%), 課題 (15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表 (20%) 出席: 出席を大前提とし、9回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

12年度以前	英語VI (AE) (An Environmental Issue)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<p>Week 1: Introduction and Objectives Week 2: Defining the Issue Week 3: Citations Week 4: Researching the Issue 1 Week 5: Researching the Issue 2 Week 6: Research Proposals Week 7: 1st draft Week 8: Editing Workshop 1 Week 9: Conferencing 1 Week 10: 2nd draft Week 11: Editing Workshop 2 Week 12: Conferencing 2 Week 13: Final draft. Presentation Skills Week 14: Presentation Workshop Week 15: Final Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		<p>春学期（英語 V）と同じ</p>	

12年度以前	英語V (AE) (Environmental Issues)	担当者	K. A. クラウン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <p>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</p> <p>② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</p> <p>③ can narrow down a topic effectively</p> <p>④ can write a good thesis statement</p> <p>⑤ can organize ideas in an outline format</p> <p>⑥ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation</p> <p>⑦ can write an abstract for the completed research paper</p> <p>⑧ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</p>		<p>1. Introduction to the course and themes</p> <p>2. Shopping and Us: consumption patterns</p> <p>3. Shopping and Us: Fair Trade and animal testing</p> <p>4. Food and Us: Food safety</p> <p>5. Review of prior units and Review Exam</p> <p>6. Writing an Opinion Essay</p> <p>7. Health and Us: chemicals in food and cosmetics</p> <p>8. Energy and Us: energy sources</p> <p>9. Transport and Us: cars vs. mass transit</p> <p>10. Nature and Us: environmental destruction</p> <p>11. Nature and Us: endangered wildlife</p> <p>12. Travel: effects of tourism on local areas</p> <p>13. Recreation: skiing and the environment</p> <p>14. Review of prior units and Review Exam</p> <p>15. Oral Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		<p>評価基準：準備・参加 (10%)，課題 (15%)，research paper (55%: outline, drafts, final product)，口頭発表 (20%) 出席：出席を大前提とし、9回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

12年度以前	英語VI (AE) (Global Issues)	担当者	K. A. クラウン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<p>1. Introduction to the course and themes</p> <p>2. Information and misinformation</p> <p>3. Saving tropical rainforests</p> <p>4. Concerning happiness</p> <p>5. Review of prior units and Review Exam</p> <p>6. Writing an Opinion Essay</p> <p>7. Gizmo addiction</p> <p>8. Coping with noise</p> <p>9. The whaling debate</p> <p>10. Food: not just a commodity</p> <p>11. Sweatshop labor</p> <p>12. World Poverty</p> <p>13. Japan's declining population</p> <p>14. Review of prior units and Review Exam</p> <p>15. Oral Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		<p>春学期（英語 V）と同じ</p>	

12年度以前	英語V (AE) (Cross Cultural Paradigms)	担当者	K. ヤブノ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <ol style="list-style-type: none"> ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ③ can narrow down a topic effectively ④ can write a good thesis statement ⑤ can organize ideas in an outline format ⑥ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation ⑦ can write an abstract for the completed research paper ⑧ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written 		<p>Week 1: Course overview & introduction Week 2/3: Cross cultural paradigms Week 4/5: Opinion paper & rewrite Week 6: Research paper topic & bibliography Week 7: Research paper detailed outline & thesis Week 8: Research paper introduction & conclusion Week 9: Research paper content & citations Week 10: Research paper draft Week 11: Revising and conferencing Week 12: Research paper final Week 13: Presentation preparation & practice Week 14: Oral presentation (Group 1) Week 15: Oral presentation (Group 2)</p> <p>Depending on the quality of the first draft, a second draft <u>may be required</u> prior to submitting the final version. Content-related reading will be introduced as needed.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		<p>評価基準：準備・参加 (10%)，課題 (15%)，research paper (55%: outline, drafts, final product)，口頭発表 (20%) 出席：出席を大前提とし、9回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

12年度以前	英語VI (AE) (Environmental Topics)	担当者	K. ヤブノ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<p>Week 1: Course overview & introduction Week 2/3: Environmental topics Week 4/5: Opinion paper & rewrite Week 6: Research paper topic & bibliography Week 7: Research paper detailed outline & thesis Week 8: Research paper introduction & conclusion Week 9: Research paper content & citations Week 10: Research paper draft Week 11: Revising and conferencing Week 12: Research paper final Week 13: Presentation preparation & practice Week 14: Oral presentation (Group 1) Week 15: Oral presentation (Group 2)</p> <p>Depending on the quality of the first draft, a second draft <u>may be required</u> prior to submitting the final version. Content-related reading will be introduced as needed.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		<p>春学期（英語 V）と同じ</p>	

12年度以前	英語V (AE) (Themes in Japanese History)	担当者	M. ハルデイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <p>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</p> <p>② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</p> <p>③ can narrow down a topic effectively</p> <p>④ can write a good thesis statement</p> <p>⑤ can organize ideas in an outline format</p> <p>⑥ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation</p> <p>⑦ can write an abstract for the completed research paper</p> <p>⑧ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</p>		<p>1 Introduction; The House and the City</p> <p>2 Vertical Society; The Group and Mass Hysteria</p> <p>3 Japanese Film; <i>The Seven Samurai</i></p> <p>4 The Samurai: Myth and Reality</p> <p>5 The Nobility of Failure: Yoshitsune, Kusunoki Masashige, and the <i>Kamikaze</i></p> <p>6 Individual Conferencing</p> <p>7 Indebtedness: <i>On (Gimu and Giri)</i></p> <p>8 Revenge; <i>Chushingura</i></p> <p>9 Bunraku; Suicide</p> <p>10 Kabuki and Social Protest in Tokugawa Japan</p> <p>11 Education – Following the Rules</p> <p>12 Trade and the Idea of Profit-Making</p> <p>13 Racism; <i>O-yatoi Gaikokujin</i></p> <p>14 Presentations (1)</p> <p>15 Presentations (2)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		<p>評価基準：準備・参加 (10%)，課題 (15%)，research paper (55%: outline, drafts, final product)，口頭発表 (20%) 出席：出席を大前提とし、9回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

12年度以前	英語VI (AE) (Japan through Westerners' Eyes)	担当者	M. ハルデイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<p>1 Introduction</p> <p>2 Yoshimasa and <i>Hashiyama</i> Culture</p> <p>3 The Samurai: Myth and Reality</p> <p>4 Tokugawa Japan – Disease; Caste and Outcasts</p> <p>5 Tragic Heroes: Saigo Takamori and Oshio Heihachiro</p> <p>6 Individual Conferencing</p> <p>7 The American Occupation and the Emperor</p> <p>8 Marriage, Women, and the Yoshiwara</p> <p>9 Names and Family Relationships; Raising Children</p> <p>10 Education and the Plate-Glass Window</p> <p>11 Manga and 'Moratorium Man'; Anime in Translation</p> <p>12 Construction Country</p> <p>13 Saikaku and the Merchant Hero</p> <p>14 Presentations (1)</p> <p>15 Presentations (2)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		<p>春学期（英語 V）と同じ</p>	

12年度以前	英語V (AE) (Imagining the Future)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <p>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</p> <p>② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</p> <p>③ can narrow down a topic effectively</p> <p>④ can write a good thesis statement</p> <p>⑤ can organize ideas in an outline format</p> <p>⑥ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation</p> <p>⑦ can write an abstract for the completed research paper</p> <p>⑧ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</p>		<p>1. Introduction and course overview</p> <p>2. Imagined futures from past to present/ Opinion paper</p> <p>3. Dystopias Introduction/ Mini-presentations</p> <p>4. Corporate and Bureaucratic dystopias/Opinion paper due</p> <p>5. Corporate and Bureaucratic continued /Finalize topics & thesis Statement</p> <p>6. Technological dystopias / Working outline due</p> <p>7. Technological dystopias/Sources & notes due</p> <p>8. Philosophical/religious dystopias/ Writing the first draft</p> <p>9. Philosophical/religious dystopias / First draft and peer review</p> <p>10. Philosophical/religious dystopias/ Conferences</p> <p>11. Utopia World Building Activity / Second draft & peer review</p> <p>12. Conferences/ Presentation preparation</p> <p>13. Presentation preparation /Abstract writing</p> <p>14. Begin oral presentations/ Preliminary final draft due</p> <p>15. Final Paper due and finish presentations.</p> <p><i>The instructor may amend the syllabus.</i></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		<p>評価基準：準備・参加 (10%)，課題 (15%)，research paper (55%: outline, drafts, final product)，口頭発表 (20%) 出席：出席を大前提とし、9回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

12年度以前	英語VI (AE) (Fantasy: Issues in a popular genre)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<p>1. Introduction and course overview/ Categories of Fantasy</p> <p>2. The Problem with Disney / Opinion paper</p> <p>3. The Problem with Disney/Opinion paper due</p> <p>4. Fantasy and racial representation / Mini-research presentations</p> <p>5. Fantasy and racial representation /Finalize topics & thesis Statement</p> <p>6. Fantasy and racial representation / Working outline due</p> <p>7. Fantasy and gender/ Sources and notes due</p> <p>8. Fantasy and gender/ Writing the first draft</p> <p>9. Fantasy and gender / First draft due and peer review</p> <p>10. World Building Activity / Conferences</p> <p>11. World Building Activity / Second draft & peer review</p> <p>12. Conferences/ Oral Presentation preparation</p> <p>13. Presentation preparation/ Abstract writing</p> <p>14. Begin oral presentations/ Preliminary final draft due</p> <p>15. Final Paper due and finish presentations.</p> <p><i>The instructor may amend the syllabus.</i></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		<p>春学期（英語 V）と同じ</p>	

12年度以前	英語V (AE) (Global Issues)	担当者	奥平 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <ol style="list-style-type: none"> ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ③ can narrow down a topic effectively ④ can write a good thesis statement ⑤ can organize ideas in an outline format ⑥ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation ⑦ can write an abstract for the completed research paper ⑧ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written 		<p>Week 1: Orientation / Academic skills 2: Patterns of organization (1) Reading (1) / Discussion and Facilitation (1) 3: Patterns of organization (2) Reading (2) / Discussion and Facilitation (2) 4: Patterns of organization (3) Reading (3) / Model conference 5: Patterns of organization (4) Reading (4) / Opinion paper 6: Patterns of organization (5) Reading (5) / Oral presentations (groups) 7-13: Readings / Research paper -topics -sources -note taking -thesis statement and plan -abstract -outline -drafts -conferencing -final product 14-15: Power Point presentations (individual) Evaluation</p> <p>*Reading materials: TBA</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		<p>評価基準：準備・参加 (10%)，課題 (15%)，research paper (55%: outline, drafts, final product)，口頭発表 (20%) 出席：出席を大前提とし、9回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

12年度以前	英語VI (AE) (Global Issues)	担当者	奥平 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<p>Week 1: Orientation / Academic skills 2: Patterns of organization (1) Reading (1) / Discussion and Facilitation (1) 3: Patterns of organization (2) Reading (2) / Discussion and Facilitation (2) 4: Patterns of organization (3) Reading (3) / Model conference 5: Patterns of organization (4) Reading (4) / Opinion paper 6: Patterns of organization (5) Reading (5) / Oral presentations (groups) 7-13: Readings / Research paper -topics -sources -note taking -thesis statement and plan -abstract -outline -drafts -conferencing -final product 14-15: Power Point presentations (individual) Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		<p>春学期 (英語 V) と同じ</p>	

12年度以前	英語V (AE)(繋がる世界の課題とは)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <p>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</p> <p>② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</p> <p>③ can narrow down a topic effectively</p> <p>④ can write a good thesis statement</p> <p>⑤ can organize ideas in an outline format</p> <p>⑥ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation</p> <p>⑦ can write an abstract for the completed research paper</p> <p>⑧ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Brics, eat up Japanese food 2. UN's fight against poverty in Africa 3. Hollywood in need of Japanese 4. World's new seven wonders chosen 5. Pluto demoted, no longer a true planet 6. New citizen judge system 7. X-pigs and bioclip 8. Local leaders of post-Kyoto plan 9. Two more nations join the EU 10. Globalization 11. Japanese turn to China for organ transplants 12. Media literacy 13. No cash, no cure? 14. The making of a plagiarist 15. Presentation <p>ニコマ連続の授業である。英文を読み、内容を理解し、他者に伝え、質疑応答する。リサーチペーパーの書き方を学び、各自が選んだトピックを発表形式に仕上げてゆく</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		<p>評価基準：準備・参加 (10%)，課題 (15%)，research paper (55%: outline, drafts, final product)，口頭発表 (20%) 出席：出席を大前提とし、9回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

12年度以前	英語VI (AE)(アメリカと試練)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Rachel Carson and the wonders of the Earth 2. Gambling wit survival 3. Think different 4. War comes home 5. War for sale 6. Barbara Lee votes 'No' 7. Isamu Noguchi and the internment of Japanese-Americans 8. The spirit of aloha 9. The limits of forgiveness 10. Eugene Debs and Joseph McCarthy 11. The end of "separate but equal" 12. Wounded Knee 13. Ethnicity 14. Directness and honesty 15. Presentation <p>英文を読み、内容を理解し、他者に伝え、質疑応答する。リサーチペーパーの書き方を学び、各自が選んだトピックを発表形式に仕上げてゆく</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材</p>		春学期（英語 V）と同じ	

12年度以前	英語VI (AE) (再履修)(Science Fiction and Technology) 英語V (AE) (再履修)(Science Fiction and Technology)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <p>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</p> <p>② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</p> <p>③ can narrow down a topic effectively</p> <p>④ can write a good thesis statement</p> <p>⑤ can organize ideas in an outline format</p> <p>⑥ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation</p> <p>⑦ can write an abstract for the completed research paper</p> <p>⑧ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and course overview/ What is science fiction? 2. Artificial intelligence/ Opinion paper 3. Artificial intelligence/Opinion paper due 4. Artificial intelligence continued/ Mini-research presentations 5. Biotechnology/Finalize topics & thesis Statement 6. Biotechnology continued/ Working outline 7. Biotechnology/Sources & notes due 8. Technology & Surveillance continued/ Writing the first draft 9. Technology and Surveillance/First draft and peer review 10. Technological utopias/ Conferences 11. World Building Activity-Technological utopias/ Second draft & peer review 12. Conferences/ Presentation preparation 13. Presentation preparation/ Abstract writing 14. Begin final presentations/ Review for final draft 15. Final paper due and finish presentations. <p><i>The instructor may amend the syllabus.</i></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材		評価基準：準備・参加（10%），課題（15%），research paper（55%：outline, drafts, final product），口頭発表（20%） 出席：出席を大前提とし、9回以上欠席した場合は不合格とする。	

12年度以前	英語VI (AE) (再履修)(Digital and Social Media) 英語V (AE) (再履修)(Digital and Social Media)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語Vでの経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and course overview/ Is Google making us stupid? 2. Digital media and the brain continued/Opinion paper 3. The myth of multi-tasking/ Mini Presentations 4. Multi-tasking continued/ Opinion paper due 5. Social media and privacy/ Research paper topic finalize 6. Social media and privacy/Working outline 7. Anonymity and behavior/ Sources & notes due 8. Anonymity and behavior/ Writing the first draft 9. Anonymity and behavior/ First draft and peer review 10. Crowdsourcing / Conferences 11. Crowdsourcing / Second draft & peer review 12. Conferences/ Presentation preparation 13. Abstract writing/ Presentation Preparation 14. Begin group presentations/ Review for final draft 15. Final paper due/ Finish presentations <p><i>The instructor may amend the syllabus.</i></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および各担当教員指定教材		春学期（英語V）と同じ	

13年度以降 12年度以前	スペイン語Ⅰ（総合1） スペイン語Ⅰ（総合1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>（総合）は、スペイン語Ⅰの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。</p> <p>なお、この授業はスペイン語Ⅰ（総合2）とのペア授業である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 ⑦ ser, estar 動詞の使い方 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑨ 代名詞の用法 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑭ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑮ 今学期の復習 <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著“Plaza Mayor I（青い表紙）”朝日出版社</p> <p>また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。</p>		<p>授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

13年度以降 12年度以前	スペイン語Ⅱ（総合1） スペイン語Ⅱ（総合1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅱ（総合1）は、スペイン語Ⅰ（総合1,2）の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>（総合）は、スペイン語Ⅱの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使い方、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。</p> <p>なお、この授業はスペイン語Ⅱ（総合2）とのペア授業である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 春学期の復習 ② 動詞の活用 --- 再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑥ 比較表現 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑨ 点過去と線過去の違い ⑩ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑪ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑫ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑬ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑭ 命令表現 ⑮ 今学期の復習 <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著“Plaza Mayor I（青い表紙）”朝日出版社</p>		<p>授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

13年度以降 12年度以前	スペイン語Ⅰ（総合2） スペイン語Ⅰ（総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰ（総合2）はスペイン語Ⅰ（総合1）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語Ⅰ（総合1）と同（総合2）のふたつを同時に履修することになる。</p>		<p>スペイン語Ⅰ（総合1）に同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>スペイン語Ⅰ（総合1）に同じ。</p>		<p>基本的にスペイン語Ⅰ（総合1）と同じ評価基準である。</p>	

13年度以降 12年度以前	スペイン語Ⅱ（総合2） スペイン語Ⅱ（総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰ（総合2）の継続の授業である。 スペイン語Ⅱ（総合2）はスペイン語Ⅱ（総合1）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語Ⅱ（総合1）と同（総合2）のふたつを同時に履修することになる。</p>		<p>スペイン語Ⅱ（総合1）に同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>スペイン語Ⅱ（総合1）に同じ。</p>		<p>基本的にスペイン語Ⅱ（総合1）と同じ評価基準である。</p>	

13年度以降 12年度以前	スペイン語Ⅰ（入門） スペイン語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>（入門）では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文・聞き取りの練習をする。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（入門）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。</p>		<p>授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

13年度以降 12年度以前	スペイン語Ⅱ（基礎表現） スペイン語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰ（入門）の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>（基礎表現）では、（総合1, 2）の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（基礎表現）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

13年度以降 12年度以前	スペイン語Ⅰ（会話） スペイン語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>（会話）では、スペイン語Ⅰ（総合1,2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合1,2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合1,2）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。</p>		<p>授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

13年度以降 12年度以前	スペイン語Ⅱ（会話） スペイン語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰ（会話）の継続の授業である。</p> <p>接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>（会話）では、スペイン語Ⅱ（総合1,2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合1,2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合1,2）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

13年度 12年度以前	スペイン語Ⅲ（総合） スペイン語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（総合）の授業では、初級文法のうち、1年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、大過去、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

13年度 12年度以前	スペイン語Ⅳ（総合） スペイン語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅲ（総合）の継続の授業である。</p> <p>（総合）の授業では、初級文法のうち、1年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、大過去、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

13年度 12年度以前	スペイン語Ⅲ（講読） スペイン語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

13年度 12年度以前	スペイン語Ⅳ（講読） スペイン語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅲ（講読）の継続の授業である。</p> <p>（講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

13年度 12年度以前	スペイン語Ⅲ（会話1） スペイン語Ⅲ（会話1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（会話1）、（会話2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。</p> <p>（会話）の授業では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。</p> <p>（LL）の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。</p>		15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

13年度 12年度以前	スペイン語Ⅳ（会話1） スペイン語Ⅳ（会話1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅲ（会話1）の継続である。</p> <p>（会話1）、（会話2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。</p> <p>（会話）の授業では、（総合）での文法項目に沿った口答練習をおこない、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。</p> <p>（LL）の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、スペイン語Ⅲに引き続いて、聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。</p>		15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

13年度 12年度以前	スペイン語Ⅲ（会話2） スペイン語Ⅲ（会話2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ（会話1）を参照。		15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

13年度 12年度以前	スペイン語Ⅳ（会話2） スペイン語Ⅳ（会話2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅳ（会話1）を参照。		15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

12年度以前	スペイン語Ⅴ（応用1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（応用1）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

12年度以前	スペイン語Ⅵ（応用1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅴ（応用1）の継続の授業である。</p> <p>（応用1）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

12年度以前	スペイン語Ⅴ（応用2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（応用2）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、作文・発話を中心とした言語のアウトプットの訓練をする。</p> <p>スペイン語Ⅲ、Ⅳまでのスペイン語力で、ある程度の「通じる会話」はできるかもしれない。この授業では「通じる会話」のみに重きをおくのではなく、むしろ、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目標とする。（応用2）の担当者はスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時に養う。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

12年度以前	スペイン語Ⅵ（応用2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅴ（応用2）の継続の授業である。</p> <p>（応用2）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、作文・発話を中心とした言語のアウトプットの訓練をする。</p> <p>スペイン語Ⅲ、Ⅳまでのスペイン語力で、ある程度の「通じる会話」はできるかもしれない。この授業では「通じる会話」のみに重きをおくのではなく、むしろ、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目標とする。（応用2）の担当者はスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時に養う。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

12年度以前	スペイン語V・VI（応用1・2）再履修	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語V・VI（応用1・2）のシラバスを参照のこと。</p>		<p>クラスの数や各人のスペイン語の能力を確認後、初回の授業で指示する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業開始時に指示する。</p>		<p>授業への参加度、定期試験によって評価する。小テストをおこなう場合がある。</p>	

12年度以前	スペイン語（応用1・2）再履修	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	中国語Ⅰ（総合Ⅰ） 中国語Ⅰ（総合Ⅰ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。</p>		<p>1~3 発音・ピンイン</p> <p>4 基本語順、人称代詞、指示代詞、否定詞“不”</p> <p>5 反復疑問文、疑問詞疑問文、当否疑問文、連体修飾</p> <p>6 形容詞述語文、選択疑問文</p> <p>7 中間試験</p> <p>8 復習</p> <p>9 二重目的文、量詞</p> <p>10 連動文、年月日・曜日の言い方</p> <p>11 有/没有、几/多少、方位詞、数詞</p> <p>12 在、金額の表現</p> <p>13 助動詞、語気助詞“了”</p> <p>14 動態助詞“了”、禁止の表現、反語の表現 時量・回数と時点、時間量の言い方</p> <p>15 復習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』（好文出版）		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13年度以降 12年度以前	中国語Ⅱ（総合Ⅰ） 中国語Ⅱ（総合Ⅰ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。</p>		<p>1 主述述語文、程度補語、離合詞</p> <p>2 進行相、動詞の重ね型</p> <p>3 方向補語、結果補語</p> <p>4 持続相、可能補語</p> <p>5 経験相、将然相、時刻の表現</p> <p>6 存現文</p> <p>7 中間試験</p> <p>8 復習</p> <p>9 “把”字文、定着表現、到達表現</p> <p>10 比較の表現</p> <p>11 受身文</p> <p>12 様態補語</p> <p>13 使役文、後置修飾</p> <p>14 “（是）…的”構文</p> <p>15 復習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』（好文出版）		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13年度以降 12年度以前	中国語Ⅰ（総合2） 中国語Ⅰ（総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、構文・作文力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 発音</p> <p>4～6 第1課 姓名の表現 第2課 判断の表現</p> <p>7 中間試験</p> <p>8～10 第3課 程度の表現（Ⅰ） 第4課 行為の表現</p> <p>11～14 第5課 時間の表現 第6課 所有の表現 第7課 存在の表現（Ⅰ）</p> <p>15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『新表現の達人Ⅰ』[基本ブック]（白帝社）		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13年度以降 12年度以前	中国語Ⅱ（総合2） 中国語Ⅱ（総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、構文・作文力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 第8課 生活習慣の表現 第9課 行為完了の表現 第10課 可能と許可の表現（Ⅰ）</p> <p>4～6 第11課 願望と感情の表現 第12課 条件と選択の表現 第13課 状態の持続と経験の表現</p> <p>7 中間試験</p> <p>8～10 第14課 程度の表現（Ⅱ） 第15課 比較の表現（Ⅰ）</p> <p>11～14 第16課 動作の時間的な量と回数の表現 第17課 動作の結果の表現（Ⅰ） 第18課 可能の表現（Ⅱ）</p> <p>15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『新表現の達人Ⅰ』[基本ブック]（白帝社）		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13年度以降 12年度以前	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、発音指導を中心に、簡単な挨拶表現・応答表現などを学ぶ。</p>		<p>1～3 発音 4～6 第1課 第2課 第3課 7 中間試験 8 復習 9～12 第4課 第5課 第6課 13 第7課 14 第8課 15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『 新版 例解中国語入門 你问我答〔第2版〕』（白帝社）		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13年度以降 12年度以前	中国語Ⅱ（基礎表現） 中国語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、反復練習・暗誦を通し基礎表現を身につけさせる。</p>		<p>1～3 第9課 第10課 第11課 4～6 第12課 第13課 第14課 7 中間試験 8～11 第15課 第16課 第17課 12～14 第18課 第19課 第20課 15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『 新版 例解中国語入門 你问我答〔第2版〕』（白帝社）		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13年度以降 12年度以前	中国語Ⅰ（会話） 中国語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）</p>		<p>1～3 発音</p> <p>4～6 第1課 姓名の表現 第2課 判断の表現</p> <p>7 中間試験</p> <p>8～10 第3課 程度の表現（Ⅰ） 第4課 行為の表現</p> <p>11～14 第5課 時間の表現 第6課 所有の表現 第7課 存在の表現（Ⅰ）</p> <p>15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』[発展ブック]（白帝社）		授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13年度以降 12年度以前	中国語Ⅱ（会話） 中国語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）</p>		<p>1～3 第8課 生活習慣の表現 第9課 行為完了の表現 第10課 可能と許可の表現（Ⅰ）</p> <p>4～6 第11課 願望と感情の表現 第12課 条件と選択の表現 第13課 状態の持続と経験の表現</p> <p>7 中間試験</p> <p>8～10 第14課 程度の表現（Ⅱ） 第15課 比較の表現（Ⅰ） 第16課 動作の時間的な量と回数の表現</p> <p>11～14 第17課 動作の結果の表現（Ⅰ） 第18課 可能の表現（Ⅱ）</p> <p>15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』[発展ブック]（白帝社）		授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13年度 12年度以前	中国語Ⅲ（総合） 中国語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下、作文のための基本文法を整理し、併せて虚詞（機能語）・文型を学んで、文の組み立てをしっかりとつかませる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 第1課 2 第2課 3 第3課 4 第4課 5 第5課 6 第6課 7 中間試験 8 復習 9 第7課 10 第8課 11 第9課 12 第10課 13 第11課 14 第12課 15 復習 <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『作文ルール66 — 日中翻訳技法 — 』（朝日出版社）		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13年度 12年度以前	中国語Ⅳ（総合） 中国語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる。」中国語Ⅳの学習目標の下、作文のための基本文法を整理し、併せて虚詞（機能語）・文型を学んで、文の組み立てをしっかりとつかませる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 第13課 2 第14課 3 第15課 4 第16課 5 第17課 6 第18課 7 中間試験 8 復習 9 第19課 10 第20課 11 第21課 12 第22課 13 第23課 14 第24課 15 復習 <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『作文ルール66 — 日中翻訳技法 — 』（朝日出版社）		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13年度 12年度以前	中国語Ⅲ（講読） 中国語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」 中国語Ⅲの学習目標の下、一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 第1課 第2課</p> <p>4～6 第3課 第4課</p> <p>7 中間試験</p> <p>8 復習</p> <p>9～11 第5課 第6課</p> <p>12～14 第7課 読み物（プリント教材）</p> <p>15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語Ⅱ — 中級読解コース — 』（白帝社） +（各クラス担当者作成の）プリント教材		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13年度 12年度以前	中国語Ⅳ（講読） 中国語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下、一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 第8課 第9課</p> <p>4～6 第10課 第11課</p> <p>7 中間試験</p> <p>8 復習</p> <p>9～11 第12課 第13課</p> <p>12～14 第14課 読み物（プリント教材）</p> <p>15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語Ⅱ — 中級読解コース — 』（白帝社） +（各クラス担当者作成の）プリント教材		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13年度 12年度以前	中国語Ⅲ（会話1） 中国語Ⅲ（会話1）	担当者	各担当教員（日本人教員）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>練習問題を中心に中国語の基本的な表現を習得することを目標とします。</p> <p>スムーズな会話を成立させるためには、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相手の話した音声を正確にキャッチする 2. 音声を語として理解する 3. 語の意味を捉える 4. 語の並び方（語法）によって文の意味と発言の意図を理解する 5. 相手の発言を聴きながら自分の対応を考える 6. 聞き終わったあとに自分の考えを音声化して発話するという一連の作業が必要になります。以上のプロセスを意識した会話の能力を養います。 <p>3課進むごとに復習テストを実施します。</p>		<p>単元1と2を学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業方法に関するガイダンス PCによる中国語の入力練習 第1課 発音の復習 第2課 新しい単語・第3課 お名前は？ 1～3課の復習テスト・解答と解説 第4課 何時に起きますか？ 第5課 いつですか？ 第6課 いくらですか？ 4～6課の復習テスト・解答と解説 第7課 新しい単語 第8課 なにがありますか？ 第9課 どこにありますか？ 7～9課の復習テスト・解答と解説 第10課 なにが好きですか？ 第11課 何時間寝ましたか？ 特別プログラム（映画観賞） 10～11課の復習テスト・解答と解説 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『音で覚える中国語会話特訓』 同学社		平常点・復習テスト・期末テストの点数の平均点で評価する。	

13年度 12年度以前	中国語Ⅳ（会話1） 中国語Ⅳ（会話1）	担当者	各担当教員（日本人教員）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>練習問題を中心に中国語の基本的な表現を習得することを目標とします。</p> <p>スムーズな会話を成立させるためには、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相手の話した音声を正確にキャッチする 2. 音声を語として理解する 3. 語の意味を捉える 4. 語の並び方（語法）によって文の意味と発言の意図を理解する 5. 相手の発言を聴きながら自分の対応を考える 6. 聞き終わったあとに自分の考えを音声化して発話するという一連の作業が必要になります。以上のプロセスを意識した会話の能力を養います。 <p>3課進むごとに復習テストを実施します。</p>		<p>単元3と4を学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期の講評と復習 第12課 新しい単語 第13課 誰に買ってあげますか？ 第14課 どこで勉強しますか？ 12～14課の復習テスト・解答と解説 第15課 なにが盗まれましたか？ 第16課 何をしていますか？ 第17課 新しい単語 15～17課の復習テスト・解答と解説 第18課 見たことがありますか？ 第19課 たばこを吸ってもいいですか？ 第20課 これより安いですか？ 特別プログラム（映画観賞） 18～20課の復習テスト・解答と解説 テスト返却、学期のまとめと総復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『音で覚える中国語会話特訓』 同学社		平常点・復習テスト・期末テストの点数の平均点で評価する。	

13年度 12年度以前	中国語Ⅲ（会話2） 中国語Ⅲ（会話2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得していない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」</p> <p>中国語Ⅲの学習目標の下、話題をめぐってまとまった内容を話す練習を行い、会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。</p> <p>※ 教科書的话题に沿って会話練習を行う。</p> <p>会話練習の中で語彙や表現を補い、日中の習慣の違いも学ぶ。</p>		<p>1 第1課“打电话”</p> <p>2 同上の応用練習</p> <p>3 第2課“接风”</p> <p>4 同上の応用練習</p> <p>5 第3課“介绍”</p> <p>6 同上の応用練習</p> <p>7 第4課“交通工具”</p> <p>8 同上の応用練習</p> <p>9 第5課“换钱”</p> <p>10 同上の応用練習</p> <p>11 第6課“吃饭”</p> <p>12 同上の応用練習</p> <p>13 第7課“生病”</p> <p>14 同上の応用練習</p> <p>15 第8課“交通工具”</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『[スリム版] 表現する中国語Ⅱ』（白帝社）		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13年度 12年度以前	中国語Ⅳ（会話2） 中国語Ⅳ（会話2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下、話題をめぐってまとまった内容を話す練習を行い、会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。</p> <p>※ 教科書的话题に沿って会話練習を行う。</p> <p>会話練習の中で語彙や表現を補い、日中の習慣の違いも学ぶ。</p>		<p>1 第8課“交通工具”の応用練習</p> <p>2 第9課“网上聊天儿1”</p> <p>3 同上の応用練習</p> <p>4 第10課“网上聊天儿2”</p> <p>5 同上の応用練習</p> <p>6 第11課“买东西”</p> <p>7 同上の応用練習</p> <p>8 第12課“爱好”</p> <p>9 同上の応用練習</p> <p>10 第13課“坐火车”</p> <p>11 同上の応用練習</p> <p>12 第14課“观光（游外滩）”</p> <p>13 同上の応用練習</p> <p>14 第15課“送行”</p> <p>15 同上の応用練習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『[スリム版] 表現する中国語Ⅱ』（白帝社）		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

12年度以前	中国語Ⅴ（応用1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語Ⅳまでの学習で身につけた、話す・書く能力を用いてさらに高度な中国語能力を養成するための学習を行う。オーラル面においては発音の不自然な癖を修正するよう心がける。中国人教員が担当し、以下にそって授業を行う。</p> <p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換して意味を確認したうえで朗読練習を行う。 討論の質問に対する回答を準備する。 <p>【授業】</p> <p><u>コミュニケーションの文型</u>：ペアで会話を作り発表する。 <u>朗読</u>：復唱練習後、指名された学生が朗読の発表を行う。 <u>討論</u>：教師の質問に回答する。<u>単語と表現</u>を用いて作文練習を行う。</p> <p>【復習】各課の全体を見直し、単語と文型を定着させる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 入国手続き 3. 申請書 4. あたらしい友だち 5. 復習テスト(1) 6. ひとを訪ねる 7. 道をさく 8. 自転車 9. タクシー 10. 復習テスト(2) 11. 旅 12. 宿泊 13. 銀行 14. 買い物 15. 郵便 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		平常点、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。	

12年度以前	中国語Ⅵ（応用1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国人教員が担当する。春学期に引き続き、『情景漢語』を用いるが、学生のレベルにしたがって、討論の時間を前期よりも長くする。オーラル面においてはより自然な発音を身につけるよう心がける。</p> <p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換して意味を確認したうえで朗読練習を行う。 討論の質問に対する回答を準備する。 <p>【授業】</p> <p><u>コミュニケーションの文型</u>：ペアで会話を作り発表する。 <u>朗読</u>：復唱練習後、指名された学生が朗読の発表を行う。 <u>討論</u>：教師の質問に回答する。<u>単語と表現</u>を用いて作文練習を行う</p> <p>【復習】各課の全体を見直し、単語と文型を定着させる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 電話 3. 学校の食堂 4. 外での食事 5. 復習テスト(1) 6. ホームパーティー 7. 茶・たばこ・酒 8. 映画を見る 9. 公演を見る 10. 復習テスト(2) 11. ダンス 12. 観光旅行 13. 病気の治療 14. 天候と健康 15. 体をきたえる 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		平常点、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。	

12年度以前	中国語Ⅴ（応用2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語Ⅴ（応用1）と同じテキストを用い、読解力と聞く能力を向上させることを目的とする。日本人教員が担当し、以下にそって授業を行う。</p> <p>【予習】 ・基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換する。</p> <p>【授業】 <u>基本の会話、場面の会話</u>：漢字表記を確認し、日本語に訳して意味を理解した後にペアで発話練習を行う。 テキストを見ずに中国語を聞いて日本語へ訳す。 <u>練習問題</u>：漢字表記と解答を確認し、日本語に訳す。 <u>朗読</u>：日本語に訳して意味を確認する。</p> <p>【復習】 <u>朗読</u>の文章を繰り返し声に出して読み、正しい発音を身につける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 入国手続き 3. 申請書 4. あたらしい友だち 5. 復習テスト(1) 6. ひとを訪ねる 7. 道をさく 8. 自転車 9. タクシー 10. 復習テスト(2) 11. 旅 12. 宿泊 13. 銀行 14. 買い物 15. 郵便 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		平常点、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。	

12年度以前	中国語Ⅵ（応用2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、日本人教員が担当し、以下にそって授業を行う。</p> <p>【予習】 基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換して意味を確認したうえで朗読練習を行う。</p> <p>【授業】 <u>基本の会話、場面の会話</u>：漢字表記を確認し、日本語に訳して意味を理解した後にペアで発話練習を行う。 テキストを見ずに中国語を聞いて日本語へ訳す。 <u>練習問題</u>：漢字表記と解答を確認し、日本語に訳す。 <u>朗読</u>：日本語に訳して意味を確認する。</p> <p>【復習】 <u>朗読</u>の文章を繰り返し声に出して読み、正しい発音を身につける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 電話 3. 学校の食堂 4. 外での食事 5. 復習テスト(1) 6. ホームパーティー 7. 茶・たばこ・酒 8. 映画を見る 9. 公演を見る 10. 復習テスト(2) 11. ダンス 12. 観光旅行 13. 病気の治療 14. 天候と健康 15. 体をきたえる 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		平常点、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。	

12年度以前	中国語V・VI（応用1・2）再履修	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『情景漢語』（朋友書店）の「<u>基本会話</u>」を用いて以下の練習を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン表記を漢字表記に書き直す ・中国語→日本語への訳出 ・リピーティングと発音矯正 ・シャドーイング ・質疑応答問題 <p>授業の達成目標は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連単語を暗記し、語彙力をつける。 ・会話の内容を正しく解釈できるようにする。 ・漢字表記を見ながらなめらかに朗読できるようにする。 ・場面に応じた簡単な会話がスムーズに行える中国語力をつける。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 電話、学校の食堂 3. 外での食事、ホームパーティー 4. 茶・たばこ・酒、映画を見る 5. 公演を見る、ダンス 6. 観光旅行、病気の治療 7. 天候と健康、体をきたえる 8. 中間試験、入国手続き 9. 申請書、あたらしい友だち 10. ひとを訪ねる、道をきく 11. 自転車、タクシー 12. 旅、宿泊 13. 銀行、買い物 14. 郵便、期末試験予行演習 15. 全体のまとめと期末試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		平常点、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。	

12年度以前	中国語V・VI（応用1・2）再履修	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『情景漢語』（朋友書店）の「<u>情景対話</u>」を用いて、以下の練習を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン表記を漢字表記に書き直す ・中国語→日本語への訳出 ・リピーティングと発音矯正 ・シャドーイング ・質疑応答問題 <p>授業の達成目標は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連単語を暗記し、語彙力をつける。 ・会話の内容を正しく解釈できるようにする。 ・漢字表記を見ながらなめらかに朗読できるようにする。 ・場面に応じた簡単な会話がスムーズに行える中国語力をつける。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 電話、学校の食堂 3. 外での食事、ホームパーティー 4. 茶・たばこ・酒、映画を見る 5. 公演を見る、ダンス 6. 観光旅行、病気の治療 7. 天候と健康、体をきたえる 8. 中間試験、入国手続き 9. 申請書、あたらしい友だち 10. ひとを訪ねる、道をきく 11. 自転車、タクシー 12. 旅、宿泊 13. 銀行、買い物 14. 郵便、期末試験予行演習 15. 全体のまとめと期末試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		平常点、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。	

13年度以降 12年度以前	韓国語Ⅰ（文法・読解1） 韓国語Ⅰ（文法・読解1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。</p> <p>ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねるなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身に付けていく。</p> <p>よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨ててほしい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 1 ハングルのしくみ① 2 ハングルのしくみ② 3 ハングルのしくみ③ 4 あいさつ① 5 あいさつ② 6 名詞文 7 存在文 8 用言文 9 数詞① 10 数詞② 11 否定形 12 尊敬形 13 連用形 14 ㅏ ㅓ ㅕ ㅗ ㅛ ㅜ ㅠ ㅝ ㅞ ㅟ ㅠ ㅡ ㅢ ㅣ ㅤ ㅥ ㅦ ㅧ ㅨ ㅩ ㅪ ㅫ ㅬ ㅭ ㅮ ㅯ ㅰ ㅱ ㅲ ㅳ ㅴ ㅵ ㅶ ㅷ ㅸ ㅹ ㅺ ㅻ ㅼ ㅽ ㅾ ㅿ ㆁ ㆂ ㆃ ㆄ ㆅ ㆆ ㆇ ㆈ ㆉ ㆊ ㆋ ㆌ ㆍ ㆎ ㆏ ㆐ ㆑ ㆒ ㆓ ㆔ ㆕ ㆖ ㆗ ㆘ ㆙ ㆚ ㆛ ㆜ ㆝ ㆞ ㆟ ㆠ ㆡ ㆢ ㆣ ㆤ ㆥ ㆦ ㆧ ㆨ ㆩ ㆪ ㆫ ㆬ ㆭ ㆮ ㆯ ㆰ ㆱ ㆲ ㆳ ㆴ ㆵ ㆶ ㆷ ㆸ ㆹ ㆺ ㆻ ㆼ ㆽ ㆾ ㆿ ㆿ 15 ㅏ ㅓ ㅕ ㅗ ㅛ ㅜ ㅠ ㅝ ㅞ ㅟ ㅠ ㅡ ㅢ ㅣ ㅤ ㅥ ㅦ ㅧ ㅨ ㅩ ㅪ ㅫ ㅬ ㅭ ㅮ ㅯ ㅰ ㅱ ㅲ ㅳ ㅴ ㅵ ㅶ ㅷ ㅸ ㅹ ㅺ ㅻ ㅼ ㅽ ㅾ ㅿ ㆁ ㆂ ㆃ ㆄ ㆅ ㆆ ㆇ ㆈ ㆉ ㆊ ㆋ ㆌ ㆍ ㆎ ㆏ ㆐ ㆑ ㆒ ㆓ ㆔ ㆕ ㆖ ㆗ ㆘ ㆙ ㆚ ㆛ ㆜ ㆝ ㆞ ㆟ ㆠ ㆡ ㆢ ㆣ ㆤ ㆥ ㆦ ㆧ ㆨ ㆩ ㆪ ㆫ ㆬ ㆭ ㆮ ㆯ ㆰ ㆱ ㆲ ㆳ ㆴ ㆵ ㆶ ㆷ ㆸ ㆹ ㆺ ㆻ ㆼ ㆽ ㆾ ㆿ ㆿ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		小テスト、中間テスト、期末テスト	

13年度以降 12年度以前	韓国語Ⅱ（文法・読解1） 韓国語Ⅱ（文法・読解1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、韓国語Ⅰで学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 1 基本事項の確認① 2 基本事項の確認② 3 過去形 4 連体形① 5 連体形② 6 未来意思形 7 ㅏ ㅓ ㅕ ㅗ ㅛ ㅜ ㅠ ㅝ ㅞ ㅟ ㅠ ㅡ ㅢ ㅣ ㅤ ㅥ ㅦ ㅧ ㅨ ㅩ ㅪ ㅫ ㅬ ㅭ ㅮ ㅯ ㅰ ㅱ ㅲ ㅳ ㅴ ㅵ ㅶ ㅷ ㅸ ㅹ ㅺ ㅻ ㅼ ㅽ ㅾ ㅿ ㆁ ㆂ ㆃ ㆄ ㆅ ㆆ ㆇ ㆈ ㆉ ㆊ ㆋ ㆌ ㆍ ㆎ ㆏ ㆐ ㆑ ㆒ ㆓ ㆔ ㆕ ㆖ ㆗ ㆘ ㆙ ㆚ ㆛ ㆜ ㆝ ㆞ ㆟ ㆠ ㆡ ㆢ ㆣ ㆤ ㆥ ㆦ ㆧ ㆨ ㆩ ㆪ ㆫ ㆬ ㆭ ㆮ ㆯ ㆰ ㆱ ㆲ ㆳ ㆴ ㆵ ㆶ ㆷ ㆸ ㆹ ㆺ ㆻ ㆼ ㆽ ㆾ ㆿ ㆿ 8 ㅏ ㅓ ㅕ ㅗ ㅛ ㅜ ㅠ ㅝ ㅞ ㅟ ㅠ ㅡ ㅢ ㅣ ㅤ ㅥ ㅦ ㅧ ㅨ ㅩ ㅪ ㅫ ㅬ ㅭ ㅮ ㅯ ㅰ ㅱ ㅲ ㅳ ㅴ ㅵ ㅶ ㅷ ㅸ ㅹ ㅺ ㅻ ㅼ ㅽ ㅾ ㅿ ㆁ ㆂ ㆃ ㆄ ㆅ ㆆ ㆇ ㆈ ㆉ ㆊ ㆋ ㆌ ㆍ ㆎ ㆏ ㆐ ㆑ ㆒ ㆓ ㆔ ㆕ ㆖ ㆗ ㆘ ㆙ ㆚ ㆛ ㆜ ㆝ ㆞ ㆟ ㆠ ㆡ ㆢ ㆣ ㆤ ㆥ ㆦ ㆧ ㆨ ㆩ ㆪ ㆫ ㆬ ㆭ ㆮ ㆯ ㆰ ㆱ ㆲ ㆳ ㆴ ㆵ ㆶ ㆷ ㆸ ㆹ ㆺ ㆻ ㆼ ㆽ ㆾ ㆿ ㆿ 9 ㅏ ㅓ ㅕ ㅗ ㅛ ㅜ ㅠ ㅝ ㅞ ㅟ ㅠ ㅡ ㅢ ㅣ ㅤ ㅥ ㅦ ㅧ ㅨ ㅩ ㅪ ㅫ ㅬ ㅭ ㅮ ㅯ ㅰ ㅱ ㅲ ㅳ ㅴ ㅵ ㅶ ㅷ ㅸ ㅹ ㅺ ㅻ ㅼ ㅽ ㅾ ㅿ ㆁ ㆂ ㆃ ㆄ ㆅ ㆆ ㆇ ㆈ ㆉ ㆊ ㆋ ㆌ ㆍ ㆎ ㆏ ㆐ ㆑ ㆒ ㆓ ㆔ ㆕ ㆖ ㆗ ㆘ ㆙ ㆚ ㆛ ㆜ ㆝ ㆞ ㆟ ㆠ ㆡ ㆢ ㆣ ㆤ ㆥ ㆦ ㆧ ㆨ ㆩ ㆪ ㆫ ㆬ ㆭ ㆮ ㆯ ㆰ ㆱ ㆲ ㆳ ㆴ ㆵ ㆶ ㆷ ㆸ ㆹ ㆺ ㆻ ㆼ ㆽ ㆾ ㆿ ㆿ 10 ㅏ ㅓ ㅕ ㅗ ㅛ ㅜ ㅠ ㅝ ㅞ ㅟ ㅠ ㅡ ㅢ ㅣ ㅤ ㅥ ㅦ ㅧ ㅨ ㅩ ㅪ ㅫ ㅬ ㅭ ㅮ ㅯ ㅰ ㅱ ㅲ ㅳ ㅴ ㅵ ㅶ ㅷ ㅸ ㅹ ㅺ ㅻ ㅼ ㅽ ㅾ ㅿ ㆁ ㆂ ㆃ ㆄ ㆅ ㆆ ㆇ ㆈ ㆉ ㆊ ㆋ ㆌ ㆍ ㆎ ㆏ ㆐ ㆑ ㆒ ㆓ ㆔ ㆕ ㆖ ㆗ ㆘ ㆙ ㆚ ㆛ ㆜ ㆝ ㆞ ㆟ ㆠ ㆡ ㆢ ㆣ ㆤ ㆥ ㆦ ㆧ ㆨ ㆩ ㆪ ㆫ ㆬ ㆭ ㆮ ㆯ ㆰ ㆱ ㆲ ㆳ ㆴ ㆵ ㆶ ㆷ ㆸ ㆹ ㆺ ㆻ ㆼ ㆽ ㆾ ㆿ ㆿ 11 ㅏ ㅓ ㅕ ㅗ ㅛ ㅜ ㅠ ㅝ ㅞ ㅟ ㅠ ㅡ ㅢ ㅣ ㅤ ㅥ ㅦ ㅧ ㅨ ㅩ ㅪ ㅫ ㅬ ㅭ ㅮ ㅯ ㅰ ㅱ ㅲ ㅳ ㅴ ㅵ ㅶ ㅷ ㅸ ㅹ ㅺ ㅻ ㅼ ㅽ ㅾ ㅿ ㆁ ㆂ ㆃ ㆄ ㆅ ㆆ ㆇ ㆈ ㆉ ㆊ ㆋ ㆌ ㆍ ㆎ ㆏ ㆐ ㆑ ㆒ ㆓ ㆔ ㆕ ㆖ ㆗ ㆘ ㆙ ㆚ ㆛ ㆜ ㆝ ㆞ ㆟ ㆠ ㆡ ㆢ ㆣ ㆤ ㆥ ㆦ ㆧ ㆨ ㆩ ㆪ ㆫ ㆬ ㆭ ㆮ ㆯ ㆰ ㆱ ㆲ ㆳ ㆴ ㆵ ㆶ ㆷ ㆸ ㆹ ㆺ ㆻ ㆼ ㆽ ㆾ ㆿ ㆿ 12 ㅏ ㅓ ㅕ ㅗ ㅛ ㅜ ㅠ ㅝ ㅞ ㅟ ㅠ ㅡ ㅢ ㅣ ㅤ ㅥ ㅦ ㅧ ㅨ ㅩ ㅪ ㅫ ㅬ ㅭ ㅮ ㅯ ㅰ ㅱ ㅲ ㅳ ㅴ ㅵ ㅶ ㅷ ㅸ ㅹ ㅺ ㅻ ㅼ ㅽ ㅾ ㅿ ㆁ ㆂ ㆃ ㆄ ㆅ ㆆ ㆇ ㆈ ㆉ ㆊ ㆋ ㆌ ㆍ ㆎ ㆏ ㆐ ㆑ ㆒ ㆓ ㆔ ㆕ ㆖ ㆗ ㆘ ㆙ ㆚ ㆛ ㆜ ㆝ ㆞ ㆟ ㆠ ㆡ ㆢ ㆣ ㆤ ㆥ ㆦ ㆧ ㆨ ㆩ ㆪ ㆫ ㆬ ㆭ ㆮ ㆯ ㆰ ㆱ ㆲ ㆳ ㆴ ㆵ ㆶ ㆷ ㆸ ㆹ ㆺ ㆻ ㆼ ㆽ ㆾ ㆿ ㆿ 13 ㅏ ㅓ ㅕ ㅗ ㅛ ㅜ ㅠ ㅝ ㅞ ㅟ ㅠ ㅡ ㅢ ㅣ ㅤ ㅥ ㅦ ㅧ ㅨ ㅩ ㅪ ㅫ ㅬ ㅭ ㅮ ㅯ ㅰ ㅱ ㅲ ㅳ ㅴ ㅵ ㅶ ㅷ ㅸ ㅹ ㅺ ㅻ ㅼ ㅽ ㅾ ㅿ ㆁ ㆂ ㆃ ㆄ ㆅ ㆆ ㆇ ㆈ ㆉ ㆊ ㆋ ㆌ ㆍ ㆎ ㆏ ㆐ ㆑ ㆒ ㆓ ㆔ ㆕ ㆖ ㆗ ㆘ ㆙ ㆚ ㆛ ㆜ ㆝ ㆞ ㆟ ㆠ ㆡ ㆢ ㆣ ㆤ ㆥ ㆦ ㆧ ㆨ ㆩ ㆪ ㆫ ㆬ ㆭ ㆮ ㆯ ㆰ ㆱ ㆲ ㆳ ㆴ ㆵ ㆶ ㆷ ㆸ ㆹ ㆺ ㆻ ㆼ ㆽ ㆾ ㆿ ㆿ 14 - 15 ㅏ ㅓ ㅕ ㅗ ㅛ ㅜ ㅠ ㅝ ㅞ ㅟ ㅠ ㅡ ㅢ ㅣ ㅤ ㅥ ㅦ ㅧ ㅨ ㅩ ㅪ ㅫ ㅬ ㅭ ㅮ ㅯ ㅰ ㅱ ㅲ ㅳ ㅴ ㅵ ㅶ ㅷ ㅸ ㅹ ㅺ ㅻ ㅼ ㅽ ㅾ ㅿ ㆁ ㆂ ㆃ ㆄ ㆅ ㆆ ㆇ ㆈ ㆉ ㆊ ㆋ ㆌ ㆍ ㆎ ㆏ ㆐ ㆑ ㆒ ㆓ ㆔ ㆕ ㆖ ㆗ ㆘ ㆙ ㆚ ㆛ ㆜ ㆝ ㆞ ㆟ ㆠ ㆡ ㆢ ㆣ ㆤ ㆥ ㆦ ㆧ ㆨ ㆩ ㆪ ㆫ ㆬ ㆭ ㆮ ㆯ ㆰ ㆱ ㆲ ㆳ ㆴ ㆵ ㆶ ㆷ ㆸ ㆹ ㆺ ㆻ ㆼ ㆽ ㆾ ㆿ ㆿ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		小テスト、中間テスト、期末テスト	

13年度以降 12年度以前	韓国語Ⅰ（文法・読解2） 韓国語Ⅰ（文法・読解2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅰ（文法・読解1）」で学んだ文法や単語を教室内で実際に使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。 主に「読み・書き」に力を入れていく。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 1 ハングルのしくみ① 2 ハングルのしくみ② 3 ハングルのしくみ③ 4 あいさつ① 5 あいさつ② 6 名詞文 7 存在文 8 用言文 9 数詞① 10 数詞② 11 否定形 12 尊敬形 13 連用形 14 ㅏ요体 15 ㅏ요体の尊敬形 	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		小テスト、中間テスト、期末テスト	

13年度以降 12年度以前	韓国語Ⅱ（文法・読解2） 韓国語Ⅱ（文法・読解2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、韓国語Ⅱ（文法・読解1）で学んだ単語、文法を教室内で使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 1 基本事項の確認① 2 基本事項の確認② 3 過去形 4 連体形① 5 連体形② 6 未来意思形 7 ㅓ語幹 8 ㅓ変則用言 9 ㅓ変則用言 10 ㅓ変則用言 11 ㅓ変則用言 12 ㅓ変則用言 13 変則用言のまとめ 14 - 15 まとめと復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		小テスト、中間テスト、期末テスト	

13年度以降 12年度以前	韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅠ） 韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅠ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 母音字（短母音、二重母音など） 2. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音） 3. バッチム 4. 第1課 基本文型 5. 第3課 自己紹介 6. 第5課 否定文 7. ハングル keyboard 練習 8. 第7課 時間の表現（曜日） 9. 第9課 過去時制 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第11課 電話の表現 12. 第13課 注文 13. 第15課 目的表現、指示表現 14. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ』 Moonjin Media, 2006		評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。	

13年度以降 12年度以前	韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅠ） 韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅠ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期の復習 2. 第17課 家族・事実の確認 3. 第19課 誕生日・同時、接続表現 4. 第21課 購入・希望表現・可能表現 5. 第23課 薬局 6. 第23課 推測表現・連体形 7. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 8. 第25課 一日中の出来事 9. 第25課 要請・背景の表現 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第27課 故郷紹介 12. 第27課 進行形・条件 13. 第29課 両替・話題転換 14. 第29課 感嘆表現 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ』 Moonjin Media, 2006		評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。	

13年度以降 12年度以前	韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅡ） 韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅡ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 母音字（短母音、二重母音など） 2. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音） 3. バッチム 4. 第2課 基本文型 5. 第4課 場所表現、敬語 6. 第6課 天気表現 7. 第8課 位置と数字、요 form) 8. 第10課 不規則動詞変化・漢数字 9. 中間テスト 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第12課 買い物 12. 第14課 交通手段 13. 第16課 招待不規則活用、時間表現 14. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ』 Moonjin Media, 2006		評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。	

13年度以降 12年度以前	韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅡ） 韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅡ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期の復習 2. 第18課 趣味 3. 第18課 理由・提案・義務・お断り表現 4. 第20課 旅行 5. 第20課 連体形 6. 第22課 週末計画 7. 第22課 談話表現・未来時制 8. 中間テスト 9. 第24課 喫茶店 10. 第24課 お詫び表現 11. 第26課 喫茶店 12. 第26課 値段の比較・不規則活用 13. 第28課 本屋さん・比較表現 14. 第30課 週末・否定疑問文 15. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ』 Moonjin Media, 2006		評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。	

13年度 12年度以前	韓国語Ⅲ（文法・読解1） 韓国語Ⅲ（文法・読解1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を復習しつつ、新しい文法の知識と語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。		1 前年度の復習 2 ぞんざいな文末表現① 3 ぞんざいな文末表現② 4 昔話（1） 5 未来連体形を使う表現 6 昔話（3） 7 引用形① 8 引用形② 9 昔話（4） 10 名詞化語尾① 11 名詞化語尾② 12 受身形 13 さまざまな慣用句 14—15 使役形	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ことばの架け橋中級表現編』生越直樹著 『昔話で学ぶ韓国語中級リーディング』金京子著		課題提出、中間テスト、期末テスト	

13年度 12年度以前	韓国語Ⅳ（文法・読解1） 韓国語Ⅳ（文法・読解1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、これまで学んだ文法や単語、表現を生かしより実践的な韓国語能力の習得をめざす。		1 第一課 空港に出迎え 2 第二課 部屋探し 3 第三課 自己紹介 4 第四課 ソンミンの家で 5 第五課 帰り道 6 第六課 百日記念日 7 第七課 引越しパーティーの日 8 第八課 汽車に乗っておでかけ 9 第九課 村の風景 10 第十課 ソンミンさんを訪ねて 11 第十一課 下宿に帰って 12 診察を受ける 13 和解 14 悲しみよ、さようなら 15 まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子著 『昔話で学ぶ韓国語中級リーディング』金京子著		課題提出、中間テスト、期末テスト	

13年度 12年度以前	韓国語Ⅲ（文法・読解2） 韓国語Ⅲ（文法・読解2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を復習しつつ、新しい文法の知識と語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。		1 前年度の復習 2 ぞんざいな文末表現 3 昔話（1） 4 未来連体形を使う表現① 5 未来連体形を使う表現② 6 昔話（2） 7 引用形 8 昔話（3） 9 名詞化語尾 10 昔話（4） 11 受身形① 12 受身形② 13 さまざまな慣用句 14—15 書き言葉の表現	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ことばの架け橋中級表現編』生越直樹著 『昔話で学ぶ韓国語中級リーディング』金京子著		課題提出、中間テスト、期末テスト	

13年度 12年度以前	韓国語Ⅳ（文法・読解2） 韓国語Ⅳ（文法・読解2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、これまで学んだ文法や単語、表現を生かし、より実践的な韓国語能力の習得をめざす。		1 第一課 空港に出迎え 2 第二課 部屋探し 3 第三課 自己紹介 4 第四課 ソンミンの家で 5 第五課 帰り道 6 第六課 百日記念日 7 第七課 引越しパーティーの日 8 第八課 汽車に乗っておでかけ 9 第九課 村の風景 10 第十課 ソンミンさんを訪ねて 11 第十一課 下宿に帰って 12 診察を受ける 13 和解 14 悲しみよ、さようなら 15 まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子著 『昔話で学ぶ韓国語中級リーディング』金京子著		課題提出、中間テスト、期末テスト	

13年度 12年度以前	韓国語Ⅲ (コミュニケーション1) 韓国語Ⅲ (コミュニケーション1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
文法の補強、購読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。		1. 第1課 新学期 2. 第3課 天気予報 3. 第5課 お部屋探し 4. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 5. 第7課 お引っ越し祝い 6. 第9課 銀行 7. 中間テスト 8. 第11課 約束 9. 第13課 お料理 10. 第15課 お引っ越し 11. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 12. 第17課 遊園地、 13. 第19課 ソンピョン 14. 第21課 なぞなぞ 15. 聞き取り練習・スピーキング練習	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院, 『韓国語3』 Moonjin Media, 2006		評価方法: 期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。	

13年度 12年度以前	韓国語Ⅳ (コミュニケーション1) 韓国語Ⅳ (コミュニケーション1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、購読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。		1. 復習 2. 第23課 テレビの故障中 3. 第25課 結婚 4. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 5. 第27課 書堂 6. 第29課 演劇 7. 5分 speech(前半) 8. 第29課 演劇練習 9. 第29課 演劇発表会(グループ別) 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第31課 ハングル 12. 第33課 韓国の山 13. 5分 speech(後半) 14. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院, 『韓国語3』 Moonjin Media, 2006		評価方法: 期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。	

13年度 12年度以前	韓国語Ⅲ (コミュニケーション2) 韓国語Ⅲ (コミュニケーション2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
文法の補強、購読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第2課 終了式 2. 第4課 お見舞い 3. 第6課 下宿 4. 第8課 お住まい 5. 第10課 クリーニング屋さん 6. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 7. 3分 speech (前半) 8. 第12課 案内放送 9. 第14課 ブルゴギ 10. 第16課 育児 11. 第18課 秋夕 12. 3分 speech (後半) 13. 第20課 口論 14. 第22課 写真館 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院, 『韓国語 3』 Moonjin Media, 2006		評価方法: 期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。	

13年度 12年度以前	韓国語Ⅳ (コミュニケーション2) 韓国語Ⅳ (コミュニケーション2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、購読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習 2. 第24課 テレビの修理 3. 第26課 友たちの結婚式 4. 第28課 宝くじの当たり 5. 中間テスト 6. 第29課 演劇グループ別練習 7. 第29課 演劇発表会(グループ別) 8. 第30課 旅行(1) 9. 第30課 旅行(2) 10. 第32課 記念日(1) 11. 第32課 記念日(2) 12. 第34課 韓国の童謡 13. 第34課 韓国の詩(1) 14. 第34課 韓国の詩(2) 15. まとめ・復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院, 『韓国語 3』 Moonjin Media, 2006		評価方法: 期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。	

12年度以前	韓国語Ⅴ（応用Ⅰ）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 大衆文化について 2 引用形の縮約形 3 風習や慣習について 4 ジャンル別文章表現法 5 Review 6 作文の構想／意見交換 7 仮定法 8 韓国語学習の経験について 9 丁寧度による様々な表現 10 Review 11 効果的な外国語学習方法について 12 擬声語と擬態語 13 男女平等について 14 用言の名詞化 15 Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		中間テスト、期末テスト、課題、授業への参加度	

12年度以前	韓国語Ⅵ（応用Ⅰ）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅴ」で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 趣味について 2 動詞「보다」の多義性 3 各国の人気（伝統）スポーツについて 4 回想の表現Ⅰ 5 Review 6 回想の表現Ⅱ 7 旅行の計画を立てる 8 好きなインターネットサイトについて 9 推測の表現 10 Review 11 未来の生活の変化を推測する 12 依存名詞Ⅰ 13 依存名詞Ⅱ 14 絵をつかって物語りをつくる 15 Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		中間テスト、期末テスト、課題、授業への参加度	

12年度以前	韓国語Ⅴ（応用Ⅰ）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 大衆文化について 2 引用形の縮約形 3 風習や慣習について 4 ジャンル別文章表現法 5 Review 6 作文の構想／意見交換 7 仮定法 8 韓国語学習の経験について 9 丁寧度による様々な表現 10 Review 11 効果的な外国語学習方法について 12 擬声語と擬態語 13 男女平等について 14 用言の名詞化 15 Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		中間テスト、期末テスト、課題、授業への参加度	

12年度以前	韓国語Ⅵ（応用Ⅰ）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅴ」で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 趣味について 2 動詞「보다」の多義性 3 各国の人気（伝統）スポーツについて 4 回想の表現Ⅰ 5 Review 6 回想の表現Ⅱ 7 旅行の計画を立てる 8 好きなインターネットサイトについて 9 推測の表現 10 Review 11 未来の生活の変化を推測する 12 依存名詞Ⅰ 13 依存名詞Ⅱ 14 絵をつかって物語りをつくる 15 Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		中間テスト、期末テスト、課題、授業への参加度	

12年度以前	韓国語Ⅴ（応用2）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 大衆文化について 2 引用形の縮約形 3 風習や慣習について 4 ジャンル別文章表現法 5 Review 6 作文の構想／意見交換 7 仮定法 8 韓国語学習の経験について 9 丁寧度による様々な表現 10 Review 11 効果的な外国語学習方法について 12 擬声語と擬態語 13 男女平等について 14 用言の名詞化 15 Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		中間テスト、期末テスト、課題、授業への参加度	

12年度以前	韓国語Ⅵ（応用2）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅴ」で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 趣味について 2 動詞「보다」の多義性 3 各国の人気（伝統）スポーツについて 4 回想の表現Ⅰ 5 Review 6 回想の表現Ⅱ 7 旅行の計画を立てる 8 好きなインターネットサイトについて 9 推測の表現 10 Review 11 未来の生活の変化を推測する 12 依存名詞Ⅰ 13 依存名詞Ⅱ 14 絵をつかって物語りをつくる 15 Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		中間テスト、期末テスト、課題、授業への参加度、	

12年度以前	韓国語Ⅴ（応用2）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 大衆文化について 2 引用形の縮約形 3 風習や慣習について 4 ジャンル別文章表現法 5 Review 6 作文の構想／意見交換 7 仮定法 8 韓国語学習の経験について 9 丁寧度による様々な表現 10 Review 11 効果的な外国語学習方法について 12 擬声語と擬態語 13 男女平等について 14 用言の名詞化 15 Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		中間テスト、期末テスト、課題、授業への参加度	

12年度以前	韓国語Ⅵ（応用2）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅴ」で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 趣味について 2 動詞「보다」の多義性 3 各国の人気（伝統）スポーツについて 4 回想の表現Ⅰ 5 Review 6 回想の表現Ⅱ 7 旅行の計画を立てる 8 好きなインターネットサイトについて 9 推測の表現 10 Review 11 未来の生活の変化を推測する 12 依存名詞Ⅰ 13 依存名詞Ⅱ 14 絵をつかって物語りをつくる 15 Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		中間テスト、期末テスト、課題、授業への参加度、	

13 年度	英語演習 I (ASKING AND GIVING ADVICE) (2013 年度入学者用)	担当者	K. ヤブノ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <ul style="list-style-type: none"> ① can evaluate and critique advice ② can summarize related materials ③ can express and support opinions in a discussion ④ can organize ideas in an outline format ⑤ can give advice in an informal presentation ⑥ can role play an advice session ⑦ can make a power point presentation and give a formal presentation on a selected advice columnist 		<p>Week 1: Course overview & introduction Week 2/3: Reading & evaluating advice Week 4/5/6: Advice sessions (informal) Week 7: Preparation Week 8/9/10: Role plays Week 11: Preparation Week 12/13/14: Presentations (formal) Week 15: Review</p> <p>Students will research advice and advice columnists and present what they find.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be determined		Participation: 10%, informal presentation: 30%, role play: 30%, formal presentation: 30%. 出席: 出席を大前提とし、5 回以上欠席した場合は不合格とする。	

13 年度	英語演習 I (GREEN BUSINESS) (2013 年度入学者用)	担当者	K. ヤブノ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <ul style="list-style-type: none"> ① can evaluate and critique news articles ② can summarize related materials ③ can understand and evaluate green business practices ④ can express and support opinions in a discussion ⑤ can organize ideas in an outline format ⑥ can make an informal presentation ⑦ can make a power point presentation and give a formal presentation 		<p>Week 1: Course overview & introduction Week 2: Introducing green business Week 3/4/5: Discussions Week 6: Preparation Week 7/8/9: Informal Presentations Week 10/11: Preparation Week 12/13/14: Formal Presentations Week 15: Review</p> <p>Students will research and present on green business practices.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be determined		Participation: 10%, discussion: 30%, informal presentation: 30%, formal presentation: 30%. 出席: 出席を大前提とし、5 回以上欠席した場合は不合格とする。	

13 年度	英語演習 I (Advertising Strategies and Techniques) (2013 年度入学者用)	担当者	M. デル ベツキオ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will investigate the context of advertising. Students will learn to recognize the strategies and techniques organizations use to promote goods or services to encourage people to buy or use them. Forms of advertising to be analyzed will include television commercials, radio adverts, press advertising in newspapers and magazines, film and sponsorship.</p> <p>Students will be expected to share their experience, knowledge and opinions.</p> <p>English level: Intermediate</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation and questionnaire 2. Media 3. Image Analysis 4. Visual Language 5. Audience 6. Appeal 7. Persuasion 8. Presentation 9. Representation 10. Stereotypes 11. Stereotypes 12. Codes of Advertising and Sales promotion 13. Review 14. Speaking test 15. Film 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor. Students should have a dictionary.		The final grade will combine the following: classwork, homework, presentation.	

13 年度	英語演習 I (Media Studies) (2013 年度入学者用)	担当者	M. デル ベツキオ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to discuss issues represented in the media. Students will also learn how and why they are produced, the messages and values they contain and how the audience is expected to respond.</p> <p>Students are expected to do some research, share their experience, knowledge and opinions on the issues brought up by the media viewed in class.</p> <p>Material will not be adapted so the level of English required will be upper intermediate to advanced.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Reality shows 3. Reality shows 4. Chat shows 5. Talk shows 6. Presentation 7. Cartoons 8. Print 9. Newspapers 10. Newspapers 11. Magazines 12. Magazines 13. Movies 14. Presentations 15. Discussion and Review <p>Note: Changes may be made.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor. Students should have a dictionary.		The final grade will combine the following: classwork, homework, presentation.	

13年度	英語演習Ⅰ（発信型英語 その1） （2013年度入学者用）	担当者	小瀬 百合子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この演習では、1年次のスピーキングで学習したディスカッションとプレゼンテーションの能力をさらに向上させることを目的とする。</p> <p>以下の手順に沿ってクラスを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● あるテーマを提示し、それに関するニュースやドキュメンタリーを視聴したり読んだりする。テーマに関するキーワードを学習する。 ● ニュースやドキュメンタリーの内容を自分の言葉で言い換え、要約する。 ● そのテーマに関する自分の意見をまとめる。 ● ペアやグループで自分の意見を発表し、ディスカッションをする。 ● 学期末に、クラスで扱ったテーマから1つ選び、自分の意見をクラスで発表する（受講者の人数とレベルに応じてクラス内でコンテストを行う）。 <p>テーマは、家庭生活、学校生活、環境活動、恋愛、コミュニケーション・ギャップを考えているが、受講者の傾向などで変更もありうる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Overview, Self-introduction 2. Family Life (1) 3. Family Life (2) 4. School Life (1) 5. School Life (2) 6. Environment (1) 7. Environment (2) 8. Environment (3) 9. Romance (1) 10. Romance (2) 11. Romance (3) 12. Communication Gap 13. Interview 14. Presentation 15. Presentation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布する。</p> <p>1年のスピーキングのテキスト“Dynamic Presentations”を時々復習として使用する（改めて購入する必要なし）。</p>		<p>授業への参加度 40%</p> <p>Presentation 30%</p> <p>Interview 30%</p>	

13年度	英語演習Ⅰ（発信型英語 その2） （2013年度入学者用）	担当者	小瀬 百合子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この演習では、1年次のスピーキングで学習したディスカッションとプレゼンテーションの能力をさらに向上させることを目的とする。</p> <p>以下の手順に沿ってクラスを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● あるテーマを提示し、それに関するニュースやドキュメンタリーを視聴したり読んだりする。テーマに関するキーワードを学習する。 ● ニュースやドキュメンタリーの内容を自分の言葉で言い換え、要約する。 ● そのテーマに関する自分の意見をまとめる。 ● ペアやグループで自分の意見を発表し、ディスカッションをする。 ● 学期末に、クラスで扱ったテーマから1つ選び、自分の意見をクラスで発表する（受講者の人数とレベルに応じてクラス内でコンテストを行う）。 <p>テーマは、医療、訴訟事件、コミュニケーション・ギャップ、ファッションを考えているが、受講者の傾向などで変更もありうる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Overview, Self-introduction 2. Medicine (1) 3. Medicine (2) 4. Medicine (3) 5. Lawsuit (1) 6. Lawsuit (2) 7. Lawsuit (3) 8. Communication Gap (1) 9. Communication Gap (2) 10. Communication Gap (3) 11. Fashion (1) 12. Fashion (2) 13. Interview 14. Presentation 15. Presentation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布する。</p> <p>1年のスピーキングのテキスト“Dynamic Presentations”を時々復習として使用する（改めて購入する必要なし）。</p>		<p>授業への参加度 40%</p> <p>Presentation 30%</p> <p>Interview 30%</p>	

13 年度	英語演習 I (Fluency Development) (2013 年度入学者用)	担当者	八木 啓太
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Do you want to be able to speak more fluently? Do you like discussing various topics with others in English? Are you looking for a topic of your research paper? If you answer “yes” to any or all of these questions, this course may be right for you. In this course, you will discuss various topics and learn useful expressions commonly used in discussion. Even if you are not confident about your speaking skills, as long as you keep trying hard to participate in discussion, I am sure you can improve your fluency and your communication skills in English and learn many things.</p> <p>This class will not be hard to get a good grade if you keep good attendance and try your best to participate in discussions actively.</p> <p>The medium of instruction is English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, Topic 1 (Language) 2. Topic 1 (Language) 3. Topic 2 (Fashion) 4. Topic 2 (Fashion) 5. Discussion Test I 6. Topic 3 (Human Rights) 7. Topic 3 (Human Rights) 8. Topic 4 (Education) 9. Topic 4 (Education) 10. Discussion Test II 11. Topic 5 (Value) 12. Topic 5 (Value) 13. Topic 6 (Medical Issues) 14. Topic 6 (Medical Issues) 15. Discussion Test III 	
テキスト、参考文献		評価方法	
All the materials will be provided by the instructor.		Grades will be based on in class participation (30%), quiz (20 %), discussion tests (30%), and reaction paper (20%).	

13 年度	英語演習 I (Accuracy Development) (2013 年度入学者用)	担当者	八木 啓太
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Do you want to be able to speak more accurately? Are you interested in improving your English pronunciation? Do you enjoy giving presentations? If you answer “yes” to any or all of these questions, this course may be right for you. This class will help you learn and practice the basic elements of pronunciation though mechanical, meaningful, and communicative activities and analyzing English songs. As a way to practice your accuracy, you will give short presentations on your favorite songs, favorite movies, favorite speeches, and favorite TED lectures. As long as you keep trying hard, I am sure you can improve your pronunciation and accuracy in speaking and become a more confident English speaker.</p> <p>This class will not be hard to get a good grade if you keep good attendance and try your best to complete assignments on time.</p> <p>The medium of instruction is English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, Vowels 1/2, Song 1 2. Presentation on Favorite Songs, Vowels 2/2, Song 2 3. Presentation on Favorite Songs, Consonants 1/3, Song 3 4. Presentation on Favorite Movies, Consonants 2/3, Song 4 5. Presentation on Favorite Movies, Consonants 3/3, Song 5 6. Individual Presentation 7. TED Lecture, Pauses and Rhythm, Song 6 8. Speech, Word Stress, Song 7 9. Speech, Intonation, Song 8 10. Presentation on Favorite Speeches, Song 9 11. Presentation on Favorite Speeches, Song 10 12. Preparation for a Group Presentation/Tutorials 13. Group Presentation and discussion 14. Group Presentation and discussion 15. Recitation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
All the materials will be provided by the instructor.		Grades will be based on in class participation (10%), worksheets and tasks (40%), presentation (30%), and recitation (20%).	

12年度以前	英語演習Ⅰ (Planet Earth) (2007～2012年度入学者用)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will introduce students to the wonders of our planet. Reading, group discussion and practical task-based practical exercises will be used to build an understanding of the formation, history, and the processes that continue to shape our world.</p> <p>The goals of this course are to improve English ability, develop an understanding of the processes active on planet Earth and develop critical thinking skills.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities, share ideas in groups and present their answers to the class. Most importantly we hope to have fun improving our understanding of the planet on which we live.</p>		<p>Week 1: Introduction and course outline Week 2: Origin of the Earth Week 3: Size & Shape of the Earth Week 4: The Earth in space Week 5: Review Test 1 Week 6: What can rocks tell us? Week 7: Inside the Earth Week 8: Earthquakes Week 9: Volcanoes Week 10: Review Test 2 Week 11: Comprehending Geological Time Week 12: The Age of the Earth Week 13: Geological History 1 Week 14: Geological History 2 Week 15: Review Test 3</p> <p>The teacher may change the (order of) topics covered</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook to be announced. Students will need access to a computer.		Assessment will be based on participation, tests and completion of activities.	

12年度以前	英語演習Ⅱ (Life on Earth) (2007～2012年度入学者用)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will help students the origin and evolution of life on earth.</p> <p>The goals of this course are to improve English ability, and to develop an understanding of the evolution of life on planet Earth (and beyond), through lectures, readings, group discussions and task-based practical exercises. This course aims to develop critical thinking skills.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities, share ideas in groups and present their answers to the class. Most importantly we hope to have fun improving our understanding of the miracle of life.</p>		<p>Week 1: Introduction and course outline Week 2: What is "Life"? Week 3: The origin of Life on Earth Week 4: Understanding Time Week 5: The age of the Earth Week 6: Review Test 1 Week 7: Before Darwin Week 8: Charles Darwin Week 9: The Theory of Evolution Week 10: Review Test 2 Week 11: Evidence for Evolution 1 Week 12: Evidence for Evolution 2 Week 13: Amazing adaptations 1 Week 14: Amazing adaptations 2 Week 15: Review Test 3</p> <p>The teacher may change the (order of) topics covered</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook to be announced. Students will need access to a computer.		Assessment will be based on participation, review tests and completion of activities.	

12 年度以前	英語演習 I (British Youth Culture) (2007~2012 年度入学者用)	担当者	M. デル ベツキオ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on how British youth has influenced and defined British identity and culture.</p> <p>We will chart how British youth culture was formed and how outside influences from America, the Caribbean, Europe, Africa and Asia had an impact on youth cults. We will look at history, sociology, music, art and design, fashion and economics, from post-war Britain to today's developments and technology. How British youth has been represented in different genres and media will be explored and consideration will be given to how it has had an impact at home and on the wider world.</p> <p>English Level: intermediate</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. British youth culture, preview 2. The Teddy Boys: fashion, media and politics 3. The mod movement 4. The Hippy Ethos political background in US 5. Style and gender 6. The Skinhead movement: beginnings and revival 7. Music styles and influences 8. Punk and politics 9. Entrepreneurs 10. Youth culture and ethnic identities in the music industry 11. British youth representation in film 12. Politics and youth culture 13. Contemporary trends, 1 14. Contemporary trends, 2 15. Presentations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor. A dictionary is required, preferably an electronic one.		The final grade will combine the following: classwork, quizzes, homework, presentation.	

12 年度以前	英語演習 II (Global Citizenship) (2007~2012 年度入学者用)	担当者	M. デル ベツキオ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will consider what globalization is and how it affects different groups. During the course, we will examine issues related to the wealth and poverty of nations, food supply and use, the environment and technology. We will consider the positive and negative impacts of globalization across the planet.</p> <p>Students are expected to play an active role in all classes. Students will be expected to collect and share information, have a willingness to discuss the issues raised, appreciate both sides of an issue or argument and justify their own opinions. They should have an interest in understanding the rights and responsibilities of citizens and consider the roles that governments have in lives and society.</p> <p>English level: intermediate</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Global citizenship preview 2. Developing countries 3. Child labour 4. Sweatshops 5. Fair trade 6. Refugees 7. Child soldiers 8. Global aid 9. Environment 10. Sustainable resources 11. Human rights 12. Peace and conflict 13. Global travel and tourism 14. Gender issues 15. Presentations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor. A dictionary is required, preferably an electronic one.		The final grade will combine the following: classwork, quizzes, homework, presentation.	

12 年度以前	英語演習 I (Communication and Critical Inquiry) (2007~2012 年度入学者用)	担当者	是澤 克哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The theme of the course focuses on acquiring basic public speaking skills. By the end of the course, students will become:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) More competent communicators using knowledge, skill, and judgment. 2) More critical consumers and producers of ideas and information (using analytical reasoning skills in the reception, collection, and presentation). 3) Better background researchers to develop well-informed presentations. 4) More competent in communicating in small group discussions. 5) Better communicators in a democracy (demonstrating ethical communication, considering multiple perspectives on controversial issues) 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Orientation, Assign Syllabus Contract 2. Definition, Apprehension, Self Concept 3. Critical Thinking 4. Topic Selection, Information Literacy 5. Supporting Your Ideas, Tests of Evidence 6. Organization, Introduction and Conclusion 7. Language, Delivery, Presentation Aids 8. Construct Arguments 9. Argumentation and Fallacies 10. Persuasive Speech Day 11. Persuasive Speech Day 12. Group Communication, Managing Conflict 13. Cultural Influences 14. Group Speech Day 15. Review, Follow-ups, and Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Simonds, C. J., Hunt, S. K., & Simonds, B. K. (2008). <i>Presenting ideas: Becoming critical producers and consumers of messages</i> . Needham Heights,		Activities (30 pts.), Portfolio and Quizzes (20 pts.) Group Presentation (20 pts.), Persuasive Speech: (30 pts.)	

12 年度以前	英語演習 II (Argumentation and Debate) (2007~2012 年度入学者用)	担当者	是澤 克哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The theme of the course focuses on acquiring basic argumentation skills. By the end of the course, students will:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Learn basic concepts and knowledge of debate and argumentation 2) Develop research skills 3) Analyze social controversial issues critically 4) Construct and advocate arguments effectively. 5) Engage in small group discussion 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Orientation 2. Argumentation as a Human Symbolic Activity 3. Types of Propositions, Debate Format 4. Research Methodologies 5. The Language of Argument, Types of Arguments 6. Building Arguments 7. Refuting Arguments 8. Evaluating Arguments 9. Matching, Preparation for the 1st Debate 10. Team Debate (Topic #1), Oral Critique 11. Team Debate (Topic #1), Oral Critique 12. Matching, Preparation for the 2nd Debate 13. Team Debate (Topic #2), Oral Critique 14. Team Debate (Topic #2), Oral Critique 15. Review, Follow-ups, and Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hollihan, T. A., & Baaske, K. T. (2005). <i>Arguments and arguing: The products and process of human decision making</i> . Illinois: Waveland Press, Inc.		Assignments (30 pts.), Quizzes (30 pts.), Policy Debate #1: (20 pts.), Policy Debate #2 (20 pts.)	

12年度以前	英語演習Ⅰ (2007～2012年度入学者用)	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この「英語演習」(News & Media with Exercises)では新聞やニュース(ウェブなど)を中心に用いながら、各自がすでに持つあらゆる英語能力を駆使し、さらなる総合的な英語力向上を図ろうというのがねらいである。最初はこちらである程度、話題・素材提供をするが、集まった学生諸君の興味・関心によってはいい意味で大いに逸脱する可能性もある。いずれにせよ、積極的に参加しようという姿勢が必要であり、単位取得のために仕方なく、というのでは歓迎されない。(欠席が特段の理由なく3回を越えたならばその時点で単位取得にはならず。) 予定している内容は、Making summary after reading newspaper or website & Presentation など。なお、あくまで「英語演習」なので、授業内は基本的に英語での参加・進行となる。</p> <p>The aim of this course is to improve your English skills through reading newspaper or watching news programs with presentation. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons. Basically, we will use English in all the classes.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 Unit 1 Choosing the Right College 3 Unit 2 Eating Dirt 4 Unit 3 Cardboard Bicycles 5 Unit 4 Goodbye CDs and DVDs 6 Unit 5 How to Pass a Test 7 Unit 6 Fashion Week 8 Unit 7 making Drinks Better 9 Unit 8 Women on Submarines 10 Unit 9 Bringing People back to Baseball 11 Unit 10 Making Cars Noisier! 12 Unit 11 Saving Vegetables 13 Unit 12 The Return of the Rubik's Cube 14 Unit 13 Coding in High School 15 Final Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced at the first lesson <i>CNN Students News vol.2, Asahi Press</i> など		Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%	

12年度以前	英語演習Ⅱ (2007～2012年度入学者用)	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この「英語演習」(Songs & Lyrics with Exercises)では歌(音声的、パフォーマンス的側面)、歌詞(読解&解釈、文化・歴史的側面)などを用いながら、各自がすでに持つあらゆる英語能力を駆使し、さらなる総合的な英語力向上を図ろうというのがねらいである。最初はこちらである程度、話題・素材提供をするが、集まった学生諸君の興味・関心によってはいい意味で大いに逸脱する可能性もある。いずれにせよ、積極的に参加しようという姿勢が必要であり、単位取得のために仕方なく、というのでは歓迎されない。(欠席が特段の理由なく3回を越えたならばその時点で単位取得にはならず。) 予定している内容は、Critical studies for Songs & Lyrics (with performance) など。また春学期同様、あくまで「英語演習」なので、授業内は基本的に英語での参加・進行となる。</p> <p>The aim of this course is to improve your English skills through songs & lyrics (with performance). It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons. Basically, we will use English in all the classes. (In this term the fundamental policy for the class is the same as Spring semester, but the contents are different.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 Songs & Lyrics with Exercises 1 3 Songs & Lyrics with Exercises 2 4 Songs & Lyrics with Exercises 3 5 Songs & Lyrics with Exercises 4 6 Songs & Lyrics with Exercises 5 7 Songs & Lyrics with Exercises 6 8 Songs & Lyrics with Exercises 7 9 Songs & Lyrics with Exercises 8 10 Songs & Lyrics with Exercises 9 11 Songs & Lyrics with Exercises 10 12 Songs & Lyrics with Exercises 11 13 Songs & Lyrics with Exercises 12 14 Songs & Lyrics with Exercises 13 15 Final Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced at the first lesson		Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%	

12 年度以前	英語演習 I (映画英語) (2007~2012 年度入学者用)	担当者	中込 知子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ジャーナリストを目指す 20 代の女性が主人公のファッション業界を背景とした映画 <i>The Devil Wears Prada</i> を教材として、英語圏の文化を学び、日常生活またビジネスで話される英語のスピードに慣れ聴解力と発話力の向上を目指す。</p> <p>講義内容 オーバーラッピングやシャドーイングをしながら発音、イントネーション、リエゾン等のプロソディーを身に付けていき、最終的には映画のいくつかのシーンを英語でダビングやグループでのロールプレイができるよう台詞に慣れていく。また、グループディスカッションで登場人物の会話の含みを考えていく。</p> <p>毎回課題があるので、必ずやってくる。グループプロジェクトとして 1 シーンの script の共同執筆、ロールプレイの発表がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Chapter 1 3. Chapter 2 4. Chapter 3 5. Chapter 4 6. Chapter 5 7. Chapter 6 8. Chapter 7 9. Chapter 8 10. Chapter 9 11. Chapter 10 12. Chapter 11 13. Chapter 12 14. Review 15. Exam 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Aline Brosh McKenna, <i>The Devil Wears Prada</i> 松柏社		期末試験の結果 (50%) と、課題、授業への積極的参加、グループプレゼンテーション等 (50%) を評価対象とする。	

12 年度以前	英語演習 II (映画英語) (2007~2012 年度入学者用)	担当者	中込 知子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 98 年度のアカデミー賞やゴールデングローブ賞を受賞した <i>Good Will Hunting</i> を教材として現代アメリカの社会背景を学びながら日常に話される英語のスピードに慣れ、聴解力と自分の意見をまとめて発表できる発話力の向上を目指す。</p> <p>講義内容 各シーンの台詞の内容を理解した後に、それぞれの意見をまとめ、グループディスカッションを通して主人公の心の変化、登場人物の発言の意味、性格等について意見の交換を行う。また、監督の意図するテーマに対しての各場面設定の持つ意味も考えていく。</p> <p>毎回課題があるので、必ずやってくる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Chapter 1 3. Chapter 2 4. Chapter 3 5. Chapter 4 6. Chapter 5 7. Chapter 6 8. Chapter 7 9. Chapter 8 10. Chapter 9 11. Chapter 10 12. Chapter 11 13. Chapter 12 14. Review 15. Exam 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Alan Rosen 楠元実子, <i>Good Will Hunting</i> 松柏社		期末試験の結果 (50%) と課題、授業への積極的参加とディスカッションの発表等 (50%) を評価対象とする。	

12年度以前	英語演習Ⅰ（英語翻訳） （2007～2012年度入学者用）	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、「英語を単なる『知識』ではなく、活用できる『スキル』にすること」を目標ととらえ、その目標を達成するために、翻訳の実技演習をおこなう。</p> <p>翻訳の技能を修得・向上させることにより、「知識」としての英語を実際に使いこなせる「スキル」へと質的变化を起こさせることを狙う。</p> <p>翻訳の技能を修得する過程では、複合的な分野を強化していくことになる。英語の運用能力のみならず、日本語の運用能力、知識の増強なども行う予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 Newspaper Articles 3 Magazine Articles 4 Business Documents 5 Fashion Catalogs 6 Recipes 7 Children Books 8 Movie Subtitles 9 Business E-mails 10 Invitations 11 Signs and Directions 12 Travel Advertisements 13 Product Manuals 14 Visual Aids 15 Speeches 	
テキスト、参考文献		評価方法	
田辺希久子・光藤京子『英日英翻訳実践トレーニング』		レポートによって評価する。なお出席は前提条件であり、遅刻2回を1欠席と見なし、欠席4回以上は評価の対象外とする。	

12年度以前	英語演習Ⅱ（英語通訳） （2007～2012年度入学者用）	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。</p> <p>将来的に通訳者を目指す人はもちろん、レジスターを意識し、場に応じた適切な表現を学びたい人も対象としています。</p> <p>第1回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めないので注意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. アテンド・随行通訳 3. パーティー・レセプション通訳 4. 工場見学通訳 5. ビジネス・商談通訳 6. 芸能・スポーツ通訳 7. ニュースのボイスオーバー 8. 確認テスト（1） 9. 司法通訳 10. 医療通訳 11. 国際政治や軍事に関するトピックの通訳 12. インタビュー対談通訳 13. セミナー・講演会通訳 14. 国際会議同時通訳 15. 確認テスト（2） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：浅野輝子・中村幸子・Robert Hewer 著『通訳の現場から学ぶ実践演習』（南雲堂フェニックス、2008年）		授業中に実施する2回の確認テストによって評価する。なお出席は前提条件であり、遅刻2回を1欠席と見なし、欠席4回以上は評価の対象外とする。	

12年度以前	スペイン語演習 I	担当者	J. マルティネス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>El objetivo de esta asignatura es desarrollar la expresión oral de los estudiantes así como la confianza a la hora de expresarse e interactuar con hablantes nativos en situaciones de la vida diaria.</p> <p>Las clases se llevarán a cabo exclusivamente en español.</p> <p>Es FUNDAMENTAL la PARTICIPACIÓN ACTIVA en clase.</p> <p>Dependiendo del número de estudiantes y su nivel la clase se dividirá en tres partes:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Conversación (temas elegidos por los estudiantes). Discusión moderada por un estudiante. 2. Desarrollo de estrategias para la expresión oral, potenciando la fluidez por encima de la exactitud gramatical.. 3. Desarrollo de estrategias para realizar presentaciones de temas elegidos por los estudiantes ante una audiencia de habla hispana. 		<p>El contenido de la clase variará según el nivel de los estudiantes pero en principio intentaremos seguir el siguiente plan:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Presentación de la asignatura. 2. Expresar opiniones I. 3. Expresar opiniones II. 4. Contar algo, estructurar un relato. 5. Hacer generalizaciones y excepciones I. 6. Hacer generalizaciones y excepciones II. 7. Hacer conjeturas I. 8. Hacer conjeturas II. 9. Relatar experiencias. 10. Cómo hacer presentaciones I. 11. Cambiar de tema I. 12. Cambiar de tema II. 13. Hacer sugerencias. 14. Repaso y presentaciones II 15. Repasos y presentaciones II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
El profesor proporcionará el material necesario.		Participación: 40% Tareas: 30% Presentación: 30%	

12年度以前	スペイン語演習 II	担当者	J. マルティネス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Continuando con los objetivos del primer semestre, desarrollaremos la capacidad de los estudiantes de expresar de forma independiente sus opiniones, argumentarlas y debatir con el resto de compañeros.</p> <p>Para ello deberán <u>moderar</u> discusiones sobre artículos de periódico de actualidad.</p> <p>Los estudiantes (dependiendo del número) tendrán que <u>realizar presentaciones</u> comparando aspectos económicos, políticos, educativos... entre Japón y un país de habla hispana de su elección.</p> <p>El objetivo es desarrollar la capacidad crítica y de evaluación de los estudiantes así como su capacidad de exponer argumentar y defender sus opiniones sobre un tema concreto.</p>		<p>El contenido de cada clase dependerá de cómo se haya completado el plan del primer semestre y del nivel de los estudiantes pudiéndose ampliar o reducir según sea este.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Presentación de la asignatura. 2. Expresiones coloquiales I. 3. El sistema educativo en España I. 4. El sistema educativo en España II. 5. Comparación de los sist. educ. español y japonés. 6. Expresiones coloquiales II. 7. El sistema político y electoral español I. 8. El sistema político y electoral español II. 9. Comparación sist. pol. y elect. español y japonés. 10. Expresiones coloquiales III. 11. El turismo en España I. 12. Comparación del turismo en España y Japón. 13. Expresiones coloquiales IV. 14. Repaso y presentaciones. 15. Repaso y presentaciones. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
El profesor suministrará el material adecuado		Participación: 40% Tareas: 30% Presentación: 30%	

12年度以前	スペイン語演習 I	担当者	N. ウエチ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語の総合的応用能力を高めると同時に論理的・客観的な思考のトレーニングにも役立つような素材を取り扱う。スペインとラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目指します。様々なテーマの読み物に触れることで、コミュニケーションをする知識を身につけて行きます。辞書をよく活用してスペイン語に親しむこと、情報を入手すること、批判的な意見を大切にします。また、インターネット等を利用したレポート、教材として活用することも考えています。</p>		<p>Plan de estudio sujeto a cambios.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Presentación del curso. Argentina: información general. 2. Literatura argentina: Jorge Luis Borges. Parte I. 3. Jorge Luis Borges. Parte 2. 4. Literatura gauchesca. 5. Música argentina: folklore. Presentación oral. 6. Cuba. Información general. 7. Revolución Cubana. 8. Música cubana. 9. Colombia: información general. 10. Gabriel García Márquez: Comprensión y discusión sobre partes de sus Obras I. 11. Comprensión y discusión sobre partes de sus Obras II. 12. Fernando Botero. Sus obras. Parte 1. 13. Fernando Botero. Sus obras. Parte 2. 14. Presentación oral. 15. Resumen final. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で配布		授業への参加態度、エッセイの結果という2つの要素から総合的に批判して付けます。50%を授業へ積極的な参加、残りの50%をエッセイと発表によって行う。	

12年度以前	スペイン語演習 II	担当者	N. ウエチ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語の総合的応用能力を高めると同時に論理的・客観的な思考のトレーニングにも役立つような素材を取り扱う。スペインとラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目指します。様々なテーマの読み物に触れることで、コミュニケーションをする知識を身につけて行きます。辞書をよく活用してスペイン語に親しむこと、情報を入手すること、批判的な意見を大切にします。また、インターネット等を利用したレポート、教材として活用することも考えています。</p>		<p>Plan de estudio sujeto a cambios.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. México: información general. 2. El Muralismo: grandes protagonistas. Parte I. 3. El Muralismo: grandes protagonistas. Parte II. 4. Frida Kahlo: obras representativas. 5. Patrimonios de la Humanidad. Presentación oral. 6. España: grandes protagonistas de la pintura. Parte I. 7. España: grandes protagonistas de la pintura. Parte II. 8. Presentación oral sobre pintores españoles. 9. España: Patrimonios de la Humanidad. Parte I. 10. España: Patrimonios de la Humanidad. Parte II. 11. Cine hispanoamericano: grandes protagonistas. Parte I. 12. Cine hispanoamericano: grandes protagonistas. Parte II. 13. Análisis de una película. 14. Intercambio de opiniones sobre películas. 15. Resumen final. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で配布		授業への参加態度、エッセイの結果という2つの要素から総合的に批判して付けます。50%を授業へ積極的な参加、残りの50%をエッセイと発表によって行う。	

12年度以前	中国語演習 I	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語連続ドラマを使って中国語を学びます。</p> <p>学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代中国の生き活きた話し言葉にふれる ・人々の普通の暮らしを観察する ・現代の中国が抱える社会問題を考える ・中国人の発想法や考え方を理解する <p>授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドラマの中国語字幕でセリフを確認する。 ・セリフの意味を捉え、和訳する。 ・ドラマのセリフで会話練習を行う。 		<p>第1回 全体ガイダンス、教材《蝸居》の説明 第一話 ストーリー</p> <p>第2回 第一話 ドラマ観賞・解説</p> <p>第3回 第一話 セリフの和訳（一部）・会話練習</p> <p>第4回 第二話 ストーリー</p> <p>第5回 第二話 ドラマ観賞・解説</p> <p>第6回 第二話 セリフの和訳（一部）・会話練習</p> <p>第7回 第一話・第二話の復習とディスカッション</p> <p>第8回 第三話 ストーリー</p> <p>第9回 第三話 ドラマ観賞・解説</p> <p>第10回 第三話 セリフの和訳（一部）・会話練習</p> <p>第11回 第四話 ストーリー</p> <p>第12回 第四話 ドラマ観賞・解説</p> <p>第13回 第四話 セリフの和訳（一部）・会話練習</p> <p>第14回 第三話・第四話の復習とディスカッション</p> <p>第15回 全体のまとめ、期末レポート提出</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
指定教科書は使いません。講義資料はそのつど配布するか、指定 URL からダウンロードしていただきます。		平常点と期末レポートにより評価します。	

12年度以前	中国語演習 II	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語連続ドラマを使って中国語を学びます。</p> <p>学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代中国の生き活きた話し言葉にふれる ・人々の普通の暮らしを観察する ・現代の中国が抱える社会問題を考える ・中国人の発想法や考え方を理解する <p>授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドラマの中国語字幕でセリフを確認する。 ・セリフの意味を捉え、和訳する。 ・ドラマのセリフで会話練習を行う。 		<p>第1回 全体ガイダンス、教材《蝸居》の説明 第五話 ストーリー</p> <p>第2回 第五話 ドラマ観賞・解説</p> <p>第3回 第五話 セリフの和訳（一部）・会話練習</p> <p>第4回 第六話 ストーリー</p> <p>第5回 第六話 ドラマ観賞・解説</p> <p>第6回 第六話 セリフの和訳（一部）・会話練習</p> <p>第7回 第五話・第六話の復習とディスカッション</p> <p>第8回 第七話 ストーリー</p> <p>第9回 第七話 ドラマ観賞・解説</p> <p>第10回 第七話 セリフの和訳（一部）・会話練習</p> <p>第11回 第八話 ストーリー</p> <p>第12回 第八話 ドラマ観賞・解説</p> <p>第13回 第八話 セリフの和訳（一部）・会話練習</p> <p>第14回 第七話・第八話の復習とディスカッション</p> <p>第15回 全体のまとめ、期末レポート提出</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
指定教科書は使いません。講義資料はそのつど配布するか、指定 URL からダウンロードしていただきます。		平常点と期末レポートにより評価します。	

12年度以前	中国語演習Ⅰ（中国語ビジネス文書）	担当者	吉田 桂子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年、国際社会に存在感を増す中国の急成長を背景に、中国語を操り、日中間のコミュニケーションの一翼を担える人材の育成が急務となっています。</p> <p>本講では、日中間のビジネス業務に焦点を合わせ、「ビジネスレター」「契約書」など、中国語によるビジネス文書の様々な表現方法を習得します。</p> <p>授業は、実際に日中間のビジネス現場にいる講師が、実務に使用されている資料を使って進め、中国語とともにビジネス分野の専門用語や「貿易業務」に関する基礎知識の理解を目指します。</p> <p>実際の授業では将来の進路選択の一助となるよう、毎回中国語で「ビジネスレター」を作成すると同時に、ゼミ形式で授業を進め全員に発言の機会を提供します。</p> <p>理解をより深める為、秋学期中国語演習Ⅱ（金3限）の受講を薦めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 中国語ビジネスレターの概要 2 業務取引の申し込みと CIF 3 業務取引の申し込みと CFR 4 見積書の送付依頼 5 見積書の送付依頼と FOB 6 サンプル送付に対する回答（一） 7 サンプル送付に対する回答（二） 8 製品紹介のレター（一） 9 製品紹介のレター（二） 10 オフファーシートの送付 11 L/C と船積書類（一） 12 L/C と船積書類（二） 13 契約書（Ⅰ）（契約内容） 14 契約書（Ⅱ）（支払方法）とインボイス 15 実習とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
・毎回配布するプリント		・授業準備、授業での平常点（提出物を含む）及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が60点以上で単位取得。	

12年度以前	中国語演習Ⅱ（中国語ビジネス会話）	担当者	吉田 桂子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年、世界に存在感を増す中国の急成長を背景に、日本・中国両国間の様々な分野に関心を持ち、中国語で直接コミュニケーションを取り得る人材の育成が急務となっています。</p> <p>本講では、日中間のビジネス業務に焦点を合わせ、基本的なビジネス会話を中心に、様々な専門用語を含め、徹底的に「聞く」/「話す」/「理解する」訓練を繰り返すことにより、聞いて話せる「中国語運用能力」の確実な向上を目指します。</p> <p>同時に、毎回の授業を通して実際の日中貿易の一端に触れることにより、ビジネス業務全般の基礎知識も一緒に習得します。</p> <p>実際の授業では、毎回全員にビジネス会話のチャンスを配分しながらゼミ形式で授業を進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 商談の基礎/アポイントメント 2 アポイントメントの取得 3 引き合い 4 オフファー 5 商品及びメーカーの紹介 6 カウンタービット 7 コミッションに関する話し合い 8 オーダーの確認 9 支払条件（一） 10 船積期日 11 パッキング条件 12 契約締結 13 インシュランス（保険）と A/R、WA、FPA 14 クレームの申し立て 15 実習とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
・『実習ビジネス中国語—商談編』白水社		・授業準備、授業での平常点（提出物を含む）及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が60点以上で単位取得。	

12年度以前	韓国語演習Ⅰ	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的)</p> <p>— 「直訳と意識：韓国語翻訳のスキル問題」 —</p> <p>本講座は、「韓国語Ⅳ」まで学習した内容の復習を含め、実践韓国語の学習を中心として、より高い韓国語運用能力を習得するための講座である。今学期は韓国語を日本語に翻訳する時に発生するさまざまな問題の確認や解決にポイントをあわせて授業を行う。</p> <p>(講義概要)</p> <p>テキストの中の韓国語・日本語対訳部分を共同で検討し、所謂<直訳>と<意識>の実践例を確認する。とりわけ、翻訳を行う時に、日本人が頻繁に間違える語彙や文型表現の確認、訂正練習にポイントを置く。</p>		<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：眠りと微笑みと浦安駅</p> <p>第3回：江戸川の思いで</p> <p>第4回：初雪</p> <p>第5回：崔社長の話 1</p> <p>第6回：崔社長の話 2</p> <p>第7回：百合の花と赤ちゃん紅葉の木</p> <p>第8回：竜山の朴課長</p> <p>第9回：ポプラの木</p> <p>第10回：貝焼き店の話 1</p> <p>第11回：貝焼き店の話 2</p> <p>第12回：灯火について 1</p> <p>第13回：天国の階段</p> <p>第14回：まとめ</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>* (場合によって差し替えの可能性あります)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：シム・ウオンスプ『秘密にしていた話』NHK出版</p> <p>参考：油谷幸利『間違いやすい韓国語表現』白帝社</p>		<p>宿題(文型を活用した作文、翻訳) 40%、筆記テスト 40%、授業態度 20%</p>	

12年度以前	韓国語演習Ⅱ	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的)</p> <p>— 「映画で覚える実戦韓国語会話」 —</p> <p>本講座は、「韓国語Ⅳ」まで学習した内容の復習を含め、実践韓国語の学習を中心として、より高い韓国語運用能力を習得するための講座である。今学期は、現場韓国語の聴取および実践会話能力の培養にポイントを合わせて授業を行う。</p> <p>(講義概要)</p> <p>韓国映画『8月のクリスマス』の聴衆練習を行いながら、映画に出てくる生活会話文の文型、語尾、語彙の運用方法を身につけるところにポイントを置く。<文型の活用練習を中心とした宿題>—<教員による添削>—<共同検討>—<映画や授業で取り上げた内容を生かした会話練習>が主な授業内容になる。</p>		<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：映画の中の韓国語 1</p> <p>第3回：映画の中の韓国語 2</p> <p>第4回：映画の中の韓国語 3</p> <p>第5回：映画の中の韓国語 4</p> <p>第6回：映画の中の韓国語 5</p> <p>第7回：映画の中の韓国語 6</p> <p>第8回：映画の中の韓国語 7</p> <p>第9回：映画の中の韓国語 8</p> <p>第10回：映画の中の韓国語 9</p> <p>第11回：映画の中の韓国語 10</p> <p>第12回：映画の中の韓国語 11</p> <p>第13回：映画の中の韓国語 12</p> <p>第14回：まとめ</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>* (場合によって差し替えの可能性あります)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント資料を配布</p>		<p>宿題(30%)、会話テスト(30%)、筆記テスト(30%)、その他(10%)</p>	

13年度以降 12年度以前	スペイン研究概論 スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ（スペイン）	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン研究概論では、主にスペインの言語・地理・文化・歴史に関する講義を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。</p> <p>講義は、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。</p> <p>なお、秋学期に開講される「スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ（ラテンアメリカ）」と関連性・連続性が強いので、秋学期には左記授業を選択することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語文化 1 4. カタルーニャの言語文化 2 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシーアの言語文化 7. イスラム・スペイン 8. 1492 9. フラメンコ・闘牛 10. スペイン黄金世紀 11. 18、19世紀のスペイン 12. 18、19世紀のスペイン 13. スペイン内戦とフランコ体制 14. スペインの民主化とヨーロッパ統合 15. 春学期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		授業への参加度、定期試験によって評価する。	

13年度以降 12年度以前	ラテンアメリカ研究概論 スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ（ラテンアメリカ）	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないラテンアメリカに関する基礎知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。</p> <p>高校での地理、世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。</p> <p>ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 導入① ラテンアメリカとは 「二つのアメリカ」論を批判する 2 導入② ラテンアメリカの多様性 ベネズエラ：ハンモックの埋葬 3 ラテンアメリカの地理的・文化的多様性 各地域の音楽を通して 4 ラテンアメリカにおける人種・民族と言語① 先住民とメスティーソ indigenismo, indianismo 5 ラテンアメリカにおける人種・民族と言語② アフリカ系とヨーロッパ系 6 歴史① 先コロンブス期：インカ、アステカ、マヤ 7 歴史② 植民地期：コロンブスの到達の歴史的意味 8 文化と社会① 宗教と祭り、家族、女性 9 文化と社会② 食文化、文学と造形芸術 10 歴史③ ラテンアメリカの独立と19世紀 11 歴史④ 米国と対峙する20世紀のラテンアメリカ キューバ革命を中心に 12 経済と社会① 開発主義と独裁政権 13 経済と社会② ラテンアメリカの挑戦 新サパティスタ運動（メキシコ） ボリバル革命（ベネズエラ） 14 米国ラティーン：新しい民族集団の形成 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』（中公新書）		数回の小テストおよび期末テスト	

13年度以降 12年度以前	スペインの言語と歴史・文化 スペイン・ラテンアメリカ研究IV(スペイン語圏の言語文化)	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペインの文化について歴史を辿りながら総覧する。とくに言語の歴史を中心として、その周辺で動く社会や風習などを概観する。</p> <p>主な対象は「スペイン」ではあるが、勿論、言語を中心にみていくため、スペイン以外のスペイン語圏についても可能な限り触れていく。またスペイン語の文献や作品を実際に読む。そのため一定以上のスペイン語力が求められる。</p> <p>今年度は特に、スペインの各地に伝わる「食」を中心に据えて、スペインの地域性をもとにスペインの文化について考えて行きたい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② スペインの地域性 ③ 地域性と言語・文化1 ④ 地域性と言語・文化2 ⑤ スペインの歴史と食の関係1 ⑥ スペインの歴史と食の関係2 ⑦ スペインの地域と食に関するプレゼンテーション1 ⑧ スペインの地域と食に関するプレゼンテーション2 ⑨ スペインの地域と食に関するプレゼンテーション3 ⑩ スペインの地域と食に関するプレゼンテーション4 ⑪ スペインの地域と食に関するプレゼンテーション5 ⑫ 国民食とは ⑬ スペインの国民食 ⑭ 現代と食 ⑮ 総論 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		授業への参加度と数回のレポート、プレゼンテーションによって評価する。	

13年度以降 12年度以前	スペイン語研究 スペイン・ラテンアメリカ研究各論IV (スペイン語学)	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語の文法要素を言語学的に分析することが本講義の目的である。分析の結果も大事な成果のひとつであるが、それ以前に分析の方法、プロセスを見だし、問題設定をする練習の場とも考える。</p> <p>今年度の主なテーマは「前置詞句とそれを取り巻く文の構造」とする。</p> <p>まず、スペイン語の冠の前置詞句に関する基本的な知識を獲得・復習するために講義を行う。その際に先行研究を紹介し、それらの分析にはどのような問題点があるのかを洗い出す。</p> <p>ある程度の予備知識がついたところで、扱ったテーマの中からひとつテーマを選択し、それに関する短いレポートを課題とする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ① スペイン語の前置詞句について (説明講義) 1 ② スペイン語の前置詞句について (説明講義) 2 ③ スペイン語の前置詞句について (説明講義) 3 ④ スペイン語の前置詞句について (説明講義) 4 ⑤ 問題点1 ⑥ 課題1 ⑦ 課題の説明1 ⑧ スペイン語の前置詞句と構文について (説明講義) 5 ⑨ スペイン語の前置詞句と構文について (説明講義) 6 ⑩ スペイン語の前置詞句と構文について (説明講義) 7 ⑪ スペイン語の前置詞句と構文について (説明講義) 8 ⑫ 問題点2 ⑬ 課題2 ⑭ 課題の説明2 ⑮ 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		授業への参加度および数回のレポートによって評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降	スペイン語圏の文学	担当者	中井 博康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>17世紀までのスペイン語文学について基本的な知識を身につけるとともに、できるだけ多くの文学テキストを実際に読むことにより、新たな作家や作品と出会う機会にしてほしいと思います。具体的には、授業時間内では、主要な作家・作品についての解説を中心に、テキストの一部(スペイン語)を講読しながら、17世紀までのスペイン文学史を概観し、授業時間外の課題として、できるだけ多くの文学テキスト(日本語訳など)を読み、その読書報告してもらいます。</p>		<p>01 ガイダンス 02 <El Cid> 03 Arcipreste de Hita, Don Juan Manuel 04 Jorge Manrique, Romance 05 <La Celestina> 06 ピカレスク小説 07 神秘主義 08 ラテンアメリカ(1): クロニカなど 09 Cervantes 10 Lope de Vega 11 Góngora, Quevedo 12 Tirso de Molina, Ruiz de Alarcón 13 Calderón de la Barca, Gracián 14 ラテンアメリカ(2): Sor Juana など 15 総論</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用しません。参考文献は授業で随時紹介します。</p>		<p>授業時のレスポンスカード(平常点40%)と書評(課題点60%)により、総合的に評価します。</p>	

13年度以降 12年度以前	ラテンアメリカの歴史と文化 スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅰ(ラテンアメリカの歴史と社会)	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、ラテンアメリカの現代を知るために必要な歴史と文化に関する重要事項を、社会運動、論争、絵画、音楽、食などの具体的事例を取り上げて論じるものである。</p> <p>現代世界の起点は、大胆に言えば、コロンブスにあると言える。ラテンアメリカを知ることは、現代世界の成り立ちを知ることである。ウオーラステインの「近代世界システム」論、アンダーソンの「想像の共同体」論、サイードの「オリエンタリズム」をもとに、ラテンアメリカの歴史と文化に接近したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 メキシコ 1930年代の観光ポスター ：他者表象と自己表象 2 1492年と現代世界：ポストコロニアル研究 3 コロンブス以前のアメリカ大陸 マヤ文字読解 アステカの絵文書 4 コロンブスと「近代世界システム」の形成 5 ラスカサスとバジャドリッド論戦 6 「グアダルupesの聖母」植民地における人種民族関係 7 ハイチ独立をめぐる諸問題 8 メキシコ革命とナショナリズム芸術 壁画運動 9 現代メキシコ文化：リラダウンズを題材に 10 グローバル化の中の先住民 リゴベルタ・メンチュウとインディアニスモ 11 黒人文化の再発見：アンデスの黒人音楽など 12 カリブ海におけるクレオール主義 13 アジアとラテンアメリカ 中国系排斥の歴史 14 米国ラティーノの文化 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時、授業中に指定する。		二回の講義につき一度ずつ簡単な小テストをおこなって評価とする。簡単なプレゼンテーションを求め、その実行者にはプラスの評価を与える。	

13年度以降 12年度以前	ラテンアメリカ近現代史 スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅰ(ラテンアメリカ近現代史)	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、主に 19 世紀半ば以降のカリブ海地域・ラテンアメリカを対象にして、米国と向き合わざるを得ないラテンアメリカとその自立の動きをおっていく。その際、歴史を現代から過去にたどることとする。</p> <p>基礎的歴史事項の修得を第一の目標にするが、それとともに、現代ラテンアメリカに関する多面的理解に資するものとして、現代ラテンアメリカの特徴は、①「もうひとつの世界」をもとめるラテンアメリカ、②経済と人の移動を通して一体化する南北「アメリカ」、という一見相反する動きがみられるところにある。ラテンアメリカはこれからどの方向に進んでいくのか考えるための素材を提供していき、履修生が自ら考える場として。</p> <p>ラテンアメリカ史の全体的ながれについては、春学期に別の授業が用意されている。</p> <p>なお、授業の最初には、音楽、映画、絵画、文学、大衆芸術など多様なラテンアメリカ文化を本論のテーマと関連付けて紹介し、ラテンアメリカ文化理解への導入とした。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに <u>「ラテンアメリカ」の誕生とパナマ史</u> 2 パナマ鉄道とスイカ事件 3 パナマ運河建設とパナマ建国 ＋ウオーカーのニカラグア侵攻 <u>新しい反システム運動</u> 4 1994年メキシコ・サパティスタ蜂起 5 メキシコ革命からサパティスタ蜂起へ 6 チャベスのボリバル革命 ＋ラテンアメリカの「左傾化」 <u>革命の 20 世紀</u> 7 砂糖プランテーションとバナナ共和国 8 米西戦争＋キューバ革命と文化 9 チリ革命・ニカラグア革命と文化 <u>ラテンアメリカの独立と欧米 19 世紀</u> 10 ボリバルの夢 11 イギリスの非公式帝国：アルゼンチンとブラジル 12 メキシコの独立とテキサス併合・米メキシコ戦争 13 ナポレオン三世のメキシコ侵略＋国境地帯の変容 <u>米国へ浸透するラテンアメリカ</u> 14 「アメリカス」の時代へ 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で指示する。		2. 3回の講義ごとに簡単な小テストをおこなって評価とする。簡単なプレゼンテーションを求め、その実行者にはプラスの評価を与える。	

13年度以降 12年度以前	ラテンアメリカの政治と社会 スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ (ラテンアメリカの政治と社会)	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義ではラテンアメリカという地域の多様性を知り、またこの地域の政治と社会の基本構図を理解することを目標とする。</p> <p>ラテンアメリカは世界でも稀な、大陸的規模で同質的な文化をもつ地域である。しかし詳しく見ていくと、その同質性を基底としつつも多様性に富んだ地域であることが分かる。また規模は小さいが、カリブ地域にはまったく異なる言語や文化をもつ小国家群も存在する。</p> <p>本講義では、まずラテンアメリカの政治と社会の基本的な歩みを知り、そのうえでいくつかの代表的な国を具体的に挙げて地域の多様性について理解を深めていく。そしてこれらを基礎に、現代のラテンアメリカがいかなる政治的・社会的課題を抱えているか、またそれにどう取り組んでいるか(取り組むべきか)を考えていく。</p>		<p>I. 政治と社会の歩み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ラテンアメリカ諸国の独立(19世紀) 2. 近代化とポピュリズム政権(20世紀前半) 3. 国家発展の追求と軍事政権(1960年代～) 4. 民主主義への移行と定着(1980年代～) <p>II. ラテンアメリカ地域の共通性と多様性</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. アンデス地域(ペルー、ボリビアなど) 6. コノスール地域(アルゼンチン、ブラジルなど) 7. メキシコ・中米地域(メキシコ、グアテマラなど) 8. カリブ地域(ジャマイカ、ハイチなど) <p>III. 現代ラテンアメリカの諸問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. ネオリベリズムと貧困・社会格差 10. 先住民運動と多文化主義 11. 麻薬問題と暴力・ゲリラ 12. 市民社会と政治参加 <p>IV. 政治と社会の展望</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 民主主義はラテンアメリカに根付いたのか? 14. 経済成長と社会公正の両立は実現できるのか? 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験で評価する(これに授業への参加状況を加味する場合がある)。	

13年度以降 12年度以前	ラテンアメリカの国際関係 スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ (ラテンアメリカ国際関係論)	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では世界のなかにおけるラテンアメリカの位置づけやその歴史的歩みを学ぶとともに、この地域をとりまく国際関係の諸問題について理解を深めることを目標とする。</p> <p>ラテンアメリカは発展途上地域であるが、言語的・文化的にはスペインなどのヨーロッパ的特色も有し、また独立国としても200年近い歴史をもつ、世界のなかで固有の性質をもつ地域である。</p> <p>本講義ではまず、世界のなかのラテンアメリカという視点からこの地域の歴史的歩みを捉える。そのうえで、米州(南北アメリカ)やラテンアメリカ域内の国際関係に関する重要論点について学んでいく。そして、経済グローバル化とその副作用、ラテンアメリカで強まりつつある反米・左傾化の流れを把握し、この地域が抱える21世紀の課題について考えていきたい。なお、日本とラテンアメリカの関係についても取り上げる。</p>		<p>I. ラテンアメリカの国際関係史</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コロンブスとラテンアメリカ(植民地期) 2. ラテンアメリカの近代化と世界経済(19世紀) 3. 米国の覇権主義とラテンアメリカ(20世紀) 4. 地域協調時代のラテンアメリカ(1990年代以降) <p>II. 米州域内の国際関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. キューバと米国 6. ラテンアメリカの軍事政権と米国 7. 経済改革とワシントン・コンセンサス 8. 米州機構と民主主義支援 <p>III. 現代ラテンアメリカの国際関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 自由貿易の拡大とインフラ統合 10. 経済のグローバル化と貧困の増大 11. 反グローバリズムと社会運動 12. 新しい地域主義(ALBAとUNASUR) <p>IV. 日本とラテンアメリカの関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 日本人移民と日系社会 14. 日本の対ラテンアメリカ協力 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験で評価する(これに授業への参加状況を加味する場合がある)。	

13年度以降 12年度以前	ラテンアメリカの経済と社会 スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ (ラテンアメリカの経済と社会)	担当者	今井 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. ラテンアメリカ経済社会構造の特質を、アジア、アフリカと比較しながら理解し、ラテンアメリカ地域の自然・住民・宗教・文化について概観する。</p> <p>2. ラテンアメリカ地域の経済社会についてその歴史の変遷過程を辿り、植民地期以前の先住民社会、植民地期の政策に関してその基本構造を把握する。そして独立後の国家建設および経済開発の思想と政策を学び、経済社会構造の変容を理解する。</p> <p>3. 以上の考察を踏まえてラテンアメリカ経済の現状を分析し、グローバル化が進む中でラテンアメリカ諸国が直面している主要な経済社会問題について考察する。そしてこれらの問題に対する各国政府や国際機関の取り組みを紹介する。</p> <p>4. ラテンアメリカにおける開発の思想、理論、政策について紹介し、コスタリカ・モデル（非武装・中立・教育・福祉・環境重視）と呼ばれる開発政策を中心に、持続可能な開発のあり方について考える。</p> <p>5. 日本とラテンアメリカの関係を移民、外交、貿易、投資、経済協力について考察し、グローバル化時代における日本とラテンアメリカの協力関係のあり方について考える。主として講義形式で授業を進めるが、テーマに応じて受講生によるディスカッション形式もとり入れたい。</p>		<p>1. ラテンアメリカ概観—ラテンアメリカとアジア、アフリカの比較</p> <p>2. 第1章 ラテンアメリカ経済社会の歴史の変遷過程 第1節 ラテンアメリカ経済史の時期区分</p> <p>3. 第2節 植民地期以前の先コロンブス期（—15世紀末）コロンブス一行到来以前の先住民社会の概観</p> <p>4. 第3節 植民地期（15世紀末—19世紀初め）</p> <p>5. 第4節 独立期（19世紀初め—19世紀半ば）</p> <p>6. 第5節 第一次産品輸出経済確立期（19世紀半ば—1929年恐慌）</p> <p>7. 第6節 工業化から地域統合に至る時期（1929年恐慌—1980年代）</p> <p>8. 第6節 同上</p> <p>9. 第7節 グローバル化と新自由主義経済（1990年代—現在）</p> <p>10. 第7節 同上</p> <p>11. 第2章 ラテンアメリカ経済社会の現状と課題</p> <p>12. 第2章 同上</p> <p>13. 第3章 ラテンアメリカの開発思想・理論・政策</p> <p>14. 第4章 ラテンアメリカと日本の経済関係</p> <p>15. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考書）国本伊代・中川文雄編『ラテンアメリカ研究への招待』新評論、2005、今井圭子編『ラテンアメリカ 開発の思想』日本経済評論社、2004、西島章次・小池洋一編著『現代ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2011、宇佐見耕一他『図説ラテンアメリカ経済』日本経済評論社、2009。</p>		<p>授業中にリアクション・ペーパー、学期末にレポートを提出。リアクション・ペーパー(20%)、授業参加状況(20%)、レポート(60%)で評価する。</p>	

13年度以降 12年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 (ラテンアメリカ経済発展論) スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ (ラテンアメリカ経済発展論)	担当者	今井 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. ラテンアメリカの経済を理解するために、まず基礎的な経済理論、経済用語について学ぶ。</p> <p>2. ラテンアメリカ経済の現状と特質を、その政治社会構造を踏まえながら理解する。ラテンアメリカ経済の主要なテーマをとりあげ、その現状と課題、政策について考察する。こうした問題への理解を深めながら、経済のグローバル化がラテンアメリカ経済に及ぼしてきた影響を、WTOとラテンアメリカの経済統合・自由貿易協定、経済の自由化と格差問題、開発と環境などを中心に考察し、持続可能な発展の可能性について考える。</p> <p>3. 以上を理解した上で、日本とラテンアメリカの経済関係について、貿易、投資、政府開発援助を中心に考察し、今後の望ましい方向性について考える。</p> <p>授業は、講義、関連資料の解説、ディスカッション等の形で進められるので、積極的参加を歓迎する。</p>		<p>1. 序、第1章 経済学の基礎 第1節 経済学的な考え方、ミクロ経済学・マクロ経済学</p> <p>第2節 市場原理—需要・供給と価格</p> <p>2. 第3節 公共部門・経済政策</p> <p>3. 第4節 雇用・失業問題・雇用政策</p> <p>4. 第5節 インフレ・デフレ、財政・金融政策</p> <p>5. 第6節 貿易・対外投資・国際収支・為替レート</p> <p>6. 第2章 ラテンアメリカ経済の現状と課題 第1節 マクロ経済の現状と諸問題、経済の自由化</p> <p>7. 第2節 経済開発と政府の役割</p> <p>8. 第3節 経済成長と企業</p> <p>9. 第4節 人的資本と教育、技術開発</p> <p>10. 第5節 雇用・格差・貧困問題と労働・社会政策</p> <p>11. 第6節 農業と土地所有制度、第一次産品輸出経済</p> <p>12. 第7節 経済のグローバル化と貿易、国際資本移動</p> <p>13. 第8節 環境問題と環境政策</p> <p>14. 第9節 日本とラテンアメリカの経済関係</p> <p>15. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(参考書) 宇佐見耕一他共著『図説 ラテンアメリカ経済』日本評論社、2009年、西島章次・小池洋一編著『現代ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2011年、ジョセフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ『スティグリッツ 入門経済学』東洋経済、最新版、今井圭子『アルゼンチン研究の基礎資料—国勢調査・経済社会統計—』上智大学、イペロアメリカ研究所、2008年など。</p>		<p>授業中に課したリアクション・ペーパー(20%)、授業参加状況(20%)、レポート(60%)で評価する。</p>	

13年度以降 12年度以前	ブラジル研究 スペイン・ラテンアメリカ研究各論V (ブラジル研究)	担当者	E. ウラノ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ブラジルは、2014年にワールドカップ、2016年にはオリンピック開催を迎えており、世界で注目されている新興国の一つである。</p> <p>この授業では、「未来の大国」ブラジルがもつ可能性を、社会・経済・政治面から解説する。例えば、最近の経済成長をどのようなファクターが支えているのか。これから持続可能な成長を成し遂げるためには、どのような改革や政策が必要なのか。これらの課題について、特に1960年代以降の歴史的経緯に言及しながら、ブラジルのグローバルプレーヤーとしての可能性について解説し、講義をすすめる。</p> <p>近年目立つ出来事として、BRICsやG20などを通じた多極的外交、経済成長、格差の是正による新中間層の形成、ブラジル企業の多国籍化、油田開発などがあげられる。こうした変貌はどのような基盤により実現されているのだろうか。また、日本とブラジルは、今後、経済・文化・外交面でどのように関係を強化していけるのか。</p> <p>講義の目的は、受講生が積極的にこれらの内容について考え、ブラジルというテーマについて独自の視点を開発することにある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：世界のなかのブラジル 2. 政治経済：「失われた80年代」 3. 政治経済：90年代、インフレーション、経済安定化 4. 政治経済：2000年代、経済成長への道 5. 格差社会の是正に向けて：Bolsa Família 6. 格差社会の是正に向けて：新中間層 7. 映像から見たブラジル 8. 映像から見たブラジル 9. 持続可能な成長への課題：教育・インフラ整備 10. 持続可能な成長への課題：世界情勢 11. 産業開発：農業、油田開発、代替エネルギー 12. BRICs、南南関係：多極的外交の展開 13. 日本の中のブラジル：在日ブラジル人移住者 14. ワールドカップより教育・医療の充実：2013年のデモを考える 15. まとめ：「未来の大国」から「現在の大国」？ <p>※トピックごとに可能な限り映像資料もまじえて授業を進める予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストブック 堀坂浩太郎 (2012) 『ブラジル—跳躍の軌跡』、岩波新書。</p>		<p>基本的には学期末の筆記試験による評価を行う (70%)。他、授業内ペーパー・レポートを加味した評価とする (30%)。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 a) スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 I (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 a)	担当者	P. ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objetivo del curso:</p> <p>1. La enseñanza de la cultura y la civilización españolas desde sus orígenes hasta la actualidad. Se pondrá énfasis en los periodos históricos más importantes, así como en los artistas más destacadas de cada época.</p> <p>2. Desarrollar:</p> <ul style="list-style-type: none"> -La comprensión lectora a través de la lectura de textos escritos. -La expresión oral mediante los diálogos que se llevan a cabo durante la clase. -La comprensión oral a través de las explicaciones de la profesora. -Expresión escrita por medio de las tareas que hay que realizar al finalizar cada tema . <p>Destinatarios: alumnos que posean un conocimiento general de la gramática española.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Presentación del curso. 2. Introducción.: geografía y relieve I 3. Geografía y relieve II 4. Los albores del arte español: <i>La cueva de Altamira</i>. 5. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas I. 6. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas II. 7. La romanización y sus consecuencias I. 8. La romanización y sus consecuencias II 9. Las invasiones germánicas (s. V). La sociedad y el arte visigodo. 10. La invasión musulmana (s. VIII). Sociedad, cultura y arte árabe. 11. la Alhambra de Granada y los jardines del Generalife I. 12. La Alhambra de Granada y los jardines del Generalife II. 13. La Reconquista (ss.XI-XIII). 14. La sociedad medieval. Castillos y ciudades medievales . 15. Película sobre alguno de los temas tratados. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
No es necesario.		La entrega de una tarea por cada tema estudiado. La asistencia a clase es importantísima.	

13年度以降 12年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 b) スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 II (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 b)	担当者	P. ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ver el apartado anterior.		<ol style="list-style-type: none"> 1. El arte durante la Reconquista: el románico. 2. El arte durante la Reconquista: el gótico 3. El Camino de Santiago (Patrimonio de la humanidad). 4. Haciendo el camino. 5. <i>La Celestina</i>: el paso de la Edad Media al Renacimiento I 6. <i>La Celestina</i>: el paso de la Edad Media al Renacimiento II. 7. Los Siglos de Oro: el Renacimiento (XVI). 8. El Greco (1541-1614), un pintor manierista. 9. La arquitectura renacentista: El Monasterio de El Escorial. 10. Los Siglos de Oro: el Barroco (s. XVIII). 11. Diego de Velázquez (1599-1660), un pintor barroco. 12. Otros pintores barrocos: Murillo (1617-1682), Zurbarán (1598-1664) y Ribera (1591-1652). 13. Francisco de Goya (1746-1828), un pintor entre el Romanticismo y la Ilustración I. 14. Francisco de Goya (1746-1828), un pintor entre el Romanticismo y la Ilustración II. 15. Película sobre alguno de los temas tratados. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
No es necesario.		La entrega de una tarea por cada tema estudiado. La asistencia a clase es importantísima.	

13年度以降 12年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化) スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	担当者	倉田 量介
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、スペインとその旧植民地という位置づけにあるラテンアメリカのパフォーミングアーツ(音楽、ダンス、演劇)ならびに映画を扱います。欧米や日本の事情と比較することで、背景となる社会や時代の諸相を考察します。</p> <p>この地域の音楽はダンスと一対に様式化されてきたことから、まず身体技法について触れます。クレオールを筆頭に文化混雑がキーワードとなるため、冒頭の回では、成分にあたる要素を個別に検討します。世界のポピュラー音楽に影響を与えたキューバの事例が軸となります。中盤では、対抗文化に着目し、クラブカルチャーを幅広く概観します。ジャマイカのレコード産業やサンバやボサノヴァで知られるブラジルの多様性を描いたドキュメンタリーも観ます。終盤では、音楽やダンスが舞台芸術化していく過程、それらが国民文化に転換する軌跡を追います。広報メディアとしての映画、それが大衆(マス)の間に創りだすステレオタイプを分析するため、日本の娯楽も視野に入れて対照させます。</p> <p>近年、民謡や民俗芸能に関心を示すDJが日本でも急増しているようです。ルーツとは何か。一緒に議論しましょう。</p> <p>音楽研究一般の可能性を吟味しつつ、各自の関心に応じた題目を選んでもらい、レポート作成の手引きをします。後半の授業では、スペイン語圏に限らず、非スペイン語圏の文化にも視野を広げます。Jポップ・演歌・大衆演劇といった日本の事例も取り込む予定です。芸術には、文学・美術・映画などの分野が含まれます。講義の主たる対象は芸能、議論の基盤は人類学ですが、表象文化全般を分析します。視聴覚資料、楽器紹介、日本語訳などでスペイン語履修者以外にも配慮します。丸暗記は不要です。思索力を磨く場として、時間を有効に活かしてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. VTR を交えたイントロダクション 2. カリブ海地域キューバの音楽やダンスにみる文化混雑 3. スペイン系弦楽器にみる口頭伝承的な弾き語り 4. アフリカ系太鼓にみるポリリズムとコール&レスポンス 5. フォルクローレは民謡か 6. 世界を巻き込むポピュラー音楽と世界で渦巻く対抗文化 7. 北米移民ラティノーやチカーノらの日常生活とサルサ他 8. カット&ミックス、ジャマイカのスカ・レゲエ・ダブ... 9. クラブカルチャーのラップから里帰りのなレゲトンへ 10. 音楽大国ブラジルにおけるトロピカリヤや農民音楽 11. ラテンアメリカの映画とストーリーミング等のメディア更新 12. 大陸(ペルー、ボリビア、アルゼンチン...)と島々の概要 13. 民俗芸能(音楽、ダンス)から国民文化的な舞台演劇へ 14. 日本の「大衆演劇」、創られた「ラテン歌謡」やJポップ 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配り、進捗に応じた参考文献を紹介する。講義内容に準ずる論集として以下をあげておく。石橋純編『中南米の音楽』(東京堂出版, 2010, 978-4490206678)		平常授業の感想紙におけるコメントなどの実績(30%)と期末レポート(70%)	

13年度以降 12年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(スペイン・ラテンアメリカの社会文化) スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的)</p> <p>この講義の目標は、ラテンアメリカの社会と文化の特徴を歴史的な形成過程と地理的状況とともに学び、現在におけるラテンアメリカ文化と社会との関係について理解することにある。</p> <p>ラテンアメリカとは何か、今日のラテンアメリカの特徴はどのように形成されてきたのか、また、ラテンアメリカと呼ばれる地域の相違について理解を深めることを目標とする。</p> <p>(講義概要)</p> <p>ラテンアメリカの社会と文化について、いくつかのトピックスに分けて、地域ごとの特徴を提示しながら説明する。毎回、映像などの具体的な資料を提示し、その資料をもとに授業計画に沿って授業を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 受講上の注意 2. ラテンアメリカに関する基礎知識 3. 国際社会におけるラテンアメリカの位置づけ 4. ラテンアメリカの全体的特徴 5. ラテンアメリカの社会構造 その1 6. ラテンアメリカの社会構造 その2 7. ラテンアメリカにおける“人種”概念 8. ラテンアメリカにおける男と女 9. ラテンアメリカにおける男女観と“人種”概念 10. ラテンアメリカにおける男女観と“人種”、および社会構造 11. 先住民の文化と社会的地位 12. 国際社会における先住民の文化と社会的地位 13. ラテンアメリカの連帯意識 14. 今日のラテンアメリカと今後の展望 15. 論述試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献については授業中にその都度指示する。		学期末に行なう筆記試験を中心に評価する。よって、出席票を書くだけの受動的な学生には不向きであることを心得てほしい。初回のオリエンテーションには必ず出席すること。	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(専門講読)	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語を精読する授業である。 今回はチリ、アルゼンチン出身の作家の短編を集めたアンソロジー <i>Vagón Fumador</i> 「喫煙車」を読む。 スペイン語を訳すという作業に最も必要な、「構造的に読む」ということを意識しながら、1行1行を味わいたい。 短編であるため、秋学期を通じて3話から4話を読み終えたいと考える。</p>		① オリエンテーション (本と作家の紹介) ② <i>Noventa días</i> 1 (Alejandro Zambra) ③ <i>Noventa días</i> 2 ④ <i>Noventa días</i> 3 ⑤ <i>Noventa días</i> 4 ⑥ <i>Stainbarguer</i> 1 (Sol Prieto) ⑦ <i>Stainbarguer</i> 2 ⑧ <i>Stainbarguer</i> 3 ⑨ <i>Stainbarguer</i> 4 ⑩ <i>Stainbarguer</i> 5 ⑪ <i>Stainbarguer</i> 6 ⑫ <i>Stainbarguer</i> 7 ⑬ <i>Apagar</i> 1 (Daniel Durand) ⑭ <i>Apagar</i> 2 ⑮ <i>Apagar</i> 3	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		授業への参加度、定期試験によって評価する。	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12年度以前	スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語圏の人文学的な研究をする際に必要となる情報の収集法について考え、実践する講義である。</p> <p>スペイン・ラテンアメリカ研究の各テーマに必要な情報(源)の特定の方法を考え、実際にいくつかのテーマに沿って実践する。</p> <p>情報(源)の特定を完了した後、具体的にその情報を提供するメディアの収集を行う。刊行物を中心とした文献、各種メディア(CD・DVD、インターネット、人間等)を調査し、設定したテーマに適した情報を取り出す練習をする。また、各メディアの著作権についても触れる。</p> <p>集めた情報の整理の方法、プレゼンテーションの仕方についても学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 情報を集めるテーマの選定 ② 文献の調査法・情報収集法 1 ③ 文献の調査法・情報収集法 2 ④ 文献の調査法・情報収集法 3 ⑤ 大学内での調査法・情報収集法 1 ⑥ 大学外での調査法・情報収集法 2 ⑦ CD, DVD 等メディアの調査法・情報収集法 ⑧ CD, DVD 等メディアの調査法・情報収集法 ⑨ インターネット上の調査法・情報収集法 1 ⑩ インターネット上の調査法・情報収集法 2 ⑪ インターネット上の調査法・情報収集法 3 ⑫ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 1 ⑬ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 2 ⑭ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 3 ⑮ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 4 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		授業への参加度、プレゼンテーションによって評価する。	

13年度以降 12年度以前	中国研究概論 中国研究入門	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国研究のために役立つ、基礎的な知識を身につけることを目標とする。</p> <p>中国人の現代生活と深い関わりを持つ、文化・政治・社会・経済などに関わる諸トピックをとりあげ、関連する中国語キーワードとともに、現代中国への理解への手がかりとする。</p> <p>本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には、授業ごとに何らかの形で、参加者からの発言・質問を求める。また、授業中に小課題の提出を課すこともある。</p> <p>授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 生活の知恵：歴史ドラマ 3 生活の知恵：あそび 4 武術と健康法 5 中国映画(1) 6 中国映画(2) 7 中国映画(3) 8 現代中国の学園生活 9 家族と家庭生活 10 現代中国の職場環境 11 現代中国の産業 12 中国の投資対象 13 中国人の収入 14 冠婚葬祭 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。参考文献については授業中に示す。		平常点（授業への参加度等）[30%]、小課題 [30%]、期末試験 [40%] を評価対象とする。	

13年度以降 12年度以前	中国社会学論 中国研究Ⅰ（中国社会学論）	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国家の運営と民衆の生活双方に関わる事物をとりあげて論じ、これを通して現在の中国および中国語圏各地域への理解を深めることを目的とする。</p> <p>具体的なトピックとして挙げるのは祝祭日、国旗、市民権、少数民族の権利、国境線、文字などである。どれも国家・民族の象徴と関わる事物であるが、同時に国内に住む全ての人の生活と切り離せない関係にある。こうしたものに対する個々人の距離のとり方、アイデンティティの所在なども視野に入れながら、履修生とともに考えたい。</p> <p>本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には、授業ごとに何らかの形で、参加者からの発言・質問を求める。また、授業中に小課題の提出を課すこともある。</p> <p>授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 祝祭日（1）—台湾の場合 3 祝祭日（2）—現代中国の場合 4 国旗・国歌 5 国籍・市民権（1）—本土中国 6 国籍・市民権（2）—台湾 7 国籍・市民権（3）—香港 8 移住、華僑・華人 9 少数民族の特別権利 10 地方各レベルの自治権 11 国境線・領土権 12 文字とことば 13 姓名 14 共産党の統治体制について改めて考える 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。参考文献については授業中に示す。		平常点（授業への参加度等）[30%]、小課題 [30%]、期末試験 [40%] を評価対象とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降	中国地域論	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>広州・上海・北京などの主要都市および、東北・内陸・国境地帯の各省について、その地域の特徴（主要な住民の構成、主要産業、地域の歴史など）を解説し、履修者には各地の現状・各地方の生活者に対する理解を深めてもらう。</p> <p>ある意味で、これまで身につけてきた中国に関する知識を別の角度から総括することになるであろう。</p> <p>本授業は、「中国研究各論（現代中国論）」の一部内容を受け継ぎ、教職課程に対応するものとして、改めて履修者に開講するものである。</p> <p>本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には、授業ごとに何らかの形で、参加者からの発言・質問を求める。また、授業中に小課題の提出を課すこともある。</p> <p>授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスー「中華料理」は存在するか 2 広州・深圳と対外貿易 3 上海と工業・金融 4 重工業と東北三省 5 山東省とドイツ 6 出稼ぎ供給地としての華中地域 7 革命故地、延安・井冈山・遵義等 8 首都、北京 9 古都、西安・杭州・南京 10 四川省とパンダ・遺跡・少数民族 11 雲南と少数民族 12 内モンゴルと草原・モンゴル族 13 新疆ウイグル自治区と中央アジア 14 チベット・チベット族と高原地帯 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献については授業中に示す。		平常点（授業への参加度等）[30%]、小課題 [30%]、期末試験 [40%] を評価対象とする。	

13年度以降 12年度以前	現代中国論 I 中国研究各論 I (現代中国論 a)	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代中国語世界の多様性を理解するための一つの方法として、本授業では民族・エスニシティを主なトピックとしてアプローチを試みる。</p> <p>広大な面積を擁する中国国内には、多くの民族が暮らしている。本授業では、他の国の多文化共存のあり方と比較しつつ、多民族国家・中国の実態について検討する。</p> <p>本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には、授業ごとに何らかの形で、参加者からの発言・質問を求める。また、授業中に小課題の提出を課すこともある。</p> <p>授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 多言語政策 3 多文化主義 4 多民族国家 5 モンゴル族 6 彝族 7 チベット族 8 チワン族 9 トン族 10 ミャオ族 11 回族 12 ジンポー族 13 ワ族 14 タイ族 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。参考文献については授業中に示す。		平常点 (授業への参加度等) [30%]、小課題 [30%]、期末試験 [40%] を評価対象とする。	

13年度以降 12年度以前	現代中国論 II 中国研究各論 II (現代中国論 b)	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、前学期からエスニシティをテーマとして引き継ぎ、中国語圏の中でも台湾に限って、紹介・検討を行う。これにより、現代中国語世界への理解を深めることを目標とする。</p> <p>まずは台湾社会を構成する主なエスニシティについて紹介し、歴史・言語・地理環境などについて解説を行う。それらを踏まえて台湾内の社会の変化やその意義についても触れる。</p> <p>本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には、授業ごとに何らかの形で、参加者からの発言・質問を求める。また、授業中に小課題の提出を課すこともある。</p> <p>授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 現代政治と四大族群 3 台湾のマジョリティ—閩南人 4 政治的対立の起源—二二八事件について 1 5 二二八事件について 2 6 マイノリティ—先住民と客家 7 日本史・中国史・先住民史—台湾出兵 8 日本統治時代のエスニシティ状況 9 日本史と先住民史の交錯、再び—霧社事件 10 エスニシティと社会運動：先住民 11 エスニシティと社会運動：客家 12 境界線上の民族 1—平埔族 13 境界線上の民族 2—少数民族の外省人 14 ことばと名前を通して日中台の関係を考える 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。参考文献については授業中に示す。		平常点 (授業への参加度等) [30%]、小課題 [30%]、期末試験 [40%] を評価対象とする。	

13年度以降 12年度以前	中国史Ⅰ 中国研究Ⅲ（中国史 a）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。</p> <p>19世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。</p> <p>清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思えます。</p> <p>中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。</p>		<p>第1回：講義の概要 第2回：清朝体制下の国家 第3回：清朝体制下の社会 第4回：アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺 第5回：太平天国 第6回：体制の反撃 第7回：洋務運動 第8回：中体西用の諸相 第9回：開港場の社会と経済 第10回：周辺地域宗主権の喪失 1 第11回：周辺地域宗主権の喪失 2 第12回：琉球問題と台湾出兵 第13回：朝鮮をめぐる日中対立 1 第14回：朝鮮をめぐる日中対立 2 第15回：講義のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22-19）中央公論新社，2008年。		平常点 10%，授業への参加度 10%，期末試験 80%	

13年度以降 12年度以前	中国史Ⅱ 中国研究Ⅳ（中国史 b）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。</p> <p>日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々、さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し、また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら、中華民国初期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。</p> <p>中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。</p>		<p>第1回：講義の概要 第2回：日清戦争 第3回：台湾の割譲と台湾住民の抵抗 第4回：変法改革 第5回：戊戌の政変 第6回：キリスト教布教と仇教運動 第7回：義和団の蜂起 1 第8回：義和団の蜂起 1 第9回：纏足問題と天足運動 1 第10回：纏足問題と天足運動 2 第11回：革命派の台頭 第12回：光緒新政と地方自治の試み 第13回：王朝体制の崩壊と中華民国の成立 第14回：第二革命と袁世凱政権の成立 第15回：講義のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22-19）中央公論新社，2008年。		平常点 10%，授業への参加度 10%，期末試験 80%	

13年度以降 12年度以前	中国特殊研究（日中比較文化研究 a） 中国特殊研究 I（日中比較文化論 a）	担当者	大澤 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
第1部 日本人の見た「中国」、中国人の考えた「日本」 経済・政治などが地球上で均一化していく「グローバル（全球）化」の中で、日本と中国の地域的な対立は世界的にも注目を集めている。「政冷経熱」（政治上は対立するが、経済的には交流が深まる）が「政冷経冷」（政治的にも経済的にも対立する）、更には日中間の「文明の衝突」に向かわないためには、日本と中国との間の文化の違いや日本人と中国人の思考の差異を冷静な目で見る必要があるだろう。卑弥呼の時代の日中交流から、現代のネット上の発言まで、「日本人が中国をどう捉えたか、中国人が日本をどう見たか」を題材に、日中両国の文化を世界的な視点で、比較していきたい。		1 「支那」と「小日本」——ネット上に溢れる蔑称 2 「徐福伝説」と「呉太伯」（大陸文化の渡来） 3 「聖徳太子」と「空海」（遣唐使が見た中国） 4 「慈覚大師円仁」と「浜松中納言」（大陸文化からの自立） 5 「武家政権」と「科挙政治」（中国化を免れた日本） 6 「日本国王」と「室町文化」（日本文化の成立） 7 「南蛮文化」の渡来と日中衝突（「文化世界」の拡大） 8 「江戸」と「長崎」（近松門左衛門と荻生徂来が考えた「聖人君子の国」） 9 「黒船来航」と「アヘン戦争」（高杉晋作の上海渡航と崩壊する「中華世界」） 10 「文明開化」と「中体西用」（黄遵憲と梁啓超） 11 「合わせ鏡」としての日中関係（夏目漱石と芥川龍之介） 12 「同文同種」の分裂と衝突（蒋介石と横光利一） 13 「激変中国」と「平和日本」（日中文化人のそれぞれの生き方。老舎・郭沫若と堀田善衛・火野葦平） 14 台湾・香港・シンガポールの華人が見た日本 15 「日本文明」と「中華文明」（互いに偏見をもたず理解）	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、プリントを配布する予定。 参考文献は、授業の中で適宜紹介する。		授業への積極的な参加、毎回の授業で提出させる「課題レポート」の評価をもとに総合的に判定する。	

13年度以降 12年度以前	中国特殊研究（日中比較文化研究 b） 中国特殊研究 II（日中比較文化論 b）	担当者	大澤 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
第2部 「竜の文明」と「くじらの文化」 日本人と中国人は、一見するとまったく見分けがつかないほど、顔立ちには似ているが暮らしの上では、大きな違いが見られる。日本では「衣食住」（3文字）が日常の暮らしに欠かせないものと言うが、中国では“衣食住行”（4文字）と言い、交通手段も人間の生活に於いて必要不可欠なものとする。また家族観や結婚・性生活についても両国の間ではかなり異なる点がある。19世紀、「西欧の衝撃」を受けて近代化する過程に於いて、日本では「和魂洋才」から「文明開化」に進んでいったが、中国では“中体西用”と言って欧米文明の先進性をなかなか認めようとしなかった。こうした日中の文化や思考の違いを、キーワードで具体的に見ることで、日中間の「文明の和解」の一助としたい。		1 「顔」と「文化」——外見はそっくりだが 2 「国の形」（国号・国旗・国歌）が異なる日本と中国 3 （食）「水の料理」と「火の料理」 4 （政治）姓のない天皇、姓をもつ皇帝 5 （住）「木の家屋」と「土の城壁」 6 （考え方）「恥の文化」と「誇り（驕）の文明」 7 （衣）「柄の着物（和服）」と「色の衣服」 8 （生き方）「縮み志向」と「巨大願望」 9 （行）「歩く文化」と「乗る文明」 10 （生と死）日本の「幽霊」と中国の「妖怪」 11 （言語）「以心伝心」と“討価還価” 12 （芸術）派手な「浮世絵」と地味な「文人画」 13 （家族）公儀に対する「忠」と父母に尽くす「孝」 14 （社会）「金太郎アメ」世間と「クモの巣」関係 15 「くじらの文化」と「竜の文明」（地球文明と文明の衝突）	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、プリントを配布する予定。 参考文献は、授業の中で適宜紹介する。		授業への積極的な参加、毎回の授業で提出させる「課題レポート」の評価をもとに総合的に判定する。	

13年度以降 12年度以前	中国特殊研究（中国文学研究 a） 中国特殊研究Ⅲ（中国文学研究古典）	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国の代表的な古典文学作品を取り上げて日中両国語のテキストを対照しながら学んでいきます。</p> <p>授業で扱う古典文学作品は中国では現代でも知らぬ人のないものばかりです。日常的な会話の中でも古典文学に典拠をもつ成語や慣用句は多く使われています。「古典」ではありますが、全て現代の生きた中国語において力強い生命を保ち続けていると言えます。特に教養ある中国人の言葉の端々にのぼる成語や慣用句を理解できてこそ、真の意味で中国語を理解できるのです。</p> <p>なお、授業計画第6回目以降に挙げた作品（小説）は学生の興味とレベルによって変更する可能性があります。</p>		<p>第1回 全体ガイダンス</p> <p>第2回 古詩 陶淵明・謝礼運</p> <p>第3回 古詩 李白・杜甫</p> <p>第4回 古詩 蘇軾・王維</p> <p>第5回 古詩 白樂天</p> <p>第6回 唐代伝奇 『枕中記』と『杜子春』</p> <p>第7回 唐代伝奇 『人虎記』と『山月記』</p> <p>第8回 説話文学 『白蛇伝』</p> <p>第9回 章回小説 『西遊記』</p> <p>第10回 章回小説 『西遊記』</p> <p>第11回 章回小説 『西遊記』</p> <p>第12回 章回小説 『水滸伝』</p> <p>第13回 章回小説 『水滸伝』</p> <p>第14回 章回小説 『水滸伝』</p> <p>第15回 全体のまとめ、期末レポートに関する説明</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
指定教科書は使いません。講義資料はそのつど印刷物を配布します。		平常点と期末レポートにより評価します。	

13年度以降 12年度以前	中国特殊研究（中国文学研究 b） 中国特殊研究Ⅳ（中国文学研究現代）	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国の代表的な近現代文学作品を取り上げて日中両国語のテキストを対照しながら学んでいきます。</p> <p>第8回までの授業で扱う近現代文学作品は中国では国語の教科書に取り上げられるような知らぬ人のないものばかりです。日常的な会話の中でも触れられることがあり、中国語を学ぶ上でも必須の教養であるといえましょう。</p> <p>また、長編小説で取り上げる2作品は現代文学のベストセラーですので、現在の中国社会と中国人の生活や考え方を理解するために大いに役に立ちます。</p> <p>授業は学生の発表を中心に行いますので、担当する作品についてレジュメを作成し、プレゼンを行い、さらに学期末レポートをまとめてください。</p>		<p>第1回 全体ガイダンス</p> <p>第2回 随筆 1 老舍</p> <p>第3回 随筆 2 巴金</p> <p>第4回 随筆 3 朱自清</p> <p>第5回 随筆 4 葉聖陶</p> <p>第6回 短編小説 1 魯迅</p> <p>第7回 短編小説 2 莫言</p> <p>第8回 短編小説 3 史鉄生</p> <p>第9回 長編小説 余華『兄弟』 1</p> <p>第10回 長編小説 余華『兄弟』 2</p> <p>第11回 長編小説 余華『兄弟』 3</p> <p>第12回 長編小説 六六『蝸居』 1</p> <p>第13回 長編小説 六六『蝸居』 2</p> <p>第14回 長編小説 六六『蝸居』 3</p> <p>第15回 全体のまとめ、期末レポートに関する説明</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
指定教科書は使いません。講義資料はそのつど印刷物を配布します。		平常点と期末レポートにより評価します。	

13年度以降 12年度以前	中国特殊研究（日中交流史） 中国研究各論Ⅲ（日中交流史）	担当者	大澤 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
日中「書籍之路」（ブックロード）を辿る 「一衣帯水」と呼ばれる日中関係は、モノ特に書籍の交流が、互いの現在の文化を築いたと言っても過言ではないだろう。「本」は、古代に於いては一方的に中国から日本へ流れたが、列島へ伝来した貴重な書物は保存され、書写され、幾度も戦乱に見舞われた大陸では失われたものも後世にまで伝わった。すでに宋代、大陸では散佚した鄭玄注『孝経』などを日本僧が太宗に献上し、皇帝を驚かせた。明治維新以降、大陸から多くの文化人が列島を訪れ、神保町などで中国では書籍の題名しか知られていなかった「幻の本」を発見し、大陸へ持ち帰った。この時代、古典の漢籍だけではなく、欧米の思想・哲学や文学なども日本語訳されたものが中国に流入し、大きな影響を与えた。戦後、とりわけ改革開放以降、日中の出版界の交流は深化し、私自身が直接経験した、日本での中国語辞典、中国での日本語辞典の「共同編集」など多くの新たな「書籍之路」が開かれた。日中の2000年にわたる文字・書籍・文化の交流の歴史を自らの40年の体験も踏まえながら、振り返る。		1 「本」とは何だろう？人類の最大の発明「書籍」が生まれるまで 2 「書籍之路」（本の道：Book Road）と日中「海上の路」 3 『万葉集』に影響を与えた『詩経』ほか（日本に残された中国の古典） 4 『源氏物語』と『長恨歌』（遣唐使が舶載した書籍） 5 宋の皇帝を驚かせた日本僧の献上品 6 宋代の印刷術の発展と出版文化 7 徳川家康は「活字人間」だった（活版印刷の伝来） 8 徳川吉宗が長崎貿易で清国から得たもの 9 ベストセラー仕掛け人・蔦屋重三郎（江戸の出版文化） 10 清末の視察官が神田で得たもの（神保町と清国留学生） 11 アジアの貴重な書籍を残した「東洋文庫」の功績 12 日本語訳から中国語に「重訳」された欧米の書籍 13 中国最古の近代出版社・（上海）商務印書館の成立 14 小学館社員として「人民中国雑誌社」「商務印書館」と共同編集事業を行う 15 ネット社会での「ブックロード」を考える	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、プリントを配布する予定。 参考文献は、授業の中で適宜紹介する。		授業への積極的な参加、毎回の授業で提出させる「課題レポート」の評価をもとに総合的に判定する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	韓国研究概論 韓国研究入門	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講座は、韓国研究のための最初の一步であり、現代韓国に関する基本的な知識を総合的に幅広く身につけることを目標とする。</p> <p>履修者には、課題の提出と講義への積極的な参加が期待される。</p> <p>※※初回講義には必ず出席すること※※</p>		<p>1 イントロ①ー講義紹介 2 イントロ②ー韓国の基礎知識 3 イントロ③ー統計で見た韓国・韓国人 4～7 朝鮮半島の歴史基礎 8～11 現代韓国社会の論点 12～15 朝鮮半島から日本を考える</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜紹介していく。		討論、期末テスト	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	韓国社会論 I 韓国研究各論 I (韓国社会各論 a)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、韓国ポピュラー文化を通じて韓国の文化、社会、歴史を考察していく。日本との類似点、相違点等を自ら発見して行ってほしい。</p> <p>※※初回講義には必ず出席すること※※</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロ① 講義紹介 2 イントロ② ポピュラー文化を考える、とは 3 韓国メディア論① 4 韓国メディア論② 5 韓国映画の世界① 6 韓国映画の世界② 7 韓国映画の世界③ 8 韓流とは① 9 韓流とは② 10 韓国ポップの歴史と現在 1960年代 11 韓国ポップの歴史と現在 1960年代 12 韓国ポップの歴史と現在 1970年代 13 韓国ポップの歴史と現在 1970年代 14 Kpop と日本 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回講義時に提示する。		期末テスト	

13年度以降 12年度以前	韓国社会論 II 韓国研究 II (韓国社会論)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、変化の著しい韓国社会をジェンダーの視点で読み解いていく。</p> <p>とりわけ講義の前半では韓国社会の「家族」をめぐるさまざまな変化に焦点を当てて論じ、後半には、徴兵制度や、日本と韓国間の歴史問題などに焦点を当てていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション-講義紹介 2 ジェンダーとは 3 韓国社会の女と男① - 家父長制のはなし (1) 4 韓国社会の女と男② - 家父長制のはなし (2) 5 韓国社会の女と男③-マネージメントママとは 6 ジェンダーと制度① - 法と制度の変遷 7 ジェンダーと制度② - 少子高齢化社会・韓国 8 変わりゆく「家族」① - シングル女性をめぐる 9 変わりゆく「家族」② - ひとり親世帯の現状 10 変わりゆく「家族」③ - 「多文化」家族について 11 軍隊とジェンダー① - 徴兵制について 12 軍隊とジェンダー② - 「軍事化された社会」とは 13 歴史とジェンダー① 14 歴史とジェンダー② 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜紹介していく。		期末テスト	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	韓国経済論 韓国研究各論Ⅱ（韓国社会各論b）	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界で最も貧しい国の一つであった韓国が、40年ばかりで工業国に変貌し、経済的に成功した。一方、韓国経済の成功は韓国社会に大きな社会変化をもたらしている。この講義は、この40年間にわたる韓国の発展過程において社会はどのように変貌したのか、経済成長と社会変容を担ったのは何か、ということを明らかにすることを目的とする。</p> <p>まず経済発展以前の韓国社会の構造を家族、血縁関係を中心に検討する。韓国の経済発展と開発戦略がどのようにもたらされてきたのかを考察する。また経済成長による韓国社会の変化を人口移動、教育の変化、中間層の形成などを中心に検討する。社会発展過程において「財閥」と呼ばれる巨大なビジネス・グループがなぜ、いかに形成されたのかを探る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 韓国の歴史、政治（1） 2. 韓国の歴史、政治（2） 3. 家族の構造 4. 社会の人間関係ネットワーク 5. 経済成長の社会学的考察 6. 経済成長をどう表すか 7. 二重構造モデル（ルイス・モデル） 8. 経済発展と後発性利益 9. 韓国の経済成長（1） 10. 韓国の経済成長（2） 11. 工業化パターンー日本モデル 12. 輸出志向工業化と輸入代替工業化 13. 韓国の財閥 14. 日・韓経済関係 15. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の授業にてテキスト、参考文献を紹介する。必要に応じて資料を配布する。		試験によって評価する。	

13年度以降 12年度以前	韓国史 韓国研究Ⅰ（韓国史）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨今の韓流ブームにより、私たちは韓国に関する情報に触れやすくなった。しかし残念なことに、韓国の歴史については知らないことが多いと思われ。韓国の歴史を知ることは、同時に日本の歴史を知ることでもあり、相互理解にとってとても大事なことである。</p> <p>このことをふまえ、本講義では韓国（朝鮮半島）の通史を講義する。講義の進め方は、プリントを配布し、それに基づいて話をする。</p> <p>なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充てる。これも成績評価の対象とするので、テキストを持参の上、きちんと授業を聴くこと。</p>		<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2回： 古代から統一新羅へ（1）</p> <p>第3回： 古代から統一新羅へ（2）</p> <p>第4回： 高麗時代（1）</p> <p>第5回： 高麗時代（2）</p> <p>第6回： 朝鮮時代（1）</p> <p>第7回： 朝鮮時代（2）</p> <p>第8回： 朝鮮時代（3）</p> <p>第9回： 植民地時代（1）</p> <p>第10回： 植民地時代（2）</p> <p>第11回： 現代（1）1945年から1960年</p> <p>第12回： 現代（2）1960年から1980年</p> <p>第13回： 現代（3）1980年から2000年</p> <p>第14回： 現代（4）2000年以後</p> <p>第15回： まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは水野俊平著『韓国の歴史』（河出書房新社、2007年、1800円）。参考文献は授業時に指示する。</p>		<p>評価の基準は、1 古代から現代に至る韓国（朝鮮半島）の歴史についての基本的知識を得ることができたか。2・韓国（朝鮮半島）の歴史を通して、韓国（朝鮮半島）の現代的課題を見出すことができたか。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	日韓比較教育論 韓国特殊研究Ⅱ（日韓比較文化論 b）	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講座では、韓国と日本の「教育」にテーマを絞って文化比較を行い、その共通点と相違点について理解を深めるとともに、「異文化比較」の具体的な方法を模索し、それを身につけていくことを目的とする。主に「教育政策」、「教育と文化」、「高等教育のあり方」、「教育と人間関係」、「生涯教育と社会」、「教育とジェンダー」などのテーマで日韓両国（両地域）の比較を行っていく予定である。身近なテーマであるため、履修者には積極的な授業参加が期待される。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 書堂と寺子屋 3. 三国時代の教育と文化 4. 高麗前期の教育と文化 5. 高麗後期の教育と文化 6. 朝鮮前期の教育と文化 7. 朝鮮後期の教育と文化 8. 植民地支配の教育政策 9. 植民地支配の国語教育 10. 日韓生涯教育と社会 11. 日韓ジェンダー教育 12. 日韓女性の教育 13. 韓国における日本語教育の歴史 14. 日本における韓国語教育の歴史 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>レジュメを配布する。 参考書：授業時に紹介する。</p>		<p>評価方法：授業への参加度 40%、課題レポート 60%、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日韓の教育政策や教育文化を理解したか。 ・韓国と日本の教育について各自の問題設定ができたか。 	

13年度以降 12年度以前	日韓比較文化論 韓国特殊研究Ⅰ（日韓比較文化論 a）	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取り組むことを期待したい。</p> <p>●参加型授業による人数制限をする。(50名まで) ◎注意：テーマごとにグループ分けして話し合う場を設け発表する形式を取る。極力1回目の授業から出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日韓比較文化講義の概要 2. 韓日の建国神話 3. 韓日の国土構造 4. 韓日の村落 5. 韓日の産育習俗 6. 韓日の歳時風俗 7. 韓日の祭祀風習 8. 韓日の民俗信仰 9. 韓日の家族 10. 韓日の食文化 11. 韓日の食事の作法 12. 韓日の住生活 13. 韓日の服飾 14. 韓日の伝統遊び 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>適宜プリントを配布する。 参考文献：講義においてその都度紹介する。</p>		<p>評価方法：授業への参加度 40%、課題レポート 60%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本と韓国の異なる文化を理解したか。 ・具体的な日韓文化の比較ができるようになったか。 	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	日韓交流史 韓国研究各論Ⅲ（日韓交流史）	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」（あるいは相互認識）のあり方やその変化についても焦点を当てていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 韓国の歴史の流れ 3. 王仁博士と漢文 4. 日本の中の百濟文化 5. 高麗時代の社会状況 6. 『三国史記』と『三国遺事』 7. 室町時代の朝鮮通信史 8. 江戸時代の朝鮮通信史 9. 豊臣秀吉と李舜臣 10. 申叔舟と雨森芳洲 11. 安重根と伊藤博文 12. 日韓併合の政策 13. 日韓併合(実施) 14. 浅川巧と韓国 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>レジュメを配布する。 参考文献：授業時に指示する。</p>		<p>評価方法：授業への参加度 30%、課題レポート 70%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日韓の交流と歴史を理解したか。 ・日韓の交流と歴史について相互認識ができるようになったか。 	

13年度以降 12年度以前	韓国特殊研究（韓国政治論） 韓国研究各論Ⅳ（韓国文化各論 a）	担当者	呉 吉煥（オ・ギルン）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、朝鮮半島の政治や政治文化に対する理解を深めることが目的である。</p> <p>韓国現代政治の理解には、とりわけ朝鮮半島における政治文化の形成・展開過程に対する検討が重要である。政治文化とは、政治のあり方を規定するイデオロギー、伝統、観念、信仰、ルールなどの政治過程に関わる一切の文化のことである。朝鮮半島の政治文化は近代以後に大きく変貌したとされるが、その根幹となるものはすでに前近代に形成されていたのである。</p> <p>講義では、まず前近代の朝鮮史を、政治の展開過程を中心に概観しながらそこで形成された政治文化とその特徴を明らかにする。そして近代以降については、政治の展開過程を中心に解説する。</p>		<p>1回 ガイダンス、韓国政治史の時期区分</p> <p>2回 朝鮮半島における国家の成立と発展</p> <p>3回 古代統一国家の誕生と展開</p> <p>4回 高麗の建国と政治</p> <p>5回 朝鮮王朝の建国と政治</p> <p>6回 儒教（朱子学）と朝鮮王朝の政治文化</p> <p>7回 日本の植民地支配期の政治</p> <p>8回 米軍政と南北分断</p> <p>9回 第1共和国と朝鮮戦争</p> <p>10回 学生革命と第2共和国の政治</p> <p>11回 軍事クーデターと第3共和国の政治</p> <p>12回 軍事独裁と第4共和国の政治</p> <p>13回 光州民主化抗争と第5共和国の政治</p> <p>14回 民主化と第6共和国の政治</p> <p>15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。毎回プリントを配布して授業を進める。参考文献については、授業中に紹介する。		授業への参加度：50%、期末試験：50%	

13年度以降 12年度以前	韓国研究情報収集法 韓国研究情報収集法	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講座は、実際にどのように韓国研究を行っていくのか、その方法論を理解することを目的とした、演習形式の講義である。韓国研究を行う際の研究課題設定の方法から、資料収集法、現地調査の方法、研究成果のまとめ方、そして研究成果の発表までを、総合的に学んでいく。3-4名のグループをつくり、グループ毎に研究テーマを決めて研究を行い、最終的には研究成果を発表してもらう。履修者にはグループ研究への積極的な取組と発表においても質疑応答の積極的な参加を期待したい。</p> <p>*韓国語を理解する者に限る。</p> <p>注意：はじめの授業で演習のグループ分け、発表担当者と担当日を決めるので必ず出席すること。欠席は遠慮し極力1回目の授業から出席すること。</p>		<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 各自発表する方法を選び、発表日程決定</p> <p>3. ハングルのタイピング練習①</p> <p>4. ハングルのタイピング練習②</p> <p>5. ハングルのタイピング練習③</p> <p>6. ハングルのタイピング練習④</p> <p>7. インタネット検索</p> <p>8. インタネット検索</p> <p>9. 調査発表①</p> <p>10. 調査発表②</p> <p>11. 調査発表③</p> <p>12. 調査発表④</p> <p>13. 現地調査発表⑤</p> <p>14. 現地調査発表⑥</p> <p>15. まとめ</p> <p>注意：「現地調査」は、授業時間以外にフィールドワークを必須とする。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。		<p>評価方法： 授業への参加度 40%、課題レポート 60%</p> <p>・韓国の情報収集方法について理解したか。</p> <p>・収集した情報を整理して発表することができるようになったか。</p>	

13年度以降 12年度以前	韓国特殊研究（韓国前近代史） 韓国研究各論VI（韓国文化各論c）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国を理解するためには、その歴史を知る必要がある。とくに日本の植民地になる以前の韓国の歴史は、現在の韓国文化の背景となっていると同時に、韓国人の習慣や考え方の基礎となっている。本講義では韓国の前近代史、とくに朝鮮時代を講義することにより、その知識を得、韓国の歴史、文化に対する理解を深めることを目標とする。</p> <p>講義ではガイダンスのあと、4回にわたり朝鮮時代の流れを概観し、その後に各論として、言語、宗教、美術、音楽、世界遺産、服飾、食、女性、日本との関係を取り上げる。講義の方法はプリントを配布し、それに基づいて話をする。</p> <p>また講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定である。なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充て、さらに翌週の冒頭には小テストを行う。</p> <p>なお人数によっては課題レポートの作成と発表を行うこともある。</p>		<p>第1回：ガイダンス 第2回：朝鮮時代史（1） 第3回：朝鮮時代史（2） 第4回：朝鮮時代史（3） 第5回：朝鮮時代史（4） 第6回：言語 第7回：宗教 第8回：美術 第9回：音楽 第10回：世界遺産 第11回：服飾 第12回：食 第13回：女性 第14回：日本との関係 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書・参考資料等 授業時に指示する。		授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%） ※ただし、期末試験が50点未満の場合は単位を与えない。	

13年度以降 12年度以前	韓国特殊研究（韓国の宗教） 韓国研究各論V（韓国文化各論b）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国と日本は隣国で似ている点も多いが異なる点も多くあります。宗教もその一つで、宗教分布や宗教と人々との関係など、日本と大きく異なっています。本講義では、こうした韓国の宗教状況とそれに関する問題点を理解することにより、韓国社会に対する理解を深めることを目標とします。</p> <p>本講義では、最初に総論として韓国宗教の構造を提示した後、各論として民間信仰、仏教、儒教、キリスト教に分けて講義を行う。講義の方法はプリントを配布し、それに基づいて話をする。また講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定である。なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充て、さらに翌週の冒頭には小テストを行う。</p>		<p>第1回：ガイダンス 第2回：韓国宗教の構造 第3回：民間信仰 第4回：仏教（1） 仏教略史 第5回：仏教（2） 仏教概要 第6回：仏教（3） 韓国史の中での仏教 第7回：仏教（4） 現代韓国の中の仏教 第8回：儒教（1） 儒教略史 第9回：儒教（2） 韓国史の中の儒教 第10回：儒教（3） 現代韓国の中の儒教 第11回：キリスト教（1） キリスト教略史 第12回：キリスト教（2） 韓国史の中でのキリスト教 第13回：キリスト教（3） 現代韓国のキリスト教 第14回：現代韓国と宗教 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは無し。プリントを配布して授業を進める。参考文献は授業中に紹介する。		授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）。	

13年度以降	韓国特殊研究（韓国文学史）	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（講義目的）文学とは、歴史、思想、芸術、ライフスタイルなど、その国の文化のすべてを集約した言語芸術である。文学が「文化の宝石」とよばれている理由がここにある。本講座では、古代から現代に至るまで、韓国文学史を代表している作品を、各時代の思想や世界観を中心に考察することを通して「韓国の心」へ近づこうとする韓国研究企画の一つである。</p> <p>（講義概要）</p> <p>1) 前近代：古代説話を始め、三国時代や高麗、朝鮮時代の文学の流れを当時の思想を中心に考察する。朝鮮時代は庶民階級の総合芸術である「パンソリ」文学を、愛情映画「春香伝」の鑑賞とともに勉強する。2) 近現代：近代国民国家作りが植民地化とともに進行されざるをえなかった韓国近代文学の特殊性を把握した上で、独立、朝鮮戦争、南北分断、民主化運動時代を生き抜く韓国文学の流れを代表作を通じて考察する。最近の文学としては、インターネット文学の代表作で、映画版として韓流ブームの1原因ともなった「猟奇的な彼女」を鑑賞・討論する。</p>		<p>第1週：オリエンテーション</p> <p>第2週：この世と彼岸－古代神話と説話の世界</p> <p>第3週：中世文学1</p> <p>第4週：中世文学2</p> <p>第5週：中世文学3－パンソリ映画「春香伝」鑑賞</p> <p>第6週：討論－「春香伝」と日本のラブストーリー</p> <p>第7週：近現代文学1</p> <p>第8週：近現代文学2</p> <p>第9週：近現代文学3</p> <p>第10週：大河小説「土地」の中の近代朝鮮</p> <p>第11週：戦争後の韓国社会と小市民：「誤発弾」</p> <p>第12週：分断時代の知識人：「広場」</p> <p>第13週：映画版ネット小説「猟奇的な彼女」</p> <p>第14週：討論、まとめ</p> <p>第15週：まとめ</p> <p>（*場合によって差し替えの可能性あります）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト；『1冊で読む韓国文学テキスト』プリント配布 参考：金東旭 『朝鮮文学史』（日本放送出版協会、1974）『アジア理解講座：「韓国文学を味わう」報告書』（国際交流基金アジアセンター、1997）など</p>		<p>感想文（A4,1頁、約3－4回：70%）、討論（20%）、その他（10%）</p>	

13年度以降 12年度以前	韓国特殊研究（韓国の言語文化） 韓国研究Ⅲ（韓国の言語文化）	担当者	金 泰植
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は韓国語で書かれた文章を翻訳する方法について学ぶ。</p> <p>K-POPの歌詞や、化粧品の説明文、インターネット上のニュース記事や、短い文学作品、韓国社会についてかかれた書籍や論文などをテキストとする。それらを翻訳しながら特に間違いやすい日本語と韓国語について学び、韓国文化についても理解を深める。また、翻訳と和訳の違いや、翻訳の難しさとコツについて学ぶこととする。</p> <p>受講者は、韓国語初級までの学習を終えていることが求められる。また課題やグループワークも課す。</p> <p>授業計画はガイダンス時に行うアンケートをもとに多少変更する可能性がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 翻訳と和訳の違い 3. 商品説明を訳す① 4. 商品説明を訳す② 5. 新聞記事を訳す① 6. 新聞記事を訳す② 7. 歌詞を訳す① 8. 歌詞を訳す② 9. 歌詞を訳す③ 10. 人文書籍を訳す① 11. 人文書籍を訳す② 12. 人文書籍を訳す③ 13. 人文書籍を訳す④ 14. まとめ 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>初回講義時に提示する。 ※韓国語の辞書を必ず持参すること。</p>		<p>課題などの平常点（60%）と期末レポートの成績（40%）を総合して評価する。</p>	

13年度以降	韓国特殊研究（韓国小説の世界）	担当者	沈元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目標) —「小説で味わう韓国語中・上級の世界」—</p> <p>小説は一国の文化がつくりだした、最も洗練な形の言語芸術である。韓国小説の体験は、韓国歴史や文化の深部に対する理解にはいうまでもなく、韓国語学学習の面においても最高峰の学習段階に属している。本講座では韓国人に親しまれてきた近現代小説の抜粋文を時代順に鑑賞・講読を行う。</p> <p>(講義概要)</p> <p>韓国近現代史や小説史を反映しながらも、韓国人に幅広く読まれてきた近現代小説の抜粋文を、文学史的な説明とともに講読を行う。重要な文型、語尾、語彙などは集中的に応用練習を行う。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 古代説話「調信夢」読解</p> <p>第3回 近代長編小説「無情」読解</p> <p>第4回 近代短編小説「ジャガイモ」読解</p> <p>第5回 近代中篇小説「万歳前」読解1</p> <p>第6回 近代中篇小説「万歳前」読解2</p> <p>第7回 現代小説「誤発弾」読解</p> <p>第8回 映画版小説の鑑賞</p> <p>第9回 まとめ</p> <p>第10回 現代小説「にわか雨」1 講読</p> <p>第11回 現代小説「にわか雨」2 講読</p> <p>第12回 現代小説「ワンツギ」1 講読</p> <p>第13回 現代小説「ワンツギ」2 講読</p> <p>第14回 映画版小説の鑑賞</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国小説テキスト」(冊子) 配布		読解予習(10%)、宿題(文型練習)(40%)、テスト(40%)、その他(10%)	

13年度以降	韓国特殊研究（韓国詩の世界）	担当者	沈元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目標) —「詩や歌で覚える韓国語中・上級」—</p> <p>韓国は、珍しく詩集が大量に出版され、読まれ、売れている国である。歌を楽しむ文化も同じである。「詩と歌」文化の学習は、韓国人の精神世界や生き方を理解するに必要な近道の一つであるに間違いない。本講座では韓国人に親しまれている近現代詩(歌曲・歌謡曲などを含め)の鑑賞・講読を通じて、韓国理解を深める一方、洗練な上級韓国語の世界を経験することを目的とする。</p> <p>(講義概要)</p> <p>韓国歴史や文化史を反映しながらも、韓国人に広く愛されて来た近現代詩や歌曲、歌謡曲の中から、抒情的で、比較的的理解しやすいテキストを選び、テーマごとに講読を行う。重要な文型、語尾などは集中的に説明、応用練習を行う。歌曲やフォークソング、ポップソングなどに作曲されている作品は鑑賞会も並行する。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 「恨」1、「アリラン」と民謡</p> <p>第3回 「恨」2、金素月「山有花」、「躑躅の花」、「往十里」</p> <p>第4回 「知恵」の章 韓龍雲「服従」・徐廷柱「菊の花のそばで」鄭玄宗「すべての瞬間がつぼみであることを」</p> <p>第5回 ふるさとの章、鄭芝溶「郷愁」(詩と歌曲)</p> <p>第6回 青年期1、白石「待合室」李庸岳「月夜の祭祀」</p> <p>第7回 青年期2、尹東柱「序詩」「星を数える夜」金春洙 咲花</p> <p>第8回 廢墟とロマン、朴寅煥「君の名は忘れたけれど」「黒い神よ」具常「焦土の詩」</p> <p>第9回 血と民主化、金洙暎「青き空を」金芝河「焼け付く喉の渇きに」</p> <p>第10回 秋の祈り、金南鳥「あなたがいるから」(詩と歌曲) 金顯承「秋の祈り」、高銀「秋の手紙」(詩とフォークソング)</p> <p>第11回 フォークソング1、4月と5月「灯火」、安置煥「僕がもし詩人であるなら」(詩とフォークソング)</p> <p>第12回 フォークソング2、李ムンセ「光化門恋歌」「愛、その寂しさについて」</p> <p>第13回 K-pop 少女時代「GEE」、ビグベングなど</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト:「詩や歌で覚える韓国語中・上級」冊子。授業時間に配布予定。</p> <p>参考:大村益夫編訳、「詩で学ぶ朝鮮の心」青丘文化社</p>		宿題(文型応用及び練習)(30%)、朗読(もしくは暗記)テスト(20%)、筆記テスト(40%)、授業態度(10%)	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12年度以前	韓国特殊研究Ⅲ（文献読解）	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（講義目的、講義概要）</p> <p>本講座は中級韓国語コースを履修した学生向けの読解専門講座である。初級、中級クラスで習得した文法知識を総点検、復習しながら、多様なジャンルの文章を読んでいく過程を通して、読解能力を培養することが目的である。</p> <p>（テキストの特徴）</p> <p>学生のレベルや個人差を勘案し、テキストの難易度を段階的に調節した。最初は簡単な文型の説話や短文からはじめ、最後は複雑な上級文型がふくまれている随筆、現代詩を体験できるように各ジャンルを配置した。各文章の内容も、長い間記憶に残るほどの内容になれるように選別してみた。</p>		<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：説話1－「金の斧と銀の斧」</p> <p>第3回：説話2－「山賊と少女」</p> <p>第4回：名短文－「変化と挫折」、「一番大事な事」など</p> <p>第5回：新聞記事1</p> <p>第6回：新聞記事2</p> <p>第7回：学術論文－「最近の韓国映画」一部</p> <p>第8回：韓国歌謡 「秋の手紙」「転生」</p> <p>第9回：最近のk-pop 歌詞</p> <p>第10回：心理相談文1－「勉強がうまくできません」</p> <p>第11回：心理相談文2－「選択がしにくいです」</p> <p>第12回：エッセイ－「秘密にしていた話」1</p> <p>第13回：エッセイ－「秘密にしていた話」2</p> <p>第14回：現代詩－「序詩」、「星を数える夜」</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>（*場合によって差し替えの可能性あります）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
冊子資料を配布する。		宿題（40%）、筆記テスト（50%）、その他（10%）	

13年度以降 12年度以降	日本研究概論Ⅰ 日本研究Ⅶ（日本文化論）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では日本研究の入門を目的とし、日本文化の各分野からトピックとなるような研究業績・課題を紹介します。</p> <p>具体的には、歴史・民俗・宗教・美術・芸能・映画・マンガについて取り上げ、日本文化に関心を持つ学生が備えておきたい知識・教養を幅広くかつ興味深く概観します。</p> <p>授業を通して、日本文化の豊かさを様々な切り口から窺い知るようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 講義の概要 2、 網野善彦の歴史学（1） 3、 網野善彦の歴史学（2） 4、 柳田国男の民俗学（1） 5、 柳田国男の民俗学（2） 6、 折口信夫の民俗学 7、 仏教一法華経 8、 仏教と文学—宮澤賢治 9、 絵巻物の時空 10、 能 11、 黒澤明の映画 12、 民俗芸能 13、 マンガの引用学 14、 戦後少女マンガ史 15、 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いず、毎回プリントを配布。		評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。	

13年度以降	日本研究概論Ⅱ	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 日本語という言語とその文化を、現代という限定された時間における単体の言語として把握するのではなく、東部アジアにおける他言語との関係の中の歴史的な存在としてみることによって、日本という言語文化への視点を獲得することを目的とする。</p> <p>〔講義概要〕 授業は、教員の用意する資料を使用してすすめられる。毎回の授業は、資料にもとづいた課題が提示されるので、履修者はそれに対して、解答を作成すること、またはグループで討議することが要求される。そのなかで日本語の言語文化または東部アジアの言語文化をとらえる各自なりの視点を形成していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導論 2. 古代中国語の世界 3. 訓読文の位置 4. 近代語と訓読文の普遍性 5. 共通する漢語語彙 6. 漢字のひろがり 7. 日本語と漢字 8. 言語接触 9. 言語分布 10. 言語類型地理論 11. 高句麗語と日本語 12. モンスーンアジア仮説 13. アイヌ語と琉球語 14. 日本語の諸方言 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは使用しない。参考文献は開講後指示する。		試験(50%)とレポート(50%)を課し、その結果で評価する。	

13年度以降 12年度以前	日本文学論・古代Ⅰ 日本研究Ⅰ（日本文学古典）	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテキストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テキストについて講義する。</p> <p>講義概要 奈良時代の文学テキストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味を持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話を題材として、上代と現代の人々の自然観の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代の作品として、宮崎駿の「もののけ姫」や「水爆大怪獣ゴジラ」(時間があれば...)についても扱うことを予定している。</p>		<p>1 神話とは何か 2 ヤマタノヲロチ神話を読む① 3 ヤマタノヲロチ神話を読む② 4 ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5 ヤマタノヲロチ神話を読む④ 6 日本人遙かな旅を見る① 7 日本人遙かな旅を見る② 8 宮崎駿「もののけ姫」を見る① 9 宮崎駿「もののけ姫」を見る② 10 宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 11 宮崎駿「もののけ姫」を見る④ 12 宮崎駿「もののけ姫」を見る⑤ 13 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る① 14 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る② 15 まとめ</p> <p>授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト なし 参考文献 授業時に指示する</p>		試験(持ち込み不可)	

13年度以降	日本文学論・古代Ⅱ	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテキストを取り扱うことは不可能なので、秋学期は平安時代の文学テキストについて講義する。</p> <p>講義概要 平安時代の文学テキストは数多く残されているが、この講義では「異郷訪問譚」というキーワードのもとに、『伊勢物語』『源氏物語』を取り扱う。また、同じ「異郷訪問譚」の構造を持つ現代のファンタジーである「千と千尋の物語」を取り扱うことによって、上代・中古と現代の人々との間の運命観の違いについて話をしていきたい。</p>		<p>1 異郷訪問譚とは何か① 2 異郷訪問端とは何か② 3 伊勢物語を読む① 4 伊勢物語を読む② 5 源氏物語を読む① 6 源氏物語を読む② 7 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る① 8 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る② 9 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る③ 10 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る④ 11 源氏物語を読む③ 12 源氏物語を読む④ 13 源氏物語を読む⑤ 14 源氏物語を読む⑥ 15 まとめ</p> <p>授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト なし 参考文献 授業時に指示する</p>		試験(持ち込み不可)	

13年度以降	日本文学論・中世Ⅰ	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、女房文学から隠者文学への交代を指標として区分することができる、古代より中世への和歌史を、各期を代表する歌人の和歌作品を取り上げて検討します。古典和歌文学の中心は、天皇の命によって編纂された勅撰集にあるが、女房と隠者の和歌についてみることは、周縁から和歌文学を眺め渡すことになります。</p> <p>小野小町・和泉式部・西行の和歌作品を通して、古今集から新古今集までの和歌史を展望することにします。</p> <p>近代短歌とは異なる古典和歌の表現の性格と、その読み方についての基礎的な理解も得られるようにしたいと考えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 講義の概要 2、 小野小町 (1) 3、 小野小町 (2) 一移ろひ 4、 小野小町 (3) 一夢 5、 和泉式部 (1) 6、 和泉式部 (2) 一帥宮挽歌 1 7、 和泉式部 (3) 一帥宮挽歌 2 8、 和泉式部 (4) 一帥宮挽歌 3 9、 女性仮託歌 10、 西行 (1) 11、 西行 (2) 一たはぶれ歌 1 12、 西行 (3) 一たはぶれ歌 2 13、 西行 (4) 一たはぶれ歌 3 14、 講義のまとめ 15、 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。		評価方法：期末試験もしくはレポートの結果 (80%) によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点 (20%) も評価対象とする。	

13年度以降	日本文学論・中世Ⅱ	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：お伽草子に見る中世日本人の想像力を考えることで現代日本文化の淵源を確認する。</p> <p>鎌倉時代以降、日本人の庶民の想像力が解放されて爆発的に様々な「お話」が記録されるようになった。それらを総称して「お伽草子」と呼ぶ。</p> <p>現在「昔話」として語られる「お話」のほとんどは、「お伽草子」に淵源していると言って過言ではない。つまりそれは、現代日本人の発想の根源の大きな一つが「お伽草子」にあるということである。</p> <p>今期は渋川清右衛門版『御伽草子』の中の異色作品である「和泉式部」と、いかにも中世らしい雰囲気を感じさせる『諏訪明神縁起』(甲賀三郎の冒険譚)を読み解いていくことでそれらを確認する作業を続ける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・導入 2. 概説 (日本の「お話」の歴史) 3. 概説 (「お伽草子」とは何か?) 4. 「和泉式部」を読む① 5. 「和泉式部」を読む② 6. 「和泉式部」を読む③ 7. 「和泉式部」を読む④ 8. 「諏訪明神縁起」を読む① 9. 「諏訪明神縁起」を読む② 10. 「諏訪明神縁起」を読む③ 11. 「諏訪明神縁起」を読む④ 12. 「諏訪明神縁起」を読む⑤ 13. 「諏訪明神縁起」を読む⑥ 14. 「諏訪明神縁起」を読む⑦ 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		学期末試験の成績による。	

13年度以降	日本文学論・近現代Ⅰ	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目標 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮まで幅広く言及する。</p> <p>講義概要 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の現代文学」と題して、恐怖や苦悩を扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。また、現代人と先人との相違まで考察する。</p> <p>受講生への要望 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく興味関心を持ち、楽しんでほしい。</p>		<p>第1回 恐怖の現代文学のアウトライン 第2回 ①伝統的手法による恐怖の造形 第3回 ② 同上 第4回 ③ 同上 荒俣宏「帝都物語」 京極夏彦「魍魎の匣」 坂東眞砂子「死国」 他 第5回 ①超自然的現象の題材からの造形 第6回 ② 同上 第7回 ③ 同上 梅原克文「二重螺旋の悪魔」 鈴木光司「リング」「らせん」 瀬名秀明「パラサイトイヴ」 他 第8回 ①心理学的な題材からの造形 第9回 ② 同上 第10回③ 同上 貴志祐介「黒い家」 桐野夏生「OUT」 他 第11回①社会派ミステリーからの造形 第12回② 同上 宮部みゆき「模倣犯」 東野圭吾「容疑者Xの献身」 他 第13回①原作を映像で見る 第14回② 同上 第15回 まとめ（総集編）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度、紹介する。		レポート（定期試験）	

13年度以降 12年度以前	日本文学論・近現代Ⅱ 日本研究Ⅱ（日本文学現代）	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目標 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮まで幅広く言及する。</p> <p>講義概要 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。また、現代人と先人との相違まで考察する。</p> <p>受講生への要望 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく興味関心を持ち、楽しんでほしい。</p>		<p>第1回 ガイダンス 第2回 ①人間関係からの癒し 第3回 ② 同上 第4回 ③ 同上 重松清「ビタミンF」 浅田次郎「鉄道員」 恩田陸「夜のビクニック」 佐藤多佳子「一瞬の風になれ」 他 第5回 ①時間からの救い 第6回 ② 同上 第7回 ③ 同上 浅田次郎「地下鉄に乗って」 北村薫「スキップ」「ターン」 佐藤正午「Y」 他 第8回 ①笑いの持つ救い 第9回 ② 同上 奥田英朗「インザプール」 「空中ブランコ」 佐藤多佳子 「しゃべれどもしゃべれども」 第10回①美しい生き方 第11回② 同上 第12回③ 同上 藤沢周平、司馬遼太郎、池波正太郎 有川浩「阪急電車」 吉田修一「横道世之介」 天童荒太「悼む人」 他 第13回①原作を映像で見る 第14回② 同上 第15回 まとめ（総集編）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度、紹介する。		レポート（定期試験）	

13年度以降 12年度以前	民俗学 日本特殊研究Ⅰ（民俗学）	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの生活は、先祖から受け継がれることで成り立っている。その受け継がれてきた心意や価値観を解明するのが民俗学である。そのため民俗学は過去の問題を研究するものではなく、継承されてきたものが、現在にどのようなつながり、現在の我々の生活の意味を探ることを目的とする。この研究は我々の現在の「存在」の在り方を探求する上でとても大事なことである。特にグローバル化された世界の中で、自分は何者であるのかを知ることが、相手を知ることにつながるためである。</p> <p>本講義では民俗学が研究対象とするものの概説、学問の誕生のいきさつから始め、具体的にいくつかの問題を取り出して、これまでの研究成果を学ぶ。本講義により自分たちの現在の生活世界の土台がどのようなものであり、それが現在にどのように受け継がれてきているのかということを理解してもらいたいと思っている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 民俗学の研究対象（具体的に） 3 国学から民俗学へ（民俗学の成立） 4 日本の祭り1（祭りの映像記録を見る） 5 日本の祭り2 6 異界の問題1（妖怪・幽霊とは何か） 7 異界の問題2（日本の幽霊観） 8 異界の問題3（妖怪と神の関係） 9 昔話にみる「日本」 10 日本の災害伝承とその意味 11 年中行事1（とくに正月をめぐって） 12 年中行事2（とくに盆をめぐって） 13 人生儀礼1（人の一生における様々な儀礼） 14 人生儀礼2（とくに葬儀をめぐって） 15 日本人の死生観 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中にプリントを配布		試験による。ただし、4回以上の欠席は評価の対象としない。また出席表配布後の入室は遅刻として扱い、遅刻2回で欠席1回とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降	日本史 I	担当者	守田 逸人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 原始～中世の日本列島を対象に、「日本」という世界のなかの一つの国家や、日本列島の社会・文化がどのように形成されていったのか、大陸との関係に留意しつつ最新の研究成果を基に学び、国家とは何か、また地域とは何か、考える能力を身につける。</p> <p>【講義概要】 ◎原始～中世の日本通史である。 ◎学界での通説と、中学校の歴史教科書の記述を比較しつつ、授業を進める。 ◎近年の日本の歴史学界のなかで、どのような点が注目されているのか、講義の中で適宜触れていく。 ◎現代の価値観から過去を評価するのではなく、当時の価値観を復元しながら、歴史を認識することを心がける。</p>		<p>1：なぜ、歴史学は必要なのか？ 2：原始社会論 -稲作のはじまりと富の蓄積- 3：邪馬台国からヤマト政権へ -邪馬台国はどこにあったか？- 4：倭国と東アジア -4・5世紀の「倭」の存立基盤- 5：倭国から「日本」へ -「天皇」・「日本」の成立- 6：律令国家の展開と土地政策 -律令国家はどの程度日本列島を把握していたか？- 7：平安時代前期の国家と社会 -王臣家の地域進出- 8：摂関政治の成立 -ミウチ政治の成立・受領の台頭- 9：院政の成立と中世の胎動 -荘園制社会へ- 10：鎌倉幕府の形成と展開 -公家・武家・寺社の相互補完関係- 11：元寇から鎌倉幕府の滅亡へ -元寇の影響と徳政観念の展開- 12：日本列島史の転換期としての南北朝内乱 -なぜ内乱を通じて武家優位の社会になるのか？- 13：室町幕府論 -公武統一政権・地域社会・一揆- 14：室町幕府の対外交渉 -日明勘合貿易と「倭寇」- 15：総括 -古代・中世の日本列島と地域社会-</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中に指摘する。		期末テスト（70%）、および課題レポート（3回程度実施：30%）による。	

13年度以降	日本史 II	担当者	守田 逸人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 おもに戦国時代～太平洋戦争までの日本列島を対象に、世界の秩序編成の動きに留意しつつ、社会の変遷のあり方を学び、現在の日本・世界の成り立ちと、これからの日本列島と世界について考える能力を身につける。</p> <p>【講義概要】 ◎戦国時代～太平洋戦争終結までの日本通史である。 ◎学界での通説と、中学校の歴史教科書の記述を比較しつつ、授業を進める。 ◎近年の日本の歴史学界のなかで、どのような点が注目されているのか、講義の中で適宜触れていく。 ◎現代の価値観から過去を評価するのではなく、当時の価値観を復元しながら、歴史を認識することを心がける。 ◎20世紀にはいると、多くの映像資料も残されている。それらをできるだけ利用する。</p> <p>※前後期ともにいえるが、歴史を学ぶ意義は、知識を積み重ねることではなく、社会や人間の生き方、その変化について、できるだけ正確な情報をもとに考える力を身につけることである。歴史を様々な視野から見つめることによって、驚きを感じ、その重要性を学んで欲しい。</p>		<p>1：世界システムとは何か？ -16世紀における世界秩序の展開と日本- 2：なぜ戦国大名はあらわれたのか？ -群雄割拠の時代から織豊政権・朝鮮侵略へ- 3：江戸幕府の形成と東アジア -徳川政権の諸政策と「倭寇的状況」の展開- 4：元禄の政治と社会 -戦時文化からの脱却- 5：江戸中期の幕政改革 -迫りくる危機- 6：対外危機と天保の改革 -「鎖国」とは何か？- 7：幕末の動乱 -不平等条約・尊皇攘夷運動から大政奉還へ- 8：明治新政府の樹立と国政 -明治政府は何を目指したのか？- 9：明治期の社会と思想 -自由民権運動の意義- 10：大日本帝国憲法と議会の成立 -憲法・議会はなぜ必要だったのか？- 11：日清・日露戦争と韓国併合 -帝国主義とは何か？- 12：映像にみる20世紀前半の世界と日本 13：大正デモクラシーと第1次世界大戦 -大東亜共栄圏構想へ- 14：第2次世界大戦 -日中戦争は誰が支持したのか？- 15：総括 -日本列島の過去と未来をめぐって-</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中に指摘する。		期末テスト（70%）、および課題レポート（3回程度実施：30%）による。	

13年度以降 12年度以降	日本特殊研究（日本文学作品研究 a） 日本研究各論Ⅳ（古典芸能）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、日本の古典芸能の中でも世界的に関心を持たれている謡曲（能）をテーマとします。</p> <p>とくに西行が登場する謡曲を数篇取り上げて検討し、題材と作劇の方法を探ってゆきます。そこから謡曲という古典芸能の性質を解明し、その日本文化の中に占める位置を理解するところにつなげてゆきたいと考えます。</p> <p>神霊が主役を演じる、世界的にみて特異な演劇である能は、後世の演劇だけでなく、文学や映画などに大きな影響を与えていますが、授業を通してその本質に触れてもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 授業の概要 2、 西行桜（1） 3、 西行桜（2） 4、 実方 5、 西行西住 6、 西行塚 7、 遊行柳（1） 8、 遊行柳（2） 9、 江口（1） 10、 江口（2） 11、 雨月 12、 その他の曲 13、 その他の曲 14、 講義のまとめ 15、 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。		評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。	

13年度以降 12年度以前	日本特殊研究（日本文学作品研究 b） 日本特殊研究Ⅳ（碑文を読む）	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：路傍に見過ごされる石碑を読む。</p> <p>現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類（道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）を読み解くために解釈と理解の道筋を示して、身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の、実践的な授業である。</p> <p>具体的には各分野の碑文のうち、典型的な例を写真などで示して（写真のデジタル処理に関してある程度の知識がある方が望ましい）読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。</p> <p>変体仮名や異体字、漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。</p> <p>全体としては足を動かし、手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。学生諸君の希望に応じてフィールドワークも実施する。課題が多いので心して参加せられたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・導入 2. 概説（石碑の種類・刻まれた文字達） 3. 日本漢文体の読解、梵字の読解 4. 道標・講中碑を読む 5. 墓碑銘・供養碑を読む 6. 記念碑・文学碑を読む 7. 学生諸君の報告と検討① 8. 学生諸君の報告と検討② 9. 学生諸君の報告と検討③ 10. 学生諸君の報告と検討④ 11. 学生諸君の報告と検討⑤ 12. 学生諸君の報告と検討⑥ 13. 学生諸君の報告と検討⑦ 14. 学生諸君の報告と検討⑧ 15. 学生諸君の報告と検討⑨ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特にない。		各自が調査した碑文の採集・調査報告書を発表、授業中に検討した上で手直しして、最低4点提出してもらい、その内容による。	

13年度以降 12年度以前	日本特殊研究（日本文学作品研究 d） 日本特殊研究Ⅲ（写本を読む）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、写本の読み方の基礎を手ほどきし、くずし字を用いて書写された文献を初心者でも読みこなせるようになることを目的とします。</p> <p>教材として、西行の歌論『西行上人談抄』を取り上げることにします。</p> <p>授業の最初では読み解き方の見本を示しながら進めてゆきますが、要領がわかってきたところで途中から履修者の学生にも課題を割り当てて読み解いてもらいます。</p> <p>日本社会の中で失われてしまった和本リテラシーが、これからは改めて必要になってくるものと予想されます。その入門編となれば幸いです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 授業の概要 2、 読み方の範例（1） 3、 読み方の範例（2） 4、 読み方の範例（3） 5、 読み方の範例（4） 6、 読み解き実践（1） 7、 読み解き実践（2） 8、 読み解き実践（3） 9、 読み解き実践（4） 10、 読み解き実践（5） 11、 読み解き実践（6） 12、 読み解き実践（7） 13、 読み解き実践（8） 14、 講義のまとめ 15、 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いず、プリントを配布する。		評価方法：期末試験の結果（50%）と、授業中に割り当てての実技（50%）によって評価する。	

13年度以降 12年度以前	日本特殊研究（日本文学作品研究 c） 日本特殊研究Ⅱ（文献読解）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では西行の和歌を読解します。</p> <p>日本文学史だけに限らず、広く現在まで日本文化の様々な分野に多大な影響を及ぼし続けている西行とは何者なのかを明らかにするために、その和歌作品を通して検討します。</p> <p>様々に脱領域し、分野横断する西行和歌の魅力を、題材ごとに取りだしてみます。四季や恋といった通常の題材だけでなく、あらゆる題材に取材して和歌に詠んだ西行のことばを追求し、新しいことばの発見にも説き及んでゆきます。</p> <p>和歌という形式が無限の可能性を秘めていることを知り、なぜ日本文化史の中に和歌が主要な位置を占め続けてきたのかを解明することにもなります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 講義の概要 2、 花と西行 3、 月と西行 4、 山と西行 5、 野と西行 6、 河と西行 7、 海と西行 8、 恋と西行 9、 仏教と西行 10、 修験道と西行 11、 地獄絵と西行 12、 民俗と西行 13、 西行伝説 14、 講義のまとめ 15、 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。		評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降	日本特殊研究（日本文学作品研究 e）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、昔話・伝説を素材とする宮澤賢治の童話を講読します。</p> <p>昔話・伝説の宝庫といわれる東北・岩手県花巻に生まれ育った賢治の童話にはそれらを素材として取りこんだ作品が多いが、中でも彼の代表作のひとつ『風の又三郎』はその集大成と目されます。『風の又三郎』生成に至る童話数篇を取り上げて講読しますが、ひとつの方法として異人論を用いた作品分析を行います。</p> <p>口承された前近代の昔話・伝説が、いかに近代の記載文学を豊かにしてきたかということを理解してもらいたいと考えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、授業の概要 2、ざしき童子のはなし (1) 3、ざしき童子のはなし (2) 4、とっこべとらこ 5、雪渡り (1) 6、雪渡り (2) 7、祭りの晩 8、山男の四月 (1) 9、山男の四月 (2) 10、種山ケ原 (1) 11、種山ケ原 (2) 12、風の又三郎 (1) 13、風の又三郎 (2) 14、風の又三郎 (3) 15、講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。		評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。	

13年度以降 12年度以前	日本特殊研究（日本文化研究 a） 日本研究各論 I（民俗芸能）	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を「文化」と言う。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観もすべて「文化」である。その中でも民俗芸能は、民衆生活との結びつきの深さという点からは特徴的な「文化」である。</p> <p>日本の民俗芸能は世界にもまれに見る濃厚さで民衆生活と結びついてまだ残存している。いわゆる先進国に属する国としては唯一と言って良い。</p> <p>そこにはっきりと呈示されている、日本の文化の基盤を形成する「見えないもの」との対峙の仕方を、年中行事・信仰・地域社会・儀礼等との関わり方から分析し、講義していく。「神の来訪」「異人の出現」「稲作の習俗と芸能」「年齢階梯」という観点を「境界領域の存在」という地平から照射し、東西日本の様々な民俗芸能・行事を取り上げ、フィールドワークにもとづく映像資料を用いて、概念や価値観・認識の実際がどう機能しているかに留意する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・導入 2. 日本文化の複合重層性と「見えないもの」 3. 神の来訪と芸能①…春日若宮のおん祭 4. 神の出現と芸能②…八重山の祭と芸能 5. 異人の出現と芸能①…日本全国の祭と芸能 6. 異人の出現と芸能②…岩手県の鹿踊・剣舞 7. 稲作の習俗と芸能①…中国地方の花田植 8. 稲作の習俗と芸能②…東北の田植踊り I 9. 稲作の習俗と芸能③…東北の田植踊り II 10. 稲作の習俗と芸能④…能登のアエノコト 11. 年齢階梯と芸能①…年齢階梯制とは何か？ 12. 年齢階梯と芸能②…福島県の成人儀礼「幡祭」 13. 年齢階梯と芸能③…兵庫県の宮座 I 14. 境界領域の時空…曖昧な時間・空間・人間関係 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし。		学期末試験（論述式）の成績による。	

13年度以降	日本特殊研究（日本文化研究 b）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、日本文化史の中で鬼の源流を探り、基層文化と外来文化とから成る日本文化の重層性の一例を説明することを目的とします。</p> <p>鬼ごっこや節分の豆まきで子供の頃から誰しも馴染みしんだ鬼にも歴史的変遷があり、その原像は現在の私たちが抱いている通念とは異なるものであったのではないかと考えられます。追う・追われる存在とは異なる、我々を祝福しに来訪する鬼を民俗伝承の中に探ってみる必要があります。</p> <p>日本の歴史と文化の固有の性格に興味ある学生の関心に応じる授業になりますが、広くアジアの霊的世界への見渡しも視野に入れてゆきたいと考えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. 追儼の鬼（1） 3. 追儼の鬼（2） 4. 鬼の杖と宝物（1） 5. 鬼の杖と宝物（2） 6. 鬼の杖と宝物（3） 7. 中世の神と鬼（1） 8. 中世の神と鬼（2） 9. 中世の神と鬼（3） 10. タマの去来と季節風（1） 11. タマの去来と季節風（2） 12. タマの去来と季節風（3） 13. 原始・古代の霊的存在（1） 14. 原始・古代の霊的存在（2） 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは萩原秀三郎『鬼の復権』（吉川弘文館）を用いる。		評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。	

13年度以降	日本特殊研究（日本文化研究 d）	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：境界領域論から見る日本文化研究</p> <p>日本文化には「この世とあの世」や「異質と同質」などの差異を示す境界領域の空間認識がある。この境界領域には実はかなりの幅があり、その中における位置取りによって自己評価や一般的評価が決まってしまう場合も多い。</p> <p>ところがこの境界は目に見えないし、非常に可変的で境界領域の認識は無意識に行われていることが多いので、理解しにくい。</p> <p>日本に存在する様々な場면을例として境界領域の存在を明らかにすることを続けて、どのような場面においても明確に認識ができるようにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、導入 2. 境界領域とは（概説①） 3. 境界領域とは（概説②） 4. 日本の祭りに見る境界領域① 5. 日本の祭りに見る境界領域② 6. 日本の祭りに見る境界領域③ 7. 芸能と舞台に見る境界領域① 8. 芸能と舞台に見る境界領域② 9. 文芸に見られる境界領域① 10. 文芸に見られる境界領域② 11. 日常生活と境界領域①（家庭と社会） 12. 日常生活と境界領域②（友人と親友） 13. 日常生活と境界領域③（学校と会社） 14. 日常生活と境界領域④（KYといじめ） 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし。必要な参考文献は授業中に示す。		学期末試験（論述式）の成績による。	

13年度以降 12年度以前	日本特殊研究（日本文化研究 c） 日本研究各論Ⅲ（地域文化）	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講座では、「地域文化」の在り方と現在の実態を中心に話しを進める。「地域」とはどのようなものであり、そこにどのような「文化」を捉えることができるのであろうか。また「文化」とはどのようなものであるのか。これらを理解した上で都市化と過疎化、そして高齢化やITの発達がどのように我々の地域文化に影響を及ぼしているか、伝統的社会での「地域文化」の在り方から、現代の「地域文化」の様相を考えて行きたい。</p> <p>「地域文化」は、生活そのものであるが、「伝統」という価値を付加することで、自己アイデンティティの形成のために用いられることもあり、また他者に対してアピールすることで、町おこしにも利用される。「地域文化」は単なる現象ではなく、我々が価値づけすることによって、成り立つ側面もある。「価値づけ」の意味についても本講座では問うてみたい。</p> <p>「地域文化」を学ぶことは、自己存在を学ぶことでもある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 地名の成り立ちと地域 3 地域形成と生活構造 4 白川郷の「結」（ビデオと解説） 5 地域認識の問題（地名と地域の関係） 6 地域文化としての祭り 1 7 地域文化としての祭り 2 8 地域の重層的構成 9 内的他者とその機能 10 伝統的祭りの方向性 1（過疎地域の問題、具体例を通して） 11 伝統的祭りの方向性 2（都市地域の問題、具体例を通して） 12 文化圏としての地域文化（ビデオと解説） 13 地域文化とフォークロリズムの問題 14 地域文化と新興の祭り（伝統的「地域」を離れた祭り。ビデオと解説） 15 ボーダレス社会の中の地域文化（現在にとって地域文化とは何か） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中にプリント配布		試験による。ただし、4回以上の欠席は評価の対象としない。また出席表配布後の入室は遅刻として扱い、遅刻2回で欠席1回とする。	

13年度以降 12年度以前	日本特殊研究（日本史研究 a） 日本研究Ⅲ（日本史 a）	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1945年に終わった戦争は普通には太平洋戦争と呼ばれ、相手はアメリカだったととらえられがちであるが、これを見直してみたい。対米開戦前に泥沼の日中戦争が続いており、さかのぼれば1931年の満州事変にいきつく。足かけ15年の戦争で、日本が一番長く戦った国は中国である。</p> <p>中高でのこの戦争の学習では、原爆や空襲などの被害を重点に学ぶことが多いようだが、被害面だけでなく、戦争全体の中での加害面にもしっかり目を向けたい。見るのがつらいところもあるかもしれないが、ビデオをかなり使う。そして、当時の教育や社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考えたい。中国や韓国をはじめアジア諸国との関わりがますます強まる中で、「対立」がつけられている。この戦争はどのようなものだったかの事実をしっかり知っておきたい。</p> <p>また、戦争の原因を日清・日露戦争にさかのぼって世界の中、アジアの中での日本の歩みを概観し、考察してみたい。なお、なるべく秋学期とあわせて受講して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 1945年に終わった戦争の相手・呼称をめぐって 2 1941年12月8日—真珠湾からカコタバルから 3 被害の問題①—空襲は何を示すか 4 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか 5 日中戦争をとらえる①—満州事変から日中戦争へ 6 日中戦争をとらえる②—対米英戦争とのかかわり 7 加害の問題①—731部隊とは何か 8 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか 9 加害の問題③—三光作戦をめぐって 10 兵士と民衆①—日本軍隊の特徴をみる 11 兵士と民衆②—教育でどう兵士が育てられたか 12 戦時下の社会—天皇制と国家神道・戦争への動員 13 戦争と経済の関わりを考える 14 この戦争の原因をどうとらえるか① 15 この戦争の原因をどうとらえるか② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、事前出題による論述形式で試験を実施する。	

13年度以降 12年度以前	日本特殊研究（日本史研究 b） 日本研究Ⅳ（日本史 b）	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>沖縄のたぐさんの米軍基地は、どうつくられ、どう維持されてきたのか。沖縄をしっかりと視野に入れて日本とアメリカの関わりを学ばなければ、今日の日本の問題をとらえることはできない。1945年8月15日に敗戦を迎えた戦争は、戦後60年を越えた今日でも、政治家の戦争認識にも象徴されるようにさまざまな課題を残す。アメリカとの関係が、講和や賠償問題等とおしての今日の日本の在り方、また日本人の戦争認識にも大きな影響を与えてきた事実を目を向けたい。</p> <p>中国や韓国をはじめとするアジアの国々は、この2、30年間で大きく変わってきた。民衆の声がそれぞれの国を動かすようになり、かつては不可能だった民衆同士の交流が大きく進んできた。戦後補償や戦争の認識をめぐる論議が今もおこることを、やっとそういう論議ができるようになったと捉えたい。きちんと論議ができる知識をもつ若者でいて欲しい。</p> <p>2011年の3・11を経て、原発がどのように導入されてきたかを知ることの不可欠になった。取り上げていきたい。なお、なるべく春学期とあわせて受講して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 本土決戦と日本の戦争の終わり方 2 沖縄戦が私たちに投げかけたこと 3 日本国憲法はどう生まれたか 4 東京裁判をめぐって 5 サンフランシスコ講和のもった問題 6 原発の導入をめぐって①—ビキニ被曝の直後に 7 原発の導入をめぐって②—原子力共同体と安全神話 8 日本の国内での補償をめぐって 9 日本のアジアへの補償をめぐって 10 日韓条約はなぜ1965年に結ばれたか 11 日中国交回復を考える 12 沖縄の復帰が「日本」に問いかけていること 13 アジアの民衆からの戦後補償要求 14 「731部隊展」の取り組みが意味したこと 15 戦後50年の国会決議から政治家の戦争認識を考える 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、事前出題による論述形式で試験を実施する。	

12年度以前	日本研究V（日本経済論 a）	担当者	須藤 時仁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、基礎的な経済理論をベースに日本経済の仕組みや日本経済が抱えている問題点を明らかにするものである。講義を通じて、現実の日本経済がどうなっているのか、また実際の経済現象が理論的にどのように説明されるのかについて理解してもらいたい。なお、新聞やニュースで取り上げられている経済問題も紹介しながら講義を行う予定である。</p> <p>特に受講の条件というわけではないが、受講生はマクロ経済学とミクロ経済学の基礎的な知識を学習していることが望ましい。また、できるかぎり新聞や雑誌に目を通して、現実の経済の動きを理解するよう努めてもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 国民経済計算とは 3. 三面等価の原則 4. 日本の経済成長 5. 産業構造の変遷 6. 日本の景気循環 7. 個人消費の特徴 8. 消費の決定要因 9. 消費と資産価格 10. 貯蓄率の動向 11. 設備投資の特徴 12. 設備投資の決定要因：資本ストックと金利 13. 設備投資の決定要因：企業経営者の経済見通し 14. 資金調達と設備投資 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。講義ではレジメを配り、それに基づいて進める。		定期試験により評価する。	

12年度以前	日本研究VI（日本経済論 b）	担当者	須藤 時仁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、基礎的な経済理論をもとに日本経済の仕組みや日本経済が抱えている問題点を明らかにすることを主眼としており、日本経済論 a の続編である。この講義では、民間経済主体の行動についての理解を前提として、政府の行動が経済に及ぼす影響、金融市場と実体経済との関係、世界経済と日本経済との相互の関係について理解してもらいたい。なお、本講義でも新聞やニュースで取り上げられている経済問題も紹介しながら講義を行う予定である。</p> <p>特に受講の条件というわけではないが、日本経済論 a の場合と同様に、受講生はマクロ経済学とミクロ経済学の基礎的な知識を学習していることが望ましい。また、できるかぎり新聞や雑誌に目を通して、現実の経済の動きを理解するよう努めてもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 日本の雇用状況 3. 雇用の非正規化 4. 日本の物価動向 5. 日本の物価はなぜ上昇し難いのか 6. 財政とは 7. 財政と国債 8. 日本財政の問題点と展望 9. 金融とは 10. 日本の資金循環 11. 日本の金融システム 12. 国際収支の特徴 13. 外国為替レートの推移 14. 経常収支の決定要因 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。講義ではレジメを配り、それに基づいて進める。		定期試験により評価する。	

12年度以前	日本研究各論Ⅱ（企業経営）	担当者	黒川 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、我国企業の経営の特質について、グローバルな視点から考察することが目標である。グローバルな日本企業を数社取り上げて、先進国、発展途上国を問わず、如何に市場に参入し、成功を収めているかについて考察する。その上で、日本企業の企業経営における競争優位性について理解を深めていく。</p> <p>日本企業がグローバル企業として世界に認められるには、その条件がある。日本国内だけに目を向けた経営は、やがて世界から排除されるだけでなく、市場からの消滅の恐れもある。したがって、限定された地域、人々を対象とするのではなく、開放的な経営をすることが、肝要となる。未成熟な経営段階からグローバル企業として認知されてきている我国企業の経営について、具体例を取り上げながら講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代企業の諸形態 2. 株式会社の発展と企業支配 3. 日本の会社機関とコーポレート・ガバナンス 4. 現代企業の社会的責任 5. 現代企業の環境経営 6. 現代企業の経営戦略 7. 人間関係論からモチベーション論へ 8. 経営組織の基本形態 9. 経営組織の発展形態 10. 製造業の国際競争力と生産管理 11. 経営のグローバル化と多国籍企業 12. 現代企業における IT 戦略 13. 日本型企业システムの変容 14. 自動車産業の経営戦略 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	英語学概論 多言語間交流研究Ⅲ（英語学 a）	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする。扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論・談話論・英語史などがある。それぞれのテーマについて基本的概念を解説し、実際の英語理解の支援を行う。分野によっては視聴覚資料を補助的に用いる。2015年度は休講の予定。</p> <p>参考文献 朝尾幸次郎、『英語の演習 第3巻：語彙・表現』（大修館書店） 宇賀治正朋、『英語史』（開拓社、2000；ISBN：4 7589 0218 6） 高橋作太郎、『英語教師の文法研究』（大修館書店、1983；ISBN：4469141526） 高橋作太郎、『続・英語教師の文法研究』（大修館書店、1985；ISBN：4469141542） 高橋作太郎、『英語の演習 第2巻：文法』（大修館書店） 竹林滋・桜井雅人、『英語の演習 第1巻：音韻・形態』（大修館書店） 西光義弘他、『日英語対照による英語学概論』（くろしお出版、1999；ISBN：4874241697） 橋内武、『ディスコース：談話の織りなす世界』（くろしお出版、1999；ISBN：4-87424-172-7） David Crystal, <i>The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 2nd ed.</i> (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82348 X / 0 521 53033 4) R. McCrum, W. Cran, & R. CacNeil, <i>The Story of English: Special Complete Edition</i> (マクミランランゲージハウス、1989; ISBN: 4895850242)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の文法理論（6章） 2. 音声学（7章） 3. 音韻論（1）：分節音韻論（8章） 4. 音韻論（2）：強勢・イントネーション（8章） 5. 形態論・語形成（9章） 6. 統語論（1）：構造主義の統語分析（10章） 7. 統語論（2）：生成文法の統語分析（10章） 8. 意味論・語用論（11章） 9. 談話分析 10. 英語史（1）：古英語（4章） 11. 英語史（2）：中英語（4章） 12. 英語史（3）：近代英語（5章） 13. 英語史（4）：現代英語（5章） 14. 英語史（5）：英語の多様性（12章） 15. 英語の対象言語学的研究（15章）・コーパス英語学 	
テキスト、参考文献		評価方法	
石黒昭博他、『現代英語学要説』（南雲堂、1987；ISBN：4-523-30047-X）		定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題	

12年度以前	多言語間交流研究Ⅱ（言語学 b）	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある。メッセージを単位記号（デジタル信号）に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり、文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである。この授業では言語の基本的な構造を取り上げ、理論的枠組みを理解すると共に、ハンズオンの学習を通して言語資料の分析練習を行う。対象言語は英語を初め各国語にわたる。教材の事前予習を前提とする。</p> <p>参考文献 Edward Finegan, <i>Language: Its Structure and Use, 6th ed.</i> (Wadsworth, 2011; ISBN: 978-0495900412) David Crystal, <i>The Cambridge Encyclopedia of Language</i> (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 形態論（1）形態素の同定（ハンガリー語、スペイン語） 2. 形態論（2）形態素の同定（現代ヘブライ語、マレー・インドネシア語、ペルシア語） 3. 形態論（3）形態素の同定（ラテン語、ラコタ語） 4. 音声学・音韻論（1）発音記号、音素・異音（英語） 5. 音声学・音韻論（2）音韻の同定（ウィチタ語、古典ヘブライ語、ラコタ語） 6. 音声学・音韻論（3）音素の同定（スペイン語、ヒンディー語、日本語） 7. 音声学・音韻論（4）超分節音素の同定（中国語、アイスランド語・スワヒリ語・アラビア語・英語） 8. 音声学・音韻論（5）音韻現象、生成音韻論（トルコ語、英語） 9. 統語論（1）直接構成素分析、句構造規則（英語） 10. 統語論（2）句構造規則（英語、イタリア語・ギリシア語） 11. 統語論（3）構造形成、語順、格（英語、中国語、ドイツ語、クリンゴン語） 12. 意味論 上位概念・下位概念、同意語・反意語（英語、日本語、ペルシア語） 13. 語用論 新旧情報、言語行為、話題化（英語、中国語） 14. 書記法（英語、イタリア語、ギリシア語、ヘブライ語） 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Paul R. Frommer & Edward Finegan, <i>Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics, 5th ed.</i> (Heinle, 2011; ISBN: 978-0495912316)		定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題	

13年度以降 12年度以前	日本語教育概論 日本語教育研究Ⅰ（日本語教育概説）	担当者	石塚 京子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義概要> 「日本語教育」とは何か、「日本語教師」の仕事とはどのようなものか、といったことを概説します。 この講義は、将来、日本語教師を目指す学生に限定するものではありません。外国語としての日本語、日本語教育の歴史と現状、外国語教授法など、言語や教育に広く興味を持っている学生を対象とした講義内容となります。 なお、日本語教師養成課程を履修する学生にとっては、日本語教授法Ⅰの内容と多少の重なりがありますが、実践的な指導法を学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでください。</p> <p><講義の目的> 1. 日本語教育と国語教育の違いを知る。 2. 日本語教育の歴史と現状を知る。 3. さまざまな外国語教授法を概観する。 4. 日本語を外国語として客観的に捉える。 5. 外国語としての日本語の指導法を考える。 6. 教師の役割を考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明、日本語教育の一例を紹介 2. 日本語教育とは何か(1) 日本語教育と国語教育の違い 3. 日本語教育とは何か(2) 日本語教育の歴史 4. 外国語教授法の歴史 5. 外国語教授法の紹介(1) 6. 外国語教授法の紹介(2) 7. 異文化接触と日本語教育 8. 言語教育と学習観 9. コースデザインとシラバス 10. 日本語のしくみと指導のポイント(1) 11. 日本語のしくみと指導のポイント(2) 12. 教室活動の活動例 13. 教師の役割 14. 評価方法 15. 講義のまとめ <p>*進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><参考文献> 佐々木康子『ベーシック日本語教育』ひつじ書房、2007 中西家栄子『実践日本語教授法』バベル出版</p>		<p>期末試験（70%）、平常点や課題などの提出状況（30%）を総合的に評価します。</p>	

13年度以降 12年度以前	日本語コミュニケーション論 日本語教育研究Ⅱ（日本事情とコミュニケーション教育）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、外国人の日本語学習者に日本語を教える日本語教師にとって必要なコミュニケーションスキルを理解し、修得したい学生の要望に応じることを目的として授業します。 常に異文化コミュニケーションの中にある日本語教師が、日本語教育の現場でどのように対応してゆけばよいのかを考え、異文化理解と様々なコミュニケーションスキルを紹介し、それを身につけるためのエクササイズを行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 異文化摩擦 2. 異文化理解とは（1） 3. 異文化理解とは（2） 4. コミュニケーションスタイルを決めるもの（1） 5. コミュニケーションスタイルを決めるもの（2） 6. 自分をふりかえる（1） 7. 自分をふりかえる（2） 8. 言語コミュニケーションの違い（1） 9. 言語コミュニケーションの違い（2） 10. 非言語コミュニケーションの違い（1） 11. 非言語コミュニケーションの違い（2） 12. 異文化コミュニケーションスキル（1） 13. 異文化コミュニケーションスキル（2） 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは八代京子・世良時子『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』（三修社）。</p>		<p>評価方法：期末試験の結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。</p>	

13年度以降 12年度以前	応用言語学 I 多言語間交流研究各論 I (応用言語学)	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である(言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である)。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。</p> <p>言語習得、外国語教育、言語と社会、言語研究の4領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週：概論</p> <p>第2～3週：言語習得 －言語習得 －言語維持 －言語喪失</p> <p>第4～6週：言語と社会 －バイリンガリズム・マルチリンガリズム (個人・社会) －マイノリティ言語</p> <p>第7週：言語と脳</p> <p>第8～12週：外国語教育 －Second language vs. Foreign language －教室における第2言語習得(指導法) －言語政策(公用語化、小学校英語、教育方法など)</p> <p>第13～15週：言語研究</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料等有り。		期末レポート&課題(50%)、期末テスト(50%)	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	応用言語学Ⅱ 多言語間交流研究各論Ⅱ（第二言語習得）	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを様々な理論をもとに考える。また、この分野における専門用語を日英の両言語で認識し、これらの理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題（論文講読など）をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週：概論</p> <p>第2～7週：SLA理論・仮説 ーモニターモデル ー認知プロセス ーインプット・アウトプット・インターアクション仮説 他</p> <p>第8～13週：学習者要因 ー年齢 ー動機・態度(諸理論) ー学習ストラテジー・学習スタイル ー適正 ー不安 ー多重知能理論など</p> <p>第14・15週：発表および総括</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料等有り。		期末レポート&課題（50%）、期末テスト（50%）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学Ⅰ 多言語間交流研究Ⅴ（英語圏の文学）	担当者	大熊 昭信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業目的 今日グローバル社会と言われ、英語が世界語となっている事態から予想されるように英語で作品を発表する作家が増えている。しかしこうした事態はすでに植民地主義以後のイギリスやアメリカの植民地で始まっていたことである。それはもはやイギリス文学、アメリカ文学といった範疇を超えている。そうした英米人ならぬ作家たちの作品を含めて英語圏文学というのである。この授業ではそうした作家たちの多彩な創作活動を網羅的に紹介することを目指す。</p> <p>講義概要 英米の旧植民地の作家や英米の作家の植民地に取材した作品を紹介し、カナダのアトウッドの『サバイバル』の紹介からはじめて、ソール・ベローや日系のジョイ・コガワ、黒人作家のイシュメール・リード、キャリル・フィリップス、イギリス人アメリカ人作家の植民地体験としてロレンスやメルヴィルなどを紹介する。</p>		<p>第1週 講義概要</p> <p>第2週 カナダ</p> <p>第3週 オーストラリア、ニュージーランド</p> <p>第4週 サモア</p> <p>第5週 日系アメリカ人</p> <p>第6週 ユダヤ人作家</p> <p>第7週 中国系アメリカ人、朝鮮系アメリカ人</p> <p>第8週 ガイアナ</p> <p>第9週 カリブ海諸島</p> <p>第10週 アフリカの英語作家</p> <p>第11週 イギリス人作家の植民地体験</p> <p>第12週 アメリカ人作家の植民地体験</p> <p>第13週 アメリカの黒人作家</p> <p>第14週 イギリスの黒人作家</p> <p>第15週 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。授業概要を毎回配信する。参考文献は授業中に適宜紹介する。		評価は、期末試験の結果(80%)によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの実績(20%)も評価対象とする。	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学Ⅱ 多言語間交流研究Ⅴ（英語圏の文学）	担当者	大熊 昭信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 現代は異文化が混在する多文化社会と言われている。だが、いったい多文化社会とはどのような社会なのか。どのように形成されたのか。その中で文化はどのような形をとるのか。異文化間の交流にはどのような形態があるのか。そうした疑問に答えつつ、そこにみられるさまざまな文化交流や変容の在り方を、文化変容、異種混合といったタームを導入しながら、英語圏文学に具体例をとって検討したい。</p> <p>講義概要 多文化社会から誕生し、現在生産され消費されている今日の英語圏文学の作家や作品をとりあげ、それらの国家間民族間の移動に焦点をあてて批評的に検討する。</p>		<p>第1週 講義の概要</p> <p>第2週 多文化社会の形成</p> <p>第3週 多文化社会のありかた（1）</p> <p>第4週 多文化社会のありかた（2）</p> <p>第5週 多文化社会のなかの文学の在り方</p> <p>第6週 植民地の作家の場合（1）</p> <p>第7週 植民地の作家の場合（2）</p> <p>第8週 宗主国の作家（1）</p> <p>第9週 宗主国の作家（2）</p> <p>第10週 エクソフォニー</p> <p>第11週 クレオール：ハワイピジン</p> <p>第12週 翻訳</p> <p>第13週 在日と移民</p> <p>第14週 世界文学のほうへ</p> <p>第15週 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。次回の授業概要を毎回配信する。参考文献は授業中に適宜紹介する。		評価は、期末試験の結果(80%)によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの実績(20%)も評価対象とする。	

08年度以降 07年度以前	英語圏の文学・文化・批評Ⅰ 多言語間交流研究各論Ⅲ（英語圏の小説 a）	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：次の三点を焦点に、world literature を視野におきながら英語圏の小説について考えます。</p> <p>1. 小説というメディアが、異なる時代、異なる文化のなかでどのように産出され、受容されてきたか。</p> <p>2. 英語圏拡大の歴史とポストコロニアルの文学地図。（言語についても考察します）</p> <p>3. 歴史と世界のひろがりのなかで、テキスト同士が、あるいはテキストと現実とがいかに響きあっているか。</p> <p>講義概要：小説という表現媒体が確立しはじめた17世紀末、18世紀はじめから現代まで、ほぼ時間軸にそって講義を進めますが、必要に応じて時代を行きつ戻りつすることがあります。講義で使用するテキストは、事前に配布しますので、必ずあらかじめ読んでおいてください。</p> <p>注意事項：TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。</p>		<p>1. 新奇なるもの、小説？（1）</p> <p>2. 新奇なるもの、小説？（2）</p> <p>3. 英語圏の拡大（1）</p> <p>4. English Bestsellers of all time（1）</p> <p>5. English Bestsellers of all time（2）</p> <p>6. 英語圏の拡大（2）</p> <p>7. 国民文学と政治的無意識</p> <p>8. 小説の新たな挑戦（1）</p> <p>9. 小説の新たな挑戦（2）</p> <p>10. 語り返す言葉たちの登場、ポストコロニアルの文学地図（1）</p> <p>11. ポストコロニアルの文学地図（2）</p> <p>12. ポストコロニアルの文学地図（3）</p> <p>13. ポストコロニアルの文学地図（4）</p> <p>14. テキストの思わぬ旅路（1）</p> <p>15. テキストの思わぬ旅路（2）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを使用します。参考文献については、授業内で紹介します。		授業内活動参加度 40% 定期試験 60%	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ 多言語間交流研究各論Ⅴ（英語圏の詩 a）	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 まず第一に詩を楽しむこと。詩の言葉をとおしてアメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。</p> <p>講義概要 アメリカ先住民の口承詩（うた）、ロック・ミュージックの歌詞、モダニストの作品、そして同時代の詩人の作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、「ここそしていま」の視点から論じる。</p>		<p>1. アメリカの大地の声--Native American のうた</p> <p>2. Rock の Lyrics 読む--Bob Dylan と Paul Simon</p> <p>3. デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人--Walt Whitman</p> <p>4. ミクロコスモのなかのマクロコスモ--女性詩人 Emily Dickinson</p> <p>5. モダニズムの起源を探る---(1) Ezra Pound がみた東洋</p> <p>6. (2) T. S. Eliot の “The Love Song of J. Alfred Prufrok” に描かれた現代人の苦悩</p> <p>7. (3) William Carlos Williams がみたアメリカの美学</p> <p>8. (4) e. e. cummings の “typography” が創る「感じる」詩</p> <p>9. ポストモダンの詩を読む (1) Allen Ginsberg の “A Supermarket in California”</p> <p>10. (2) Gary Snyder の “Riprap”</p> <p>11. (3) Sylvia Plath の “Daddy”</p> <p>12. (4) Robert Bly の “Snowfall in the Afternoon”</p> <p>13. (5) Adrienne Rich の “Onion”</p> <p>14. (6) Frank O’ Hara の “The Day Lady Died”</p> <p>15. (7) Sandra Cisneros の “My Wicked Wicked Ways”</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text: The Penguin Anthology of 20th Century American Poetry. Ed. Rita Dove. New York: Penguin Books, 2013. (ISBN: 978-0-14-312148-0) 参考文献、『アメリカ名詩選』（岩波文庫）		4,000 程度の作品論（原ゼミ HP の「MLA 論文の書き方」を参照）とその詩の日本語訳をつけたレポートによって評価する。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合は、評価の対象としない。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ 多言語間交流研究各論Ⅷ（英語圏の演劇 b）	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう に演劇に示されているかについて考えてみましょう。</p> <p>テキスト（英文プリント）を毎回配布します。よく読んでから、出席してください。日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施してもらいます。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行き、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知ってください。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。</p>		<p>毎回授業開始時に英語の語彙 quiz を、終了前に内容把握 quiz を行います。教室で読むテキストは、第1～15回まで、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>指定する演劇の観劇レポート（700字以上800字以内）に関する事など、詳細は教室にて説明します。</p> <p>* 第1回の授業の資料は中央棟5階504研究室前に用意しておきます。事前に準備してから出席すること。</p> <p>***注意事項***</p> <p>全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ」は、英語学科生は「英語圏の演劇 b（06～12年度）」「英語圏の文学・文化・批評 b（13年度以降）」、「言語文化学科生は「多言語間交流研究各論（06～12年度）」「英語圏の文学・文化・批評Ⅱ（13年度以降）」として登録ください。テキストの英文は TOEIC650 点程度かそれ以上の英語力が前提です。650 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>授業時2つの quiz で50%。観劇レポート2編（必修）で50%、未提出者には単位を認めません。学期末定期試験はしません。</p>	

13年度以降 12年度以前	国際語としての英語 多言語間交流研究各論IX（国際語としての英語）	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>約3億人といわれる英語母語話者に、公用語として英語を使用する人々及び外国語または「国際語」として英語を使用する人々を加えると20億人あまり英語話者がいるという。20億人全員が同じ英語を話しているのだろうか。日本人にとって英語とは何なのであろうか。</p> <p>本講義では、「世界英語(World Englishes)」そのものの理解を高めることを目的とする。また、非英語母語話者としてどのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題（リーディングやフィールドワーク）をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週：概論 第2週：英語の普及 －ディアスポラなど 第3～4週：英語の多様化 －ピジンとクレオール －方言と標準語 第5～7週：世界英語—内部圏における多様化 －アメリカ、オーストラリア、イギリス英語など －Hawaii Creole English －Ebonics －Spanglish など 第8～9週：世界英語—外部圏における多様化 －インド英語 －Singlish 第10～11週：世界英語—拡大圏における多様化 －ヨーロッパと英語、ロシアと英語 －中国と英語、韓国と英語 第12～13週：日本人にとっての英語とは何か －日本での英語使用 －日本の英語教育史 －現状と動向：政策、教師、カリキュラム、目的など 第14～15週 －発表と総括</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料等有り。		フィールドワーク、期末レポートおよび他課題（50%）、 期末テスト（50%）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	日本語音声学 日本語教育研究各論Ⅲ（日本語音声学）	担当者	磯村 一弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語の音声について、基本的な知識を学ぶ。普段、意識しないで話している日本語の音声を、客観的に捉えられるようになることを目標とする。</p> <p>そのうえで、外国人学習者が日本語の音声を学ぶ際の問題点や、これを教えるための具体的な方法について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. (4/9) 言語音を作るしくみ 2. (4/16) 母音 3. (4/23) 子音(1) 4. (4/30) 調整日 5. (5/7) 子音(2) 6. (5/14) 子音(3)、母音の無声化 7. (5/21) 特殊音素(1) 8. (5/28) 特殊音素(2) 9. (6/4) 拍とリズム 10. (6/11) アクセント(1) 11. (6/18) アクセント(2) 12. (6/25) イントネーション(1) 13. (7/5) イントネーション(2) 14. (7/9) まとめ 15. (7/16) 最終試験 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>定期試験に代わるものとして、「最終試験」を7月16日の授業時間内に行う。定期試験期間中は、試験を行わない。単位が必要な者は、7/16の試験を必ず受験すること。</p> </div>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>国際交流基金（2009）『国際交流基金日本語教授法シリーズ2 音声を教える』ひつじ書房。</p> <p>そのほか、必要に応じて適宜プリントを配布する。</p>		<p>「最終試験」の成績による（上記参照のこと）。出席は取らない。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	日本語文法論Ⅰ 日本語教育研究各論Ⅳ（日本語文法形態論）	担当者	武田 明子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語文法論の範囲で形態論を取り上げる。形態論が日本語教育の中で役立つような観点から、必須となる項目を選んで話を進めていく。</p> <p>形態論では日本語教育に役立つことを念頭においているため、品詞についても詳細に述べる予定である。もちろん、学生のすべてが日本語教育を志しているわけではない。しかし、学校文法で苦勞した記憶のある者は、日本語を外国語として学ぶという観点から文法を眺めなおすことが、母語としての日本語のより深い理解と興味につながっていくはずである。</p> <p>講義は毎回資料を配布するので、特に学生が用意してくるものはないが、毎回出席することを期待している。原則として欠席は3回までとするので、これを超えた者は評価対象から外れると理解されたい。特別な理由がある時にはきちんと報告してもらうことが必要となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語を取り巻く状況 2. ヒトのことばの特徴 3. 形態論の概要 4. 派生形態論と屈折形態論 5. 語形と品詞 6. 動詞 7. 形容詞、名詞 8. 副詞、その他 9. 助詞 10. 助動詞 11. 語構成 12. 文語表現 13. 動詞の活用による表現 14. 形態論を取り巻く文法論 15. 日本語文法の中の形態論の整理 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回プリントを配布する		平常授業の実績 30% 期末試験の結果 70%	

13年度以降 12年度以前	日本語文法論Ⅱ 日本語教育研究各論Ⅴ（日本語文法統語論）	担当者	武田 明子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語学としての文法論を取り上げる。Ⅰと同様にこの論が日本語教育の中で役立つような観点から、必須となる項目を選んで話を進めていく。</p> <p>形態論が語を検討課題としているのに対し、文法論では文そのものが検討課題となる。まずは単文内での文法分析を行い、次いで、複文での分析を行う。春と同様に学生のすべてが日本語教育を志しているわけではないが、母語話者であっても、日本語学的一端として日本語文法を垣間見ることは、日本語のより深い理解と興味につながっていくはずである。</p> <p>講義は毎回資料を配布するので、特に学生が用意してくるものはないが、毎回出席することを期待している。原則として欠席は3回までとするので、これを超えた者は評価対象から外れると理解されたい。特別な理由がある時にはきちんと報告してもらうことが必要となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 統語論の外観 2. 文法カテゴリ 3. 主題と主語 4. テンス 5. アスペクト 6. ヴォイス(1) 7. ヴォイス(2) 8. 使役 9. 授受 10. 自動詞と他動詞 11. モダリティ 12. 取り立て 13. 複文(1) 14. 複文(2) 15. 日本語学としての統語論の整理 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回プリントを配布する		平常授業の実績 30% 期末試験の結果 70%	

13 年度以降	英語教育特殊研究（専門講読 a）	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この「英語教育特殊研究（専門講読 a）」では英語教育に関する専門書（洋書）を読みます。指定されたテキスト、補助プリント、参考文献などを読むことで専門分野のことを英語で読み取れる読解力を養成（質、量ともに）すると同時に、それらの内容について議論したり発表したりまとめたりしながら、理解をより深めていくことをねらいとします。つまりは授業、そして学習、を通して総合的な英語力の向上を目指します。内容に関しては教職的な内容も含まれますが、英語の「教え方」を学ぶことで「学び方」の参考にもなるはずで、またその逆もありえます。なので、英語を「教える」「学ぶ」に関心があれば教職履修の有無は問いません。必要なものは英語教育への興味、関心と積極的な参加姿勢です。逆に、単位取得のために仕方なく、はあまり向きません。また、通常の言語科目同様、欠席が特段の理由なく 3 回を越えたならばその時点で単位取得にはならないでしょう。なお「英語」の授業なので、授業内は極力、英語での参加・進行となります。</p> <p>The aim of this course is to improve your English ability through reading texts related to English education. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 Reading the text with exercises 1 3 Reading the text with exercises 2 4 Reading the text with exercises 3 5 Reading the text with exercises 4 6 Reading the text with exercises 5 7 Reading the text with exercises 6 8 Reading the text with exercises 7 9 Reading the text with exercises 8 10 Reading the text with exercises 9 11 Reading the text with exercises 10 12 Reading the text with exercises 11 13 Reading the text with exercises 12 14 Reading the text with exercises 13 15 Final Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced at the first lesson		Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%	

13 年度以降	英語教育特殊研究（専門講読 b）	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この「英語教育特殊研究（専門講読 b）」では専門講読 a に引き続き、英語教育に関する専門書（洋書）を読みます（a とセットで履修してくれることが望ましいですが、a を履修していないからといって b から(b だけ)では履修できないということはありません。）指定されたテキスト、補助プリント、参考文献などを読むことで専門分野のことを英語で読み取れる読解力を養成（質、量ともに）すると同時に、それらの内容について議論したり発表したりまとめたりしながら、理解をより深めていくことをねらいとします。つまりは授業、そして学習、を通して総合的な英語力の向上を目指します。内容に関しては教職的な内容も含まれますが、英語の「教え方」を学ぶことで「学び方」の参考にもなるはずで、またその逆もありえます。なので、英語を「教える」「学ぶ」に関心があれば教職履修の有無は問いません。必要なものは英語教育への興味、関心と積極的な参加姿勢です。逆に、単位取得のために仕方なく、はあまり向きません。また、通常の言語科目同様、欠席が特段の理由なく 3 回を越えたならばその時点で単位取得にはならないでしょう。なお「英語」の授業なので、授業内は極力、英語での参加・進行となります。</p> <p>The aim of this course is to improve your English ability through reading texts related to English education. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 Reading the text with exercises 1 3 Reading the text with exercises 2 4 Reading the text with exercises 3 5 Reading the text with exercises 4 6 Reading the text with exercises 5 7 Reading the text with exercises 6 8 Reading the text with exercises 7 9 Reading the text with exercises 8 10 Reading the text with exercises 9 11 Reading the text with exercises 10 12 Reading the text with exercises 11 13 Reading the text with exercises 12 14 Reading the text with exercises 13 15 Final Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced at the first lesson		Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%	

13年度以降 12年度以前	日本語教育特殊研究（教育教材論） 日本語教育特殊研究VI（日本語教育教材論）	担当者	小山 慎治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、日本語教育の教材作成の実践を通じて、言語コミュニケーションの能力の習得について考えることである。</p> <p>授業では、日本語の授業における副教材の作成について学ぶ。この課題のために、教科書の分析、教材作成に関わる文献の講読を行う。</p> <p>受講生には、初級レベルの会話教材、読解教材、漢字教材の作成、それらを用いた授業案の作成を課す。また、中級、上級レベルの授業を視野に入れ、ビデオ、新聞記事、小説などを教材として使用する方法について検討してもらう。</p> <p>受講生による文献発表、教材の作成、作成過程および授業案の発表を軸に授業を進めることになるので、積極的に活動に参加し、クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションと教材開発の概観 2 言語コミュニケーションと日本語教育 3 初級教材の作成：教科書の分析 4 初級教材の作成：会話教材作成 5 初級教材の作成：漢字教材作成 6 初級教材の作成：日本事情教材の作成 7 初級教材作成過程と授業案の発表 8 初級授業における教材の可能性 9 中上級教材の作成：教科書の分析 10 中上級教材の作成：会話教材の作成 11 中上級教材の作成：生の素材を用いた読解教材作成 12 中上級教材の作成：ビデオを用いた教材作成 13 中上級教材の作成：日本事情教材の作成 14 中上級教材作成過程と授業案の発表 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない</p> <p>参考文献： 野田尚志（編）『コミュニケーションのための日本語文法』くろしお出版 関正昭ほか（編）『会話教材を作る』スリーエーネットワーク 関正昭ほか（編）『漢字教材を作る』スリーエーネットワーク 関正昭（編）『読解教材を作る』スリーエーネットワーク</p>		<p>クラスでの課題（30%）、クラス参加（30%）、最終課題（40%）の割合で評価する。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	日本語教育特殊研究（意味論） 日本語教育研究各論Ⅶ（日本語意味論・語用論）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕</p> <p>日本語を素材として意味論と語用論の概要を理解するとともに、日本語教育への応用をかんがえることを目的とする。</p> <p>意味とは何かという問題からはじまって、意味をとりあつかういくつかの理論とともに、意味論が対象とする愚弟的な言語現象を理解する。同様に、発話レベルでの文の意味をあつかう理論と、その具体的な現象を理解する。</p> <p>〔講義概要〕</p> <p>履修者は毎回の該当箇所を予習し、わからない点を明確にしてから出席することが要求される。教員から質問が「強制」されることもありうるので、よく準備をされたい。あわせて適宜、教員から議論の材料となる語彙・意味に関するデータが提供されるので、授業内で、グループなどによる討論もおこなわれうる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 意味論語用論概説 2. 語彙論(1) 3. 語彙論(2) 4. 意味論(1) 5. 意味論(2) 6. 意味論(3) 7. 意味論(4) 8. 意味論(5) 9. 発話論 10. 語用論(1) 11. 語用論(2) 12. 語用論(3) 13. 語用論(4) 14. 語用論(5) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、担当者が用意するプリントを使用する。参考文献は開講後指示する。		試験をおこない、その結果で評価する。必要に応じてレポートを課すこともある。	

13年度以降 12年度以前	日本語教育特殊研究（談話論） 日本語教育研究各論Ⅵ（日本語談話論）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕</p> <p>談話分析についての基本的な知識と方法の習得を目的とする。談話分析は、前世紀の後半以降、文学、文化人類学、社会学、心理学などの分野とも関連して発展してきた言語の学である。本講義では、日本語教育の中上級の学習項目を談話論にもとめるという目標のもとで、談話とはなにか、どのような理論があり、どのような具体的分析が可能なのかを学習していく。</p> <p>〔講義概要〕</p> <p>履修者は毎回の該当箇所を予習し、わからない点を明確にしてから出席することが要求される。教員から質問が「強制」されることもありうるので、よく準備をされたい。あわせて適宜、教員から議論の材料となる談話に関するデータまたはテキスト内のものもふくめた課題が提供されるので、授業内で、グループなどによる討論もおこなわれうる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概説 2. 指示 3. 省略 4. 論理的接続 5. 非論理的接続 6. 間投 7. 応答 8. 語順 9. 主題 10. モダリティ 11. 談話とヴォイス 12. 談話とテンス・アスペクト 13. 談話構造 14. スタイル 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、担当者が用意するプリントを使用する。参考文献は開講後指示する。		試験をおこない、その結果で評価する。必要に応じてレポートを課すこともある。	

13年度以降 12年度以前	日本語教育特殊研究（対照言語学・誤用分析） 日本語教育特殊研究Ⅰ（対照言語学・誤用分析 a）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語と他言語との共時的な比較対照及び誤用分析の方法を学ぶ。対照文責によって得られた知見を日本語教育にどのように応用するかもあわせて検討する。また、日本語教育への応用という観点から、日本語学習者にとって特に習得困難とされる項目を取り上げ、習得を困難にさせるさまざまな要因について検討したい。誤用分析では、日本語学習者の作文に見られる誤用例を、対照分析からの知見、学習に関する認知プロセス、その他の第二言語学習理論に基づいて検討する。</p> <p><u>具体的なクラス運営</u></p> <p>① クラスの形態は講義と演習</p> <p>② 資料としては、日本語学習者（主として英語母語話者）による作文および日英の対訳を使用する。</p> <p>③ 基本的には日本語と英語の対照が中心になるが、対照研究に関する知見を得ることが主たる目的となるので、他言語との対照比較も認められる。</p>		<p><u>講義形式</u></p> <p>1回目 講義の概要－オリエンテーション 日本語らしさ vs 英語らしさ</p> <p>2回目 対照研究の歴史</p> <p>3回目 誤用分析と中間言語</p> <p>4回目 対照研究の役割と意義</p> <p>5回目 語順－SOV vs SVO</p> <p>6回目 数量、助数詞、複数</p> <p>7回目 人称とその省略</p> <p>8回目 こそあど</p> <p>9回目 形容詞－形態</p> <p>10回目 動詞－自動詞・他動詞</p> <p>11回目 アスペクト・テンス</p> <p>12回目 原因・理由表現</p> <p>13回目 目的表現</p> <p>14回目 時の表現</p> <p>15回目 条件節</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>①プリント配布</p> <p>②『対照研究と日本語教育』国立国語研究所（2002）</p>		<p>①テスト70% ②レポート20%</p> <p>③平常点10%</p>	

12年度以前	日本語教育特殊研究Ⅱ（対照言語学・誤用分析 b）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学習の目的：日本語を他の言語と比較すること（英語）、「日本語らしさ」とはどういうことかを調べる。基本的にはテキストの理解を中心に進めていくが、最終的には、テキストでは触れられていない点、あるいは、テキスト内容を補足するような事例を探し、それを発表することが課題となる。事例を探すにあたっては、対訳資料を使用する。目標は2言語を対照・比較した上で、実際どのが視点に違いがあるのか、それが、言語にどのように反映しているのかを見ていくことにある。</p>		<p><u>講義形式</u></p> <p>1回目 Ellipsis in conversation</p> <p>2回目 Referential triggers</p> <p>3回目 Situation focus</p> <p>4回目 Blending existential and possessive expressions</p> <p>5回目 Avoiding possession marking</p> <p>6回目 Transitives, intransitives, and inchoatives</p> <p>7回目 States rather than actions</p> <p>8回目 Required absence of subjects</p> <p>9回目 Responsibility and situation focus</p> <p>10回目 Ellipsis in situation focus</p> <p>11回目 Nonstructural factors in transfer</p> <p>12回目 “</p> <p>13回目 “</p> <p>14回目 発表</p> <p>15回目 発表</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：<i>Situation vs. Person Focus</i>, John Hinds (1989)</p> <p>プリント：“8 Nonstructural factors in transfer” <i>Language Transfer – Cross-linguistic influence in language learning</i>, Terence Odlin (1989)</p>		<p>①テスト 50%</p> <p>②課題提出 40%</p> <p>③平常点 10%</p>	

12年度以前	日本語教育研究各論Ⅰ（日本語教授法1a）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>将来、国内あるいは海外で日本語教師として日本語を教えたい、あるいは、ボランティア活動を通じて外国人とかわかり、日本語を教えてみたいと考える学生を対象にしたコースである（言語教育という観点からは、他言語の教育にも応用され得る）。</p> <p>言語教育の基本理念、言語学習及び習得理論を紹介した上で、主要な外国語教授法の理論的背景を概観する。主たる目標は、発話場面や文脈にあった言語運用能力を育成する指導法を考える能力を養うことである。そのために教材の紹介、教室活動の展開、文型・文法項目等の指導法を具体的に紹介する。最終的には、各自がそれぞれ教案・教材を作成する極めて実践的な授業である。</p> <p>課題の発表についてはグループワーク、ペアワークの形態をとるが、基本的には講義が中心となる。日本語教育の理論と実践の全般にわたる広範囲な内容になる。</p>		<p>1回目 オリエンテーション：外国語としての日本語教育</p> <p>2回目 教授法の理論・学習理論3</p> <p>3回目 つづき</p> <p>4回目 L1 と L2 習得の違いについて</p> <p>5回目 つづき</p> <p>6回目 コースデザインの概要</p> <p>7回目 つづき — 様々なシラバスの紹介</p> <p>8回目 教材・教具の紹介</p> <p>9回目 つづき</p> <p>10回目 聴解の指導</p> <p>11回目 つづき</p> <p>12回目 発音の指導</p> <p>13回目 つづき</p> <p>14回目 文字の指導—平仮名・カタカナ</p> <p>15回目 つづき—漢字</p> <p>上記の授業内容の配分はその時点での進捗状況に合わせる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献 ①プリント（論文）②授業中に紹介</p> <p>テキストは特に指定しないが、日本語教授法関連の本を一冊授業内容に合わせて読むことが望まれる。</p>		<p>①課題提出（論文のまとめ、ミニ教材作成など）30%</p> <p>②前期テスト60% ③平常点10%</p>	

12年度以前	日本語教育研究各論Ⅱ（日本語教授法1b）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に同じ</p>		<p>1回目 語彙・意味の指導</p> <p>2回目 つづき</p> <p>3回目 読解指導</p> <p>4回目 作文の指導</p> <p>5回目 つづき</p> <p>6回目 文法と文型の指導</p> <p>7回目 つづき—ドリル作成</p> <p>8回目 つづき — 会話の指導</p> <p>9回目 教室活動の流れと構成</p> <p>10回目 様々な教室活動</p> <p>11回目 教案の書き方—導入からまとめまで</p> <p>12回目 つづき</p> <p>13回目 評価一般</p> <p>14回目 教案作成の発表</p> <p>15回目 テスト作成と評価分析</p> <p>上記の授業内容の配分はその時点での進捗状況に合わせる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>前期に同じ</p>		<p>①課題提出（教案：20%、その他の課題20%）②後期テスト50% ③平常点10%</p>	

12年度以降	日本語教育特殊研究Ⅴ（日本語教授法Ⅱ）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なうための準備教育であり、演習中心の授業である。毎回、学生による模擬授業となる。模擬授業の担当者は、まず教案を1週間前に教員に提出し、授業の準備を行う。模擬授業担当以外の学生は、仮の日本語学習者となり、その授業を受ける。その場合、学習者は授業の進行を客観的に観察し、担当者の行う教室活動、指導法を具体的に検討・評価する。一方、模擬授業担当者は自分の授業をビデオ録音し、授業後、自分の授業を観察し、さらに自己評価を行う。最後に、自己評価および他者からの観察シートをまとめ、自己分析に基づいて、レポートを提出する。登録者数にもよるが、各自、少なくとも2回程度の模擬授業を行うことになる。</p> <p>**注意： 1回目の授業で、担当の割り当て、日程を決定するので、必ず出席をすること。初回出席できないものはその旨を前もって知らせること。</p>		<p>1回目 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方 — 復習 ④動詞の活用と分類 — 復習 ⑤ドリル作成 — 復習 ⑥授業観察シートの書き方</p> <p>2回目より 担当者による模擬授業</p> <p>3回目 模擬授業 4回目 模擬授業 5回目 模擬授業 6回目 模擬授業 7回目 模擬授業 8回目 模擬授業 9回目 模擬授業 10回目 模擬授業 11回目 模擬授業 12回目 模擬授業 13回目 模擬授業 14回目 模擬授業 15回目 まとめ</p> <p>模擬授業の内容：初級文型、読解指導 語彙指導、漢字指導 指導内容：初級文型の導入と指導 中級読解の指導、など</p> <p>模擬担当回数：履修者の数にもよるが、2回。 1回目はペアで、2回目は一人で行う</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>初級：『みんなの日本語』を中心に 参考文献：①「日本語の教え方の秘訣」スリーエーネットワーク ②「中・上級を教える人のための日本語文法ハンドブック」スリーエーネットワーク</p>		<p>①模擬授業60% ②レポート20% （「授業観察シートのまとめと自己分析」を実習より1週間後以内に提出）③平常点20%</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12年度以前	日本語教育特殊研究Ⅴ（日本語教授法2）	担当者	岩澤 正子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語を外国語として教える具体的な方法を学ぶ。</p> <p>日本語教育機関で実習を行うための準備教育であり、演習中心の授業である。そのため、前半の講義の後は、毎回、学生による模擬授業が組まれている。</p> <p>模擬授業担当の学生は事前に教員に教案を提出し、授業の準備を進める。模擬授業担当以外の学生は、仮の学習者となって授業を受けながら、担当者の授業の進め方も客観的に観察する。授業後、全員で担当者の教室活動や指導法について講評しあい、授業の改善を目指す。</p> <p>講義時間数、模擬授業の回数は人数によるが、少なくとも一人2回は行うよう組む。</p>		<p>1回目 オリエンテーション。</p> <p>2回目以降 講義と学生による模擬授業。</p> <p>2回目以降は学生の人数により、決める。</p> <p>1回目からの出席が大切。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ』（スリーエーネットワーク）4		① 模擬授業の準備と実践 ②授業への参加度	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12年度以前	日本語教育特殊研究Ⅴ（日本語教授法Ⅱ）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なう準備教育であり、演習授業である。</p> <p>〔講義概要〕 毎回、学生による模擬授業をおこなう。自分の授業は必ず録画し、それをもとにした事後報告の提出を義務とする。また日本語教師として教壇に立つ以外の学生は、外国人学生になり、その授業を受けながら、授業の進行を客観的に観察し、授業観察記論をつける。</p> <p>授業は、各回の前半が模擬授業、後半がそれについての討議と議論によって構成される。</p> <p>模擬授業に使用するテキストは、『Teach Yourself Complete Japanese』(Teach Yourself Books)を標準とする予定であるが、授業開始時にあらためて決定する。</p>		<p>第1回 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方 ④授業観察の方法</p> <p>第2回～第14回 担当者による模擬授業</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は、開講後指示する。		①模擬授業、②教案と事後報告書、③授業観察のまとめのレポート、④授業編貢献度の4項目(各25%)によって評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12年度以前	日本語教育特殊研究Ⅶ（教育実習）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>獨協大学における日本語教員養成課程では、4年次における教育実習を必須としている。教授法Ⅱを修了していることが履修条件となる。実習は学外の日本語教育機関において、少なくとも2週間（48時間相当）にわたって行う。実習では、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることが目的となる。</p>		各教育機関による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各教育機関によって指定されるもの		<p>基本的には実習効からの評価に基づく。 欠席、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。</p>	

12年度以前	日本語教育特殊研究Ⅶ（教育実習）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>獨協大学における日本語教員養成課程では、4年次における教育実習を必須としている。教授法Ⅱを修了していることが履修条件となる。実習は学外の日本語教育機関において、少なくとも2週間（48時間相当）にわたって行う。実習では、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることが目的となる。</p>		各教育機関による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各教育機関によって指定されるもの		<p>基本的には実習効からの評価に基づく。 欠席、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。</p>	

12年度以前	多言語間交流特殊研究Ⅰ（翻訳通訳論・英語）	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では通訳に関する基礎的な理論を概観し、演習を通じて通訳の初歩的なスキルを学びます。</p> <p>通訳の歴史、理論研究、通訳者になるための条件、通訳プロセスの基本的な枠組みなど、通訳行為に関する基礎的理論や知識を学ぶとともに、実際の通訳訓練も行い受講者の言語運用能力の向上を同時に目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 通訳とは 3. 通訳の種類と活躍の場 4. 通訳に求められるもの 5. 通訳の研究 6. 通訳のモデル 7. 通訳と翻訳 8. まとめ 9. 記憶とノートテーク 10. 逐次通訳 (1) 11. 逐次通訳 (2) 12. 同時通訳 (1) 13. 同時通訳 (2) 14. 通訳とデリバリー 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：友野百枝・宮元友之・南津佳広著『通訳学 101』（大阪教育図書、2012年）</p>		<p>レポートによって評価する。なお出席は前提条件であり、遅刻2回を1欠席と見なし、欠席4回以上は評価の対象外とする。</p>	

12年度以前	多言語間交流特殊研究Ⅳ（翻訳通訳実習・英語）	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、「英語を単なる『知識』ではなく、活用できる『スキル』にすること」を目標ととらえ、その目標を達成するために、翻訳の実技演習をおこなう。</p> <p>翻訳の技能を修得・向上させることにより、「知識」としての英語を実際に使いこなせる「スキル」へと質的变化を起こさせることを狙う。</p> <p>翻訳の技能を修得する過程では、複合的な分野を強化していくことになる。英語の運用能力のみならず、日本語の運用能力、知識の増強なども行う予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 通訳訓練 (1) シャドーイング 3. 通訳訓練 (2) リテンション・リプロダクション 4. 通訳訓練 (3) クイックレスポンス 5. 通訳訓練 (4) ノートテーク 6. 逐次通訳演習 (1) Speech by Steve Jobs 7. 逐次通訳演習 (2) Speech by Steve Jobs 8. 確認テスト(1) 9. 逐次通訳演習 (3) Speech by First Lady 10. 逐次通訳演習 (4) Speech by First Lady 11. 逐次通訳演習 (5) Speech by First Lady 12. 逐次通訳演習 (6) Speech by First Lady 13. 逐次通訳演習 (7) Speech by First Lady 14. 逐次通訳演習 (8) Speech by First Lady 15. 確認テスト(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業内で指示する。</p>		<p>レポートによって評価する。なお出席は前提条件であり、遅刻2回を1欠席と見なし、欠席4回以上は評価の対象外とする。</p>	

12年度以前	多言語間交流特殊研究Ⅱ（翻訳通訳論・中国語）	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：日本と中国の翻訳の歴史と理論についての理解を深め、さらに実際の翻訳作品を素材として比較や分析を行います。また、学期の最後には種々のテキストを用いて翻訳実習を行います。</p> <p>中国における翻訳研究の歴史、日中間の翻訳交流の歴史などから翻訳がいかなる役割を果たしたかを探ります。林語堂、魯迅の翻訳論に関しては中国語の原文と参考用に日本語翻訳または参考文献を配布します。</p> <p>学期の半ばでは、実際の翻訳作品を例にとり、日本語から中国語、および中国語から日本語へ翻訳された場合の言語表現の変化を検討します。</p> <p>最後に実際に自分で翻訳を行い、翻訳の楽しさや難しさを体験します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 翻訳の理論が扱う問題 3. 中国における翻訳の歴史 4. 中国の翻訳論と日本の翻訳論 5. 近代文学と翻訳 6. 日本における中国文学の翻訳（近代以前） 7. 日本における中国文学の翻訳（近代以降） 8. 日本文学の中国語訳を読む（1） 9. 日本文学の中国語訳を読む（2） 10. 中国文学の日本語訳を読む（1） 11. 中国文学の日本語訳を読む（2） 12. 翻訳実習（1） 13. 翻訳実習（2） 14. 翻訳実習（3） 15. 学期のまとめ、レポート提出 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定せず、授業中にそのつど配布する。		平常点（授業における積極性）と期末レポートで評価します。	

12年度以前	多言語間交流特殊研究Ⅴ（翻訳通訳実習・中国語）	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：中日・日中翻訳・通訳入門</p> <p>履修者の中国語運用能力に適した難易度の教材を選定して翻訳通訳の練習を行います。</p> <p>1～5回：比較的読みやすい雑誌記事などの中→日翻訳 5回目：中間試験 6～9回：基本的な文法事項にそって中国語作文練習を行いながら日本語から中国語への訳出訓練をします。 10～15回：中日・日中双方向の逐次通訳と同時通訳の練習を行い、すばやい反応力と応用力を養います。</p> <p>5・9・14・15回目の授業で翻訳・通訳についてそれぞれ実技試験を実施し、平均点で総合点を出します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 中国語読解力の判定 2. 文化コラムの翻訳 3. エッセイの翻訳 4. 社会ニュースの翻訳 5. 翻訳の試験及び中国語リスニング力の判定 6. 中国語への訳出練習（単文） 7. 中国語への訳出練習（単文） 8. 中国語への訳出練習（長文） 9. 中国語作文試験及びスピーキング力の判定 10. 原稿付き逐次通訳 11. 原稿なし逐次通訳 12. 原稿付き同時通訳 13. 原稿なし同時通訳 14. 通訳試験（逐次通訳） 15. 通訳試験（同時通訳） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定せず、授業中にそのつど配布する。		授業に対する積極性と実技試験の結果で評価します。	

12年度以前	多言語間交流特殊研究Ⅲ（翻訳通訳論・スペイン語）	担当者	柴田 バネッサ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>翻訳・通訳とは何か。実践例や演習を通じて、翻訳・通訳の概要を検討する。</p> <p>翻訳では、文法の復習を兼ね、接続法と表現に焦点を当てる。</p> <p>また、スペインとラテンアメリカの歴史に焦点を当てながら翻訳者要請に有意義だとされているメモリーレッスンを試みる。伝達意図を即時につかみ、取り入れ、発表する練習を行う。通訳訓練の内容先取り訓練を兼ね行う。</p> <p>通訳に関しては、通訳者の役割と訓練法の説明を行い、さらに通訳技術を応用した翻訳技法を用いて課題で演習を行う。日本語訳、スペイン語訳 2 課題を提出する。</p> <p>語彙のテストを10回行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 数字のQR 2. 通訳と翻訳、相違点、ワーキングメモリーについて過去形を使う通訳演習 倫理問題 3. メモリーレッスン1 過去形を使う 4. メモリーレッスン2 5センテンス通訳 5. メモリーレッスン3 5センテンス通訳 6. メモリーレッスン4 接続法を使う 7. メモリーレッスン5 接続法 8. メモリーレッスン6 未来形 9. 数字、接続法テスト 未来形 10. ノートテキーティングとサマリー作成 11. ノートテキーティングとサマリー作成 12. 長文音読と視訳 13. 長文音読と同時サイトラ 14. 実技試験 15. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布</p> <p>テキストは初日に指示する。</p>		<p>口頭訳出演習への参加 30% 課題 30% 試験 20% 実技 20% 課題はPC仕上げ</p>	

12年度以前	多言語間交流特殊研究Ⅵ（翻訳通訳実習・スペイン語）	担当者	柴田 バネッサ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Discurso del Presidente Jose Mujica en la ONU http://www.youtube.com/watch?v=VSIABW7sFZ4</p> <p>数字QR 10 万以上の数字を聞いた瞬間にスペイン語で言えるように訓練します。</p> <p>2013年ムヒカ大統領の演説をメインテーマにして、原稿を音読、そして視訳、逐次通訳する。</p> <p>以下の手順で本番に近い演習を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音読、視訳 2. 訳文検討、翻訳 3. ペアまたはグループによる逐次通訳演習 4. 逐次通訳、ウィスパリング通訳 5. 実技試験 6. 同通の場合の削ぎ落しを検討する。 7. 危機管理（パニック回避） 		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、素材音読、サマリー作成 2. 視訳（西-日）、サマリー作成、日本の事象（日-西） 3. 視訳（西-日）、サマリー作成、逐次通訳 4. 視訳（西-日）、サマリー作成、逐次通訳 5. 逐次通訳、ウィスパリング同通 6. 実技試験 課題訳文提出 7. 視訳（西-日）、サマリー作成、日本の事象（日-西） 8. 視訳（西-日）、サマリー作成、逐次通訳 9. 視訳（西-日）、サマリー作成、逐次通訳 10. 逐次通訳、ウィスパリング同通 11. 実技試験、素材音読、課題訳文提出 12. 視訳（西-日）、サマリー作成、逐次通訳 13. 視訳（西-日）、サマリー作成、逐次通訳 14. 同通実技試験 15. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布</p>		<p>口頭訳出演習への参加 30% 課題 30% 試験 20% 実技 20% 課題はPC仕上げ</p>	

13年度以降 12年度以前	異文化間コミュニケーションⅠ 多文化共生研究Ⅴ（異文化間コミュニケーション a）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>あなたにとってなにが異文化／自文化か？と問われたらどう答えるだろうか。異文化は「遠い国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じることもある。</p> <p>本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研究とその歴史的背景をふまえたうえで、現代社会の異文化関係について様々な角度から学ぶことがねらいである。とくに、異なる文化の人々が共に社会を築き上げる際に起こりうる問題にはどういったことがあるか、またそれはどういった経緯で起こるのかについて深く考えてもらいたい。授業でとりあげる資料や事例は、慎重に扱わねばならない難しいものもあるが、本講義をとおして、自分なりに異文化共生や異文化理解の糸口を探してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 異文化と自文化を意識する 3. 異文化間コミュニケーション研究の歴史 4. コミュニケーションの構造 ——コンテキストとステレオタイプ 5. 異文化へのまなざし（1） 6. 異文化へのまなざし（2） 7. 異文化へのまなざし（3） 8. 異文化からのまなざし（1） 9. 異文化からのまなざし（2） 10. 異文化からのまなざし（3） 11. 内なる異文化（1） 12. 内なる異文化（2） 13. マルチカルチュラリズムについて（1） 14. マルチカルチュラリズムについて（2） 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		授業内／期末レポート（50%）と授業中の活動（50%） 【履修者多数の場合はテストを行う】	

13年度以降 12年度以前	異文化間コミュニケーションⅡ 多文化共生研究Ⅵ（異文化間コミュニケーション b）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>異文化間のコミュニケーションとは「他者理解」の作法と言い換えることができる。グローバル時代では不可欠なことだ。しかし、それは「言う易く行うは難し」のフレーズ通りなのである。</p> <p>本講義では、その事例としてアメリカの黒人問題をとり上げる。</p> <p>価値観や行動様式、そして外見のちがう「他者」との出会いでは相手を理解する努力と寛容さが必要だ。ただ、アメリカは黒人種との出会いにおいて大きな過ちを犯した。それは彼らを奴隷として処遇したことである。この大罪に、アメリカはいまだ苦しんでいる。黒人と白人との修復されない不仲は犯罪や貧困の温床となっている。</p> <p>苦悩するアメリカの現状を紹介し、歴史をさかのぼって奴隷から「解放」、そして真の「解放」への闘争を紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. モザイク国家アメリカ 3. ロス暴動にみる共生の現実 4. 奴隷制とは 5. 奴隷解放？現実とは？ 6. 自由と平等への戦いのはじまり 7. バスボイコット事件 8. 公民権運動の共生理念 9. 非暴力不服従 ガンジーとキング 10. 迷える北部の黒人たち 11. 急進派ブラック・パワーとは 12. ベトナム反戦と黒人運動 13. モハメッド・アリ 14. 最近の人種問題 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：『アメリカ黒人の歴史』本田創造 岩波新書 『キング牧師とマルコム X』上坂昇 講談社現代新書		学期末試験 レポート 受講希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください	

13年度以降 12年度以前	多文化共生研究Ⅰ 多文化共生研究各論Ⅰ（アメリカの多文化共生 a）	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の前半ではユダヤ人たちがアメリカに渡る以前のヨーロッパでの「負け犬」時代を学ぶ。特にユダヤ人差別の発生メカニズムについて説明する。</p> <p>後半では「負け犬」だったユダヤ人たちがアメリカで迎った苦難の歴史と、多数派からの抑圧をはねのけ共生の道を模索してきた姿を学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 中世英国のユダヤ人金融 2. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る -1290年のイングランド- 3. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国 5. 17～18世紀英国の外国貿易とユダヤ人 6. 英国人地主貴族社会への同化現象 7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム 8. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ 9. 現代英国のユダヤ人社会 10. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 11. 植民地時代、建国初期における反ユダヤ主義の不在 12. 南北戦争期における反ユダヤ主義の出現 13. 公民権闘争期のユダヤ教会堂爆破 14. 1970年代以後の反ユダヤ主義 15. 閉ざされた象牙の塔、高等教育におけるユダヤ人排斥 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000年 集英社新書 740円） 『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995年 講談社選書 1600円）		評価は筆記試験によって決定する。試験は自筆ノート、テキストの持ち込み可。 20問8択の Quiz 形式	

13年度以降 12年度以前	多文化共生研究Ⅱ 多文化共生研究各論Ⅱ（アメリカの多文化共生 b）	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期では世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。</p> <p>各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを説明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。</p> <p>こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。</p> <p>下記二冊のテキストにそってアメリカの人種関係史について学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ先住民 2. 越境するヒスパニック 3. 今を生きる黒人 4. 歴史の中の黒人 5. 等身大のユダヤ人 6. 声なき少数派、アジア系 7. ホワイト・エスニック 8. 異人種・異教徒間カップル 9. 米南部の反ユダヤ主義、レオ・フランク事件 10. 1902年、NYの反ユダヤ暴動 11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 甦る儀式殺人告発 13. 閉ざされた象牙の塔、高等教育におけるユダヤ人排斥 14. 公民権闘争期 南部におけるユダヤ教会堂爆破 15. 反ユダヤ主義は死なず 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤唯行『映画で学ぶエスニックアメリカ』（2008年 NTT 選書 1600円） 佐藤唯行『アメリカのユダヤ人迫害史』（集英社新書 740円）		20問8択の Quiz 形式の試験、教科書持ち込み可	

13年度以降 12年度以前	大衆文化論 多文化共生研究各論Ⅶ（大衆文化論）	担当者	木本 玲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、特に 20 世紀以降のサブカルチャーについて理解を深めることを目指す。複製技術の発展、それに関連した産業の成長は、文化、社会のありかたを大きく変化させてきた。講義では、まず 20 世紀のポピュラー音楽を題材とし、サブカルチャーの社会的な意味を探る。さらに IT 技術の進展に伴う現在の複合メディア環境にも目を向け、そうした環境が導く文化、社会の動態について考察を深めていく。具体的な事例を中心に話を進めるが、講義の軸は社会学である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 20 世紀のサブカルチャー1：ロックと対抗文化 3 20 世紀のサブカルチャー2：ロックの成熟化 4 20 世紀のサブカルチャー3：ヒップホップの時代 5 サブカルチャーとグローバリゼーション1：日本のロック（流入期～） 6 サブカルチャーとグローバリゼーション2：日本のロック（その後～） 7 サブカルチャーとグローバリゼーション3：日本のヒップホップ（流入期～） 8 サブカルチャーとグローバリゼーション4：日本のヒップホップ（その後～） 9 産業と文化1 10 産業と文化2 11 ヤンキー文化とオタク文化1 12 ヤンキー文化とオタク文化2 13 複合メディア社会とサブカルチャー1 14 複合メディア社会とサブカルチャー2 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時指示する。		試験により評価する。	

13年度以降 12年度以前	ローカル・メディア論 多文化共生研究各論Ⅷ（地域メディア論）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。</p> <p>本講義で扱うローカル・メディア（地域メディア）は、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここではローカル・メディアとしてとりあげたい。それらが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、またどういった機能がそこに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。</p> <p>学期の後半は、受講者自身が制作したローカル・メディアを提出・発表してもらおう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. グローバル化とローカルコミュニティ 3. 地域・地方文化の復権とメディア 4. 各地のローカル・メディア（1） 5. 各地のローカル・メディア（2） 6. 各地のローカル・メディア（3） 7. メディアによる地域文化の創造（1） 8. メディアによる地域文化の創造（2） 9. 多文化共生とローカル・メディア（1） 10. 多文化共生とローカル・メディア（2） 11. 災害時におけるローカル・メディアの役割 12. 受講者による発表（1） 13. 受講者による発表（2） 14. 受講者による発表（3） 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房		レポート（50%）と授業内での作品発表（50%） 【履修者多数の場合は期末テストを行う】	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文化 多言語間交流研究各論X I (英語圏の文化)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>年間、60 数万人もの移民を受け入れているアメリカ。白人々口の割合は減る一方で、今世紀の半ばには5割を切るという。</p> <p>国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ(WASP<White Anglo-Saxon Protestant>)社会を創造した。19世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れたアメリカは多民族国家へと急速に変化していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。</p> <p>冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。</p> <p>近年、よく聞かれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながらたどり、この国の文化の特徴を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ワスプ主義とは 3. 新しい白人移民の流入 4. 多民族社会の問題 5. 異文化と差別 6. メルティングポット論 7. ビートニクス 8. 冷戦とベトナム戦争 9. カウンターカルチャー I 10. カウンターカルチャー II 11. ロックミュージックの誕生 12. 文化多元論 13. アファーマティブアクション 14. 多文化主義 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：授業で紹介する		学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください	

13年度以降 12年度以前	英語圏事情 多言語間交流研究各論X II (英語圏事情)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化の理想は、世界の共生である。しかし、現状は欧米、とくに経済と軍事の強大な力をもつアメリカの影響に圧倒されている。他方、世界はアメリカがつくるポップカルチャーの魅力の虜となっている。硬軟両方のアメリカのパワーを認識し、世界のあるべき姿を考える。</p> <p>イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。</p> <p>反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なもの」を発信しつづけ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。</p> <p>アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル化がすすむ世界に与える影響を考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 銃社会アメリカ 3. なぜ、銃が必要か 4. 日本の中のアメリカ、米軍基地を考える 5. 米兵事件の実相 6. アメリカと戦争、9.11 7. ベトナム戦争 8. 湾岸戦争 9. イラク戦争 10. もう一つの9.11 11. 映像 12. ソフト・パワー 13. アメリカンポップカルチャーの力 14. // 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：授業で紹介する		学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください	

13年度以降 12年度以前	国際関係論 国際交流研究Ⅰ（国際関係論）	担当者	中島 晶子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、国際関係の歴史と理論、国際政治と国際経済が連動する構造について、基本的な見方や枠組みを理解することを目的とします。</p> <p>国際関係論は、大きな惨禍をもたらした第一次世界大戦の衝撃を受け、国際事象を総合的に把握するための学問として発展してきました。</p> <p>国際関係の重要な課題は、1960年代半ば頃まで冷戦構造における軍事的な安全保障でしたが、1960年代末から冷戦構造が多極化に向かうにつれ、経済的問題の重要性が増すようになりました。</p> <p>特に冷戦の終結後、国際経済秩序の再編、旧ソ連・東欧諸国の資本主義への体制移行をはじめとする多くの争点が続いて現れ、その傾向は強まりました。さらに、グローバル化をめぐる議論の高まりで、国際政治と国際経済の相互作用や統合がますます国際関係の中心テーマになっています。</p> <p>講義では国際関係の見方について、政治と経済の歴史、相互関係の点から概説します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 国際政治 3. 国際経済 4. 国際関係：3つの主要理論(1) 5. 国際関係：3つの主要理論(2) 6. 二つの世界大戦まで 7. 冷戦からポスト冷戦へ(1) 8. 冷戦からポスト冷戦へ(2) 9. 政治思想と体制 10. 地域紛争 11. 国際政治と国際経済の連動(1) 12. 国際政治と国際経済の連動(2) 13. 国際政治と国際経済の連動(3) 14. グローバル政治経済秩序の課題 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
原彬久編『国際関係学講義 [第4版]』（有斐閣、2011年）をテキストとし、参考文献は適宜紹介します。		期末試験（70%）とコメントカードなど平常点（30%）により評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	国際協力論 国際交流研究Ⅱ（国際協力論）	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界の各地では地域紛争が絶えない。また貧富の格差も一向になくならない。こうした諸問題を前に、我々はPKO（平和維持活動）やODA（政府開発援助）を軸に平和構築や経済開発・貧困緩和に取り組んできた。この2つを有機的に結びつけること、すなわち紛争中やその前後の危険な状況下で効果的な開発援助を進めていくことも今日の重要課題のひとつである。</p> <p>本講義ではこれらの国際協力の基本的枠組みや具体的な事例、成果や限界について学び、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。</p>		<p>I. 国連と平和維持活動（PKO）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国連憲章とPKO 2. PKOの原則と活動の変遷 3. PKOの事例研究（モザンビーク） 4. 日本のPKO協力法 <p>II. 武力紛争と平和協力</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 武力紛争と和平交渉（エルサルバドルの事例：1） 6. 和平合意と平和維持（エルサルバドルの事例：2） 7. 紛争解決過程におけるPKOの意義 8. 武力紛争終結後の復興課題 <p>III. 貧困問題と開発協力</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 政府開発援助（ODA）の理念と枠組み 10. 南北関係の変化と開発援助の変遷 11. 貧困と「人間の安全保障」 12. 開発協力と非政府組織（NGO） <p>IV. 国際協力の新しい課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 平和協力と開発協力の融合 14. 武装解除と平和構築 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験で評価する（これに授業への参加状況を加味する場合がある）。	

13年度以降 12年度以前	南北問題 国際交流研究Ⅴ（南北問題）	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地球上にいる人間の約8割は発展途上国に暮らしている。そして世界人口の約5分の1（約12億人）は1日1ドル以下の生活を強いられている。我々は今この問題に正面から向き合わなければならない。たとえば、経済開発は重要だがそれを環境に負荷を与えずに行えるのか。市場経済と自由競争の社会で脆弱な貧困層にいかなる社会政策（教育・保健・福祉）を進めていけばよいのか。先進国による開発援助はいかにあるべきか。</p> <p>本講義ではこうした現代世界における政治的・地理的課題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。</p>		<p>I. 地球環境政治</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境問題と南北対立 2. 貧困と環境破壊 3. 持続可能な開発の模索 4. 地球温暖化（気候変動枠組み条約）と南北関係 <p>II. 南北関係の展開と開発援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 第三世界の独立と開発援助戦略 6. 第三世界のナショナリズムと南々格差の拡大 7. 貧困と「人間開発」 8. 新しい開発援助戦略と国連ミレニアム開発目標 <p>III. 南北問題の争点</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 経済のグローバル化と貧困問題 10. 世界の食糧問題 11. 人口の増加とエネルギー問題 12. 水問題と砂漠化問題 <p>IV. 世界の直面する課題と南北関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 自然災害と復興支援 14. 核拡散防止と原子力利用をめぐる軋轢 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験で評価する（これに授業への参加状況を加味する場合がある）。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	NGO論 国際交流研究Ⅳ（NGO論）	担当者	清水 俊弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。</p> <p>この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ODA）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。</p> <p>また、こうした紛争地等で活動するNGOが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する。</p>		<p>①NGO論オリエンテーション</p> <p>②～③「対テロ戦争」と市民社会Ⅰ/アフガニスタンの現状とNGOの活動</p> <p>④～⑤「対テロ戦争」と市民社会Ⅱ/イラクの現状とNGOの活動</p> <p>⑥パレスチナ問題とNGOの取り組み</p> <p>⑦東アジアの平和と市民交流</p> <p>⑧NGOによる復興・開発協力の事例（カンボジア）</p> <p>⑨ミレニアム開発目標（MDGs）とラオスにおける森林保全</p> <p>⑩アフリカにおけるHIV/AIDSの原状とNGOの取り組み</p> <p>⑪政府開発援助とNGO</p> <p>⑫～⑬非人道兵器の禁止と市民社会Ⅰ 対人地雷の廃絶キャンペーンに学ぶNGOのネットワーク</p> <p>⑭非人道兵器の禁止と市民社会Ⅱ クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割</p> <p>⑮NGOの組織運営と資金</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：日本国際ボランティアセンター著『NGOの選択』めこん 2005年</p> <p>参考文献：清水俊弘著 『クラスター爆弾なんてもういらぬ』合同出版 2008年</p>		<p>平常点、授業への参加度、課題提出などの実績（30%）及び期末考査（小論文またはレポート）の結果（70%）を評価対象とする。</p>	

13年度以降 12年度以前	国際政治論Ⅰ 国際交流研究各論Ⅰ（国際政治論 a）	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル(世界)危機社会の現在は著しく日常化し、我々の生存と生活はグローバル危機の在り方に大きく依存している。我々は、核を中心とする大量破壊兵器問題をはじめ、民族・宗教紛争の激化、南北問題の深化、環境破壊の拡大、人口・食糧・エネルギー問題、人権抑圧問題、貧困・飢餓問題、アイデンティティ危機問題、エイズ・麻薬問題、などの地球的規模の問題群や紛争群に直面している。その巨大で、複雑で、流動的で、日常化したグローバル危機政治社会の形成・展開・変容・変革の過程がどのような要因によって形成され、展開していくのか。また、その過程でなぜ、いかに前述したような地球的規模の問題群や紛争群が生まれてくるのかを検討していく。そして、そうした問題群や紛争群の統治・解決・変革の必要・可能性を明らかにしていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際政治学の基本的課題-グローバル危機社会の構造- 2 国際政治の構造的変容-冷戦構造崩壊の意味- 3 現代世界政治の新しい枠組み-湾岸危機・戦争- (1) 4 現代世界政治の新しい枠組み-湾岸危機・戦争- (2) 5 現代世界政治の新しい枠組み-ソ連邦の崩壊の原因-(1) 6 現代世界政治の新しい枠組み-ソ連邦の崩壊の意味-(2) 7 グローバル（世界）危機社会の形成と意義 8 グローバル危機社会と安全保障 9 グローバル危機社会と人権 10 グローバル危機社会と貧困・不平等問題 11 グローバル危機社会と文化的アイデンティティ 12 グローバル危機社会と地球環境保全 13 グローバル危機社会とジェンダー 14 グローバル危機社会におけるガバナンスの展開 15 グローバル危機社会の中の日本 	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『グローバル危機社会の構造とガバナンスの展開』（亜細亜大学購買部ブックセンター）		試験、授業への参加度による総合評価。ただし、レポート（書評）を提出した者は加点する。	

13年度以降 12年度以前	国際政治論Ⅱ 国際交流研究各論Ⅱ（国際政治論 b）	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日の我々の生存と日常生活は地球的規模の問題群におおわれているため、巨大で、複雑で、流動的な国際政治（世界政治）の危機構造の本質、特徴、また変革の可能性と必要性などの検討が要求されている。そうした国際政治の形成・維持・展開・変容・変革の過程が現状維持志向秩序勢力（コミュニタリアニズム中心的秩序勢力）と現状変革志向秩序勢力（コスモポリタニズム中心的秩序勢力）との弁証法的運動によって規定されている。それらの勢力を構成する政治権力、経済秩序勢力、安全保障秩序勢力、アイデンティティ勢力、環境保全勢力・国家主体・脱国家主体勢力などから国際政治（世界政治）の弁証法的運動をみていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 戦後国際政治の現実の基本的枠組みと理論 2 事例-戦後日米関係の展開過程- (1) 3 事例-戦後日米関係の展開過程- (2) 4 事例-戦後日米関係の展開過程- (3) 5 事例-戦後日米関係の展開過程- (4) 6 世界政治における権力の弁証法- (1) 7 世界政治における権力の弁証法- (2) 8 世界政治における安全保障の弁証法- (1) 9 世界政治における安全保障の弁証法- (2) 10 世界政治における経済勢力の弁証法- (1) 11 世界政治における経済勢力の弁証法- (2) 12 世界政治におけるアイデンティティ政治の弁証法 13 世界政治における環境問題の弁証法 14 世界政治における脱（非）国家主体の役割 15 世界政治秩序の変革 	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『世界秩序の変動と弁証法』（テイハン）		試験、授業への参加度、レポート（任意）による総合評価。	

13年度以降 12年度以前	国際経済論Ⅰ 国際交流研究各論Ⅲ（国際経済論 a）	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的な考えを講義します。その中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の基礎的事項なので厳密な展開を心がけたいと思います。受講生には予習と復習を求めます。私語厳禁。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際貿易概観 2 リカード的比較優位説 3 リカード的比較優位説 4 ヘクシャー・オリーニ定理 5 ヘクシャー・オリーニ定理 6 国際貿易の一般均衡 7 国際貿易の一般均衡 8 経済成長と貿易 9 国際資本移動と移民 10 国際資本移動と移民 11 関税・輸入数量制限 12 関税・輸入数量制限 13 輸入補助金と輸出自主規制 14 輸入補助金と輸出自主規制 15 質問とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
大山道広・伊藤元重『国際貿易』 岩波書店		試験のみで評価	

13年度以降 12年度以前	国際経済論Ⅱ 国際交流研究各論Ⅳ（国際経済論 b）	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に扱った貿易理論とともに国際経済学の大きな柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的な内容なので、きちんと理解する必要があります。</p> <p>春学期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。私語厳禁。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際収支と国民所得勘定 2 国際収支と国民所得勘定 3 外国為替市場 4 外国為替市場 5 外国為替市場 6 固定相場制下の所得決定 7 固定相場制下の所得決定 8 変動相場制下の所得決定 9 変動相場制下の所得決定 10 国際収支と財政・金融政策 11 国際収支と財政・金融政策 12 国際資本移動と財政・金融政策 13 国際資本移動と財政・金融政策 14 質問とまとめ 15 質問とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		試験のみで評価	

13年度以降 12年度以前	日本政治外交史Ⅰ 国際交流特殊研究Ⅰ（日本政治外交史 a）	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>21世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると言えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。本講義では、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。</p> <p>春学期は敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、アメリカの日本占領政策をたどり、それに日本の諸政治勢力とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。その際、日本国憲法によって生み出された体制がどのようなものであったか、占領期に行われた改革が戦後日本にどのような影響を与えたかを見してみる。</p> <p>受講者には、歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えるとという姿勢をもってもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに—国際社会のなかの日本— 2. 日米戦争と戦後日本（1） 3. 日米戦争と戦後日本（2） 4. 敗戦と占領の開始（1） 5. 敗戦と占領の開始（2） 6. 政党の復活 7. 新憲法の誕生（1） 8. 新憲法の誕生（2） 9. 占領と改革 10. 政党政治の再生—戦後日本の出発 11. 中道政権の形成と崩壊（1） 12. 中道政権の形成と崩壊（2） 13. 占領政策の転換—実らなかった講和 14. 占領政策の転換—経済復興 15. おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】福永文夫『戦後日本の再生—1945～1964年』丸善。【参考文献】福永文夫『大平正芳—戦後保守とは何か』中公新書。		講義中に行う平常試験（50点）と学期末の定期試験（50点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。	

13年度以降 12年度以前	日本政治外交史Ⅱ 国際交流特殊研究Ⅱ（日本政治外交史 b）	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>21世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると言えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。</p> <p>本講義では、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、サンフランシスコにおける講和・独立から「55年体制」を経て1970年代に至る日本の政治外交のあり方をたどり、それに日本の諸政治勢力とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。</p> <p>受講者には、歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えるとという姿勢をもってもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに—国際社会と戦後日本— 2. 講和への胎動（1） 3. 講和への胎動（2） 4. 講和をめぐる国内政治—全面講和と多数講和 5. 講和をめぐる国際関係—サンフランシスコ講和 6. 「55年体制」の形成—保守勢力の混迷 7. 「55年体制」の成立—保守合同と社会党の統一 8. 鳩山・岸内閣 9. 60年安保騒動と政党政治 10. 高度成長期の政治と外交—池田政権 11. 高度成長期の政治と外交—佐藤政権 12. 混迷の70年代（1） 13. 混迷の70年代（2） 14. 混迷の70年代（3） 15. おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】福永文夫『戦後日本の再生—1945～1964年』丸善。【参考文献】福永文夫『大平正芳—戦後保守とは何か』中公新書。		講義中に行う平常試験（50点）と学期末の定期試験（50点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。	

13年度以降	地域研究論	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学問の世界には、地理学、歴史学、政治学、社会学、文化人類学といった個別のディシプリン(専門分野と方法論)がある。そしてそれぞれの研究手法は、当該の人文・社会現象を分析・考察するうえで、非常に有用なものである。</p> <p>他方で、ある特定の地域を理解しようとする場合、専門分野ごとの個別的な研究手法に依拠するだけでは必ずしも十分でない。自然環境、歴史、人、宗教、思想、政治、経済、社会、言語、文化など、広範な分野を横断し、複眼的かつ総合的に対象に迫ることがきわめて重要である。</p> <p>本講義では、事例としてはラテンアメリカを取り上げ、地域を総合的に理解することの意味を考えたい。「地域研究」をするのであるから、対象地域(すなわちラテンアメリカ)への理解を深めることは、本講義の一つの大きな目的である。ただ、それを超えて狙いとしているのは、この講義を通じて「地域」への総合的なアプローチを体感し、受講生一人ひとりが将来、研究対象が中国であろうが韓国であろうが欧州であろうが、地域理解のために必要な基本的な視座と応用力を身につけてもらうことである。</p>		<p>I. 地域をいかに研究するか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域研究とは何か 2. 個別の学問と学際研究 <p>II. 地域を総合的に捉える(事例：ラテンアメリカ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 自然環境と生業 4. 人種と民族 5. 宗教と家族 6. 社会規範と価値観 7. 経済社会構造 <p>III. 普遍性と特殊性を考える(事例：ラテンアメリカ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 近代化論(近代化への歩みは世界共通か?) 9. 政治文化論(地域理論の構築 1) 10. 政治発展論(地域理論の構築 2) 11. 民主化論・民主主義論(普遍理論への回帰) 12. 比較政治と地域研究 <p>IV. 地域研究の社会的役割を考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 地域研究を平和協力・開発協力を生かす 14. 地域研究を災害復興支援に生かす 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験で評価する(これに授業への参加状況を加味する場合がある)。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降	グローバル社会特殊研究（在外日本人研究）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>異郷で生きた日本人の足跡をたどり、「日本人ってなんなのか」を考えてみたい。</p> <p>明治のころ一攫千金を夢みて太平洋を越えた日本人たちはハワイへ、アメリカ本土へ、あるいは南米へと渡っていった。そうした人びとの子孫の数はいまや270万人にのぼる。</p> <p>授業では、①一時滞在のつもりで日本を離れた彼らが帰国せず、②家族を形成し異国で骨を埋める覚悟をもつようになる。しかし、③白人からの差別を受け、④それに忍従して、⑤今日にいたる彼らの堅牢な地位を確立していく、過程をみる。ただ、このようにダイジェストすると美点だけが強調されるが、日本人の狡猾で日和見的な姿もとり上げる。講義の終わりでは、⑥占領期の日本人を取り上げる。1945年の終戦から6年以上にわたって、独立を奪われた日本はアメリカの影響下に置かれた。占領という、いわば日本にあってアメリカという異世界にいた日本人はいつこの状況をどう生きたのかを紹介する。</p> <p>この授業はグローバルの「特殊研究」といって、講義の一部はテキストとして指定した文献を読み講義の補足で理解を深めることとなる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ハワイそしてアメリカへ 3. 敵意のはじまり 4. 差別の連打-憎しみのメカニズム- 5. 日米戦争と排斥-強制立ち退き- 6. アメリカへの忠誠と従軍-二世部隊- 7. 戦後の人権獲得と汚名返上 8. 中南米へ渡った日本人 9. ハワイの日本人-差別事件1 10. ハワイの日本人-差別事件2 11. ハワイの日本人-差別事件3 12. 敗戦と占領と日本人-日本が外国に- 13. 豹変する日本人とアメリカの黄金化 14. アメリカ化する日本人 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト:『ハワイの日本人移民』山本英政 明石書店		学期末試験 レポート 受講希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください	

13年度以降 12年度以前	グローバル社会特殊研究（滞日外国人研究） 多文化共生特殊研究Ⅰ（滞日外国人研究）	担当者	田房 由起子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、日本社会における外国人の状況を知ることにより、国際移動によって「異文化」の中で生活する人々の抱える問題について理解を深めることを目的とする。</p> <p>まず、人の国際移動や、人種、エスニシティに関する理論について紹介する。次に、いくつかのエスニック集団を取り上げ、個々の集団に特徴的な状況について知識を得よう。また、教育や労働などのテーマからかれらの抱える問題を取り上げてみたい。さらに、受け入れ社会側の人々にとって「異文化」を持つ人々を受け入れるとはどのようなことかを考え、そこから「多文化共生」の可能性を模索したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・日本における外国人の概況（1） 2. 日本における外国人の概況（2） 3. なぜ人は移動するのか 4. 人種とエスニシティ 5. オールドカマー 6. ニューカマー（1） 7. ニューカマー（2） 8. ニューカマー（3） 9. 労働問題（1） 10. 労働問題（2） 11. 子どもたちと教育（1） 12. 子どもたちと教育（2）・アイデンティティ 13. 人種／エスニシティと差別 14. 「多文化共生」の可能性 15. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献は授業時に紹介する。		平常授業における課題レポート（40%）、期末試験（60%）により評価。	

13年度以降 12年度以前	グローバル社会特殊研究（アメリカ合衆国のラティーン社会） 多文化共生特殊研究Ⅱ（アメリカ合衆国のラティーン社会）	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、米国におけるラティーン概念誕生の経緯を歴史的に追い、さらにラティーン社会の現状と問題点を、米国内の人種間関係だけでなく隣接地域間の人的交流・相互関係という新しい視点を組み込んで論じたいと思う。</p> <p>一般に米国における人種およびエスニック集団とラテンアメリカの人種をめぐる認識はまったく違うものと考えられてきた。しかし、近年の米国におけるラテンアメリカ系住民の急激な増加は、こうした人種認識の差異に変化をもたらしているように思われる。典型的にはラティーンの「人種」化である。ラティーンが米国を変えるかもしれないという議論の是非を、広い歴史的スパンのなかで考えていこうと思う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに： ラティーンとはだれか 米国における人種・民族関係とラティーン 2 ラティーンの概要： 出身地域と分布 3 人種化する「ラティーン」 4 米ネイティブズムの動向 ハンチントン アリゾナ州反移民法 荒野の越境 5 米大統領選と非合法移民問題： DACA ドリーム法案 6 麻薬戦争 エルパソとフアレス市 7 国境ツインシティ： ティファアナとサンディエゴ 8 なぜひとは国境を越えて移動するのだろうか。 9 移動の歴史① プエルトリコ系とキューバ系 10 移動の歴史② メキシコ系 11 アストラン伝説とチカノ運動 12 トランスナショナル・シティズンの誕生 13 映像資料 14 ラティーンは米国を変えるのか 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献： 中條 謙『歴史の中の人種』北樹出版 2004 サミュエル・ハンチントン『分断されるアメリカ』集英社 2004 など 授業中に文献リストを配る</p>		<p>2, 3回の講義につき1回の小テストをおこない、その結果と授業内での発言を総合して判断する。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	グローバル社会特殊研究(東南アジアの経済と地域統合 a) 国際交流特殊研究Ⅲ (アジア太平洋地域交流 a)	担当者	高安 健一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、各国の経済発展の軌跡および経済の特徴について学習します。</p> <p>講義には二つの軸があります。一つは、東南アジア諸国の多様性に焦点をあてることです。東南アジアという地域概念が定着してから半世紀も経っていません。</p> <p>もう一つは、共通の分析項目を設定することにより、各国を横並びで捉えることです。経済発展の初期条件、経済発展戦略、マクロ経済動向、産業構造の特徴、外国直接投資、日本との経済関係などについて解説します。加えて、各国が直面している経済的課題を取り上げます。</p> <p>受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。東南アジア経済論 b も履修して下さい。第1回の講義に必ず出席すること(出席カード配布予定)。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の目的、成績評価 2. 東南アジア経済の概要 3. タイ(1): 経済発展の軌跡と特徴 4. タイ(2): 産業集積と輸出主導型経済 5. シンガポール(1): 経済発展の軌跡と人材戦略 6. シンガポール(2): 産業高度化戦略 7. シンガポール(3): 多国籍企業のグローバル拠点 8. マレーシア: 脱工業化への模索 9. インドネシア: 世界最大のイスラム国家の挑戦 10. ベトナム: ドイモイ(刷新)政策の意義と限界 11. カンボジア: 経済復興から経済成長への道筋 12. ミャンマー: 経済再建への胎動 13. 東南アジア諸国が抱える課題 14-15 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義で紹介する。		学期末試験(100%)。感想文や授業中の発言による加点あり。出席が一定回数を下回ると自動的に不可評価になるので注意のこと(詳細は第1回の講義で説明)。	

13年度以降 12年度以前	グローバル社会特殊研究(東南アジアの経済と地域統合 b) 国際交流特殊研究Ⅳ (アジア太平洋地域交流 b)	担当者	高安 健一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、地域経済共同体としての東南アジア諸国連合(ASEAN)について学習します。</p> <p>講義の柱は3つあります。第1は、1967年に発足したASEANがいかなる経緯を経て地域経済共同体として発展し、多国籍企業をひきつけてきたかを理解することです。ラオス、カンボジア、タイ、ベトナムなどで構成されるメコン地域の開発構想についても解説します。</p> <p>第2は、ASEANにおける経済発展の担い手である華僑・華人資本、日本の自動車メーカー、邦銀の活動について学ぶことです。</p> <p>第3は、わが国がASEANのさらなる経済発展のために担うべき役割を考えることです。</p> <p>受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。東南アジア経済論 a も履修して下さい。第1回の講義に必ず出席すること(出席カード配布予定)。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の目的、成績評価等 2. 第2次世界大戦後の経済発展の軌跡 3. ASEAN市場開拓に取り組む日本企業 4. 地域経済共同体としてのASEAN(1): 形成過程 5. 地域経済共同体としてのASEAN(2): 共同体の実現 6. 地域経済共同体としてのASEAN(3): 将来構想 7. ASEANが直面する経済課題 8. 大メコン圏開発とインフラ整備 9. ASEANの対域外自由貿易協定(FTA)戦略 10. わが国自動車メーカーのアジア展開 11. 邦銀のアジア展開 12. 経済発展の担い手としての華僑・華人資本 13. わが国と東南アジアの経済関係(1): ASEANの視点 14. わが国と東南アジアの経済関係(2): 日本の視点 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義で紹介する。		学期末試験(100%)。感想文や授業中の発言による加点あり。出席が一定回数を下回ると自動的に不可評価になるので注意のこと(詳細は第1回の講義で説明)。	

13年度以降	グローバル社会特殊研究（東南アジアの開発と社会）	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 さまざまな発展状況にある地域の特徴を理解し、自らの生活との関連づけて考察する。東南アジアの開発／発展と社会の変化について、また文化的な影響について、グローバルな視点とローカルな視点の両面から批判的に検討する。</p> <p>講義概要 東南アジア社会が直面する課題について、さまざまな視角から紹介し、その解決のあり方について考える。また主としてタイを事例に、開発／発展に関わる政府の政策、NGOsなどによるオルタナティブなアプローチについて紹介し、望ましい発展とは何かを考える。</p>		第1回： 導入 地域研究的な思考方法について 第2回： 東南アジアの地域的特徴 第3回： 東南アジア地域研究の課題 第4回： 東南アジア社会の多様性 第5回： 東南アジアの地誌と地域研究的課題 第6回： 東南アジアにおける都市と農村 第7回： 東南アジアにおける開発政策 第8回： オルタナティブな開発／発展観／思想 第9回： 東南アジアにおける開発／発展と宗教 第10回： 東南アジアにおける開発／発展と環境 第11回： 東南アジアにおける開発／発展と労働力 第12回： 東南アジアにおける開発／発展と家族・子ども 第13回： 東南アジアにおける開発／発展と女性 第14回： 東南アジアにおける社会保障／福祉 第15回： まとめ 定期試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
『地域研究』（JCAS Review）Vol.7 No.1（2005年6月発行） 北川隆吉監修『地域研究の課題と方法 アジアアフリカ社		定期試験が60パーセント、授業中に提出された課題を40パーセントとして総合的に判断する。	

13年度以降	グローバル社会特殊研究（ポストコロニアル研究）	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
植民地主義の歴史と、現在における、政治、社会、文化などに残存する植民地主義の影響を認識することからはじめ、「自己」と「他者」、「西欧」と「それ以外」、「植民地支配」と「被支配者」の境界に立って、現代世界を捉え直していくことを試みる。 講義中盤からは、ポストコロニアル文学作品などを取り上げ、討論形式で講義を進めていく。		1 イン트로ダクション・講義紹介 2 帝国主義のものがたり① 3 帝国主義のものがたり② 4 ポストコロニアリズムとはなにか① 5 ポストコロニアリズムはなにか② 6～14 討論 - 文学作品・映画から考える 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜紹介していく。		期末レポート	

12年度以前	国際交流研究Ⅲ（国際機構論）	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 本講義の目的は、国際社会が抱える地球規模の問題（たとえば、安全保障、テロ、世界規模の感染症等）とそれへの国際社会（特に国際組織）の取り組みについて理解することです。</p> <p>〔講義概要〕 国際社会には世界政府は存在しません。しかし、多様な国際組織が、国家とともに、国際社会の共通利益の実現のために重要な役割を担っています。本講義では、これら国際組織の様々な活動分野をとりあげて、国際組織が各分野で果たしている機能を具体的に説明します。</p> <p>本講義の履修にあたっては、国際法の知識は必ずしも必要ではありませんが、講義の中では主に国際法の視点から分析を行うため、一連の講義に先立ち、国際社会と国際法についての簡単なレクチャーを行います(なお国際教養学部や経済学部の学生が履修する場合は2年生以上で受講することをお勧めします)。</p> <p>この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システム等を活用して、教員とのコミュニケーションを図ります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 国際組織と国際法 3 紛争の平和的解決に関わる国際組織（1） 4 紛争の平和的解決に関わる国際組織（2） 5 安全保障に関わる国際組織（1） 6 安全保障に関わる国際組織（2） 7 軍備管理・軍縮・不拡散に関わる国際組織 8 人権問題にかかわる国際組織 9 人道・難民問題に関わる国際組織 10 国際貿易・国際金融に関わる国際組織 11 開発援助と南北問題に関わる国際組織 12 教育・文化に関わる国際組織 13 国際保健に関わる国際組織 14 海洋に関わる国際組織 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
大森正仁編著『よくわかる国際法』（ミネルヴァ書房）		主として学期末に実施する試験と授業への参加度・貢献度により評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12年度以前	国際交流特殊研究V (グローバル・ガバナンス a)	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。</p> <p>〔講義概要〕 主に総論にあたる部分として、国際環境問題の性質・歴史、紛争の類型、国家や個人等の紛争当事者の地位、問題解決の基本的手法、国際環境法における諸原則や国際環境保全規範の構造などを検討する。</p> <p>【注意事項】 この講義は、法学部専門科目「国際環境法 a」としては3年生以上に開講されるが、国際教養学部必須教養科目「グローバル・ガバナンス a」としては2年生以上に開講される。国際教養学部の2年生が受講する場合は、履修が容易ではないので、「国際交流研究Ⅲ (国際機構論)」、全カリ「国際法 1」、「国際法 2」のいずれかを受講して、基本的知識を身につけていることが望ましい (並行しての受講でもよい)。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要 2 環境問題と国際社会 3 国際環境問題の法的紛争類型 4 越境汚染と領域使用の管理責任 5 無過失責任条約 6 国際公域の環境保全と責任 7 国際環境法の生成と諸原則① 8 国際環境法の生成と諸原則② 9 環境責任論の進展 10 国際環境保全規範と事前防止 11 事前防止の手続的規則① 12 事前防止の手続的規則② 13 国際環境保全とソフト・ロー 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは開講時に指示する。参考文献として、松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂 2010年『地球環境条約集』第4版、中央法規 2003年</p>		<p>期末試験の成績 (70%) により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果 (30%) も評価対象にする。</p>	

12年度以前	国際交流特殊研究VI (グローバル・ガバナンス b)	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。</p> <p>〔講義概要〕 環境条約の内容、国家実行、国際会議や国際機関の対応、具体的紛争等を素材に、個々の環境問題の類型ごとに国際環境法の構造を分析する。</p> <p>【注意事項】 この講義は、法学部専門科目「国際環境法 b」としては3年生以上に開講されるが、国際教養学部必須教養科目「グローバル・ガバナンス b」としては2年生以上に開講される。国際教養学部生の2年生が受講する場合は、履修が容易ではないので、「国際交流研究Ⅲ (国際機構論)」、全カリ「国際法 1」、「国際法 2」のいずれかを受講して、基本的知識を身につけていることが望ましい (並行しての受講でもよい)。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要 2 長距離越境大気汚染、酸性雨 3 地球大気圏・気候変動問題①オゾン層 4 地球大気圏・気候変動問題②気候変動枠組条約 5 地球大気圏・気候変動問題③京都議定書 6 海洋環境の保全①総論 7 海洋環境の保全②船舶起因 8 海洋環境の保全③海洋投棄 9 南極の環境保護 10 廃棄物の越境移動 11 有害物質、放射能と環境 12 自然環境の保全 13 生物多様性の保全 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは開講時に指示する。参考文献として、西井・臼杵編『国際環境法』有信堂 2011年『地球環境条約集』第4版、中央法規 2003年</p>		<p>期末試験の成績 (70%) により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果 (30%) も評価対象にする。</p>	

13年度以降 12年度以前	教育学概論Ⅰ(教職論) 教育科学研究Ⅳ(教職論)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は、教育職員免許法に規定された教職の意義等に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、教職の概要を理解するとともに、教職に必要な不可欠な基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。</p> <p>【授業の概要】 本講義では、グループ討議や研究協議などを通して教職の意義、教員の身分や服務、職務の内容や必要とされる資質などについての主体的な理解を深めていく。教員が直面している諸課題についても取り上げ、教育に対する質の高い関心と教職に対する熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。</p>		<p>第1回：オリエンテーション 第2回：期待される教師像と目指す教師像 第3回：児童・生徒の成長と教員の役割 第4回：教員の資質と能力 第5回：教員養成と教員免許 第6回：教員の任用と教育委員会 第7回：教員の身分と服務 第8回：教員の職務(1) 学校と教員の一年・学校と教員の一日 第9回：教員の職務(2) 学校運営と校務分掌 第10回：教員の職務(3) 学習指導と生徒指導 第11回：教員の研修(1) 年次研修と教員のキャリア 第12回：教員の研修(2) 自主的研修(教育センター等における研修機会)の活用 第13回：様々な進路選択の問題を考える(1) 他の仕事と比較した教職の特質 第14回：様々な進路選択の問題を考える(2) 学校教育の体験—学校支援員等について— 第15回：まとめ 教職を目指す君たちが今なすべきこと</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】 講義毎に配布する資料 【参考文献】 講義内容に応じて適宜紹介</p>		課題レポート、定期試験等により総合的に評価する。	

13年度以降 12年度以前	教育学概論Ⅰ(教職論) 教育科学研究Ⅳ(教職論)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	教育学概論Ⅱ(教育の原理) 教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養う。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学ぶ。</p> <p>2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていく。</p>		<p>第1回：講義の進め方の説明 第2回：教育の意義 第3回：人間形成と学習 第4回：教育の思想と歴史（その1）近代教育思想のめばえ 第5回：教育の思想と歴史（その2） 紳士の教育から人間の教育へ 第6回：教育の思想と歴史（その3）近代市民教育と国民教育 第7回：教育の思想と歴史（その4）日本の教育思想の歴史 第8回：教育の思想と歴史（その5） 戦後の教育思想と教育問題 第9回：教育の思想と歴史（その6） 21世紀の教育思想と教育課題 第10回：学力問題と国際比較 第11回：能力と指導を考える－ 習熟度別指導と発達の最近接領域説－ 第12回：教育における競争と自由の問題を考える 第13回：子どもの権利条約の精神 第14回：子どもに固有の権利と人権との関係 第15回：子どもとはどういう存在か (系統発達と子どもの発見)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】『ポケット版 子どもの権利ノート』(300円) 【参考文献】適宜紹介する。</p>		<p>期末試験に、感想文や小レポートの提出等を加味する。</p>	

13年度以降 12年度以前	教育学概論Ⅱ(教育の原理) 教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	心理学概論Ⅰ(こころの世界) 教育科学研究Ⅵ(こころの世界)	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと心の健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。</p> <p>本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。</p>		<p>以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：科学としての心理学 2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 3. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 6. 性格とは？：自己の性格理解 7. 性格をとらえる枠組み：性格理論 8. 性格の形成：遺伝的要因と双生児研究 9. 性格の形成：環境的要因 10. ストレス①：ストレスと性格 11. ストレス②：ストレス・コーピング 12. ストレス③：ストレスの生理心理学 13. 現代社会とストレス 14. 現代社会とこころの病 15. 生きがいとこころの健康 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。		授業における小レポートと試験により総合的に評価する。	

13年度以降 12年度以前	心理学概論Ⅱ(心理検査法と自己理解) 教育科学特殊研究Ⅲ(心理検査法と自己理解)	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらおう。これらの学習を通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。また、心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後は、結果をレポートにまとめてもらう。関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともある。</p> <p>※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費(2000円程度)を負担してもらおう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。</p>		<p>授業計画は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理検査とは？ 2. 心理検査の種類と理論 3. 質問紙による性格検査① 4. 質問紙による性格検査② 5. ストレス・コーピング 6. 絵からみる家族像 7. 知能検査 8. 感情指数 9. 職業興味 10. グループ・ワークによる自己理解① 11. グループ・ワークによる自己理解② 12. グループ・ワークによる自己理解③ 13. グループ・ワークによる自己理解④ 14. グループ・ワークによる自己理解⑤ 15. 心理検査による自己理解のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
各種の心理検査用紙は一括で購入する。検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらおう。		実施した心理検査の結果をレポートにまとめて提出してもらおう。また、最終レポートを課す。これらのレポート内容を総合し、最終の評価を決定する。	

13年度以降	スポーツ・レクリエーション概論	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の2割から3割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1割です。あなたは1割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」（生きがい）とするために、自由時間についてもっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずですよ。あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。</p> <p>この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目標にします。また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。</p> <p>秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。</p> <p>積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますので、ブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから気軽に質問に来てください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 自由時間とは 3 生活時間の構成 4 自由時間の推移と現状 5 自由時間「三つの意味」その1 6 自由時間「三つの意味」その2 7 少子化とライフスタイル 8 古典的解釈から知るレジャー 9 「スコレー」とは 10 余暇享受能力を開発していますか 11 ビデオ「森と老人」に見る余暇享受能力 12 クオリティオブライフ 13 環境と健康 14 ライブアンケートから知る獨協生の価値観とライフスタイル 15 まとめ <p>授業で携帯端末をライブアンケート等に必要に応じて利用しますので、参加は任意ですが、大講義室での授業をより活性化するために必要ですので、ぜひご協力をお願いします。（パケット通信料がかかります）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムに授業資料をアップロードします。		授業への取り組み・授業内レポート（50%）、学期末試験（50%）により評価します。	

13年度以降	スポーツ科学概論	担当者	石渡 貴之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 スポーツ科学分野は近年目覚ましい発展を遂げている。「スポーツ」を「科学」することによってトップアスリートの身体機能やパフォーマンスの秘密が明らかに成り、効果的なトレーニング方法が開発される。その基本となるのが「健康」、そして「コンディショニング」である。この授業ではスポーツパフォーマンスに関与する生活リズム、栄養摂取、休養などの理論と知識を幅広く学び、個々の受講生がスポーツや健康に理解を深めることを目指す。</p> <p>【講義概要】 「コンディショニング」とは心身の状態を好ましい方向に整えることを意味する。普段の生活の体調管理やスポーツの試合に向けてベストな状態にもっていくための方法として捉えられる。本授業ではライフスタイル、身体トレーニングや栄養摂取、疲労回復などを含めた総合的なコンディショニングを考え、スポーツパフォーマンス向上の方法を探る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ科学とは 2. コンディショニングの考え方 3. 体調管理に重要な生体リズム 4. 睡眠とコンディショニング 5. 運動とコンディショニング 6. 栄養とコンディショニング 7. コンディショニングを高める方法 8. コンディショニングとスポーツパフォーマンス 9. コンディショニングと疲労 10. 暑さに負けないコンディショニング 11. ストレスとコンディショニング 12. トップアスリートの秘密を探る① 13. トップアスリートの秘密を探る② 14. 健康維持・増進のための身体運動 15. まとめ <p>*講義内容の順番は代わる可能性があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】 必要に応じて資料を配付する。 【参考文献】 『これからの健康とスポーツの科学』、講談社サイエンティフィック（¥2,400）</p>		学期末に行う筆記試験（70%）と授業内での課題レポート（30%）にて評価を行う。	

13年度以降 12年度以前	教育の歴史Ⅰ 教育科学研究Ⅱ（教育の歴史1）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育を歴史的に振り返ることで、今日の教育や社会を相対化する視点を得ることを第一の目的とします。また、前近代の教育の歴史の概略を理解することを第二の目的とします。</p> <p>本講義では日本の前近代の教育史を担当しますが（2では近代以降になります）、具体的には江戸時代とそれを前後する時期の、教育の実際の姿（手習塾や藩校、子育て習俗等）および教育思想（貝原益軒等）を扱います。</p> <p>江戸時代には、現代とは全く異なった枠組みで教育的営為が行なわれていました。そのため、初学者にも分かりやすいよう、画像を含めた資料を用いながら丁寧に講義したいと考えています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 日本の前近代（江戸という時代とその民衆） 3 子育ての習俗 4 江戸時代の二つの知 5～7 江戸時代の教育諸機関とその研究 8 キリスト教伝来と日本人の対応 9～10 朱子学と日本の儒学 11 江戸時代の思想の流れ 12 貝原益軒の儒学と教育思想 13 民衆の儒学と民衆の教育 14 「学制」による知の統合 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
木村政伸『資料にみる近世教育の発展と展開』（東京法令出版）		授業レポートシステムを利用して、毎回学んだことを記述してもらおう。その参加度と中間レポート提出とを6割以上クリアすれば、最高でB評価とする。さらに最終レポートを提出すれば、最高AA評価とする。	

13年度以降 12年度以前	教育の歴史Ⅱ 教育科学研究Ⅲ（教育の歴史2）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育を歴史的に振り返ることで、今日の教育や社会を相対化する視点を得ることを第一の目的とします。また、近代以降の教育の歴史の概略を理解することを第二の目的とします。</p> <p>本講義では日本の近代の教育史を担当しますが（1は前近代）、具体的には幕末以降、1990年代までの、教育の制度や実際の姿および教育思想を扱います。</p> <p>できるだけ初学者にも分かりやすいよう、画像を含めた資料を用いながら丁寧に講義しようと考えています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 開講の辞／講義の進め方の説明 2 近現代（第二次大戦以前）の教育史概略 3 学制と明治期の教育 4 教育勅語とその扱い 5 大正自由主義教育 6 生活綴方教育 7 戦争と教育（ビデオ観賞） 8 近現代（第二次大戦以後）の教育史概略 9 憲法と教育基本法体制 10 コア・カリキュラム運動 11 「逆コース」と教育 12 能力主義教育の導入 13 教育の規制緩和と競争 14 教育政策の揺れ 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムを利用して配布するプリント類による／参考文献は、適宜紹介する。		授業レポートシステムを利用して、毎回学んだことを記述してもらおう。その参加度と中間レポート提出とを6割以上クリアすれば、最高でB評価とする。さらに最終レポートを提出すれば、最高AA評価とする。	

13年度以降 12年度以前	比較教育制度論 教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。</p> <p>【授業の概要】 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する質の高い関心と熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。</p>		<p>第1回：オリエンテーション 第2回：教育の制度化 第3回：学校教育制度の概要 第4回：学校教育制度の変遷 第5回：公教育と私教育 第6回：教育行財政 第7回：教育委員会制度 第8回：教育課程と学習指導要領 第9回：諸外国の教育制度 第10回：家庭教育の現状と課題 第11回：社会教育の現状と課題 第12回：教育改革の現状と課題(1) 学校評価・人事評価制度 第13回：教育改革の現状と課題(2) 学校選択制・小中高一貫教育 第14回：教育改革の現状と課題(3) 学校評議員・学校運営協議会 第15回：教育改革の現状と課題(4) 初任者研修・教員免許更新制度</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】 講義毎に配布する資料 【参考文献】 講義内容に応じて適宜紹介</p>		課題レポート、定期試験により総合的に評価する。	

13年度以降 12年度以前	比較教育制度論 教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	教育課程論 教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 教育課程の編成と評価</p> <p>本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>【授業の概要】 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。</p>		<p>第1回：教育課程と学力問題</p> <p>第2回：教育課程とは何か</p> <p>第3回：日本の教育課程(1)教育課程編成のプロセス</p> <p>第4回：日本の教育課程(2)学習指導要領と教育課程</p> <p>第5回：教育課程編成の理論と方法(1)経験カリキュラム</p> <p>第6回：教育課程編成の理論と方法(2)教科カリキュラム</p> <p>第7回：教育課程編成の理論と方法(3)教育課程構成法</p> <p>第8回：学習指導要領と教育課程(1)昭和20年代</p> <p>第9回：学習指導要領と教育課程(2)昭和30-40年代</p> <p>第10回：学習指導要領と教育課程(3)昭和50-60年代</p> <p>第11回：学習指導要領と教育課程(4)平成1-10年代</p> <p>第12回：新学習指導要領の検討(1)改訂の経緯と概要</p> <p>第13回：新学習指導要領の検討(2)実践課題</p> <p>第14回：教育課程と評価</p> <p>第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】 特になし</p> <p>【参考文献】 文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』。その他は、講義の中で紹介する。</p>		授業課題、試験による総合評価	

13年度以降 12年度以前	教育課程論 教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	教育心理学 教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 教育心理学においてこれまで得られてきた知見が、今日の学校臨床における生徒理解あるいは生徒指導にいかにかかすことができるかを受講者とともに検討する。受講生には、こうした講義を通して教育現場にたつ人間に必要とされる心理学の基礎的知識について理解を深めてほしい。</p> <p>【授業の概要】 教育心理学には大きく（１）測定・評価、（２）人格・適応、（３）発達、（４）学習という４つの領域がある。本授業では、これら４領域の内容を解説する。すなわち、１．教育評価と学力問題、２．学習の過程と学習への動機付け、３．発達および発達障害について講義していく予定である。</p>		<p>第１回：教育心理学の領域とその歴史 第２回：教育測定と教育評価 第３回：教育評価の方法 第４回：教育評価と学力問題 第５回：学習の原理 第６回：学習における動機付け 第７回：学習意欲と原因帰属 第８回：学習意欲と目標理論 第９回：学習意欲と教師の役割 第１０回：発達期と発達課題 第１１回：心理アセスメントと発達障害 第１２回：学習障害の理解 第１３回：ADHDの理解 第１４回：自閉性障害の理解 第１５回：発達障害への心理支援</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】 必要な資料を配付する。 【参考文献】 授業にて適宜紹介する。</p>		学期末の試験により、総合的に評価をおこなう	

13年度以降 12年度以前	教育心理学 教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	カウンセリング論 教育科学研究各論Ⅲ（カウンセリング論）	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。</p> <p>まず、カウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的な技法について学習する。特に、カウンセリングにおける傾聴の重要性を理解する。</p> <p>さらに、ロールプレイや心理テストを実施する。</p> <p>言語文化学科の専門科目であるが、全学科の2年生以上の学生は受講できる。</p> <p>出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. カウンセリングとは何か 3. カウンセラーの役割と資格 4. カウンセラーの世界（相談機関） 5. カウンセリングと心理療法 6. クライアント中心カウンセリング（1） 7. クライアント中心カウンセリング（2） 8. 精神分析的カウンセリング 9. 認知行動カウンセリング 10. 傾聴の理論 11. 傾聴の実習 12. ロールプレイの実習 13. 心理テストの実施 14. 講義のまとめ(1) 15. 講義のまとめ(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『カウンセリングへの招待』 瀧本孝雄著 サイエンス社		試験とレポートによる。	

13年度以降 12年度以前	パーソナリティ理論 教育科学研究各論Ⅳ（パーソナリティ理論）	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人の行動の特徴を表す言葉として、心理学ではパーソナリティという言葉が使われている。われわれが人を理解するとき、このパーソナリティという用語は非常に重要な概念の一つである。</p> <p>本講義では、パーソナリティの定義、理論、形成、発達について学習し、またパーソナリティと関連の深い葛藤、フラストレーション、防衛機制などの諸問題について考察する。</p> <p>さらに、パーソナリティ・テストの方法について理解し、テストを実施することで、自己理解を深めていく。</p> <p>言語文化学科の専門科目であるが、全学科の2年生以上の学生は受講できる。</p> <p>出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. パーソナリティとは何か 3. パーソナリティの類型論 4. パーソナリティの特性論 5. パーソナリティ形成の諸理論 6. パーソナリティの発達 7. 青年期のパーソナリティ 8. 成人期・老年期のパーソナリティ 9. 文化とパーソナリティ 10. フラストレーションと葛藤 11. 防衛機制 12. パーソナリティ・テストの種類と方法 13. パーソナリティ・テストの実施 14. 講義のまとめ(1) 15. 講義のまとめ(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『カウンセリングへの招待』 瀧本孝雄著 サイエンス社		試験とレポートによる。	

13年度以降 12年度以前	学校カウンセリング 教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 本講義では、カウンセリングの基本的な理論や技法に加え、学校現場で生じる問題の解決のために実際にカウンセリングがどのように用いられているのかについて扱う。学校カウンセリングに関する「知識」を習得することにとどまらず、学校現場で起こりうる様々な問題への対処について、自分自身で「考える力」を身につけることをこの講義の目標とする。</p> <p>【授業の概要】 本講義では、教員が学校で生徒と接する際に必要とされるカウンセリングの基本的な理論や技法について講義する。さらに、実習やグループワークなどを通じ、いじめ、不登校など学校現場で実際に起こっている問題について、どのように対応すべきか、実際に受講生が考える機会を設ける。</p>		<p>第1回：学校カウンセリングとは何か 第2回：教師が行う学校カウンセリングの特徴 第3回：学校カウンセリングの理論① ー来談者中心療法とカウンセリングマインド 第4回：学校カウンセリングの理論②ーその他の理論 第5回：学校カウンセリングの理論③ーカウンセリングの体験 第6回：予防的カウンセリング① ー構成的グループエンカウンター 第7回：予防的カウンセリング② ーソーシャルスキルトレーニング 第8回：思春期の心の発達と危機 第9回：学校カウンセリングの実際①：いじめ 第10回：学校カウンセリングの実際②：不登校・ひきこもり 第11回：学校カウンセリングの実際③：非行 第12回：学校カウンセリングの実際④： 発達障害の理解と支援 第13回：学校カウンセリングの実際⑤： 精神障害の理解と支援 第14回：学校カウンセリングの実際⑥：保護者との協調 第15回：まとめ：学級運営に活かすカウンセリング</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】 特になし。 【参考文献】 特になし。講義内で適宜、紹介する。</p>		定期試験の結果によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの提出物等も評価対象とする。	

13年度以降 12年度以前	学校カウンセリング	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	人間発達科学特殊研究（教師と語る） 教育科学特殊研究Ⅱ（教師と語る）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. 目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。</p> <p>2. 概要：教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会合宿（懇親会を含む）への参加とで構成します。そのため、右記の研究会合宿に必ず参加して下さい（参加費は9000円程度）。研究会合宿に参加できない場合には、この授業を受講しても、単位を認定することはできません。</p> <p>3. 研究会合宿で7コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は8回程度とします。2回目以降の日程は相談の上、決定するため、初回の授業には必ず参加して下さい。参加できなかった場合には、メールで問い合わせるか、研究室（720）を訪れてください。メールアドレスは、hkawamura@dokkyo.ac.jp です。</p> <p>4. 教職課程に登録している必要はありません。</p> <p>5. 履修登録の上限を30名とします。</p>		<p>1 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介</p> <p>2～7 実践記録を読む</p> <p>8 研究会合宿参加のまとめ</p> <p>研究会は、12月6日・7日（土・日）、またはその前後の土日、場所は埼玉県西部にある森林公園近くのホテルの予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋陽一編『新しい生活指導論と進路指導』（武蔵野美術大学出版局）		研究会と講義への参加度と最終レポートによります。研究会に終日参加しない場合には、不可とします。	

13年度以降 12年度以前	人間発達科学特殊研究（認知科学） 教育科学研究各論Ⅶ（認知科学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>認知科学は、人間の「知」のしくみやはたらきを明らかにしようとする学際的な学問であり、その研究領域は広範囲におよぶ。ここでは、とくに認知心理学で得られた研究成果を中心にみていくことにする。また、授業では受講者自身に実験や調査（文献調査も含む）を実施してもらい、その結果をまとめて、授業にてレポート発表してもらう予定である。これらのレポートや授業での発言をもとに成績評価をおこなう。</p> <p>授業内容は、まず、人間の「知」のしくみの基盤をなす「知覚」についてあつかう。つぎに、動物にとって重要な認知機能である「記憶」についてみていく。さらに、近年飛躍的に解明が進んでいる「脳の機能」についてビデオ教材なども使用してみていくことにする。初回授業にて授業の進め方をより詳しく説明するので履修予定者には必ず出席することを求める。</p>		<p>授業計画は以下の通り</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知科学とは（授業概要） 2. 認知科学の歴史 3. 視知覚の特性①（概説） 4. 視知覚の特性②（実験・調査） 5. 視知覚の特性③（レポート発表） 6. 音の知覚 7. 学習と記憶①（学習の原理） 8. 学習と記憶②（実験と調査） 9. 学習と記憶③（レポート発表） 10. 記憶のしくみ①（記憶の過程） 11. 記憶のしくみ②（実験と調査） 12. 記憶のしくみ③（レポート発表） 13. 言語と脳 14. 認知工学と脳 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要な資料は配付する。		課題レポートおよび講義での発表内容により評価する	

13年度以降 12年度以前	人間発達科学特殊研究（認知科学） 教育科学研究各論Ⅶ（認知科学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>認知科学は、人間の「知」のしくみやはたらきを明らかにしようとする学際的な学問であり、その研究領域は広範囲におよぶ。ここでは、とくに認知心理学で得られた研究成果を中心にみていくことにする。また、授業では受講者自身に実験や調査（文献調査も含む）を実施してもらい、その結果をまとめて、授業にてレポート発表してもらう予定である。これらのレポートや授業での発言をもとに成績評価をおこなう。</p> <p>授業内容は、まず、人間の「知」のしくみの基盤をなす「知覚」についてあつかう。つぎに、動物にとって重要な認知機能である「記憶」についてみていく。さらに、近年飛躍的に解明が進んでいる「脳の機能」についてビデオ教材なども使用してみていくことにする。初回授業にて授業の進め方をより詳しく説明するので履修予定者には必ず出席することを求める。</p>		<p>授業計画は以下の通り</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知科学とは（授業概要） 2. 認知科学の歴史 3. 視知覚の特性①（概説） 4. 視知覚の特性②（実験・調査） 5. 視知覚の特性③（レポート発表） 6. 音の知覚 7. 学習と記憶①（学習の原理） 8. 学習と記憶②（実験と調査） 9. 学習と記憶③（レポート発表） 10. 記憶のしくみ①（記憶の過程） 11. 記憶のしくみ②（実験と調査） 12. 記憶のしくみ③（レポート発表） 13. 言語と脳 14. 認知工学と脳 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要な資料は配付する。		課題レポートおよび講義での発表内容により評価する	

13 年度以降	人間発達科学特殊研究 (社会心理学 a)	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学 a では、個人の心の働きに主に焦点を当てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション・「社会心理学」講義の前に 2. 社会心理学の概要 3. 社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4. 社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5. 社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6. 社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団からうまれる 7. 自己(1)：自分はどんな人間か 8. 自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9. 態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10. 社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11. 社会的影響(2)：規範的影響と情報的影響 12. 社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13. 社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14. 期末試験と振り返り 15. 社会的影響(5)：人間の力 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二 (2000) . 『複雑さに挑む社会心理学—適応エージェントとしての人間』 有斐閣 池田謙一 他 (2010) . 『社会心理学』 有斐閣</p>		<p>中間レポート 30%, 期末試験 70%で評価する。 なお、第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。</p>	

13 年度以降	人間発達科学特殊研究 (社会心理学 b)	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学 b では、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2. コミュニケーション(1)：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 3. コミュニケーション(2)：コミュニケーションとしての対人行動、対人行動としてのコミュニケーション 4. ソーシャルネットワーク：つながりが生み出すもの 5. 社会的交換(1)：互惠性 6. 社会的交換(2)：社会的ジレンマ 7. 集団による問題解決 8. 文化(1)：心の文化差はどのように生まれるか 9. 文化(2)：名誉の文化 10. 社会的感情：他者の前での様々な感情 11. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論・モデル 12. 健康行動と社会心理学(2)：HIV 感染予防のための社会心理学の挑戦 13. 社会心理学の未来 14. 期末試験と振り返り 15. 期末試験の解説とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二 (2000) . 『複雑さに挑む社会心理学—適応エージェントとしての人間』 有斐閣 池田謙一 他 (2010) . 『社会心理学』 有斐閣</p>		<p>中間レポート 30%, 期末試験 70%で評価する。 なお、第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。</p>	

13年度以降 12年度以前	人間発達科学特殊研究（スポーツ科学実習） 教育科学特殊研究Ⅳ（スポーツコーチ学 a）	担当者	石渡 貴之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】</p> <p>1) 運動やトレーニングに伴う生理機能や構造の変化について知識を深める</p> <p>2) 運動を生理学的側面から理解するために必要な計測機器の使用方法を学ぶ</p> <p>3) 学んだ知識と技術を駆使してグループ毎にオリジナルの実験を行う</p> <p>4) 実験結果をまとめ、発表する</p> <p>【講義概要】</p> <p>身体運動に伴う生体の生理機能の変化とそのメカニズムを理解するため、簡単な運動を用い、基本的なスポーツ科学の実習を行う。本実習を通して実験機器の取り扱い方、測定の原理・方法、結果の解析方法等の基礎的知識とその手法を習得する。更に、興味ある課題を取り上げて、ヒトが動いている時の生理現象を明らかにして、研究の視点、方法、解決の糸口となるものについて学習する。</p>		<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 演習（血圧の測定方法）</p> <p>3. 演習（体温の測定方法）</p> <p>4. 演習（心拍数の測定方法）</p> <p>5. 実験（寒冷血管拡張反応① 冷え性の確認）</p> <p>6. 実験（寒冷血管拡張反応② 再現性の確認）</p> <p>7. 統計学（データのまとめ方① t検定）</p> <p>8. 統計学（データのまとめ方② 相関）</p> <p>9. グラフ作成方法</p> <p>10. 実験内容検討</p> <p>11. スポーツ科学実験①</p> <p>12. スポーツ科学実験②</p> <p>13. スポーツ科学実験③</p> <p>14. プレゼンテーション</p> <p>15. まとめ</p> <p>*講義内容の順番は代わる可能性があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】 必要に応じて資料を配付する。</p> <p>【参考文献】『生理学実習 NAVI』, 佐藤昭夫監修, 医歯薬出版株式会社 (¥2,520)</p>		最終レポートの内容（70%）で評価を行うが、平常授業における発表や授業態度（30%）、なども評価対象とし、総合的に判断する。	

13年度以降 12年度以前	人間発達科学特殊研究（スポーツ指導実習） 教育科学特殊研究Ⅴ（スポーツコーチ学 b）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スポーツコーチ学のなかで特にコーチング方法について、実践・実習をすることを目的とする。</p> <p>授業曜時に使用できる学内の施設を利用して、コーチングの実践・実習を行う。</p>		<p>基本的なスポーツは次の通りですが、使える施設、受講生の人数等で変更があります。</p> <p>第1回授業時、第2回授業時に提示します。</p> <p>1 ガイダンス</p> <p>2 スポーツコーチ学の概念と写真付受講票作成</p> <p>3 トレーニングルーム利用法①</p> <p>4 トレーニングルーム利用法②</p> <p>5 フットサルコーチング①</p> <p>6 フットサルコーチング②</p> <p>7 ソフトボールコーチング①</p> <p>8 ソフトボールコーチング②</p> <p>9 インラインホッケーコーチング①</p> <p>10 インラインホッケーコーチング②</p> <p>11 ショートテニスコーチング①</p> <p>12 ショートテニスコーチング②</p> <p>13 コーチング方法の分類①</p> <p>14 コーチング方法の分類②</p> <p>15 コーチング方法の分類③</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要により紹介し、プリントを配布する。		コーチング方法の理解、最終レポートを総合して評価する。	

13年度以降 12年度以前	人間発達科学特殊研究（リーダーシップ論） 教育科学特殊研究VI（リーダーシップ論）	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えてもらいます。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としています。</p> <p>グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していくことを目標とします。</p> <p>授業の最初には集団の形成に必要ないくつかの方法を実践します。次の段階ではリーダーシップ発現の機会としてのイニシアティブゲームを実施し、リーダーシップを取る人の特性について考えます。その人の性格と経験等の特性をサンプルとして扱いいくつかのリーダーシップ理論と対照します。次の段階では、イベント企画を題材として企画と実践に向けた取り組みの中で個々の学生が自分の役割を果たすトレーニングを実施します。</p> <p>いくつかのグループによって提案された企画は投票によって1位を決定し、1位を取ったグループによってそのイベントが実施され、評価を含めたまとめを行います。</p> <p>グループでの話し合いと実践が多いので出席が重視されます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 集団形成：アイスブレーキング 3 グループワークによる問題解決活動と発表 4 イニシアティブゲームによる問題解決活動1 5 イニシアティブゲームによる問題解決活動2 6 グループ内での課題についての討論と発表 7 リーダーシップ理論 8 イベント企画作成の手順 9 イベント企画コンテストに向けてのグループ討論 10 イベント企画案の作成 11 イベント企画プレゼンテーション第1回 12 イベント企画プレゼンテーション第2回 13 イベントの実施 14 イベントの評価とまとめ 15 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて資料を配布します。		授業への取り組み姿勢・態度（60%）、小レポート・期末レポート（40%）、企画コンテスト（+α）を評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	人間発達科学特殊研究（スポーツマネジメント） 教育科学特殊研究Ⅶ（体育経営スポーツマネジメント）	担当者	川北 準人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔目的〕 マネジメントは成果によって定義されるといわれている。スポーツ・マネジメントを定義するためには、「成果を得るためには何が必要か」を追求しなければならない。諸外国からの輸入文化として広がったスポーツの発展・普及における過程を理解し、現代社会におけるスポーツの可能性を模索する。そして“今何が求められているか”を問う。身近なスポーツ活動からトップ・プロの動向など幅広く題材として扱い、スポーツの普及とは如何にあるべきかを考える。</p> <p>〔講義概要〕 1980年から1990年は、メディアの発達、各種企業のグローバル化によってスポーツ・マーケティングの時代といわれている。このようにスポーツは、社会情勢の影響を受けながら人々の期待に応じてきた。そこで、我が国における体育とスポーツの関わりを歴史的背景から理解し、その発展過程から現代社会における体育・スポーツの問題を考えていく。特に組織論観点からマネジメントを捉え、我が国における現状のみならず、諸外国の事例なども扱ってスポーツ・マネジメントの理解を深めていく。</p> <p>〔受講生への要望〕 適宜資料を配布するので、ファイル等を用意することが望ましい。</p>		<p>〔授業計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.スポーツ・マネジメントの概要 3.我が国におけるスポーツ・体育の歴史的背景 4.体育とスポーツ教育学 5.我が国における健康教育のマネジメント 6.北米における学生スポーツの発展 7.プロスポーツとアマチュアスポーツ 8.我が国における学生スポーツのマネジメント 9.ディスカッション 10.プロスポーツのマネジメント 11.メンタル・マネジメント 12.高度競技スポーツにおけるマネジメント 13.スポーツ・マーケティング 14.これからのスポーツ・マネジメント 15.総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜資料を配布する。		平常点、授業態度、課題提出状況、そして期末試験の結果を総合的に評価する。	

13年度以降 12年度以前	人間発達科学特殊研究（ボランティア論） 教育科学特殊研究Ⅷ（ボランティア論）	担当者	山岸 倫子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、ボランティアとは何かということについて、実践例を基に学習していきます。ボランティア活動がどのように発達し、どのような意義を持っているのか、現在どのようなボランティア活動が実践されているのかという点にとどまらず、批判的な見解も踏まえたうえでの意義を学習することを目的としています。</p> <p>実践例の紹介や、DVD視聴など、理解を促進する教材を適宜用いながら、講義を進めていく予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアとは何か 2. ボランティアの歴史 3. 現代社会におけるボランティア活動領域 4. グループワーク① 5. ボランティアの実際① 6. ボランティアを否定する運動 7. グループワーク② 8. ボランティアの実際② 9. ボランティアの組織化 10. ボランティアとNPO 11. グループワーク③ 12. ボランティアの実際③ 13. ボランティア活動の役割 14. ボランティアの基本姿勢 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しません。 講義中に随時紹介いたします。		授業態度・意欲：40% 提出課題：30% 期末試験：30%	

13年度以降 12年度以前	社会学Ⅰ 多文化共生研究Ⅲ（社会学 a）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの周りには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では「他者 other(s)」が重要なキー概念となっている。さらに、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。</p> <p>本講義では、社会学の基礎知識をふまえたうえで、先行研究を現代的な文脈で考えてみたい。本講義のねらいは、社会学という学問が、どういった経緯で成立したか、また社会的視点とはどういったものか、さらに社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズムについて学び、それをとおして社会のなかに生きる「他者と自己」の関係を考えることである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会学的視座とは 3. 社会学の歴史（1）—A.コント、H.スペンサー 4. 社会学の歴史（2）—E.デュルケム 5. 社会学の歴史（3）—M.ウェーバー 6. 社会の類型（1）—コミュニティとアソシエーション 7. 社会の類型（2）—ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 8. 社会の類型（3）—第一次集団 9. Identity形成と社会（1）—鏡に映った自己 10. Identity形成と社会（2）—重要な他者 11. Identity形成と社会（3）—マージナル・マン 12. Identity形成と社会（4）— 未定 13. 補完的アイデンティティについて 14. 他者と自己の社会学 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>G.ジンメル『社会学の根本問題（個人と社会）』世界思想社 E.デュルケム『自殺論』中央公論社 M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 G.H.ミード『社会的自我』恒星社厚生閣</p>		<p>授業への積極性（50%）と授業内／期末レポート（50%） 【履修者多数の場合、期末試験を行う】</p>	

13年度以降 12年度以前	社会学Ⅱ 多文化共生研究Ⅳ（社会学 b）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたちが日常的に行っていることや考えていることを、あるいは、他者とともに過ごすときに生じる様々な問題を、社会的な見方から分析してみるとどうだろうか。それまで見えていなかったことが見えてくるかもしれない。それまで気づいてさえいなかったことが、突然気になりだすかもしれない。</p> <p>本講義では、近代の都市社会が抱えてきた問題をめぐる社会学の研究業績を学び、それを手がかりにしながら、わたしたちにとっての身近な出来事を社会的に考えてみたい。おもに「都市」「移民」「地域」「大量消費」といった概念を中心に扱う。</p> <p>受講者には、グローバリゼーションのもとで日本社会がこれから直面する課題とはなにか、そこからのようなネットワークがあらたに生まれるか／必要とされてくるのかについても同時に意識してもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」—E.フロム 3. 同調様式の3類型—D.リースマン 4. 都市化と移民—W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説—E.バージェス 6. シカゴ学派と都市問題—R.パーク 7. 予言の自己成就—R.K.マートン 8. 誇示的消費—T.ヴェブレン 9. 認知的不協和の理論—L.フェスティンガー 10. 文化的再生産—P.ブルデュー 11. コンフルエント・ラブ—A.ギデンズ 12. 現代社会と社会学（1）情報技術とメディア 13. 現代社会と社会学（2）グローバル化 14. 現代社会と社会学（3）ローカル化 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>E.フロム『自由からの逃走』東京創元社 D.リースマン『孤独な群衆』みすず書房 W.I.トマス、F.ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房 A.ギデンズ『親密性の変容』而立書房 ほか</p>		<p>授業への積極性（50%）と授業内／期末レポート（50%） 【履修者多数の場合、期末試験を行う】</p>	

13年度以降 12年度以前	文化人類学Ⅰ 多文化共生研究Ⅰ（文化人類学 a）	担当者	執行 一利
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本とは異質の文化や社会を「知る」ための考え方を学ぶ。我々は無意識のうちに自己の文化の尺度を基準にして異文化を理解することが多い。そこで、「人間の単一性、文化の多様性」を標榜する文化人類学的視覚から人間の文化を考察し、異文化理解の視点を養うことを目的とした。</p> <p>主として婚姻の問題をとりあげて講述する。近代西欧社会の理想とする一夫一婦婚は世界的に見れば決して普遍的ではなく、亡霊婚や女性婚など、それ以外のタイプの婚姻の形態が様々な社会に存在することを具体的に民族誌のなかから紹介する。また、インセスト・タブーの意味を考えた上で、レヴィ=ストロースをはじめとして人類学者の婚姻理論について検討する。また、今日の日本の社会で理想とされる恋愛婚についても取り上げる予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 異文化理解 3. 亡霊婚 1 4. 亡霊婚 2 5. 女性婚 6. 一妻多夫婚 1 7. 一妻多夫婚 2 8. 婚姻の定義 9. インセストタブーの意味 1 10. インセストタブーの意味 2 11. 恋愛婚 12. 交叉イトコ婚の意味 1 13. 交叉イトコ婚の意味 2 14. まとめ 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いないが、参考書は授業の進行に合わせて多数紹介する。		定期試験の成績を主とし（60%）、小レポート（25%）、授業への参加度（15%）などを勘案して総合評価の予定。	

13年度以降 12年度以前	文化人類学Ⅱ 多文化共生研究Ⅱ（文化人類学 b）	担当者	執行 一利
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「最後の秘境ニッポン」と呼ばれるほど日本人は異文化理解がへただと言われている。そこで本講義では、異文化理解を主目的とする文化人類学的視覚から人間の文化や社会を考察し、異文化理解の視点を養うことを目的とした。</p> <p>家族、親族と政治組織をテーマとして講述する。我々の知っている家族形態といえば、せいぜい「核家族」や二世帯同居の「直系家族」程度であるが、実際の家族はどのような構造を持っているのかを比較検討する。特に日本の家族については詳しく取り上げたい。一方、裁判所や警察組織の存在しない「未開社会」における政治組織の仕組みはどのようなになっているのだろうか。授業では、具体的に民族誌の中からいくつかの社会の実例を紹介し、親族の役割の重要性を指摘する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 異文化理解 3. 家族の定義 4. 核家族普遍説 5. 核家族普遍説の検証 1 6. 核家族普遍説の検証 2 7. 日本の家族 1 8. 日本の家族 2 9. 日本の家族 3 10. 親族 11. 親族と政治組織 12. バンド社会 1 13. バンド社会 2 14. 部族制社会 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いないが、参考書は授業の進行に合わせて多数紹介する。		定期試験の成績を主とし（60%）、小レポート（25%）、授業への参加度（15%）などを勘案して総合評価の予定。	

13年度以降 12年度以前	倫理学Ⅰ 宗教・文化・歴史研究Ⅵ（倫理学 a）	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>西洋現代哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。</p> <p>教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。</p> <p>この学期では現代の哲学的諸問題について扱っていく。もちろん古代～近代の哲学者たちの考察は参考にされる。</p> <p>現代は画像・映像といったイメージがさまざまなメディアで飛びかい、そうしたイメージによる記録／記憶が人々の心を苦しめる時代でもある。これを〈記憶〉と〈歴史〉の問題として受けとめ、考察していきたい。</p> <p>授業は教科書を中心にして進められる。教科書にまとめられている内容を要約ないし発展的にふくらませる補足説明を、毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入（プレゼン担当者の募集・日程調整を含む） 2. プラトンの記憶論「記憶は足跡か、絵画か？」 3. アリストテレスの記憶論 4. ベルクソンの記憶論「イメージ - 思い出」 5. サルトルの記憶論「幻覚」 6. フッサールの記憶論「想像と記憶を区別する？」 7. 個人的記憶と集合的記憶 8. 〈心性史〉の歴史記述 9. 〈表象史〉の歴史記述 10. 王の肖像 —— イマージュの魅惑 11. 裁判官と歴史家 —— 公正な第三者とは？ 12. ナチスのユダヤ人虐殺をめぐる（1） 13. ナチスのユダヤ人虐殺をめぐる（2） 14. 「困難な赦し」 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
川口茂雄『表象とアルシーヴの解釈学 —— リクールと「記憶、歴史、忘却」』（京都大学学術出版会）		学期末試験による。 ただし各授業回で教科書内容の要約・補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に <u>約20点</u> を加点する予定。	

13年度以降 12年度以前	倫理学Ⅱ 宗教・文化・歴史研究Ⅶ（倫理学 b）	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。</p> <p>教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。</p> <p>哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもいい。</p> <p>哲学史の入門書をもとに授業を進行していく。 古代ギリシアから、近世のデカルト・パスカルなどを経て、近代のニーチェまでをこの学期で広く見ていく。</p> <p>教科書はかなりコンパクトに各哲学者の思想をまとめたものだが、その圧縮された内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 （プレゼン担当者の募集・日程調整を含む） 2. プラトン（1）「ソクラテスの死から」 3. プラトン（2）「イデアという理想」 4. アリストテレス「人間は知ることを欲する」 5. エピクロス派、ストア派 6. デカルト（1）「私は思考する、ゆえに私は在る」 7. デカルト（2）永遠真理創造説 8. デカルト（3）四つの暫定的道徳 9. パスカル「きみはどちらに賭ける？」 10. ルソー（1）「人づきあい人間を不幸にする」 11. ルソー（2）「理想的な教育とは」 12. ニーチェ（1）「きみは永遠回帰に耐えられるか」 13. ニーチェ（2）「音楽と悲劇」 14. ニーチェ（3）「ニヒリズムに面して」 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
ドミニク・フォルシェー 『西洋哲学史 パルメニデスからレヴィナスまで』（白水社・文庫クセジュ）		学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書内容への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に <u>約20点</u> を加点する予定。	

13年度以降 12年度以前	東洋思想史 I 宗教・文化・歴史研究Ⅱ（東洋思想史 a）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしていることが多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史aでは、古代インド、中国思想を中心に、日本における神道ならびに仏教思想をも含めながら、おおよその区分として十三世紀までを視野に入れることになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. (インド)アーリア人とヴェーダの宗教 2. (インド)ウパニシャッド哲学の思想 3. (インド)ウパニシャッド哲学と原始仏教の思想 4. (インド)原始仏教 5. (インド)原始仏教 6. (インド)仏教とヒンドゥー教の思想 7. (中国)孔子と論語 8. (中国)孔子と論語の思想と墨子の兼愛 9. (中国)老荘思想 10. (中国)儒教と老荘思想 11. (中国)儒教の意味 12. (日本)無常思想 13. (日本)無常思想 14. 中世の東洋思想のまとめ 15. 中世の東洋思想のまとめと質問 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		授業貢献度（20%）とレポート（80%）による評価	

13年度以降 12年度以前	東洋思想史Ⅱ 宗教・文化・歴史研究Ⅲ（東洋思想史 b）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしていることが多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史bでは、インド、中国、さらには両者に影響を与えた、回教の伝来に伴う思想的変化をも考慮に入れた近現代の思想、そして日本の近現代思想を扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. (インド)仏教哲学 2. (インド)仏教哲学 3. (インド)仏教哲学 4. (インド)ガンジー非暴力思想と現代 5. (中国)宋学Ⅰ 6. (中国)宋学Ⅱ 7. (中国)宋学Ⅲ 8. (中国)宋学Ⅳ 9. (中国)宋学Ⅴ 10. (日本)本居宣長の思想 11. (日本)本居宣長の思想 12. (日本)京都学派の哲学 13. (日本)京都学派の哲学Ⅱ 14. (日本)京都学派の哲学Ⅲ 15. 東洋思想史の現代的意義と質問 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		授業貢献度（20%）とレポート（80%）による評価	

13年度以降 12年度以前	文明史研究Ⅰ 宗教・文化・歴史研究Ⅳ（文明史研究 a）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 人間の諸活動の総体としての文明は、世界中に多様な形で存在しました。サミュエル・ハンチントンは、冷戦後の数々の国際紛争を文明の衝突としてとらえたのです。 しかし、本当に世界は文明単位で対立する状況なのでしょうか。現在ではむしろニール・ファーガソンが指摘するように、文明間で争われるよりもむしろ紛争の多くは同じ民族間同士での争いの様相を呈しています。こうした文明の概念の有効性を問い、これまでの研究史にふれながら、具体的な事例としてヨーロッパ文明の源流となったギリシア・ローマ文明に焦点を当て、政治的対立を超えた文明の交流について考察を深めることを目的とします。</p> <p><講義概要> 古代にみられたそれぞれの文明について、戦争などの対立を契機に、また自然災害や気候変動といった要素が、それぞれの文明にどのように影響を与えたのかを論じます。特に民主主義発祥の地、ギリシアの経済危機がヨーロッパ全体に影響を及ぼしている現状を踏まえ、今後の民主主義の在り方についても考察します。また、図像資料やビデオ映像も使用し理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、 クレタ文明 3、 ミケーネ文明 4、 トロイア戦争 5、 ギリシア文明 1 6、 ギリシア文明 2 7、 ペルシア文明 8、 ペルシア戦争 9、 ペロポネソス戦争 10、 マケドニアとアレクサンドロス 11、 ヘレニズム文明 12、 ローマの対内外戦争 13、 ローマ文明 1 14、 ローマ文明 2 15、 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。		学期末のレポート及び中間での小レポートさらに平常点を加えて総合的に評価します。	

13年度以降 12年度以前	文明史研究Ⅱ 宗教・歴史研究Ⅴ（文明史研究 b）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 現代社会はヨーロッパにおけるEUの統合や多文化の共存、さらには経済活動のグローバル化とあいまって、これまでの歴史像を大きく変えてきました。本講義ではシェンゲンやトインビーの文明論を概観し、文明の世代交代としての範型として、ヨーロッパ文明について考察します。ギリシア・ローマ時代に体现された古典文明がその後どのように伝播されていったのかを辿りつつ、文明の崩壊を学ぶことによって今後私たちが歩もうとしている方向性を見直すヒントを考察したいと思います。</p> <p><講義概要> 文明論の一環としてのヨーロッパの歴史をとりあげたいと思います。エウロペ神話からはじめ、ヨーロッパとは何かを論じます。ヨーロッパ文明が思想的にも物質的にもどのような形で世界の他地域へ伝播され、受容されていたかを検証します。特にアジアやアフリカ、そしてまた新大陸といわれた北米、南米からの視点からもヨーロッパがどのような存在であったかを検討し、第一次世界大戦が起こって100年を迎える今日、平和的共存のためにヨーロッパに求められていることは何かについても考察します。また、図像資料やビデオ映像も使用し理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、 ヨーロッパとは何か 3、 ヨーロッパ文明の源、ギリシア文明 4、 アレクサンドロス大王とヘレニズム文明 5、 ローマ帝国の意味 6、 中世フランク王国 7、 イタリア・ルネサンス 8、 大航海時代 9、 植民地を求めて 10、 植民地の争奪 11、 第一次世界大戦 12、 大戦後のヨーロッパ 13、 ヨーロッパ統合の思想 14、 講義のまとめ 1 15、 講義のまとめ 2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。		学期末レポートと中間での小レポート、さらに平常点を加えて総合的に評価します。	

13年度以降 12年度以前	比較宗教史 宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ（比較宗教史）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界には様々な地域に、様々な宗教がある。其等の宗教は、各地域の文化の基礎的な部分を支えていることが多い。従って、世界の様々な文化を理解するには、その基礎的部分を支えている宗教の形態、思想、風習等を理解することは大切な要素となってくる。</p> <p>本講義では、いくつかの世界に名を知られている宗教を取り上げると同時に、きわめて地域的な宗教（例えば、日本の地域に固有の神道など）を取り上げ、それらの形態、思想、風習を比較しながら検討する。</p> <p>そこには、自ずと歴史的な変遷が各宗教の展開に含まれてくる。この歴史的観点も、比較によって、際立たせることができれば、幸いである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の方針および内容に関する導入。 2. ユダヤ教とキリスト教1 3. ユダヤ教とキリスト教2 4. ユダヤ教とキリスト教3 5. キリスト教とイスラーム1 6. キリスト教とイスラーム2 7. キリスト教とイスラーム3 8. イスラームとゾロアスター教1 9. イスラームとゾロアスター教2 10. ヒンズー教と仏教1 11. ヒンズー教と仏教2 12. ヒンズー教と仏教3 13. 仏教と神道1 14. 仏教と神道2 15. 総まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示。		授業貢献度（20%）、レポート（80%）。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	科学史Ⅰ 自然・環境研究Ⅰ（科学史 a）	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在の我々の生活は、科学と切り離すことができない。科学は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、画期的な治療薬を開発する基礎となったりして、我々の人生や生活を豊かにする一方、最新の科学知識によって、我々の生命観や宇宙観は問い直しを迫られており、核兵器のような大量破壊兵器や環境破壊によって、人類の存続は危機に直面している。このような科学はどこから来てどこに向かおうとしているのだろうか。</p> <p>この講義では、科学が歴史の中で姿を変えていく様子を大まかに見ることによって、我々が社会の中で科学といかに関わっていけばよいかを考えるとともに、受講生が一般市民に科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることを目指す。</p> <p>春学期は、古代から17世紀の科学革命を経て「科学者（scientist）」という言葉が登場した19世紀初めまでに、科学的なものの見方や考え方がどのように移り変わってきたのかについて、代表的な人物や事例に焦点を当てて概観する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、科学とはなにか？ 2. 科学的な考え方のはじまり（古代） 3. ターム・ペーパーの書き方について 4. 古代世界の宇宙観 5. 地中海世界からアラビア世界へ 6. アラビア世界からヨーロッパ世界へ 7. コペルニクスと地動説 8. 魔術と科学 9. 機械論的自然観と科学 10. ニュートンと科学革命 11. 科学アカデミーの誕生と展開 12. 科学史における女性 13. 産業革命と科学 14. フランス革命と科学 15. 「科学者（scientist）」の登場 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する 		ターム・ペーパー（レポート）（70%）と、出席カードの記述（30%）により評価する。	

13年度以降 12年度以前	科学史Ⅱ 自然・環境研究Ⅱ（科学史 b）	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在の我々の生活は、科学と切り離すことができない。科学は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、画期的な治療薬を開発する基礎となったりして、我々の人生や生活を豊かにする一方、最新の科学知識によって、我々の生命観や宇宙観は問い直しを迫られており、核兵器のような大量破壊兵器や環境破壊によって、人類の存続は危機に直面している。このような科学はどこから来てどこに向かおうとしているのだろうか。</p> <p>この講義では、科学が歴史の中で姿を変えていく様子を大まかに見ることによって、我々が社会の中で科学といかに関わっていけばよいかを考えるとともに、受講生が一般市民に科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることを目指す。</p> <p>秋学期は、「科学者（scientist）」という言葉が登場した19世紀の初めから現代までを扱い、科学が社会の中で大きな力を獲得していく様子について、具体的な事例に焦点を当てて概観する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、「科学者（scientist）」とはだれか？ 2. 蒸気機関と熱力学の誕生 3. ターム・ペーパーの書き方について 4. 科学の制度化と専門職業化 5. 科学の産業化 6. 公害の発生と科学 7. 進化論と社会 8. 帝国主義と科学 9. 研究所の誕生と展開 10. 科学と国家 11. 現代科学の登場と自然観の転換 12. 科学と戦争 13. ビッグ・サイエンスの誕生 14. 環境科学の誕生と展開 15. 「科学者」の過去・現在・未来 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する 		ターム・ペーパー（レポート）（70%）と、出席カードの記述（30%）により評価する。	

13年度以降	科学技術基礎論 I	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「科学技術」というと、専門家以外には分からないし関係ないというイメージをもっている人が多いかもしれない。たしかに現在の科学技術は、高度化・専門化が進んだため、科学技術の専門家でさえ、自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。その一方で、現在に生きる我々は、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、我々が直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、幅広い分野の人々と協働することがますます必要になっている。</p> <p>この講義では、我々にとって身近な事例を取り上げて、その背後にある科学技術の考え方や、法律や経済など他の学問分野との関わりを概観することによって、科学・技術への関心を高めるとともに、異分野の人との協働を可能にするための方法を考える。</p> <p>春学期は、主として生命や環境に関する事例を取り上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、生命とは何か 2. 生きているとはどういうことか 3. ターム・ペーパーの書き方について 4. 遺伝とは何か 5. 品種改良と遺伝子 6. 病気とは何か 7. 薬と副作用 8. 感染と免疫 9. がんから見た生命 10. 生命と食品 11. 食中毒 12. 食のリスクと安全 13. 進化とは何か 14. なぜ理系に進む女性は少ないのか 15. 生命から見た環境 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する 		ターム・ペーパー（レポート）（70%）と、出席カードの記述（30%）により評価する。	

13年度以降	科学技術基礎論 II	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「科学技術」というと、専門家以外には分からないし関係ないというイメージをもっている人が多いかもしれない。たしかに現在の科学技術は、高度化・専門化が進んだため、科学技術の専門家でさえ、自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。その一方で、現在に生きる我々は、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、我々が直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、幅広い分野の人々と協働することがますます必要になっている。</p> <p>この講義では、我々にとって身近な事例を取り上げて、その背後にある科学技術の考え方や、法律や経済など他の学問分野との関わりを概観することによって、科学・技術への関心を高めるとともに、異分野の人との協働を可能にするための方法を考える。</p> <p>秋学期は、主として物質や情報に関する事例を取り上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、物質とは何か 2. 水素原子が存在するとはどういうことか 3. ターム・ペーパーの書き方について 4. 観測できるものと観測できないもの 5. 自然法則は存在するか 6. 自然の法則と人間社会の法律—二つの LAW 7. 数はどこにあるのか 8. ビッグ・データとは何か 9. 情報という考え方 10. 確率と科学・技術 11. 科学技術の研究開発（R&D） 12. イノベーションと科学技術 13. 宇宙はどこにあるのか 14. 自然とは何か 15. 物質から見た環境 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する 		ターム・ペーパー（レポート）（70%）と、出席カードの記述（30%）により評価する。	

13年度以降 12年度以前	数学Ⅰ 自然・環境研究Ⅲ（数学 a）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>数学とは、数量および空間に関して研究する学問であり、古代文明以来人類が持ち続ける教養の一つです。また、これらの研究から得られた公理と推論からなる論理と理論の体系全体を指すとも言えます。数学を学ぶということは、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、論理的に考え、正確に判断し、的確に類推する能力を養うことにもつながります。</p> <p>本講義では、数学を支えてきた論理である「数理論理」について学びます。論理において重要なものは文と文の接続関係ですが、「数理論理」では、文を「命題」として扱い、接続関係を「論理演算子」で表します。授業では、まず、文の真偽に対応する「命題」の「真理値」と、「論理演算子」により合成された「合成命題」の「真理値」の関係を調べ、「同値」な「命題」について考察します。つづいて、論証を構成する接続関係である「条件文」を導入し、「条件文」と「同値」な「命題」についても考察します。さらに、論証の中でも最も厳格に前提から結論を演繹的に導く「推論」を取り上げ、「推論」の妥当性について検討します。また、論理と代数、論理と集合との関係についても学びます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 命題と論理式 3. 真理表と命題の同値 4. 条件文 1 5. 条件文 2 6. 推論と証明 7. 論理式と代数 1 8. 論理式と代数 2 9. 論理と集合 1 10. 論理と集合 2 11. 推論の応用 1 12. 推論の応用 2 13. 推論の応用 3 14. 問題演習 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：授業最初にプリント配布 参考文献：小島寛之『文系のための数学教室』（講談社現代新書 2004 年）</p>		授業中の問題解答、授業最後の課題、学期最後の問題演習により評価	

13年度以降 12年度以前	数学Ⅱ 自然・環境研究Ⅳ（数学 b）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>数学とは、数量および空間に関して研究する学問であり、古代文明以来人類が持ち続ける教養の一つです。また、これらの研究から得られた公理と推論からなる論理と理論の体系全体を指すとも言えます。数学を学ぶということは、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、論理的に考え、正確に判断し、的確に類推する能力を養うことにもつながります。</p> <p>本講義では、自然や社会において偶然に支配されているとみなされる現象を解析する数学の一分野である「確率論」について学びます。「確率」については、高等学校数学で扱われていますが、ここでは、その内容を復習しつつ、実際に様々な分野で応用されている、「確率」を基にした「統計」の基本的な考え方につなげることを目標に授業を進めていきます。内容は、まず、「確率」の学習に必要な「集合」と「順列」「組合せ」、そして「確率」と「条件付確率」の考え方を学習します。つぎに、「確率変数」を導入し、「確率分布」とその「平均」や「分散」を学びます。さらに、「確率分布」の実例として「二項分布」や「正規分布」を取り上げます。これらの内容は、「推定」や「検定」といった「推測統計」の理解や利用につながります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 場合の数と集合 3. 順列・組合せ 4. 標本空間と事象 5. 確率 1 6. 確率 2 7. 条件付確率と事象の独立 8. 確率変数と確率分布 1 9. 確率変数と確率分布 2 10. 確率分布の平均 11. 確率分布の分散 12. 二項分布 13. 正規分布 14. 問題演習 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：授業最初にプリント配布 参考文献：石村園子『すぐわかる確率・統計』（東京図書 2001 年）</p>		授業中の問題解答、授業最後の課題、学期最後の問題演習により評価	

13年度以降	物理学Ⅰ	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つげられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。</p> <p>本講義では、物理学の中でも20世紀までに確立され、すでに様々な場面で応用されている分野を扱います。これらは、高等学校までの理科や物理で学んでいる内容ですが、もう一度、私たちの身の回りの生活との関係という視点で見直すことを目標として、学習を進めていきます。内容は、①物体に働く力と物体の運動との関係を考察する「力と運動」、②熱の現象とその実態である分子運動を扱う「熱」、③波の一般的性質とその実例としての音波・光波を扱う「波動」、④電気と磁気に関する現象や電気と磁気との関係、さらに電磁波について考察する「電磁気」からなります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 力と運動1－物体の運動 3. 力と運動2－物体に働く力 4. 力と運動3－運動の法則 5. 力と運動4－万有引力 6. 熱1－温度と熱 7. 熱2－熱と分子運動 8. 波動1－媒質の振動と波 9. 波動2－音波と光波 10. 電磁気1－電気と磁気 11. 電磁気2－電流と磁場 12. 電磁気3－電磁誘導 13. 電磁気4－電磁波 14. 問題演習 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介</p>		<p>毎回の授業における「授業レポート」とまとめの問題演習により評価する予定</p>	

13年度以降	物理学Ⅱ	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つげられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。</p> <p>本講義では、20世紀以降物理学の分野で得られた新しい知見について紹介します。一つは「時間と空間」に関するもの、もう一つは「物質の究極像」に関するものです。時間と空間は、以前は自然の基本法則が登場する舞台でしたが、20世紀以降「相対性理論」により物理学の研究対象となりました。物が何からできているかという物質の究極像を探る研究は、原子・素粒子の発見やその従う法則である「量子力学」の成立により大きく進展しました。これら人類の得た新しい知見を題材にして、自然に対する認識を深めることを目標に授業を進めていきます。内容は、前半が「時間と空間」で、相対性原理・光速一定原理と特殊相対性理論、等価原理・一般相対性原理と一般相対性理論について、後半が「物質の究極像」で、元素・原子と原子の構造、前期量子論と量子力学、素粒子論と統一理論についてです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 時間と空間1－電磁気学と相対性原理 3. 時間と空間2－ローレンツ変換 4. 時間と空間3－4次元不変量 5. 時間と空間4－等価原理 6. 時間と空間5－時空の歪み 7. 時間と空間6－ブラックホール 8. 物質の究極像1－元素と原子 9. 物質の究極像2－原子の構造 10. 物質の究極像3－前期量子論 11. 物質の究極像4－量子力学 12. 物質の究極像5－素粒子論 13. 物質の究極像6－統一理論 14. 問題演習 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介</p>		<p>毎回の授業における「授業レポート」とまとめの問題演習により評価する予定</p>	

13年度以降 12年度以前	天文学Ⅰ 自然・環境研究Ⅶ（天文学 a）	担当者	内田 俊郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>天体の見かけの運動を理解する。惑星の運動の法則や、太陽系の現在の姿とその形成過程を理解する。</p> <p>中学校で一部、既習の天体のみかけの運動の説明から始め、次いで、惑星の運動を表すケプラーの法則を説明する。太陽系に属する様々な天体を紹介し、太陽系の形成過程や地球の形成過程などを学んでいく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義内容の紹介 2 天球と日周運動 3 年周運動 4 惑星の見かけの運動 5 ケプラーの法則1 第一法則 6 ケプラーの法則2 第二法則 7 ケプラーの法則3 第三法則 8 万有引力とニュートンの力学 9 太陽と太陽系の広がり 10 太陽系の姿 惑星と小惑星 11 太陽系の姿 彗星と太陽系外縁天体 12 太陽系の形成1 13 太陽系の形成2 14 太陽系以外の惑星 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。プリントを配布する予定。参考文献は講義で紹介する。		試験	

13年度以降 12年度以前	天文学Ⅱ 自然・環境研究Ⅷ（天文学 b）	担当者	内田 俊郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>恒星とはどのようなもので、どのように誕生し、どのような終末を迎えるのか大要を理解する。</p> <p>天文学が他の自然科学の分野と大きく異なる点の1つは、対象を直接調べることができないことである。この講義では恒星の表面から来る光という間接的な情報からどのように恒星の物理量が推定され、そこからどのように恒星の内部や進化が理解できるかを説明していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義内容の紹介 2 星の見かけの明るさ 3 星までの距離 4 星の光度と絶対等級 5 星のスペクトルと表面温度 6 HR図 7 星の半径と質量 8 星のエネルギー源 9 星の進化1 星の誕生から主系列星へ 10 星の進化2 主系列以後の星の進化 11 高密度星 白色矮星と中性子星 12 ブラックホール 13 超新星 14 元素の起源 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。プリントを配布する予定。参考文献は講義で紹介する。		試験	

13年度以降	生物学Ⅰ	担当者	飯泉 恭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義の目的】 生命科学の著しい進歩は我々の生活に様々な恩恵を与えてきました。しかしその反面、これまで考える必要のなかった新たな問題を生じさせています。クローン人間は許されるのか？ 疾病の治療以外で遺伝子操作は許されるのか？ 近い将来、我々は様々な判断を迫られるでしょう。これらを的確に判断するためには幅広い教養と生物学の知識が不可欠です。限られた講義数ですが、新聞やニュースで報道される生命科学の話題に関し、十分に理解できる知識を身につけることを目指します。</p> <p>【講義の概要】 本講義では細胞レベルの生物学を概説します。さらに、近年利用されているバイオテクノロジーについても解説します。</p> <p>教科書は指定しませんが、高校生物の教科書があると理解が深まります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の誕生 ー生命誕生の謎ー 2. 細胞の構造 ー様々な細胞小器官ー 3. 細胞を構成する物質 ー細胞の生存に必須な物質ー 4. 細胞膜の構造と働き ー細胞が細胞であるためにー 5. 細胞の分裂 ー細胞が増えるしくみー 6. 遺伝と遺伝子 ー子はなぜ親に似る？ー 7. DNA と RNA ー細胞内での役割分担ー 8. DNA の複製 ー間違いのない複製のためにー 9. 転写と翻訳 ー転写と翻訳とは何か？ー 10. 酵素 ー生体内の化学反応を進める立役者ー 11. バイオテクノロジー（１）ー遺伝情報を解読する技術ー 12. バイオテクノロジー（２）ー遺伝子組換え技術ー 13. ES 細胞と iPS 細胞 ー有用性と問題点ー 14. 生物の進化 ー生物の進化と遺伝子の変異ー 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		期末試験の結果（70%）とレポート（30%）で評価します。	

13年度以降	生物学Ⅱ	担当者	飯泉 恭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義の目的】 「生物学Ⅰ」と同様に、最新の生命科学に関する知識を身につけます。そして、友人たちとの議論（プレゼンテーションと質疑応答）を通して、さらに深い理解を目指します。</p> <p>【講義の概要】 前半は「生物学Ⅰ」の知識を基に、細胞レベルの生物学をさらに深く理解します。細胞がどのようにエネルギー（ATP）を作るのか。作られた ATP は何に利用されるのかを学習します。後半は医学との関連項目を学習します。本講義は皆さんが「生物学Ⅰ」の知識を持っていることを前提に実施します。履修していない方は注意して下さい。</p> <p>教科書は指定しませんが、高校生物の教科書があると理解が深まります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ATP の産生（１）ー細胞質での ATP 産生ー 2. ATP の産生（２）ーミトコンドリアでの ATP 産生ー 3. ATP を産生する目的 ー細胞が生きたらー 4. 刺激を受容する細胞 ー目や耳の細胞とその働きー 5. 神経細胞 ー体内で最も長い細胞とは？ー 6. 筋収縮 ー体を動かすしくみー 7. 病原体から体を守るしくみ（１）ー免疫細胞ー 8. 病原体から体を守るしくみ（２）ー抗体の働きー 9. 感染症 ーまだまだ多い寄生虫、寄生原虫の感染ー 10. 感染症 ーHIV、インフルエンザ、狂牛病ー 11. 疾病の予防 ーサプリメントは病気を予防するのか？ー 12. バイオテクノロジーと医療 ー新しい治療薬ー 13. プレゼンテーション（１） 14. プレゼンテーション（２） 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		期末試験の結果（70%）とレポート（20%）とプレゼンテーション（10%）で評価します。	

13年度以降	生理学Ⅰ	担当者	石渡 貴之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 生理学はその名の意味するように「生きる」ことの「理（ことわり）」を考える学問である。私たちの身体は60兆個の様々な細胞がそれぞれに役割を担い、協調しながら生命活動を行っている。この講義では、生命現象や生体機能の仕組みを学び、ヒトの身体の機能システムの期間と働きを理解することを目指す。</p> <p>【講義概要】 講義内容は身体の仕組みや機能について概説し、実際に実験測定を行い理解の促進を図る。ここでは、呼吸、循環、消化・吸収、排泄、代謝といった生命現象、血液、体液、神経、内分泌、筋、骨といった機能システムについて講義する。 また、各自が興味を持った「からだ」に関する情報を受講生同士で発表・討論することで、情報を共有する形式も取り入れる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 生理学の基礎 2. 循環（心拍数、血圧の測定方法） 3. 心電図の基礎と記録法（安静時心電図の読み方） 4. 代謝、体温（体温の測定方法、寒冷血管拡張反応） 5. 呼吸（ウォーキング演習） 6. 血液・体液（健診結果の読み方及び効果判定） 7. 筋・骨（体組成測定） 8. 消化・吸収（ストレス測定） 9. 神経（反応時間） 10. 感覚（バランス計測） 11. 内分泌 12. プレゼンテーション① 13. プレゼンテーション② 14. プレゼンテーション③ 15. まとめ <p>*講義内容の順番は代わる可能性があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】 必要に応じて資料を配付する。 【参考文献】『やさしい生理学（改訂第6版）』、彼末一之・能勢博編、南江堂（¥2,520）</p>		最終試験（30%）、レポートの内容（40%）で評価を行うが、平常授業における発表や授業態度、（30%）なども評価対象とし、総合的に判断する。	

13年度以降	生理学Ⅱ	担当者	石渡 貴之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 「脳」は身体の機能の司令塔であり、また心の源でもある。そして、まだまだ未知な領域として多くの研究者がその機能の解明に取り組んでいる。この講義では、ヒトの身体の制御機構である脳に注目し、特に発育・発達・加齢に伴う様々な生理機能との関連や障害との関連を理解することを目指す。</p> <p>【講義概要】 春学期の生理学Ⅰで学んだ身体の仕組みや機能の基礎をもとに、秋学期は私たちの身体の中核である脳機能に焦点を当てて、睡眠、情動、言語、学習、記憶、運動などと関連する事象について扱う。また、発育、発達、そして老化に代表される成熟期以後の変化を捉えた加齢という3つの視点から、各期の身体的特徴及び心理的特徴、更には障害の特徴と脳機能との関連についても学習する。 各自が興味を持った「脳機能」に関する情報を受講生同士で発表・討論することで、情報を共有する形式も取り入れる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経科学の基礎 2. 発育・発達の概念 3. 神経の発達、脳の構造変化 4. 運動機能の発達と脳内ネットワークの変化 5. 心の発達と健康 6. 身体機能の発達と運動、子供の生活習慣の必要性 7. 思春期の心と身体の変化 8. 障害の理解、捉え方 9. 発達障害の理解と支援① 10. 発達障害の理解と支援② 11. 老化の現象、変化について 12. プレゼンテーション① 13. プレゼンテーション② 14. プレゼンテーション③ 15. まとめ <p>*講義内容の順番は代わる可能性があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】 必要に応じて資料を配付する。 【参考文献】『ぜんぶわかる脳の事典』、坂井建雄、久光正監修、成美堂出版（1,890）</p>		最終試験（30%）、レポートの内容（40%）で評価を行うが、平常授業における発表や授業態度、（30%）なども評価対象とし、総合的に判断する。	

13年度以降 12年度以前	地球環境論Ⅰ 自然・環境研究各論Ⅰ（地球環境論 a）	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、地中海森林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション—地理学とは 2. 環境の諸要素（1）気候環境 3. 環境の諸要素（2）緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4. 環境の諸要素（3）地形・植生 5. 熱帯地域（1）熱帯林と伝統的生活様式 6. 熱帯地域（2）熱帯林の開発と環境問題 7. 熱帯地域（3）熱帯林の保全 8. 沙漠地域（1）自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9. 沙漠地域（2）石油資源と近代化、沙漠の開発 10. 地中海森林地域の特性 11. 地中海地域の生活様式—西欧文化の原点 12. 地球環境問題に対する視点（1） 13. 地球環境問題に対する視点（2） 14. まとめ（1） 15. まとめ（2） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		期末定期試験の結果（75％）に、授業への参加度（25％）等を加味して、総合的に評価する。	

13年度以降 12年度以前	地球環境論Ⅱ 自然・環境研究各論Ⅱ（地球環境論 b）	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。秋学期の講義は、まず地形環境を概観し、温帯草原地域、温帯混合林地域、亜寒帯森林地域、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。そして最後に、深刻化する地球環境問題を取り上げ、今後の人間生活と自然環境との共生方法について理解を深める。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境の諸要素—地形環境 2. 温帯草原地域の自然特性 3. 温帯草原地域の開発と環境問題 4. 温帯混合林地域（1）高密度都市化地域の特性 5. 温帯混合林地域（2）産業革命と都市域の拡大 6. 亜寒帯森林地域（1）タイガの中の生活 7. 亜寒帯森林地域（2）タイガの開発と保全 8. 山地地域（1）山地の自然環境と高度帯の利用 9. 山地地域（2）山地資源の開発と観光化 10. 地球環境問題（1）生態系と人間活動 11. 地球環境問題（2）自然環境の破壊 12. 地球環境問題（3）環境問題解決にむけた取り組み 13. 地球環境問題（4）私たちにできること 14. まとめ（1） 15. まとめ（2） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		期末定期試験の結果（75％）に、授業への参加度（25％）等を加味して、総合的に評価する。	

13年度以降 12年度以前	コンピュータと言語 多言語情報処理研究 I (コンピュータと言語)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、コンピュータシステム、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム (OS) 6. プログラム言語 7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11. 機械翻訳システムの演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		レポートの完成度と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	情報科学各論 I 多言語情報処理研究各論 I (表計算とプレゼンテーション)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

13年度以降 12年度以前	情報科学各論 I 多言語情報処理研究各論 I (表計算とプレゼンテーション)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

13年度以降 12年度以前	情報科学各論Ⅱ 多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

13年度以降 12年度以前	情報科学各論Ⅱ 多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

13年度以降	データ構造とアルゴリズム論	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】情報爆発といわれている現代社会において、情報検索の技術を駆使し、いかに必要な情報を素早く、的確に見つける能力は不可欠である。本講義は情報検索の仕組みを解説し、実習を通して「情報検索力」を身に付けることを目的とする。</p> <p>【概要】情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義形式とパソコンを使った実習形式で体験する。講義内容は、文系の学生でも理解できるように、情報検索の歴史、情報検索ための情報収集、情報整理、情報抽出、情報評価の順番で説明する。</p> <p>【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と目標 2. リスト 3. スタックとキュー 4. 再帰 5. 計算量解析 6. 解析木 7. 二分探索木 8. ソート1 9. ソート2 10. 二分探索 11. 平衡木 12. ハッシュ 13. グラフ 14. 動的計画法 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
http://www.ieice-hbkb.org/portal/doc_579.html 授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		授業の参加態度（20%）、レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する。	

13年度以降 12年度以前	データベース論 多言語情報処理研究各論IV（データベース）	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】本講義は Microsoft Office Access を利用して、データベースの概念、設計方法、構築手法について学習する。</p> <p>【概要】データベースの歴史から始め、データベースの概念や、設計方法や、構築手法などを解説しながら、Microsoft Office Access というソフトウェアを利用して、実際の操作を行う。さらに、実習問題を通して、データベースの概念及び設計に対する理解を深める。</p> <p>【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. データベース概論（1）：概念と歴史と種類 3. データベース概論（2）：設計方法と構築手法 4. Microsoft Office Access 入門 5. Microsoft Office Access 基本操作（1） 6. Microsoft Office Access 基本操作（2） 7. Microsoft Office Access 基本操作（3） 8. テーブルの構築と操作（1） 9. テーブルの構築と操作（2） 10. クエリ（1） 11. クエリ（2） 12. リレーションシップの構築 13. レポートの印刷 14. 総合演習 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：30 時間でマスター『Access 2010』（実教出版）		授業の参加態度（20%）、レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する。	

13年度以降	社会調査法	担当者	田端 章明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「社会調査法」とは、社会学における調査手法の総称です。社会学では研究対象となる社会事象に対するアプローチ方法の妥当性を常に問い続け、改良し、洗練させてきました。この講義では代表的な調査手法をいくつか紹介し、ときにはちょっとした実習も行いながら、社会調査に関する理解を深めていきます。</p> <p>この講義の目的は2つあります。1つは、現代社会に氾濫するデータについて、どのような接し方をすればよいのかを理解し、データに振り回されないようになることです。そしてもう1つは、レポートや卒論を書く際に、間違っただデータを引用したり、いいかげんな調査をしたりしないようになることです。</p> <p>なお、ここまで読んで「データや調査に関するHow toの講義か」と思った方もいるかもしれませんが、それは早合点です。社会調査法では、How toよりも、その背後にあるWhy toが大切だからです。そのWhy toを理解するには、考え続けることが必要です。だからこの講義では、答えが出ない問いを考え続けられる人を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 調査計画 (1) 調査に値する「問い」とは 3. 調査計画 (2) 「問い」から仮説へ 4. 調査計画 (3) 調査対象の決め方 5. 量的調査 (1) 質問づくりのポイント 6. 量的調査 (2) 選択肢づくりのポイント 7. 量的調査 (3) 表のまとめ方と読み方 8. 量的調査 (4) グラフのまとめ方と読み方 9. 量的調査 (5) 調査手法の洗練とシステム化 10. 質的調査 (1) 対象者の語りの「著者」は誰か 11. 質的調査 (2) 対象者との「信頼関係」 12. 質的調査 (3) ありふれた語りと個性的な語り 13. 質的調査 (4) 「フィールドワーク」に必要なもの 14. 質的調査 (5) 調査対象の広がり柔軟な対応 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使いません。その代わりとして、毎回、授業内容のレジュメを配布します。</p> <p>参考文献は、授業内で適宜紹介します。</p>		<p>平常授業におけるレスポンスシートの内容 (30%) および課題レポートの内容 (15%×2回)、そして期末試験または期末レポートの結果 (40%) を総合して評価します。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	統計と調査法 多言語情報処理研究各論V（統計と調査法）	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目的 基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける。 授業概要 ・1世帯当たりの平均年間所得は約600万円→実感と違うのはなぜ？ ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いはあるとは？ ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？ 私達は常にこのようなデータに囲まれており、それを巧みに利用しながら生活している。「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが、より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活を行うことができる。この授業では日常的なデータを素材として、その性質を記述し、現象の本質を推測できるように、科学的な分析方法を使うことを学ぶ。基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする。授業期間の後半は、自分たちで収集したクイズ問題の解答をさまざまな角度から分析し、前半で学んだ理論の応用を試みる。		1. 統計量の種類（量的変数・質的変数）：比例変数、間隔変数、順位変数、名義変数 2. アンケートの取りかた、クイズ問題作成説明 3. 度数分布、相対度数、度数分布表 4. 量的変数のグラフ表現、質的変数のグラフ表現 5. 代表値（平均値、中央値、最頻値）、値の広がり、能力テストと到達度テスト 6. 正規分布、散布度（標準偏差）、歪度、尖度、標準得点、偏差値 7. クイズ問題解答集計 8. 信頼性係数、項目分析、ロジスティック回帰分析 9. 記述統計と推測統計、仮説（帰無仮説、対立仮説） 10. 相関散布図、相関係数、回帰直線、欠損値の推定、相関検定 11. 対応がない場合のt検定、分散分析 12. 対応がある場合のt検定、プリテスト・ポストテスト、時系列分析 13. クロス集計、カイ二乗検定 14. 多変量解析(1) 主成分分析・因子分析・クラスター分析 15. 多変量解析(2) 要因計画法・重回帰分析・対応分析	
テキスト、参考文献		評価方法	
内田治『数量化理論とテキストマイニング』（日科技連、2010）ISBN 978-4-8171-9292-9		（定期試験（80%）＋平常授業におけるまとめ（20%））x 出席率の平方根	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（思想と文化） 宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ（思想と文化）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>物事を考えることが人間の存在にとってどのような意味を持つのか。そのように考えている自己とは如何なる存在であるのか。この自己の探究を通して、人間の存在の意味は何かを探る。この作業の助けとして、ヤスパース、ハイデッガー、フロイト、ユング、ベルグソン、西田幾多郎、西谷啓治、鈴木大拙などの哲学者・思想家の考え方をおよび仏教哲学などを参考にすることもある。だが、この授業は単に聞くだけのものではない。教師が考えていることを聴講者に投げかけるので、聴講者はそれに対してどのように考えたらいのかの応答を求められる。そして次に、各グループに分かれて、ディスカッションを主体に授業が進められるので、興味ある題と取り組むためのグループを作って、このグループによる発表とディスカッションを行ってゆくこともあるが、受講者の人数次第で変更もあり得る。なお、これらの題に関する学生と教師の間答によって探求を進めることが基本となる。</p> <p>外国人（特に英語を母国語ないしは理解可能言語とする留学生など）の聴講参加がある場合には、英語によって講義およびディスカッションがなされる場合も一部分ある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明と導入 2. ディスカッションのためのグループ分けと最初の問題設定「人間と思索」について 3. 「人間の存在」と「自己」との連関 4. 自己とは何かのグループ・ディスカッション 5. 「私」と「汝」に関する探求Ⅰ 6. 「私」と「汝」に関する探求Ⅱ 7. 「私」と「汝」に関する探求Ⅲ 8. 「人間とは何か」に関する探求Ⅰ 9. 「人間とは何か」に関する探求Ⅱ 10. 「人間とは何か」と「自己」の関係についての考察Ⅰ 11. 「人間とは何か」と「自己」の関係についての考察Ⅱ 12. 「自己」を現代の研究成果から考える 13. 「自己」を現象学的に探求Ⅰ 14. 「自己」を現象学的に探求Ⅱ 15. 「自己」の本質に関する全体ディスカッション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示		ディスカッションへの出席、授業への取り組み方(30%)、調査研究発表態度(10%)、レポート(60%)。	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化 a） 宗教・文化・歴史研究各論 I（地中海世界の宗教と文化 a）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 国家や民族・宗教・文化などは個々人のアイデンティティ創出に大きな役割をはたしてきました。とりわけ家族や地域共同体といった身近な集団は、日常生活にも深く関与してきたのです。本講義では古代ギリシアの都市国家ポリスをの中でもアテナイをとりあげ、そこに暮らす市民やその家族が、自らのアイデンティティ創出に宗教や文化とどのように関わったのかを検証していきます。</p> <p><講義概要> 古代ギリシア人にとって宗教とは教義も経典もなく、行為として供犠や祭儀を行うことに他なりません。古典期アテナイでは年間120日にも及ぶ祭儀がおこなわれたのです。その中にはアテナイの市民の娘たちも祭儀を通じてポリス存続のために子どもを産むことを自覚していったことがわかります。とりわけポリスの祭典として上演されたギリシア悲劇は、多くの観客に訴えかけその役割はポリス意識を高める上で大きなものだったのです。このような事例を通じてポリスで暮らす市民や市民の娘たちが自らのアイデンティティをどのように育んでいったかを考察します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、 古代ギリシア人の信仰 3、 デルフオイの神託 4、 穢れと浄め、呪い 5、 エレウシスの秘儀と死生観 6、 葬儀、埋葬、墓碑 7、 女性と祭儀 8、 アスクレピオス神 9、 シュンポシオン 10、 ディオニュッシア祭 11、 ギリシア悲劇 12、 ギリシア悲劇鑑賞 13、 ギリシア喜劇 14、 オリュンピア競技会 15、 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せずプリントを配布します。また授業時に参考文献を紹介します。ビデオ映像も使用して理解を深めます。		学期末のレポートと中間に行う小レポートさらに平常点を加えて総合的に評価します。	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化 b） 宗教・文化・歴史研究各論 II（地中海世界の宗教と文化 b）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 歴史的に形成されてきた生活や思考の様式も含む文化は、多くの遺跡や建造物を残しました。それらは当時の社会や集団の特性を表現しているのです。 古代ギリシア、ローマ世界に見られる遺跡や建造物から、当時の人々との関係を提示し、文化理解の必要性を明らかにしたいと考えます。</p> <p><講義概要> 本講義では、地中海世界で見られる神殿をはじめ、劇場や道路などを生み出した文化的背景について説明します。 また、人々の信仰したキリスト教が、迫害を受けながらもやがて国教となり、ローマ帝国の広範な諸地域に広まっていった過程を考察します。その後、キリスト教はローマ帝国が崩壊した後もゲルマン諸国家に受け継がれ、ヨーロッパ諸国で信仰されていったことを検証します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、 パルテノン神殿 3、 エピダウロスの遺跡 4、 シチリアの遺跡 5、 ペルガモンの遺跡 6、 オリュンポスの神々の変容 7、 ローマ建国神話 8、 ローマの道路と橋 9、 ボンペイ遺跡 10、 ディオニュッソス神への信仰 11、 ローマ市民と奴隷 12、 キリスト教徒への迫害 13、 キリスト教の広がり 14、 ゲルマン民族とキリスト教 15、 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せずプリントを配布します。また授業時に参考文献を紹介します。ビデオ映像を使用して理解を深めます。		学期末のレポートと中間に行う小レポートさらに平常点を加えて総合的に評価します。	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術 a） 宗教・文化・歴史研究各論VI（アラブ文化・芸術 a）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、混乱を招いた「アラブの春」、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないのでしょうか。</p> <p>しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。</p> <p>アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。</p> <p>アラブの芸術といえば、世界一有名なファンタジー、そして SF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮かびますが、同時にアラブの文化は詩人の文化であり、また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。</p> <p>ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：アラブ人とは？ 2. 「イスラム」と「イスラーム」 3. ムスリムにとって「クルアーン」とは 4. アラブ人の生活文化 1) 食生活と祭 5. アラブ人の生活文化 2) 家族・女性 6. アラブ音楽入門 I 7. アラブ音楽入門 II 8. パレスチナ問題と芸術 1) 演劇 「アライブ・フロム・パレスチナ」鑑賞 9. 演劇鑑賞レポート提出・ディスカッション 10. パレスチナ問題と芸術 2) 記録映画 11. パレスチナ問題と芸術 3) 小説 作家ガッサーン・カナファーニの世界 中編「太陽の男たち」「ハイファに戻って」 読後レポート提出・ディスカッション 12. パレスチナ問題と芸術 4) 詩人 「パレスチナの声」マハムード・ダルウィーシュ 13. パレスチナ問題と芸術 5) 映画 14. イスラーム報道・アラブ報道を考える 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>スライドを使用するか、プリントを配布します。</p> <p>参考文献：『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アジア読本・アラブ』（大塚和夫編・河出書房新書）など。</p>		レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術 b） 宗教・文化・歴史研究各論VII（アラブ文化・芸術 b）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、混乱を招いた「アラブの春」、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないのでしょうか。</p> <p>しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。</p> <p>アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。</p> <p>アラブの芸術といえば、世界一有名なファンタジー、そして SF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮かびますが、同時にアラブの文化は詩人の文化であり、また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。</p> <p>ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 後期イントロダクションーアラブの日常 2. アラビアンナイトは逆輸入？「千夜一夜物語」 3. レバノン映画「キャラメル」とアラブ女性 4. 映画鑑賞レポート提出・ディスカッション 5. アラブの芸能界と歌謡曲 6. ハリウッド映画になったアラブ旅行文学 7. マルコ・ポーロよりすごいアラブの旅行家 8. 「アラブ革命の春」を考える 9. アラブ文化は詩の文化（1）：詩人変人今昔 10. アラブ文化は詩の文化（2）：中世ヒップホップ 11. アラブ文化は詩の文化（3）：現代のアイドル 12. ノーベル賞作家ナギーブ・マハフーズの世界 13. 小説「バイナルカスライン」（新訳：「張り出し窓の街」）レポート提出 14. 続き（ディスカッション） 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>スライドを使用するか、プリントを配布します。</p> <p>参考文献：『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アジア読本・アラブ』（大塚和夫編・河出書房新書）など。</p>		レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降	総合科学特殊研究（科学技術と社会 b）	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【授業概要】 我々は科学・技術に囲まれて生きている。科学・技術は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を作り出したりして、我々の人生や生活を豊かにする一方で、科学・技術が戦争や環境破壊に使われると、我々の健康や生存にとって大きな脅威となる。東日本大震災と福島原子力発電所事故は、我々が科学・技術と社会との関係を真剣に考えなければならないことを示している。この講義では、具体的な事例を通じて科学・技術と社会との関わりを学ぶことによって、社会の中で科学・技術を生かす方法を考えてゆく。</p> <p>【授業の到達目標】 ・科学・技術と社会との関わりを示す代表的な事例の内容とその意義を理解すること ・授業に関係する話題の中から、各自が興味を抱いたものを選んでターム・ペーパー（レポート）をまとめること</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、科学とは？技術とは？社会とは？ 2. 科学、技術、科学技術 3. ターム・ペーパーの書き方について 4. 公害と科学技術 5. 地球温暖化問題と科学技術 6. 事故と科学・技術 7. 科学技術と安全 8. 科学技術とリスク 9. 科学技術と法 10. 巨大科学技術と社会 11. 研究者と社会 12. 科学技術と女性 13. 先端の科学・技術と社会 14. 専門家と市民との関係 15. 科学技術政策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する 		ターム・ペーパー（レポート）（70%）と、出席カードの記述（30%）により評価する。	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（宇宙論 a） 自然・環境研究 V（宇宙論 a）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地がありません。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。</p> <p>「宇宙論 a」では、まず、近代科学以前の宇宙論を概観し、次に、様々な天体現象の観察による近代的宇宙観の成立と、相対性理論による現代的宇宙観の成立を見ていきます。そして、現代宇宙論で確立されたビッグバン宇宙について解説します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> はじめに 近代科学以前の宇宙論 天体の運行法則の発見と新たな宇宙像の誕生 ガリレイによる動力学の発見と相対性原理 ニュートン力学とニュートンの宇宙観 ニュートンの宇宙観の発展と電磁気学の成立 ニュートンの宇宙観への批判と特殊相対性理論の成立 同時概念・時間概念の相対性 空間概念の相対性と新しい時間空間概念の成立 等価原理と一般相対性理論の成立 アインシュタイン方程式と時空の歪み 宇宙の時間的・空間的広がり宇宙の一様性・等方性 膨張宇宙論 ビッグバン宇宙論 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）		毎回の授業における「授業レポート」により評価する予定	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（宇宙論 b） 自然・環境研究 VI（宇宙論 b）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地がありません。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。</p> <p>「宇宙論 b」では、現代宇宙論において近年得られた知見による宇宙膨張の観測と理論、宇宙における構造の形成、宇宙における物質の形成について解説します。また、まだ確立していない最新の話題についても取り上げます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> はじめに 宇宙論が対象とする宇宙 膨張宇宙の観測 膨張宇宙の理論 ビッグバン理論 宇宙の階層構造 宇宙の構造形成 物質の階層構造 宇宙の進化 ビッグバン理論の問題点 インフレーション宇宙 宇宙の特異点と量子宇宙論 超ひも理論と高次元宇宙 膜宇宙とパラレルワールド まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）		毎回の授業における「授業レポート」により評価する予定	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（自然観察 a） 自然・環境特殊研究 I（自然観察 a）	担当者	飯泉 恭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】</p> <p>科学の基本は比較し観察することです。本講座では様々な実験と観察を通して科学的な物の見方を学びます。前半は顕微鏡を用いて生物の観察を行います。そしてスケッチを通してその差異を明確に認識する目を養います。後半は実験により、講義形式では理解しにくい様々な生命現象を理解することを目指します。</p> <p>【概要】</p> <p>身近な生物と材料を用いて実験を行います。<u>初回に注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は必ず出席して下さい。</u>実験の性質上、衣服が汚れることがあります。汚れてもよい服を着用するかエプロン等を用意されることをお勧めします。</p> <p>※本講座を受講する学生は実習費（¥2,000）を支払う必要があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに - レポートの書き方・顕微鏡の使い方 - 2. 原生生物の観察（1） - 身近な原生生物の観察 - 3. 原生生物の観察（2） - ゴウリムシの走性 - 4. 細胞の観察（1） - タマネギの根の細胞を観察 - 5. 細胞の観察（2） - ウニの発生を観察 - 6. 酵母、細菌の観察 - 酵母と発光細菌の観察 - 7. 動物組織の観察（1） - 煮干しの解剖 - 8. 動物組織の観察（2） - 魚の脳の観察 - 9. 動物組織の観察（3） - イカの解剖 - 10. 植物組織の観察 - 気孔、根毛の観察 - 11. 光合成色素の観察 - ペーパークロマトグラフィー - 12. タンパク質の性質 - 牛乳からバターを作る - 13. タンパク質の性質 - 豆腐作りでタンパク質を知る - 14. プレゼンテーション（1） 15. プレゼンテーション（2） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		レポート（60%）と期末試験の結果（30%）とプレゼンテーション（10%）で評価します。	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（自然観察 b） 自然・環境特殊研究 II（自然観察 b）	担当者	飯泉 恭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】</p> <p>実験と観察により、講義形式では理解しにくい様々な生命現象を理解することを目指します。後半ではヒト（自分自身）を対象とした実験も行い、ヒトの感覚の特性を学びます。</p> <p>【概要】</p> <p>身近な生物と材料を用いて実験を行います。<u>初回に注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は必ず出席して下さい。</u>実験の性質上、衣服が汚れることがあります。汚れてもよい服を着用するかエプロン等を用意されることをお勧めします。</p> <p>※本講座を受講する学生は実習費（¥2,000）を支払う必要があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに - レポートの書き方・諸注意 - 2. 酵素の性質 - 生パイナップルでゼリーができるか？ - 3. 酵素の性質 - ウミホタルの発光は pH で変わるか？ - 4. 脂質 - 水と油の共存 マヨネーズを作って考える - 5. 呼吸・発酵 - 酵母を使って呼吸と発酵の観察 - 6. DNA の抽出 - レバーから DNA を抽出 - 7. DNA の増幅 - 手で PCR を体験 - 8. 白血球の食作用 - イナゴの白血球を観察 - 9. 寄生生物の観察 - 食べたら痛い!? イカやサバの寄生虫 - 10. プラナリアの再生 - 身近な幹細胞 - 11. ヒトの感覚 重量感覚 - ウェーバーの法則 - 12. ヒトの感覚 皮膚感覚 - 2点識別閾を測定する - 13. ヒトの感覚 盲斑 - 盲斑の位置を測定する - 14. プレゼンテーション（1） 15. プレゼンテーション（2） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		レポート（60%）と期末試験の結果（30%）とプレゼンテーション（10%）で評価します。	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（観察と実験生物学 a） 自然・環境特殊研究Ⅲ（観察と実験生物学 a）	担当者	内田 正夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>登録するに先立っての注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 ・一クラスの受講者を抽選によって48名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を納めること。 ・詳細は1回目の講義で説明する。 <p>講義の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然現象の観察・実験を通して自然科学の方法を理解することを目標とする。 <p>履修資格</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちが取りまく自然界の様々な現象に興味を持ち、自らの手と五感を通してそれを探求することに興味を持つこと。 		<p>1 はじめに 授業内容の説明</p> <p>2 「はかる」科学① はかるとは</p> <p>3 「はかる」科学② 長さ、重さ</p> <p>4 「はかる」科学③ 有効数字 単位</p> <p>5 「はかる」科学④ 精密にはかる方法</p> <p>6 「はかる」科学⑤ はかる工夫、推計</p> <p>7 光と色の科学① なぜ色が見えるのか</p> <p>8 光と色の科学② 光の性質と色</p> <p>9 光と色の科学③ 分光器を作る</p> <p>10 光と色の科学④ 分光器を使う</p> <p>11 生物の形① なぜ生きものは形がきまっているのか</p> <p>12 生物の形② 動物・植物の形</p> <p>13 生物の形③ 花の形</p> <p>14 生物の形④ 果実の形</p> <p>15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストなし。プリント配布。		毎回の実験レポートで評価する。	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（観察と実験生物学 b） 自然・環境特殊研究Ⅳ（観察と実験生物学 b）	担当者	内田 正夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>登録するに先立っての注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 ・一クラスの受講者を抽選によって48名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を納めること。 ・詳細は1回目の講義で説明する。 <p>講義の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然現象の観察・実験を通して自然科学の方法を理解することを目標とする。 <p>履修資格</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちが取りまく自然界の様々な現象に興味を持ち、自らの手と五感を通してそれを探求することに興味を持つこと。 		<p>1 はじめに 授業内容の説明</p> <p>2 光と色の科学⑤ さまざまな色</p> <p>3 光と色の科学⑥ 望遠鏡と顕微鏡</p> <p>4 物質の変化① 物理変化・化学変化</p> <p>5 物質の変化② 原子で考える</p> <p>6 物質の変化③ 精製と合成</p> <p>7 物質の変化④ モノをつくる(1)</p> <p>8 物質の変化⑤ モノをつくる(2)</p> <p>9 光と色の科学⑦ 光と化学変化</p> <p>10 生物の機能① 消化と呼吸</p> <p>11 生物の機能② 光合成</p> <p>12 生物の機能③ クロマトグラフィ</p> <p>13 生物の機能④ 血液循環</p> <p>14 生物の機能⑤ DNA とはなにか</p> <p>15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストなし。プリント配布。		毎回の実験レポートで評価する。	

13年度以降	総合科学特殊研究（サイエンスライティング a）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「サイエンスライティング」とは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことで、サイエンスコミュニケーションの一つといえます。近年では、科学の専門家は専門の内容について社会の理解を得るため、サイエンスコミュニケーション能力を身につけることが求められていますが、記者やライター、さらにはそのような職業についていない人も含めて、専門外の人々が科学の成果や影響を正しく理解し、その内容をより広く社会に伝えていくことが大切になってきています。</p> <p>専門外の人々が科学について書くには、まずは科学についての理解力を身につけなければなりません。普段あまり馴染みのないことや初めて聞くことについて自ら情報を収集する能力も必要となります。また、対象がどのような人々で何を伝えたいかを明らかにし、それらに応じて内容を構成したり解説の方法を工夫したりすることが必要です。さらには、解説の正確さや論理性を踏まえたうえで、読んで面白いと感じさせる文章力も必要でしょう。このように、サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなるのです。</p> <p>「サイエンスライティング a」では、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の内容の一部を文章にまとめるという作業を通して、科学について書く能力を高めていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 科学に関する講義の内容の一部をまとめる 1 3. 科学に関する講義の内容の一部をまとめる 2 4. 科学に関する講義の内容の一部をまとめる 3 5. 科学に関する講義の内容の一部をまとめる 4 6. まとめ文の講評とディスカッション 1 7. 科学に関するビデオの内容の一部をまとめる 1 8. 科学に関するビデオの内容の一部をまとめる 2 9. 科学に関するビデオの内容の一部をまとめる 3 10. 科学に関するビデオの内容の一部をまとめる 4 11. まとめ文の講評とディスカッション 2 12. 科学に関する本の内容の一部をまとめる 1 13. 科学に関する本の内容の一部をまとめる 2 14. 科学に関する本の内容の一部をまとめる 3 15. まとめ文の講評とディスカッション 3 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介</p>		各テーマにおける「まとめ文」の完成度を総合的に評価する	

13年度以降	総合科学特殊研究（サイエンスライティング b）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「サイエンスライティング」とは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことで、サイエンスコミュニケーションの一つといえます。近年では、科学の専門家は専門の内容について社会の理解を得るため、サイエンスコミュニケーション能力を身につけることが求められていますが、記者やライター、さらにはそのような職業についていない人も含めて、専門外の人々が科学の成果や影響を正しく理解し、その内容をより広く社会に伝えていくことが大切になってきています。</p> <p>専門外の人々が科学について書くには、まずは科学についての理解力を身につけなければなりません。普段あまり馴染みのないことや初めて聞くことについて自ら情報を収集する能力も必要となります。また、対象がどのような人々で何を伝えたいかを明らかにし、それらに応じて内容を構成したり解説の方法を工夫したりすることが必要です。さらには、解説の正確さや論理性を踏まえたうえで、読んで面白いと感じさせる文章力も必要でしょう。このように、サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなるのです。</p> <p>「サイエンスライティング b」では、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の解説文を実際にかくという作業を通して文章力をさらに高め、最終的に短い科学エッセイの創作をします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 科学に関する講義の解説文を書く 1 3. 科学に関する講義の解説文を書く 2 4. 科学に関する講義の解説文を書く 3 5. 解説文の講評とディスカッション 1 6. 科学に関するビデオの解説文を書く 1 7. 科学に関するビデオの解説文を書く 2 8. 解説文の講評とディスカッション 2 9. 科学に関する本の解説文を書く 1 10. 科学に関する本の解説文を書く 2 11. 解説文の講評とディスカッション 3 12. 科学エッセイを読む 13. 科学エッセイを書く 1 14. 科学エッセイを書く 2 15. 科学エッセイを書く 3 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介</p>		各テーマにおける「解説文」と「科学エッセイ」の完成度を総合的に評価する	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（情報検索演習） 多言語情報処理研究各論Ⅱ（情報検索と加工）	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】情報爆発といわれている現代社会において、情報検索の技術を駆使し、いかに必要な情報を素早く、的確に見つける能力は不可欠である。本講義は情報検索の仕組みを解説し、実習を通して「情報検索力」を身に付けることを目的とする。</p> <p>【概要】情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義と実習形式で解説する。</p> <p>講義内容は、文系の学生でも理解できるように、情報検索の歴史、情報検索ための情報収集、情報整理、情報抽出、情報評価の順番で説明する。</p> <p>【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 情報検索の基本（1）：パソコンの世界 3. 情報検索の基本（2）：情報の表現 4. 情報検索の基本（3）：データベース 5. 情報検索の種類 6. 情報検索システムの構成と役割 7. 情報の収集 8. 情報の整理（1） 9. 情報の整理（2） 10. 情報の抽出（1） 11. 情報の抽出（2） 12. 情報の検索と評価 13. 情報検索システムの例：図書検索 14. 情報検索システムの例：ネット検索 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：必要に応じて資料を配布する</p> <p>参考文献：原田，江草，小山，澤井共著『情報検索演習』新・図書館学シリーズ6，2007（樹村房）</p>		<p>授業の参加態度（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（自然言語処理 a） 多言語情報処理特殊研究 I（自然言語処理 a）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然言語」といいます。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものです。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とします。</p> <p>本講義では、自然言語処理の基礎技術について解説します。ここでは、自然言語の形態素解析・構文解析、意味解析などの基礎理論を論述し、言語処理に欠かせない辞書・シソーラス・コーパスなどの構成と応用方法について学びます。コンピュータを使って言語データの収集し、オンラインソフトを使って演習を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 言葉とコンピュータ 自然言語処理の諸方面 2. 自然言語処理の問題点 各種の曖昧性 3. 自然言語処理の予備知識 4. 形態素解析（1）形態素解析の原理と方法 5. 形態素解析（2）日本語と英語の形態素解析実験 6. 単語処理 単語の同定、単語の統計処理 7. 構文解析（1）文脈自由文法、句構造文法 8. 構文解析（2）構文解析の原理と実験 9. 電子化辞書・シソーラスの構造と情報抽出 10. コーパス、言語データベースの構造と使い方 11. 言語の統計処理技術 12. 言語処理とオントロジー 13. 総合演習 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示します。 (2) 必要な資料を配布します。 		課題と筆記試験の結果を併せて評価します。	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（自然言語処理 b） 多言語情報処理特殊研究 II（自然言語処理 b）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、コンピュータを使用した自然言語の処理に関する方法、そして利用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身につくことを目標とします。</p> <p>本講義では、自然言語処理 a での知識を踏まえた上、自然言語処理基礎技術のである意味解析、文脈解析、知識の表現法を学ぶ。世の中に研究・開発されている応用技術に力を入れ、典型的な応用例を紹介します。特に、自動要約システム、機械翻訳システム、文書校正支援システム、自然言語対話システム、質問応答システム、情報検索システムなどの基本技術・アーキテクチャを説明し、演習を行います。そして、現在の自然言語処理システムの問題点などを議論します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要、前期内容のまとめ 2. 意味解析：意味解析の方法と実験 3. 文脈解析：談話構造、照応問題の対処法 4. 知識の表現法 5. 文書処理（1）言い換え、文書校正 6. 文書処理（2）自動要約の原理 7. 機械翻訳（1）機械翻訳の処理方式と原理 8. 機械翻訳（2）機械翻訳システム 9. 質問応答システム 10. 情報検索における言語処理技術 11. 対話システム 12. 自然言語処理システム 13. 総合演習 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示します。 (2) 必要な資料を配布します。 		課題と筆記試験の結果を併せて評価します。	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（プログラミング論 a） 多言語情報処理特殊研究Ⅲ（プログラミング論 a）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2 プログラミング言語とプログラムの仕組み 3 開発ツールとしての Visual Basic の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4 Visual Basic の基本操作とプログラムの作成 5 プログラム作成の演習 基本的なプログラミングの手順を確認する 6 イベント駆動型プログラム 7 文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 8 選択構造をもつプログラム（1） 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9 選択構造をもつプログラム（2） 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10 繰り返しあるプログラムの作成（1） 回数指定による繰り返し 11 繰り返しあるプログラムの作成（2） 条件指定による繰り返し 12 アルゴリズムの原理と演習 13 総合練習、課題の作成 14 総合演習と講義のまとめ 15 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の講義で指示します。		定期試験とレポートの提出を加味して評価します。	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（プログラミング論 b） 多言語情報処理特殊研究Ⅳ（プログラミング論 b）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、プログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り返しプログラミングの技能を身に付けることを目的とする。</p> <p>ここでは、Python というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方ははじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、テキストの処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 プログラミングの基礎 2 言語研究とプログラミング 3 テキストデータに親しもう 4 Python に触れてみよう 5 Python で文字列処理 6 Python でファイル内容の表示 7 総合演習（1） 8 Python 検索しよう：条件分岐 9 繰り返す処理：ループ 10 単語の一覧表を作ろう 11 総合演習（2） 12 ファイル操作 13 総合演習（3） 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示します。		定期試験とレポートの提出を加味して評価します。	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（マルチメディア論） 多言語情報処理特殊研究VI（マルチメディア論）	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>動画などは今やインターネットの世界では常識的なことになってきている。しかしそれは、ブログなどでただ単に指定通りに貼り付けるだけであり、その原理を理解・認識している人は少ない。その基本的原理は、最近話題のパラパラ漫画であるが、その処理などを理解し、インターネットの世界での標準ともいえるソフトのフラッシュを用いて自分の力でコントロールできるようになることを目指す。マルチメディアという内容は動画だけにとどまらず、音声なども含まれるが、ここでは動画に的を絞る。もちろんこれは、ソフトの使いこなしだけを目指すのではない。基本的には自ら作画し、それを動かせるようにすることから始める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. イラストの作成① 3. イラストの作成② 4. イラストの作成③ 5. イラストの作品制作 6. アニメーションの基礎。モーショントゥイーン 7. シンボルの制作、保存。レイヤーの利用 8. トゥイーンアニメーション 9. シェイプトゥイーン① 10. シェイプトゥイーン② 11. 作品の制作① 12. 作品の制作② 13. 作品の制作③ 14. 作品の制作④ 15. 作品の制作予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示・配布する。		制作した作品で評価する。授業への参加度は重視し、授業中の課題も成績に加味する。	

13年度以降 12年度以前	総合科学特殊研究（コンピュータ構造論） 多言語情報処理特殊研究V（コンピュータ構造論）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができます。</p> <p>本講義では、（1）情報に関する基本的な概念、（2）コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、（3）情報システムに関する基礎的な素養、（4）情報社会に関する基礎的な理解などの修得を目標とします。</p> <p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンス 2. ファイル編成とデータベース 3. データベース管理システム（DBMS） 4. SQL 言語 5. コンピュータ・ネットワーク 6. インターネットの仕組み 7. インターネットサービス 8. セキュリティ、暗号システム、電子認証 9. コンピュータのハードウェア構造 10. 情報検索 11. 情報システムを支える技術 12. ソフトウェア開発手順 13. 総合演習 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の講義で指示します。 毎回の講義で必要な教材は配布します。		レポートの完成度と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12年度以前	多言語情報処理研究各論VI (コーパス言語学)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コーパス言語学とは、電子化された大規模な言語テキストの集成体であるコーパスに基づき、コンピュータを駆使して、実証的観点から言語の諸特性を観察・調査・記述・分析する研究実践の総称です。</p> <p>コーパス言語学は、言語に対する新しい見方をもたらすアプローチとして言語学はもとより、テキスト分析、言語教育、自然言語処理などの関連分野に大きな影響を与えています。</p> <p>本講義は受講者にコーパスを学ぶ意義を解説からスタートし、コーパスの紹介・作成の方法を展開し、さらにコーパス検索技術、頻度の処理、コーパスによる語彙分析を多面的に考察します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コーパスを学ぶ意義 2. コーパスとは何か 3. 主要な英語コーパスと日本語コーパス 4. コーパスの作成方法 5. コーパスの作成演習 (1) 6. コーパスの作成演習 (2) 7. コーパス検索の技術 8. コーパス検索演習 9. 英語語彙の分析実例 10. 日本語語彙の分析実例 11. 英語語法の分析実例 12. 日本語語法分析の実例 13. コーパスと学習者の関わり 14. 総合演習 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ベーシックコーパス言語学』、石川慎一郎		演習の完成度と期末試験を加味して評価します。	

12年度以前	卒業研究	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際教養学部では、全在学期間を通して学んだ集大成として、卒業研究を必修にしています。形式は、卒業論文や卒業制作などですが、各自、所属する演習の担当教員と相談してください。そこで指導をうけながら、卒業研究の進め方を決めていってください。</p>		各担当教員による	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による		各担当教員による。ただし、卒業論文の提出は必須である。	

12年度以前	卒業研究	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照			
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) 国際教養学部指定クラス	担当者	田中 茂弘 山口 知恵 和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 この科目は、現在および将来の健康で充実した生活のために、健康を創り、維持し、守ること、自由時間をより充実させるための態度、知識、技術を身につけること、身体活動を通じて、国際教養学部新入生のコミュニケーションを図ることを目的にして設置されています。</p> <p>講義概要 この授業用に指定クラスを編成し、各クラスが3人の教員の授業をローテーションで受講します。 詳細は第1週のガイダンスで説明します。</p>		<p>1. ガイダンスと写真付受講票の作成 2-5、6-10、11-15週でローテーションの予定。 田中担当は硬式テニス・フットサル・ソフトボール・アルティメットなどを人工芝グラウンドで行う予定。 山口担当はボール・ラケット競技などをアリーナで行う予定。 和田担当はコミュニケーションゲーム(アイスブレイキング)・イニシアティブゲーム・ペタンク・アウトドアクッキング又はレクリエーションナルスポーツなどを行う予定。 注意:1回目の授業は指定の教室に顔写真1枚と筆記用具を持参し、この授業用の指定クラスを確認して集合してください。更衣する必要はありません。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		授業への取り組み姿勢、受講態度を評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 12年度以前	日本語1 初級日本語	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語初級後半から中級前半の日本語を学ぶ。動詞の活用形としては、マス形、ル形、ナイ形、テ形、タ形の学習は終了しているレベルからスタートする。本コースでは、初級前半の復習及び新たにバ形、意志形、敬語、受身・使役など、日本語能力試験のN3レベル相当の文法・読解能力を習得することが目的となる。理解語彙数は約2,000語、漢字は理解のみのものを含め400字程度を学習する。本コース終了時には、基本的なコミュニケーション能力を身に付け、日常の生活に対応できるようになって欲しい。そのためには、予習・復習をきちんと行い、教室外でも積極的に日本語を使っていく態度が求められる。</p>		<p>14単位のコースで以下のクラスの全てに参加することになる。</p> <p>月、火、水、木 : 3コマ (1~3限) 金 : 2コマ (1~2限)</p> <p>詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>日本語初級『大地2』 『大地』の練習問題集 『中級へ行こう』 (変更の可能性あり) 漢字練習帳 (プリント) 単語練習帳 (プリント) 多読用教材 その他</p>		<p>毎回のチャプターテスト 60% 会話テスト 10% 期末テスト 20% 平常点 10%</p>	

13年度以降 12年度以前	日本語2 中級日本語	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本コースでは日本語中級レベルに相当する4技能の総合的な能力を習得することが目的になる。そのため、読解、会話、作文、聴解の全てにわたって、密度の濃い授業が行われる。予習・復習をしっかり行い、積極的に授業に参加することが求められる。</p> <p>このレベルでは、理解語彙数は6,000程度、理解／産出が求められる漢字数は1,000程度と急激に増える。特に読解文については、長文になり、構文も複雑になる。精読が基本で、本文を正確に理解するだけでなく、マクロレベルでの理解及び限られた時間内で要約する能力の育成を図る。一般的なコミュニケーション能力を身に付けることは当然ながら、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成など大学生として必要な技能も学んでいく。</p>		<p>14単位のコースで以下のクラスの全てに参加することになる。</p> <p>月、火、水、木 : 3コマ (1～3限) 金 : 2コマ (1～2限)</p> <p>詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>1. 『ニューアプローチ中級日本語基礎編』 2. 同、練習帳 3. 同、聞き取り練習問題 4. 単語練習帳 5. 漢字リスト</p> <p>6. 『毎日の聞き取り』 7. プレゼンテキスト 8. その他 プリント</p>		<p>1. 毎回のチャプターテスト 60% 2. 会話テスト 10% 3. プレゼンテーション 10% 4. 作文 10% 5. 平常点／クラスへの参加度 10%</p>	

13年度以降 12年度以前	日本語2 中級日本語	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本コースでは日本語中級レベルに相当する4技能の総合的な能力を習得することが目的になる。そのため、読解、会話、作文、聴解の全てにわたって、密度の濃い授業が行われる。予習・復習をしっかり行い、積極的に授業に参加することが求められる。</p> <p>このレベルでは、理解語彙数は6,000程度、理解／産出が求められる漢字数は1,000程度と急激に増える。特に読解文については、長文になり、構文も複雑になる。精読が基本で、本文を正確に理解するだけでなく、マクロレベルでの理解及び限られた時間内で要約する能力の育成を図る。一般的なコミュニケーション能力を身に付けることは当然ながら、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成など大学生として必要な技能も学んでいく。</p>		<p>14単位のコースで以下のクラスの全てに参加することになる。</p> <p>月、火、水、木 : 3コマ (1～3限) 金 : 2コマ (1～2限)</p> <p>詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>1. 『ニューアプローチ中級日本語基礎編』 2. 同、練習帳 3. 同、聞き取り練習問題 4. 単語練習帳 5. 漢字リスト</p> <p>6. 『毎日の聞き取り』 7. プレゼンテキスト 8. その他 プリント</p>		<p>1. 毎回のチャプターテスト 60% 2. 会話テスト 10% 3. プレゼンテーション 10% 4. 作文 10% 5. 平常点／クラスへの参加度 10%</p>	

13年度以降 12年度以前	日本語3 上級日本語I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本コースでは日本語上級レベル（日本語能力試験N2~N1レベル）に相当する4技能、大学における学習・研究の基礎として役立つようなアカデミックな日本語能力を習得することが目的である。そのため、読解、会話、作文、聴解の全てにわたって、より高度な内容の授業となる。予習・復習をしっかりと行うのは当然ながら、積極的に授業に参加するだけでなく、より自立的に学んで欲しい。</p> <p>このレベルでは、理解語彙数は10,000~10,200語程度、理解/産出が求められる漢字数は2,000程度と急激に増える。読解文については、後半になると、様々な分野からの生教材を読む。構文・内容ともにより複雑になり、その内容を正確に理解、要約し、クラスで討論する能力を身に付けることが求められる。</p>		<p>14単位のコースで以下のクラスの全てに参加することになる。</p> <p>月、火、水、木 : 3コマ (1~3限) 金 : 2コマ (1~2限)</p> <p>詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>1. 『ニューアプローチ中上級日本語完成編』 2. 同、文法テキスト 3. 『日本語上級読解』 4. 『日本語上級話者への道』 5. プレゼンテーションテキスト</p> <p>6. 『毎日の聞き取り』 7. その他プリント</p>		<p>1. 毎回のチャプターテスト 2. 会話テスト 15% 3. プレゼンテーション10% 4. 作文 10% 5. 平常点・クラスへの参加度 5%</p>	

13年度以降 12年度以前	日本語3 上級日本語I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本コースでは日本語上級レベル（日本語能力試験N2~N1レベル）に相当する4技能、大学における学習・研究の基礎として役立つようなアカデミックな日本語能力を習得することが目的である。そのため、読解、会話、作文、聴解の全てにわたって、より高度な内容の授業となる。予習・復習をしっかりと行うのは当然ながら、積極的に授業に参加するだけでなく、より自立的に学んで欲しい。</p> <p>このレベルでは、理解語彙数は10,000~10,200語程度、理解/産出が求められる漢字数は2,000程度と急激に増える。読解文については、後半になると、様々な分野からの生教材を読む。構文・内容ともにより複雑になり、その内容を正確に理解、要約し、クラスで討論する能力を身に付けることも求められる。</p>		<p>14単位のコースで以下のクラスの全てに参加することになる。</p> <p>月、火、水、木 : 3コマ (1~3限) 金 : 2コマ (1~2限)</p> <p>詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>1. 『ニューアプローチ中上級日本語完成編』 2. 同、文法テキスト 3. 『日本語上級読解』 4. 『日本語上級話者への道』 5. プレゼンテーションテキスト</p> <p>6. 『毎日の聞き取り』 7. その他プリント</p>		<p>1. 毎回のチャプターテスト 60% 2. 会話テスト 15% 3. プレゼンテーション10% 4. 作文 10% 5. 平常点・クラスへの参加度 5%</p>	

13年度以降 12年度以前	専門日本語 上級日本語Ⅱ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本コースは、日本語を総合的に学び、大学における専門科目の履修に当たって、必要とされる日本語力を養成することを目的とする。教材は、日本社会の現状について理解を深める内容が中心となり、専門性の高いものになっている。4技能の高い能力（N1級レベル以上）を身につけることが求められるので、予習・復習を十分にして授業に臨んで欲しい。また、日本語だけでなく、様々な社会問題にも意識を向け、日常から新聞などに目を通しておくこと。</p> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーション：具体的な方法を学んだ後、学期中、少なくとも2回のプレゼンテーションをする。 2. 読解：トピックに関連した内容の記事を様々な本、雑誌、新聞、インターネットなどより収集し、精読、速読（スキミング、スキヤニング）など異なる読解法で学ぶ。 3. 作文：基本的には授業内で作文をする。要約、引用、レポート作成など、豊かな表現力を身に付ける。 4. 討論・意見交換：読解内容について互いに意見や考えを交換しあい、内容についてだけではなく相手の考え方についても理解を深める。 5. 聴解：読解のトピックに関連するテレビ番組、レポート、ニュースなどを見ながら、聴解力を養うとともに、内容についての理解を深める。 		<p>読解教材： クラス内で配布、但し変更の可能性もある。 単位数： 10単位 以下の曜日に、2コマの計10コマを1週間に履修する 月、火、水、木 金： 1限、3限 内容にもよるが、1トピックを大体6～8コマで終了し各トピック終了時に作文とテストを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 異文化コミュニケーション 2. 日本文学 3. 少子高齢化 4. 起業 5. ポップカルチャー 6. 国際社会 7. 日本を知る 8. 若者のライフスタイル 9. 医療と健康 10. 情報社会 11. 就職・企業・人材 12. 食文化・食生活 13. 宗教・社会 14. 科学技術 15. 期末テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1. プリント 2. 参考文献はクラスで紹介する。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. テスト結果 60% 2. 作文（宿題） 15% 3. プレゼンテーション 15% 4. 平常点 10% 	

13年度以降 12年度以前	専門日本語 上級日本語Ⅱ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本コースは、日本語を総合的に学び、大学における専門科目の履修に当たって、必要とされる日本語力を養成することを目的とする。教材は、日本社会の現状について理解を深める内容が中心となり、専門性の高いものになっている。4技能の高い能力（N1級レベル以上）を身につけることが求められるので、予習・復習を十分にして授業に臨んで欲しい。また、日本語だけでなく、様々な社会問題にも意識を向け、日常から新聞などに目を通しておくこと。</p> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーション：具体的な方法を学んだ後、学期中、少なくとも2回のプレゼンテーションをする。 2. 読解：トピックに関連した内容の記事を様々な本、雑誌、新聞、インターネットなどより収集し、精読、速読（スキミング、スキヤニング）など異なる読解法で学ぶ。 3. 作文：基本的には授業内で作文をする。要約、引用、レポート作成など、豊かな表現力を身に付ける。 4. 討論・意見交換：読解内容について互いに意見や考えを交換しあい、内容についてだけではなく相手の考え方についても理解を深める。 5. 聴解：読解のトピックに関連するテレビ番組、レポート、ニュースなどを見ながら、聴解力を養うとともに、内容についての理解を深める。 		<p>読解教材： クラス内で配布、但し変更の可能性もある。 単位数： 10単位 以下の曜日に、2コマの計10コマを1週間に履修する 月、火、水、木 金： 1限、3限 内容にもよるが、1トピックを大体6～8コマで終了し各トピック終了時に作文とテストを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 異文化コミュニケーション 2. 日本文学 3. 少子高齢化 4. 起業 5. ポップカルチャー 6. 国際社会 7. 日本を知る 8. 若者のライフスタイル 9. 医療と健康 10. 情報社会 11. 就職・企業・人材 12. 食文化・食生活 13. 宗教・社会 14. 科学技術 15. 期末テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1. プリント 2. 参考文献はクラスで紹介する。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. テスト結果 60% 2. 作文（宿題） 15% 3. プレゼンテーション 15% 4. 平常点 10% 	

シラバス 言語文化学科

2014年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1825



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	